

えびの市埋蔵文化財調査報告書 第37集

小岡丸地区遺跡群

県営担い手育成型圃場整備事業小岡丸地区に伴う発掘調査報告書

北田遺跡

田之上城跡

2003

宮崎県えびの市教育委員会

小岡丸地区遺跡群

県営担い手育成型圃場整備事業小岡丸地区に伴う発掘調査報告書

きた だ 遺 跡
た の うえ じょう
北田 遺跡
田之上城跡

2003

宮崎県えびの市教育委員会



北田遺跡・田之上城跡 集合写真

序

えびの市は、宮崎県の西南端に位置し、日向・肥後・薩摩の分岐点にあたることから古くから交通の要所として栄え、肥沃な氾濫原と豊富な湧水は領土の保守・争奪が繰り返され、様々な文化や文物が混交した独特の地域であります。

本市は、標高700m前後の急峻な山々が連なる九州山地と、標高1700mの韓国岳を主とする霧島山系に挟まれた狭長な盆地であります。大小20余の河川は、盆地中央を西流する川内川へ合流し、肥沃な土壌を運んでいます。

段丘面の殆どは周知の遺跡であり、埋蔵文化財の保護には全力で取り組んでいるところであります。

本書は、平成12・13年度に実施した、県営担い手育成型圃場整備事業小岡丸地区に伴う北田遺跡と田之上城跡の発掘調査報告書であります。北田遺跡は古代～中世の集落を主体とする遺跡で、77棟の掘立柱建物跡や土壙墓などのほか、市内で初めて陥し穴が検出されました。田之上城跡は中世後半を主とする山城で、築城時は直径300m前後の堀が巡っていたようです。掘立柱建物跡は180棟が復元され、一般集落では見られない大型建物跡も目立ちます。特筆すべきものとして、布掘りの建物が5棟以上存在しており、南九州では極めて稀な発見です。

本書が学術資料としてだけでなく、生涯学習や学校教育の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する理解と認識が深まれば幸いです。

なお、調査にあたり、御理解・御協力いただいた西諸県農林振興局・県文化課ならびに市耕地課・土地改良・地元の方々、さらには発掘作業および整理作業に従事していただいた方々に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成15年3月

えびの市教育委員会

教育長 松 田 忠 信

例　　言

1. 本書は、平成12・13年度に実施した、県営担い手育成型圃場整備事業小岡丸地区に伴う北田遺跡および田之上城跡発掘調査の本報告である。
2. 調査はえびの市教育委員会が主体となり、平成12年11月21日から12月8日までと、平成13年6月18日から8月31日まで、9月25日から平成14年2月7日まで実施した。
3. 出土遺物の整理作業は外業と並行して実施し、平成14年3月25日までと、同年4月22日から11月29日　にかけて、報告書作成のための作業を実施した。
4. 遺構全体図は九州航空株式会社に委託し、 $1/50$ ・ $1/200$ 図を作成した。
5. 個別遺構の実測は極力手測りに務めたが、掘立柱建物跡については、現場で復元できたもののみ断面を実測している。特にVI区の建物跡の殆どは机上での復元であり、細かな凹凸は再現できない。
6. 遺構および遺物の写真撮影は、中野が担当した。
7. 北田遺跡出土遺物の螢光X線分析については、奈良教育大学の長友恒人先生に御勘力いただき、玉稿を賜った。記して御礼申し上げる。
8. 本書の執筆および編集は、中野が担当し、浄書は入木和代が作成した。
9. 調査の関連資料や出土遺物は、えびの市歴史民俗資料館に保管している。

凡　　例

1. 本書掲載の遺構は、S A：竪穴住居・竪穴状遺構、S B：掘立柱建物跡、S D：溝状遺構、S F：槽状遺構、S K：土坑・土壙墓、S R：道路跡、S Z：用途不明遺構、P P：柱穴として省略している。
2. 田之上城跡の遺構番号は、I・VII・VIII・IX区で各々独立して01から付けているが、II～VI区は連続している。
3. 遺構実測図の方位は、国土座標の北を示す。建物の主軸方位の北も同様である。
4. 遺構実測図の縮尺は、遺構の大きさや複雑さ・重要度などを考慮して、 $1/10$ ～ $1/100$ に作成している。
5. 写真図版の個別遺構の平面・断面写真中のピンポールの長さは、全て1mである。
6. 航空写真の一部、特に掘立柱建物の石碑表示で誤認があった所については加筆修正しており、概要報告とは若干異なる部分がある。

調査組織

特別調査員	佐賀県立九州陶磁文化館	家 田 淳 一	(主に国産陶磁器の鑑定)
調査主体	えびの市教育委員会		
	教育長	松 田 忠 信	
	社会教育課長	馬越脇 泰 二	
	文化係長	上加世田たず子	
	庶務	下 東 嘉 也	
	技師	中 野 和 浩	

平成12年度

発掘作業員 有馬セツ、大木場登美子、小山田ナミ、金田ミツル、金田睦夫、柏木佐渡子、川野ノブ子、木添一義、木添ミツギ、黒木ハナ子、坂本サチ子、下川タエ子、新二日市サエ子、新二日市フクエ、竹本キクエ、田中キリ子、谷ノ木ミコ、田平セイ、出水勝子、西鶴園マリ子、西鶴園義正、西原ツル子、浜脇辰由、東田幸二、東田幸子、東田スエ子、東田政子、東田盛之、床波クサ、堀軍吉、堀千鶴子、松田陽子、箕輪和子、本二日市ナカ、本坊福子、山方ツギエ、山田テツ、山之口三子

整理作業員 松村真由美

平成13年度

発掘作業員 有馬セツ、今村ヒトエ、江藤マリ子、大木場登美子、上水流百合子、金田輝子、川野ハル子、柿木照子、柏木佐渡子、木原典子、楠元ヨシ子、小屋敷直子、里岡カズ子、新原敏子、園田菊野、竹添フミエ、武田信和、竹之下明仁、竹本文江、竹本キクエ、田中キリ子、谷ノ木ミコ、出水一美、時吉アキエ、時吉ミチ子、永田美智子、野入喜通、野間六子、原口キミ子、東田幸子、東田政子、福満悦子、濱脇テツ、星指利江子、松岡ヨシ子、松下ヤエ子、松田久子、宮原ミヨ、箕輪和子、本坊福子、山方ツギ、山口敏恵、山口ミツ、山崎フジ子、山下一男、山之口三子、山本雪江、米倉利子

整理作業員 井上智子、小屋敷直子、長野真弓

平成14年度

整理作業員 入木和代、大田由美子、末継さおり、徳澄みどり、野田幸子、原山征子、姫野紀代、茂田かおる、米倉千春

目 次

第1章 はじめに.....	1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境.....	2
第3章 北田遺跡の調査.....	4
第1節 はじめに.....	4
第2節 基本的層序.....	4
第3節 発掘調査.....	7
古代以前.....	7
古代.....	8
中世.....	12
近世.....	41
出土遺物.....	41
第4節 小結.....	45
第4章 田之上城跡.....	51
第1節 はじめに.....	51
第2節 繩張り.....	51
第3節 基本的層序.....	52
第4節 発掘調査.....	52
a. A区の調査.....	52
b. B区.....	56
c. I区.....	56
d. 第1試掘溝.....	56
e. 第2試掘溝.....	63
f. 第3試掘溝.....	63
g. 第4試掘溝.....	63
h. 第5試掘溝.....	63
i. 第6試掘溝.....	63
j. II区.....	63
k. III区.....	63
l. IV区.....	64
m. V区.....	64
n. VI区.....	69
o. VII区.....	191

P. VII区	218
Q. IX区	228
第5節まとめ	233
第5章総括	249
付篇 北田遺跡04号溝出土垂飾品の螢光X線分析（奈良教育大学 長友恒人先生）	271

北田遺跡 挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡分布図	1	第20図 S B-37~42遺構実測図	25
第2図 北田遺跡およびその周辺地形図	4	第21図 S B-43・44遺構実測図	26
第3図 遺構全体図	5・6	第22図 S B-45~47遺構実測図	27
第4図 S K-60遺構実測図	7	第23図 S B-48~50遺構実測図	29
第5図 S D-04断面層序図	8	第24図 S B-51~57遺構実測図	30
第6図 S D-04遺物出土状態実測図(1)	9	第25図 S B-58~63遺構実測図	31
第7図 S D-04遺物出土状態実測図(2)	10	第26図 S B-64~67遺構実測図	33
第8図 S D-04出土遺物実測図	11	第27図 S B-68~71遺構実測図	34
第9図 S K-06遺構実測図・出土遺物 実測図	11	第28図 S B-72~74遺構実測図	35
第10図 S A-01遺構実測図	12	第29図 S B-75~78・S F-01~03 遺構実測図	37
第11図 S B-01~06遺構実測図	13	第30図 S K-55・56遺構実測図	38
第12図 S B-07~12遺構実測図	15	第31図 S K-10・30・41遺構実測図	39
第13図 S B-13~18遺構実測図	17	第32図 S K-04・13・24・28・31・32 遺構実測図	40
第14図 S B-19~21遺構実測図	18	第33図 S R-01断面図	41
第15図 S B-22・23遺構実測図	19	第34図 調査区出土遺物実測図(1)	42
第16図 S B-24~27遺構実測図	20	第35図 調査区出土遺物実測図(2)	43
第17図 S B-28~31遺構実測図	21	第36図 調査区出土遺物実測図(3)	44
第18図 S B-32・33遺構実測図	22	第37図 北田遺跡主要遺構変遷想定図	47・48
第19図 S B-34~36遺構実測図	23		

北田遺跡表目次

表1 出土遺物観察表(1)	42	表4 出土遺物観察表(4)	44
表2 出土遺物観察表(2)	43	表5 出土遺物観察表(5)	45
表3 出土遺物観察表(3)	43	表6 出土遺物観察表(6)	45

表7 挖立柱建物跡一覧表(1)49

表8 挖立柱建物跡一覧表(2)50

田之上城跡挿図目次

第38図 田之上城跡およびその周辺地形図.....	51	第63図 S B-07柱穴断面層序図	86
第39図 田之上城跡 現況図.....	53・54	第64図 S B-08・09遺構実測図	87
第40図 田之上城跡 地区割図.....	55	第65図 S B-10遺構実測図	88
第41図 A・B区遺構実測図・ 東壁層序図.....	57・58	第66図 S B-11・12遺構実測図	89
第42図 調査区全体図.....	59・60	第67図 S B-13・14・16遺構実測図	90
第43図 I区遺構実測図・南壁層序図.....	61	第68図 S B-15・17・18遺構実測図	91
第44図 第1～6試掘溝 断面層序図・ 第5試掘溝遺構実測図.....	62	第69図 S B-19・21・22遺構実測図	92
第45図 II～IV区遺構・断面実測図.....	65・66	第70図 S B-20遺構実測図	94
第46図 S B-01～04遺構実測図	67	第71図 S B-23～26遺構実測図	95
第47図 S K-01～03遺構実測図	68	第72図 S B-27～30遺構実測図	96
第48図 B・I～V区出土遺物 実測図(1)	70	第73図 S B-31～34遺構実測図	98
第49図 I～V区出土遺物実測図(2)	71	第74図 S B-35～38遺構実測図	99
第50図 I～V区出土遺物実測図(3)	71	第75図 S B-39～41遺構実測図	100
第51図 I～V区出土遺物実測図(4)	72	第76図 S B-42～45遺構実測図	101
第52図 II・IV・V・VI区遺構分布図	73・74	第77図 S B-46～49遺構実測図	102
第53図 S D-14祭祀遺物出土状態実測図	75	第78図 S B-50～52遺構実測図	104
第54図 S D-14内合わせ口土器棺 検出状態実測図	76	第79図 S B-53～57遺構実測図	105
第55図 S D-14出土遺物実測図	77	第80図 S B-58～60遺構実測図	106
第56図 S A-01遺構実測図	78	第81図 S B-61～63遺構実測図	107
第57図 S A-02・03遺構実測図	79	第82図 S B-64～66遺構実測図	108
第58図 S A-04・05遺構実測図	80	第83図 S B-67・68遺構実測図	110
第59図 S A-06遺構実測図	81	第84図 S B-69～72遺構実測図	111
第60図 S B-05遺構実測図	83	第85図 S B-73～75遺構実測図	112
第61図 S B-06遺構実測図	84	第86図 S B-76～81遺構実測図	113
第62図 S B-07遺構実測図	85	第87図 S B-82・84遺構実測図	114
		第88図 S B-83遺構実測図	116
		第89図 S B-85遺構実測図	117
		第90図 S B-86・87遺構実測図	118
		第91図 S B-88～90遺構実測図	119
		第92図 S B-91～93遺構実測図	120

第93図	S B-94・98遺構実測図	121	第118図	S K-06・20・28遺構実測図、 S D-16断面層序図	153
第94図	S B-99・100遺構実測図	122	第119図	S Z-21、S K-96~98、 P P-2098・2100遺構実測図	154
第95図	S B-101・102遺構実測図	123	第120図	S Z-03遺構実測図	156
第96図	S B-103~105遺構実測図	124	第121図	S Z-17遺構実測図	157
第97図	S B-106・107遺構実測図	126	第122図	S K-70、S Z-26・23、 S K-68遺構実測図	158
第98図	S B-108~110遺構実測図	127	第123図	S Z-27遺構実測図	159
第99図	S B-111・112遺構実測図	128	第124図	S Z-28・29遺構実測図	160
第100図	S B-113~117遺構実測図	129	第125図	S Z-34遺構実測図	161
第101図	S B-118~122遺構実測図	130	第126図	S K-08・10・11・23遺構実測図、 S R-01断面層序図	162
第102図	S B-123~126遺構実測図	132	第127図	VI区出土遺物実測図（1）	163
第103図	S B-127~129遺構実測図	133	第128図	VI区出土遺物実測図（2）	164
第104図	S B-130~133遺構実測図	134	第129図	VI区出土遺物実測図（3）	165
第105図	S B-134・S F-01・02遺構 実測図	135	第130図	VI区出土遺物実測図（4）	166
第106図	門状遺構実測図	136	第131図	VI区出土遺物実測図（5）	167
第107図	S K-53・76・94・119~121遺構 実測図	137	第132図	VI区出土遺物実測図（6）	168
第108図	S B・S D断面層序図	138	第133図	VI区出土遺物実測図（7）	169
第109図	S D-40内五輪塔出土状態実測図、 S D-48ほか断面層序図	139	第134図	VI区出土輸入陶磁器 実測図（1）	170
第110図	S D-57ほか断面層序図	140	第135図	VI区出土輸入陶磁器 実測図（2）	171
第111図	S K-78遺構実測図、鉄鍋・銭貨 出土状態実測図	143	第136図	VI区出土輸入陶磁器 実測図（3）	172
第112図	S K-17・18遺構実測図	144	第137図	VI区出土輸入陶磁器 実測図（4）	173
第113図	S K-35・36・40~42遺構 実測図	146	第138図	VI区出土輸入陶磁器 実測図（5）	174
第114図	S K-101・112・113遺構 実測図	147	第139図	VI区出土輸入陶磁器 実測図（6）	175
第115図	S K-117・118、S Z-20遺構 実測図	148	第140図	VI区出土輸入陶磁器 実測図（7）	176
第116図	S K-91・107~110・122~124 遺構実測図	150			
第117図	S K-09・12・13・113~116 遺構実測図	152			

第141図 VI区出土近世国産陶磁器 実測図（1）	177	第168図 S R-01遺構実測図	208
第142図 VI区出土近世国産陶磁器 実測図（2）	178	第169図 S R-02波板状土坑遺構実測図	209
第143図 S K-78出土銭貨実測図（1）	179	第170図 VII区出土遺物実測図（1）	210
第144図 S K-78出土銭貨実測図（2）	180	第171図 VII区出土遺物実測図（2）	211
第145図 VI区出土銭貨実測図	181	第172図 VII区出土輸入陶磁器 実測図（1）	212
第146図 VI区出土玉類実測図	181	第173図 VII区出土輸入陶磁器 実測図（2）	213
第147図 S K-17出土石材実測図	182	第174図 VII区出土近世国産陶磁器 実測図（1）	214
第148図 S D-40出土五輪塔実測図	183	第175図 VII区出土近世国産陶磁器 実測図（2）	215
第149図 VI区出土石器・石製品 実測図（1）	184	第176図 VII区出土近世国産陶磁器 実測図（3）	216
第150図 VI区出土石器・石製品 実測図（2）	185	第177図 VII区出土銭貨実測図	216
第151図 VI区出土石器・石製品 実測図（3）	186	第178図 VII区遺構分布図	219
第152図 VI区出土石器・石製品 実測図（4）	187	第179図 S B-01~04遺構実測図	220
第153図 VII・IX区遺構分布図	189・190	第180図 S B-05~09遺構実測図	221
第154図 S A-01・02遺構実測図	191	第181図 S B-10~15遺構実測図	223
第155図 S B-01~03遺構実測図	192	第182図 S B-16・17遺構実測図	224
第156図 S B-04~07遺構実測図	193	第183図 S K-01遺構実測図	225
第157図 S B-08~11遺構実測図	194	第184図 自然陥没坑 断面層序図	226
第158図 S B-12~15遺構実測図	196	第185図 S B-01遺構実測図	228
第159図 S B-16~18遺構実測図	197	第186図 S D-01遺構実測図	228
第160図 S B-19~22遺構実測図	198	第187図 VII・IX区出土遺物実測図（1）	229
第161図 S B-23~25遺構実測図	199	第188図 VII・IX区出土遺物実測図（2）	229
第162図 S B-26~28遺構実測図	200	第189図 V~VII区出土鉄器・鉄製品 実測図	230
第163図 中央黒色帯断面層序、S K-02 遺構実測図、S D-03断面層序図	201	第190図 VII~IX区出土石器・石製品 実測図（1）	231
第164図 S Z-06遺構実測図	202	第191図 VII~IX区出土石器・石製品 実測図（2）	232
第165図 VII区南東部遺構実測図	203	第192図 弥生時代の遺構	234
第166図 北西端~北縁遺構実測図	205・206	第193図 古代I期の遺構	235
第167図 北縁中央付近遺構実測図	207		

第194図 古代II期	236	第200図 近世	243
第195図 田之上城I期	238	第201図 古代I期の溝状遺構と周辺の 地形	249
第196図 田之上城II期	239		
第197図 田之上城III期	240	第202図 田之上城跡 外堀推定図	250
第198図 田之上城IV期	241	第203図 市内上江431番地出土 和鏡と錢貨	269
第199図 田之上城V期（城破り）	242		

田之上城跡表目次

表9 V区掘立柱建物跡一覧表	245	表24 出土遺物観察表(8)	258
表10 VI区掘立柱建物跡一覧表(1)	245	表25 出土遺物観察表(9)	259
表11 VI区掘立柱建物跡一覧表(2)	246	表26 出土遺物観察表(10)	260
表12 VI区掘立柱建物跡一覧表(3)	247	表27 出土遺物観察表(11)	261
表13 VII区掘立柱建物跡一覧表(1)	247	表28 出土遺物観察表(12)	262
表14 VII区掘立柱建物跡一覧表(2)	248	表29 出土遺物観察表(13)	263
表15 VII区掘立柱建物跡一覧表	248	表30 出土遺物観察表(14)	263
表16 VIII区掘立柱建物跡一覧表	248	表31 出土遺物観察表(15)	264
表17 出土遺物観察表(1)	252	表32 出土遺物観察表(16)	265
表18 出土遺物観察表(2)	253	表33 出土遺物観察表(17)	266
表19 出土遺物観察表(3)	254	表34 出土遺物観察表(18)	267
表20 出土遺物観察表(4)	255	表35 出土遺物観察表(19)	267
表21 出土遺物観察表(5)	256	表36 出土遺物観察表(20)	268
表22 出土遺物観察表(6)	257	表37 出土遺物観察表(21)	268
表23 出土遺物観察表(7)	257	表38 市内上江431番地出土錢貨一覧	270

北田遺跡写真図版目次

- 図版1 小岡丸地区遺跡群とその周辺（右が北）
- 図版2 調査地とその周辺（約25年前）、北田遺跡遠景（南西から）
- 図版3 北田遺跡全景（右が北）
- 図版4 陥し穴（SK-60）とその周辺
- 図版5 中央建物密集部（右が北）
- 図版6 01号道路北半とその周辺
- 図版7 01号道路南半とその周辺

- 図版8 S B-31・61、S F-01周辺、S B-28~30全景
- 図版9 S B-26・27・10全景、S B-20~24・47全景
- 図版10 S B-01~05・69全景、S K-60完掘全景（西から）
- 図版11 S K-60完掘全景（北から）、S D-04南壁層序（A-A'）
- 図版12 S D-04断面層序（G-G'）、同（F-F'）、同（E-E'）、同（D-D'）
- 図版13 S D-04断面層序（C-C'）、同南壁
- 図版14 S D-04北部遺物出土状態（南東から）、同南西部拡大、同北東部拡大
- 図版15 S D-04南側遺物出土状態（断面B-B'）、同接写
- 図版16 S K-06遺物出土状態（東から）、同断面層序、同完掘全景
- 図版17 S A-01炭化材等出土状態（南から）、同東西セクション東側南壁断面層序、同完掘全景（南から）
- 図版18 S K-10遺物出土状態（北西から）、同セクション除去 崩落礫・遺物出土状態（東から）
- 図版19 S K-10完掘・石組状態・炭化物出土状態（西から）、S K-41断面層序（南から）、同完掘全景（南から）
- 図版20 S K-30完掘全景（東から）、S K-56完掘全景（東から）、同青白磁合子出土状態（北から）
- 図版21 S K-04完掘全景（南から）、S K-13断面層序（西から）、同完掘全景（西から）
- 図版22 S K-24完掘全景（南から）、S K-31断面層序（西から）、同完掘全景（西から）
- 図版23 S K-28完掘状態（北西から）、S K-32断面層序（南から）、S K-59断面層序（西から）
- 図版24 S R-01北端部（南東から）、同北側セクション北壁層序（北西から）
- 図版25 S R-01中央やや北側底面と新旧側溝（北西から）、同南側セクション北壁層序（北西から）
- 図版26 S R-01南側セクション北壁とその周辺、同南端部底面の石敷
- 図版27 S D-04出土土師器（1）～（5）、調査区出土土師器・土師質土器
- 図版28 調査区出土輸入陶器 外面、内面、S K-56出土青白磁 合子
- 図版29 調査区出土中世・近世国産陶器 外面、内面、S D-04出土用途不明金属製品、S K-10出土鉄器
- 図版30 調査区出土石器・石製品

田之上城跡写真図版目次

- 図版31 田之上城跡とA・B区近景（北から）
- 図版32 A・B区近景（右が北）
- 図版33 A区全景（右が北）、同東壁層序（南西から）、同中央部（西から）、同南端（西から）
- 図版34 B区完掘全景（右が北）、同東壁層序（北西から）、同（南西から）
- 図版35 B区外堀の北肩と西壁層序、同東壁中央部

- 図版36 田之上城跡 I ~ IX区と北田遺跡合成写真（右が北）
- 図版37 I ~ IV区とその周辺（右上が北）
- 図版38 I 区全景（北西から）、同南壁層序（北西から）
- 図版39 第1試掘溝北壁層序（南東から）、第2試掘溝北壁層序（南から）
- 図版40 第3試掘溝北壁層序（南から）、第4試掘溝北壁層序
- 図版41 第5試掘溝北壁層序（南西から）、第6試掘溝北壁層序（南東から）
- 図版42 II ~ IV区全景（右上が北）
- 図版43 II 区全景（南東から）、同底面の鋸先痕
- 図版44 II 区階段状外堀侵入路（南から）、同 S D-03東壁層序（西から）
- 図版45 II 区 S D-02底面・遺物出土状態（西から）、III区北壁層序・遺物出土状態（南西から）
- 図版46 II 区北壁内・底面遺物出土状態（南から）、同東南部全景（北東から）
- 図版47 IV区 S D-04・S Z-02北壁層序、同 S D-05・S Z-01南壁層序
- 図版48 II ~ V区全景
- 図版49 V区 S K-01断面層序（北東から）、S K-02断面層序（東から）、同完掘全景（北から）
- 図版50 S K-03断面層序（西から）、同完掘全景（東から）、S D-10・09東壁断面層序
- 図版51 S D-09・10断面層序（南から）、VI区全景
- 図版52 VI区南半遺構分布状態
- 図版53 VI区北半遺構分布状態
- 図版54 北東部遺構分布状態（右が北）
- 図版55 北西部遺構分布状態
- 図版56 西～南縁区画溝およびその周辺遺構分布状態（右が北）
- 図版57 S B-05完掘状況
- 図版58 S B-07とその周辺
- 図版59 S B-08・60・65とその周辺
- 図版60 S B-06・09~16とその周辺
- 図版61 S B-06とその周辺
- 図版62 S B-09~16重複状況（右が北）
- 図版63 S D-14中央付近セクション西壁層序、同西寄りセクション西壁・土師器塊出土状態
- 図版64 S D-14・S D-62交点祭祀土器出土状態（西から）、同（北から）
- 図版65 S D-14上半部除去、同完掘、同東寄り合わせ口土器棺検出状況（南西から）、同接写
- 図版66 S A-01南半部炭化材・焼土出土状態（南から）、同東側接写、同断面層序
- 図版67 S A-01完掘全景（南から）、同（北から）
- 図版68 S A-02断面層序（南から）、同完掘全景（北から）
- 図版69 S A-03完掘全景（西から）、S A-04完掘全景（南から）

- 図版70 S A-05断面層序（南西から）、同完掘全景（南東から）
- 図版71 S A-06断面層序（北西から）、同完掘全景（北西から）
- 図版72 S Z-12掘下、S B-05東桁南半部断面層序（北東から）、S B-05断面実測風景（南東から）
- 図版73 S B-46西梁行（布掘り）・S D-43断面層序（南から）、S B-10中央東側東西セクション
南壁層序（南東から）
- 図版74 S B-09～10北桁行（布掘り）断面層序（西から）、同（北西から）
- 図版75 S B-07 PP-1640断面層序、同PP-1641、同PP-1642、同PP-1643、同PP-1680、
同PP-1593
- 図版76 S B-07 PP-1595断面層序、同PP-1598、同PP-1603、SK-111上層疊出土状態（東
から）
- 図版77 SK-111断面層序（東から）、同完掘状態（東から）
- 図版78 SK-78検出状態（西から）、同北西部鉄鍋と銭貨、同掘り込み状況
- 図版79 SK-78断面層序（西から）、同完掘・遺物出土状態（西から）
- 図版80 SK-78鉄鍋内底錢貨出土状態（西から）、SK-17・18断面層序（南西から）
- 図版81 SK-17・18白色系粘土・炭化物出土状態（北から）、SK-17石組み状態（南西から）
- 図版82 SK-36断面層序（南から）、同完掘全景（南から）、SK-40断面層序（西から）、同完
掘全景（西から）
- 図版83 SK-41断面層序（西から）、同完掘全景（西から）、SK-42断面層序（西から）、SK-53
断面層序（南西から）
- 図版84 SK-70断面層序（南西から）、SK-96断面層序（西から）
- 図版85 SK-98断面層序（東から）、SK-101断面層序（南西から）
- 図版86 SK-101断面層序（南東から）、同完掘全景（南東から）
- 図版87 SK-112断面層序（南東から）、SK-117断面層序（南から）
- 図版88 SK-118西寄り断面層序（西から）、同大疊出土状態（南から）、同断面層序（西から）
- 図版89 SK-06断面層序（南から）、同完掘全景（南から）、SK-08断面層序（南から）、SK-09
断面層序（南から）
- 図版90 SK-10・11検出状態（南から）、同断面層序（東から）、SK-12断面層序（南から）、
SK-13断面層序（南から）
- 図版91 SK-20断面層序（南西から）、SK-108完掘全景（南から）、SK-91完掘全景（西から）、
SK-107完掘全景（東から）
- 図版92 SK-109完掘全景（北から）、SK-110完掘全景（東から）、SK-119下層断面層序（南
から）、SK-123完掘全景（西から）
- 図版93 SK-76断面層序（南東から）、S Z-14・15断面層序（西から）
- 図版94 S Z-20断面層序（南西から）、S Z-28断面層序（南西から）、SD-14西寄り（G-G'）

断面層序・遺物出土状態（東から）

- 図版95 S D-21断面層序（I-I'）（南から）、同（H-H'）（東から）
- 図版96 S D-26・27・切り合い（I-I'）（南から）、S D-40断面層序（J-J'）・五輪塔出土
状態（西から）、同（南から）
- 図版97 S D-40と攪乱断面層序（南西から）、同S D-40断面層序（C地点）、S D-48断面層序（O-O'）（南から）
- 図版98 S D-47～50検出状態・平板略測風景（東から）、同断面層序（北西から）
- 図版99 S D-48～50断面層序（西から）、S D-48・S K-120・S D-47断面層序（西から）
- 図版100 S D-48とS K（L-L'）、S D-48断面層序
- 図版101 S D-49断面層序（Q-Q'）（西から）、S D-50断面層序（西から）、S D-57断面層序（T
地点）（西から）
- 図版102 S D-57・61切り合い（C-C'）（北東から）、S D-61断面層序（V-V'）（西から）、
S D-62北端断面層序（南から）
- 図版103 S D-62断面層序（X-X'）（南から）、同（W-W'）（南から）、S D-63北端断面層序（南
から）
- 図版104 S D-64全景、断面実測・S D-65掘込風景、S D-64西壁層序（東から）
- 図版105 S Z-29・S D-53断面層序（南西から）、S Z-28・S D-66断面層序（南から）
- 図版106 VII区東端南側遺構検出・平板略測・掘り込み風景（南東から）、S Z-03・S R-01断面層
序（南東から）、S R-01断面層序（ウーウ'）（南から）
- 図版107 VII区西側～IX区東半部全景
- 図版108 VII区西側～IX区近景（斜め西から）
- 図版109 VII区全景（西端部以外）（右が北）
- 図版110 VII区東側全景
- 図版111 S A-01炭化物等出土状態（西から）、同完掘全景（南から）、S A-02断面層序（東から）
- 図版112 S A-02完掘全景（南から）、S K-02断面層序（東から）、同完掘全景（東から）
- 図版113 S D-01東端部断面層序（西から）、S D-03南側（B-B'）断面層序、同北側（C-C'）
- 図版114 S D-06北端断面層序（南から）、S Z-06断面層序・遺物出土状態（南西から）、VII区西
端～IX区石灰表示・谷（外堀）の現況（南から）
- 図版115 S R-01全景（東から）、同断面層序（南東から）
- 図版116 S R-01完掘全景、S R-02西半部完掘全景（東から）
- 図版117 S R-02東端に重複するS D-07断面層序・遺物出土状態（西から）、同遺物出土状態（西
から）
- 図版118 北西隅S D-12と攪乱・北壁層序（南から）、同S D-11（南西から）
- 図版119 北西部S D-11・断面層序（南西から）、北縁斜面とS D-01（西から）

- 図版120 北縁 S D-01・10・斜面断面層序（西から）、同斜面拡張部断面層序（西から）、同中央付近斜面拡張部断面層序（東から）
- 図版121 中央黒色帯掘り下げ状況（北東から）（航空写真撮影後）、同断面層序（南西から）
- 図版122 VII区北縁～VIII区全景（右が北）
- 図版123 VIII区西半部全景、同東半部全景
- 図版124 S K-01断面層序（東から）、同完掘全景（東から）、S Z-03完掘全景・北壁層序（南から）
- 図版125 S Z-05断面層序（北東から）、S Z-08断面層序（北西から）
- 図版126 S Z-09断面層序（北東から）、S Z-10断面層序（南東から）
- 図版127 IX区全景、S D-01東壁層序（西から）
- 図版128 V区 S K-02出土土師質土器、同 S K-03出土土師質土器、I～V区・試掘坑出土輸入陶磁器 外面、内面
- 図版129 II区出土土師質土器、I～V区・試掘坑出土近世国産陶磁器 外面、内面、VI区出土弥生土器
- 図版130 VI区 S D-14出土土師器（1）～（3）、78 外面赤外線写真、墨書「万」ほか
- 図版131 VI区 S D-14内合わせ口土器棺 西、東、S D-14出土黒色土器（1）～（3）、S K-71出土遺物、S K-76出土遺物
- 図版132 VI区出土土師器・土師質土器
- 図版133 I～V区・試掘坑出土須恵器・東播系須恵器・中世国産陶器 外面、内面、VI～IX区出土須恵器・東播系須恵器
- 図版134 VI区出土大和系瓦質土器 鉢類（1）、（2）、同在地擂鉢 外面、内面
- 図版135 VI区出土備前焼 壺 口縁部・底部 外面、内面
- 図版136 図版135-205、206、210、206内面接写、備前焼 模倣小壺、瀬戸・備前焼 盆類
- 図版137 VI区出土備前焼 壺類・擂鉢 外面、内面
- 図版138 VI区出土備前焼 壺壺類 脊部 外面、内面
- 図版139 VI区出土輸入陶磁器 白磁（1）外面、内面
- 図版140 VI区出土輸入陶磁器 白磁（2）外面、内面、白磁（3）外面と外底面朱墨
- 図版141 VI区出土輸入陶磁器 青磁（1）外面、内面
- 図版142 VI区出土輸入陶磁器 青磁（2）外面、内面
- 図版143 VI区出土輸入陶磁器 青磁（3）外面、内面
- 図版144 VI区出土輸入陶磁器 青磁（4）外面、内面
- 図版145 VI区出土輸入陶磁器 青磁（5）外面、内面、青磁（6）外面、内面
- 図版146 VI区出土輸入陶磁器 青花（1）外面、内面
- 図版147 VI区出土輸入陶磁器 青花（2）外面、内面

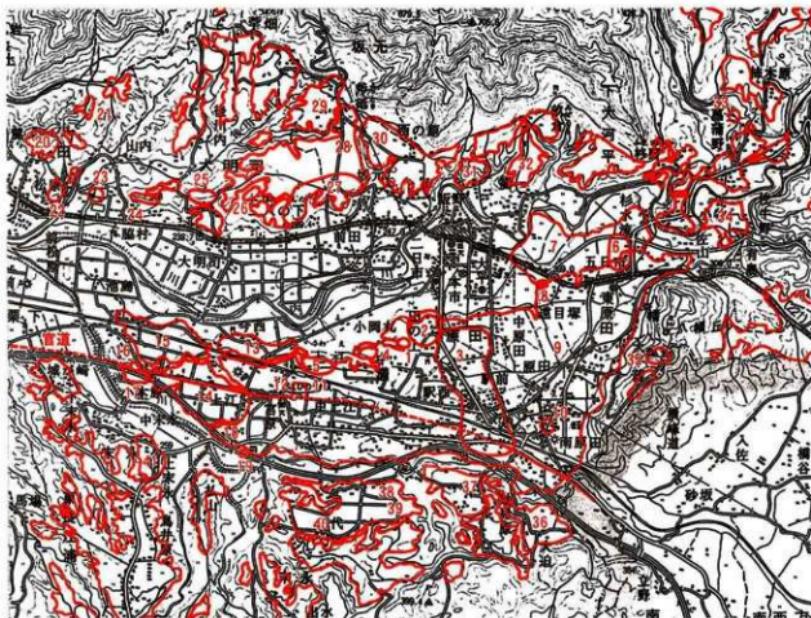
- 図版148 VI区出土輸入陶磁器 天目・褐釉・瑠璃釉 外面、内面
- 図版149 VI区出土近世国産陶磁器 肥前 外面、内面
- 図版150 VI区出土近世国産陶磁器 肥前系・薩摩ほか 外面、内面、同S Z-03ほか出土玉類
- 図版151 VII区出土繩文土器 外面、内面、同弥生土器、同土師器、同灰釉陶器
- 図版152 VII区出土中世国産陶器 外面、内面
- 図版153 VII区出土輸入陶磁器 青磁（1）外面、内面
- 図版154 VII区出土輸入陶磁器 青磁（2）外面、内面、同白磁 外面、内面
- 図版155 VII区出土輸入陶磁器 青花 外面、内面、同天目・褐釉陶器 外面、内面
- 図版156 VII区出土近世国産陶磁器 肥前 外面、内面
- 図版157 VII区出土近世国産陶磁器 肥前系 外面、内面
- 図版158 VII区出土近世国産陶磁器 薩摩 外面、内面
- 図版159 VII区出土近世国産陶磁器 福岡・南九州・沖縄、同関西系 外面、内面
- 図版160 VII区 S D-07・II層出土土製品、同 S R-02西端搅乱出土下駄
- 図版161 VII区出土弥生土器、同土師器、同 S K-01出土土師質土器、VII区出土白磁・VII～IX区出土
輸入陶磁器 外面、内面
- 図版162 VI区 S K-78出土銭貨
- 図版163 VI区出土銭貨、VII区出土銭貨、VI区 S K-78出土鉄鍋、VI区 S Z-03出土金銅製匙
- 図版164 調査区出土鉄器・鉄製品、獸骨（牛馬歯牙） 左半分：I区01号溝出土 右半分：II区03
号溝出土、調査区出土石鎚・石匙未製品・石庖丁ほか
- 図版165 調査区出土硯・未製品、同砥石、VI区出土玉砥石 A面、B面
- 図版166 調査区出土石衡？・石鍋片、茶臼片、礫器、同茶臼、同輕石製品
- 図版167 VI区 S K-18竈構築石材（1）～（6）、VI区 S D-40出土五輪塔 空・風輪
- 図版168 VI区 S D-40出土五輪塔 火・水・地輪、同 S K-111出土石臼、同 S K-117出土石臼、同
S K-23内 P P出土石臼、同 S D-64出土石臼
- 図版169 VI区 S D-39出土石臼、VII区 S D-07出土石臼、IX区 S D-01出土石臼、VII区III a層出土五
輪塔残欠、VI区 S R-01出土五輪塔残欠（転用、被熱）、VI区 S K-114出土石塔残欠か、VI区
S Z-09下 P P出土五輪塔 水輪、VII区III a層出土五輪塔 火輪残欠
- 図版170 市内上江431番地出土和鏡、同（斜めから）、同銭貨（各種1枚のみ選択）

第1章 はじめに

平成8年度、本市の東寄り・川内川の左岸に位置する小岡丸地区において44haの圃場整備事業の計画が上がった。低位段丘部分は周知の遺跡であることから関係機関と協議を重ね、踏査と試掘調査を実施することにした。

平成9年3月、「田之上城跡」の外堀が明瞭に1/2500地形図で読み取れることを確認した後、氾濫原に位置する堀や段丘面での郭内の遺構の包蔵状態や山城以外の遺跡の有無を確認した。その結果、調査対象地域には田之上城跡とその南西部の微高地（字北田地内）に古代～中世の集落跡が存在することを確認した（北田遺跡と命名）。

平成10年度、計画が採択され、平成12年度には工事に先行して氾濫原の調査対象地（道路予定地をA区とし、水路掘削予定地をB区とした）を調査してほしいとの依頼が西諸県農林振興局からあ



- 1：北田遺跡 2：田之上城跡 3：建山地下式横穴墓群 4：古城跡 5：上江城跡 6：杉水流地下式横穴墓群
7：杉水流遺跡 8：達目塚地下式横穴墓群 9：原上江遺跡群 10：本地原遺跡 11：法光寺遺跡 12：法光寺跡（真研駅付近） 13：口ノ坪遺跡 14：小木原地下式横穴墓群 15：永田原遺跡 16：鳥越城跡 17：鳥越遺跡 18：六部市遺跡 19：桑田遺跡 20：加久藤城跡 21：新城跡 22：小城跡 23：平城跡 24：小城跡 25：播磨城跡 26：宮之城跡 27：芋畠地下式横穴墓群 28：広畠遺跡 29：芋畠第一遺跡 30：稻荷下遺跡 31：飯野城跡 32：金丸城跡 33：今城跡 34：佐牛野遺跡 35：八幡丘遺跡 36：大迫原遺跡 37：妙見原遺跡 38：松山遺跡 39：上田代遺跡 40：竹之内遺跡 41：柿ノ木城跡

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡分布図（1：50,000）

り、委託契約後に調査した（実績報告のみで概報は未刊行）。

平成13年度は段丘面の工事になったが⁵、調査対象面積が2haを越えると積算されたため、地権者・耕作者の方々を混じえて協議を重ねた結果、北田遺跡約7,000m²と排土置き場、田之上城跡の外堀周辺とI-VI区に想当する部分およびその周辺を減反・集団減反していただき、6月18日に表土剥ぎを開始することができた。

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

小岡丸地区遺跡群は、えびの市の東部、東西約6kmの扇状地状の低位段丘の中央北端部、氾濫原との比高10mの地に立地する。当段丘は原田・上江遺跡群という大字を付した遺跡名が付いているが、あまりにも広すぎるので、小字名もしくは山城名で細分するようにしている。

北田遺跡は、えびの市大字上江字北田に所在し、周囲よりも若干標高が高い。田之上城跡は、えびの市大字前田字横木（氾濫原）と大字上江字田上（段丘面）に所在する。

旧石器時代

市内東部では、小林市との境であり分水嶺でもある八幡丘^{はちまんがおか}の頂部平坦面（比高130m）のシラスの2次堆積層の上の茶褐色土から、安山岩製のナイフ型石器が採取されているのみ¹¹⁾である。

縄文時代

早期の調査例は少なく、小木原地区遺跡群の久見迫B地区から若干の遺物が出土した¹²⁾ほか、広畑遺跡の中央北縁部で集石遺構20基余のほか、相当量の遺物が出土している¹³⁾。

中期末～後期の竪穴住居は、上田代遺跡と松山遺跡で検出している¹⁴⁾。佐牛野遺跡からは、晩期にかけて大量の遺物が出土している¹⁵⁾。

晩期の桑田遺跡の土壤分析によってプラント・オバールが確認され¹⁶⁾、しかも熱帯性ジャボニカが主と推定されている。

弥生時代

前期の壺形土器が上田代遺跡で出土したほか、永田原遺跡¹⁷⁾で柱状片刃石斧が出土している。

中期末、本地原遺跡で日向型間仕切り住居が検出されている¹⁸⁾。

後期になると円形を基調とする日向型間仕切り住居が拡散し、広畑遺跡¹⁹⁾のほか、永田原遺跡・松山遺跡などで検出している。

古墳時代

前期の集落は弥生時代から継続する例が多く、方形を基調とする日向型間仕切り住居に変化する。苧畠第1遺跡²⁰⁾のほか、広畑遺跡・松山遺跡で検出している。

後期の集落は佐牛野遺跡が突出して大きく、他は、上田代遺跡で若干検出されているにすぎない。逆に墳墓群は多く、大迫原遺跡では板石積石室墓が5~6基確認されている²¹⁾ほか、数10~数100基の地下式横穴墓から成る苧畠²²⁾・杉水流・建山・小木原地下式横穴墓群²³⁾が2~2.5kmの間隔で分

布する。個々の墳墓群の実態は良くわかっていないが、それぞれに特色があるようで、それに対応する大集落がどこかに包蔵しているはずである。

終末期の遺構・遺物は皆無に等しい。

奈良時代

妙見原遺跡で「駒」墨書のある須恵器の蓋が出土している⁶⁹程度で遺構・遺物は極めて稀である。

平安時代

官道が整備され、9世紀後半から爆発的に遺跡が増加する。法光寺跡は從来、10世紀前半の廃寺と考えていたが⁷⁰、近年、官道を推定すると、寺の前身として真新駅を想定できるようになった。

上田代遺跡のように湧水池から500m以上も導水して水田開発をしたことが推定される事例から段丘面の耕作化が盛んになる時期と言える。

低位段丘から高位段丘にいたる殆どの遺跡で、何らかの痕跡がみうけられる。永田原遺跡からは「長」字の墨書き土器が出土し⁷¹、一帯の長の存在を窺わせる。

中世

古代から継続する遺跡が多い。又、段丘突端部には点々と山城が築かれる。川内川右岸の山城は氾濫原との比高50m前後の高位段丘に立地し、左岸の山城は比高10m前後の低位段丘に立地するものが多い。小木原地区遺跡群C地区では、官道を再整備したと推定される道路跡を検出している。北側段丘端部では、約50年前、井戸掘削時に和鏡と銭貨329枚が出土している⁷²（第203図）。

近世

肥後街道が整備され、現国道の一本南側の道が遺存している。享保17年（1732）、水路が完成し、田之上城跡の東側までの氾濫原と低位段丘の水田が潤うようになった。

註

- (1) えびの市郷土史編纂委員会『えびの市史』上巻 1994
- (2) 未報告
- (3) えびの市教育委員会『小木原遺跡群C地区・久見追B地区・地主原地区、原田上江遺跡群六都市遺跡・轟元遺跡・中満遺跡・法光寺遺跡I・II』 1996
- (4) えびの市教育委員会『田代地区遺跡群上田代遺跡・松山遺跡・竹之内遺跡、妙見原遺跡』 1997
- (5) えびの市教育委員会『佐牛野遺跡』 2000
- (6) 中野和浩「宮崎県えびの市桑田遺跡」『日本考古学年報43』日本考古学協会 1992
- (7) 谷口武範「永田原遺跡」「永田原遺跡・小木原遺跡群C地区・ノノ坪遺跡」えびの市教育委員会 1990
- (8) 宮崎県教育委員会『本地原遺跡』 1994
- (9) えびの市教育委員会『広畠遺跡』 1991
- (10) 註(1)文献所収
- (11) 同上
- (12) 註(9)文献所収
- (13) 註(3)・(7)文献所収
- (14) 註(4)文献所収
- (15) 長津宗重「法光寺跡」「えびの市遺跡詳細分布調査報告書」えびの市教育委員会 1985
- (16) 註(7)文献所収
- (17) 12世紀中葉の和鏡と、銭貨329枚（寛永通宝1枚が混入）が出土したらしい。実測図と一覧表は巻末に付している。

第3章 北田遺跡の調査

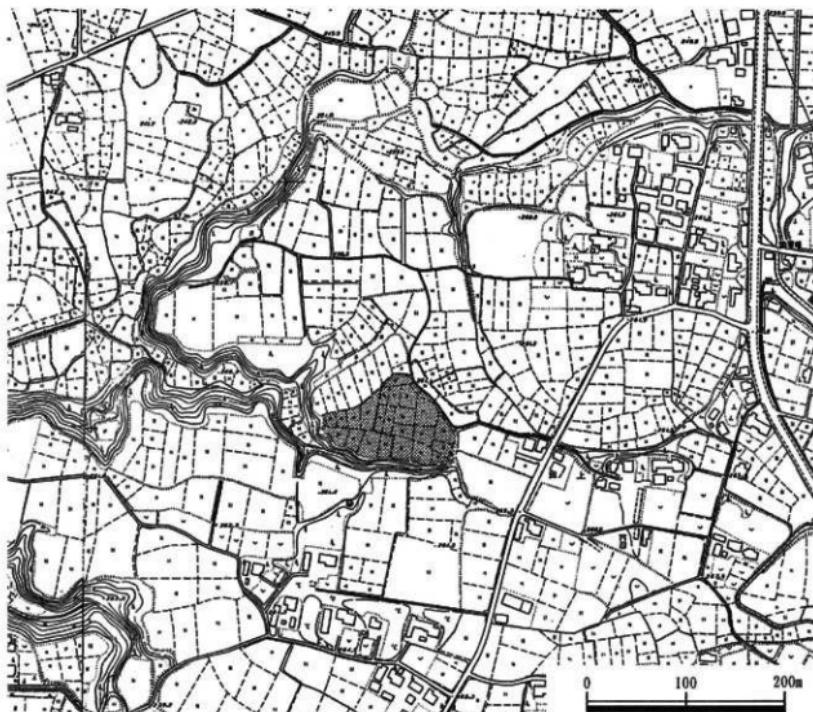
第1節 はじめに

北田遺跡は、東西140m・南北90mの三角形状の範囲にあたり、氾濫原との比高17~18mの、段丘端部から200~300m南に奥まった位置にある。標高は260~261mを測り、北西部に浅い谷、西~南縁に幅20~25m・深さ5~8mの谷が横たわる。北東部は農道を挟んで0.5m高くなり、遺跡の東南部は1.7~3m高くなる。

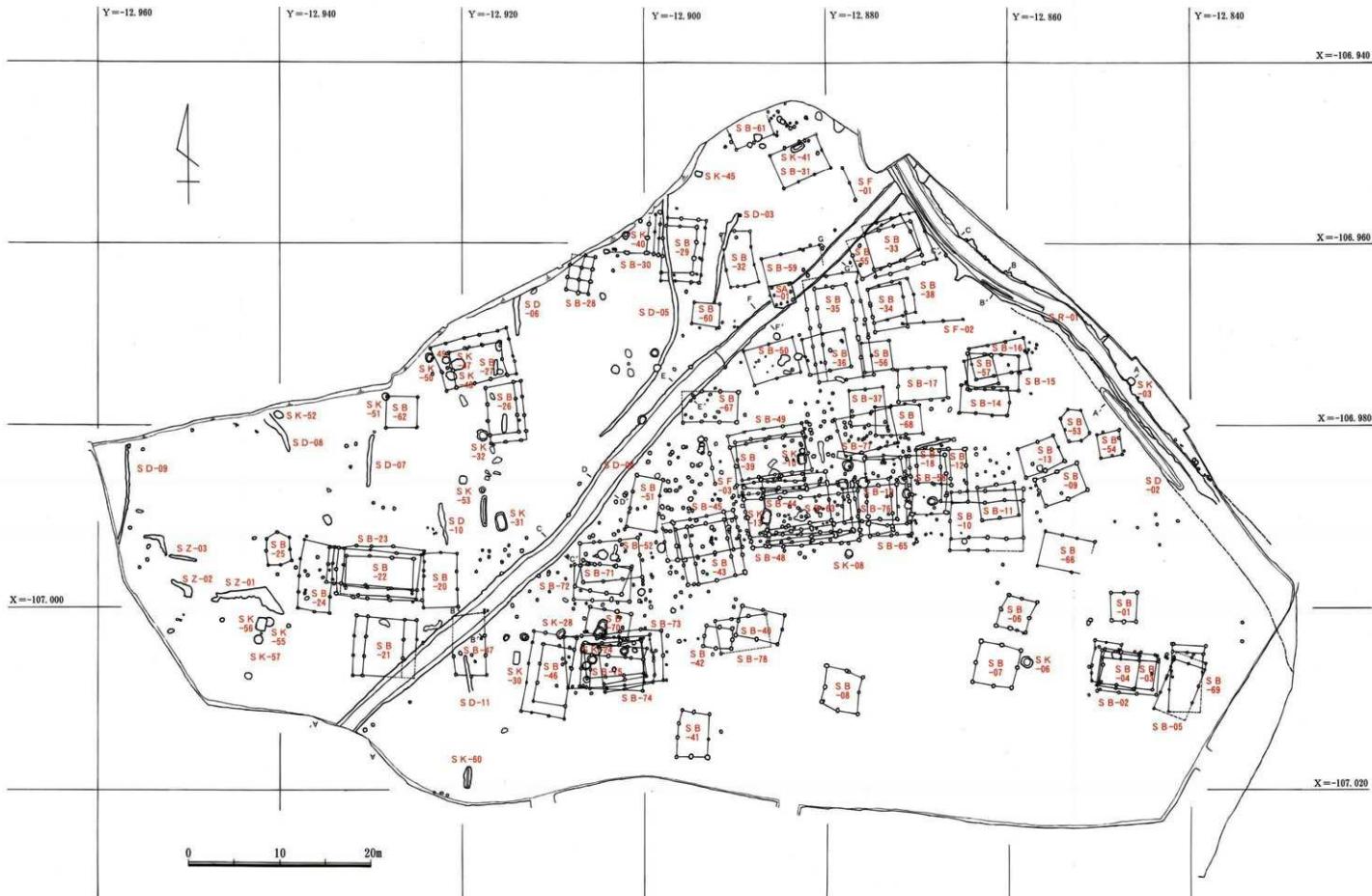
調査は、北西部の一段低い水田約5,000m²を排土置き場に使わせて頂き、全面の表土剥ぎと遺構検出面までの掘削をおこなった。調査面積は、6,630m²である。

第2節 基本的層序

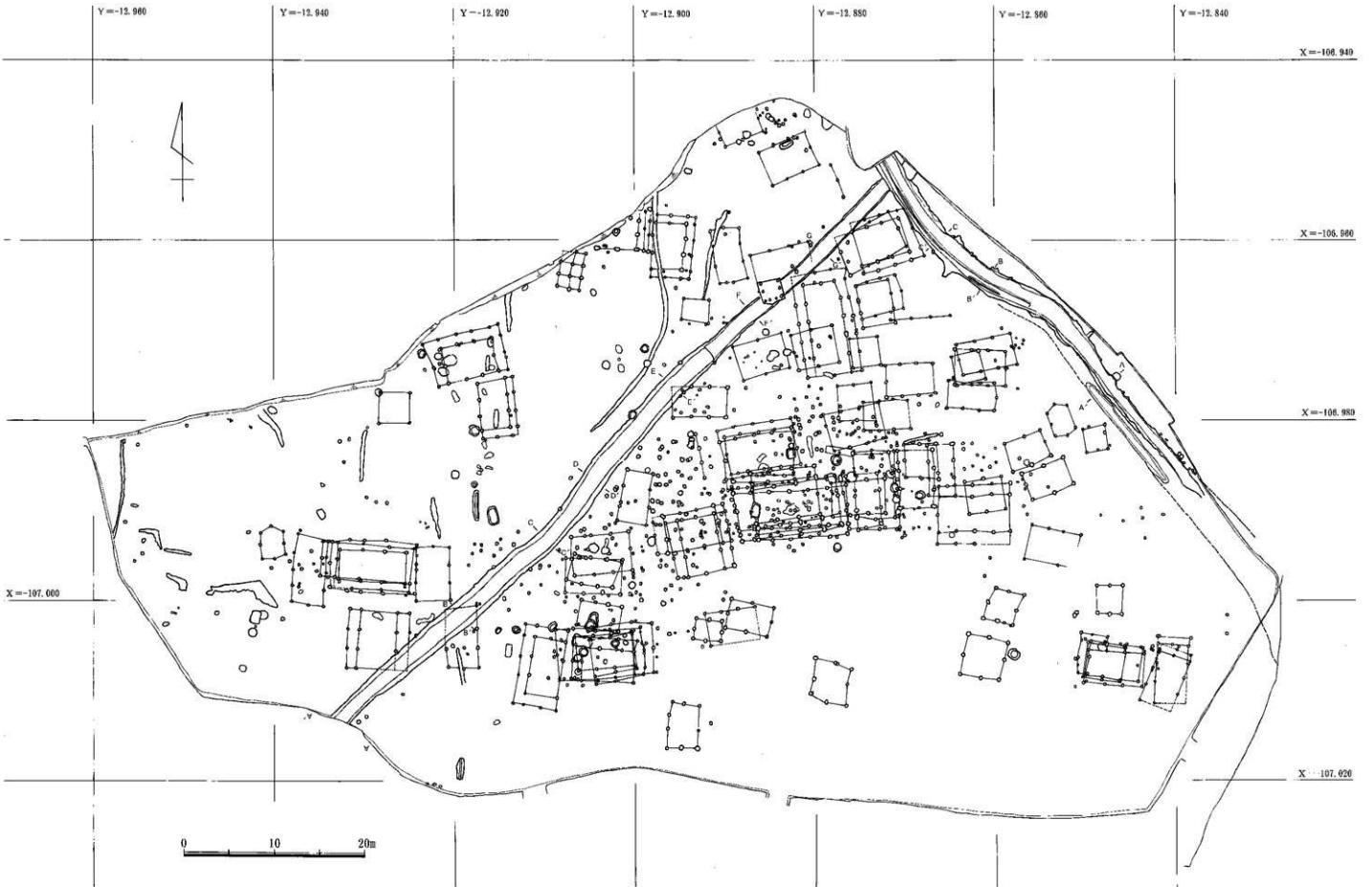
層序は上からⅠ層：暗灰色土（水田耕作土）、Ⅱ層：水田基盤土（暗灰色土）、Ⅲ層：淡黒灰色土、Ⅳ層：アカホヤ火山灰土、Ⅴ層：暗茶褐色硬質火山灰土、Ⅵ層：黒褐色火山灰、Ⅶ層：淡黄白色粘



第2図 北田遺跡およびその周辺地形図 (1 : 5,000)



第3図 遺構全体図



第3図 遺構全体図

質土、Ⅶ層：洪積世砂礫層に大別した。Ⅲ層はa b 2層に細分でき、Ⅲa層上面～上層に古代～中世の遺物が散在する。

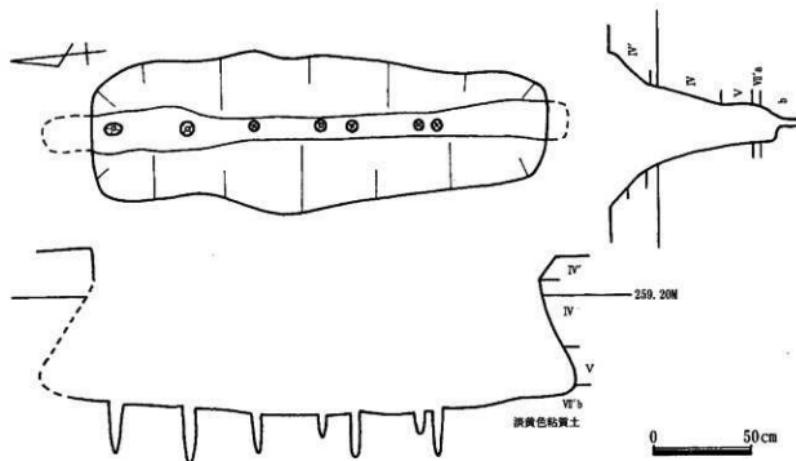
VI層は縄文時代早期にあたるが、無遺物層で、部分的に遺存する。VII層は段丘の基底礫層の上位の砂層で、黄褐色の小林ボラ（B.C 13,000）を含み、部分的に欠ける所もある（調査区の北東部など）。Ⅷ層は段丘の基底礫層であり、地形の原形を造る。Ⅷ層は5～20m間隔で凹凸を繰り返し、波打った形のままVI～Ⅲ層が均等に堆積する。そこを重機で平坦に掘削するので、橙黄色のアカホヤ火山灰と淡黒灰色土が交互に見える遺構検出面になっている。調査区の北端部はIV層の大半を開墾で削失しており、遺構も下部のみ遺存する。

第3節 発掘調査

古代以前

調査区の南縁中央やや西寄りの所で、長軸を南北にとる、1基の陥し穴を検出した（SK-40、第4図）。掘方の長軸は2.34m、短軸は0.56～0.80m、深さは0.7～0.84mを測る。底面の長さは2.7m、幅は0.11～0.21mを測り、縦断面はフラスコ型、横断面はV字型を呈する。底面には、直径5～7cmの杭痕が7ヶ所確認され、深さは13～30cmである。

覆土は黒褐色土で、出土遺物は無いが、縄文時代後期か弥生時代後期の遺構と推定される。

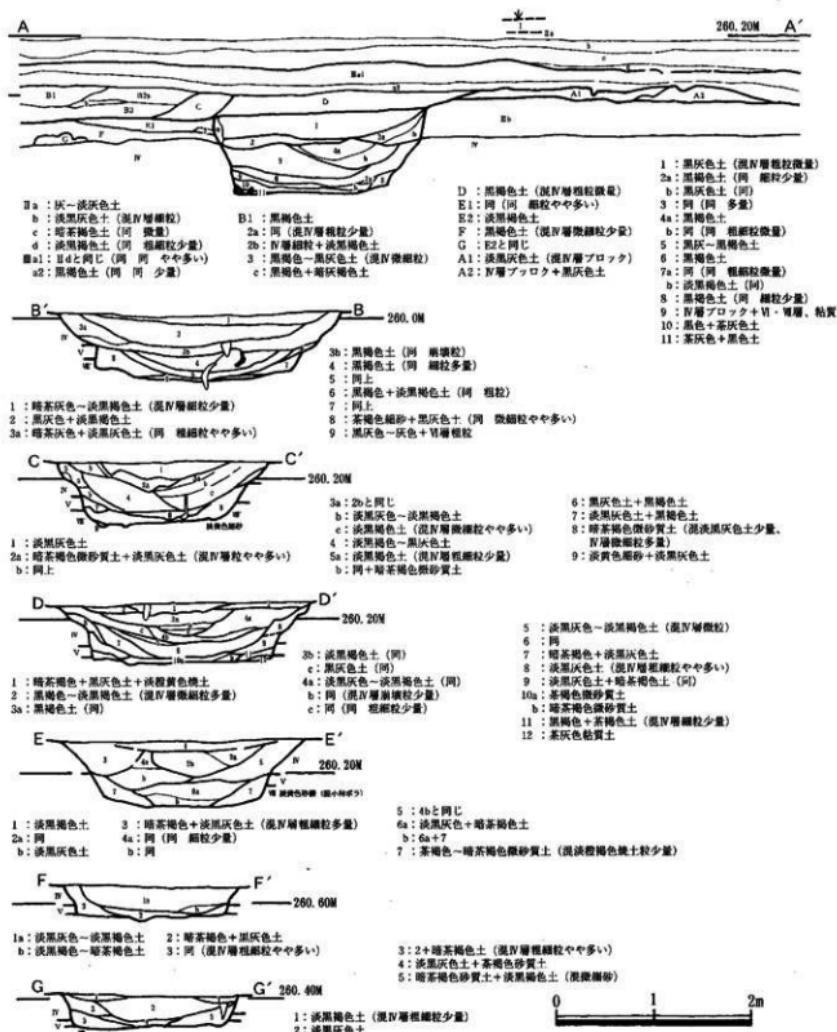


第4図 SK-60 遺構実測図

古代

調査区の北東から南西に、長さ90m・幅1.8~2.9mの溝状遺構（S D-04）と、調査区の南東部07号建物の東側において土坑1基（S K-06）を検出した。

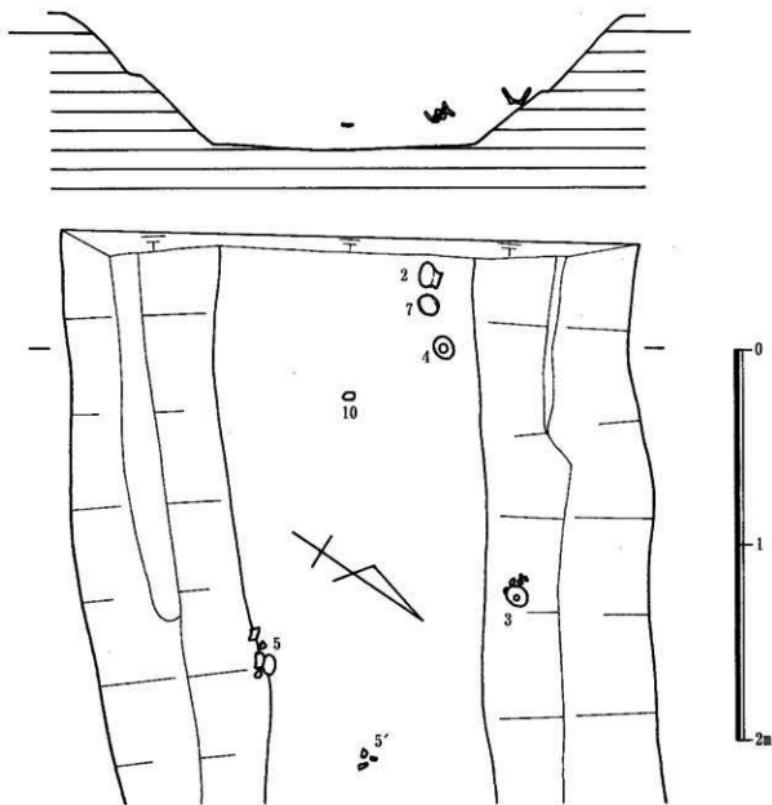
S D-04は深さが一定でなく、北東部は検出面から30~35cm、中央寄りで30cm低くなり、南西端



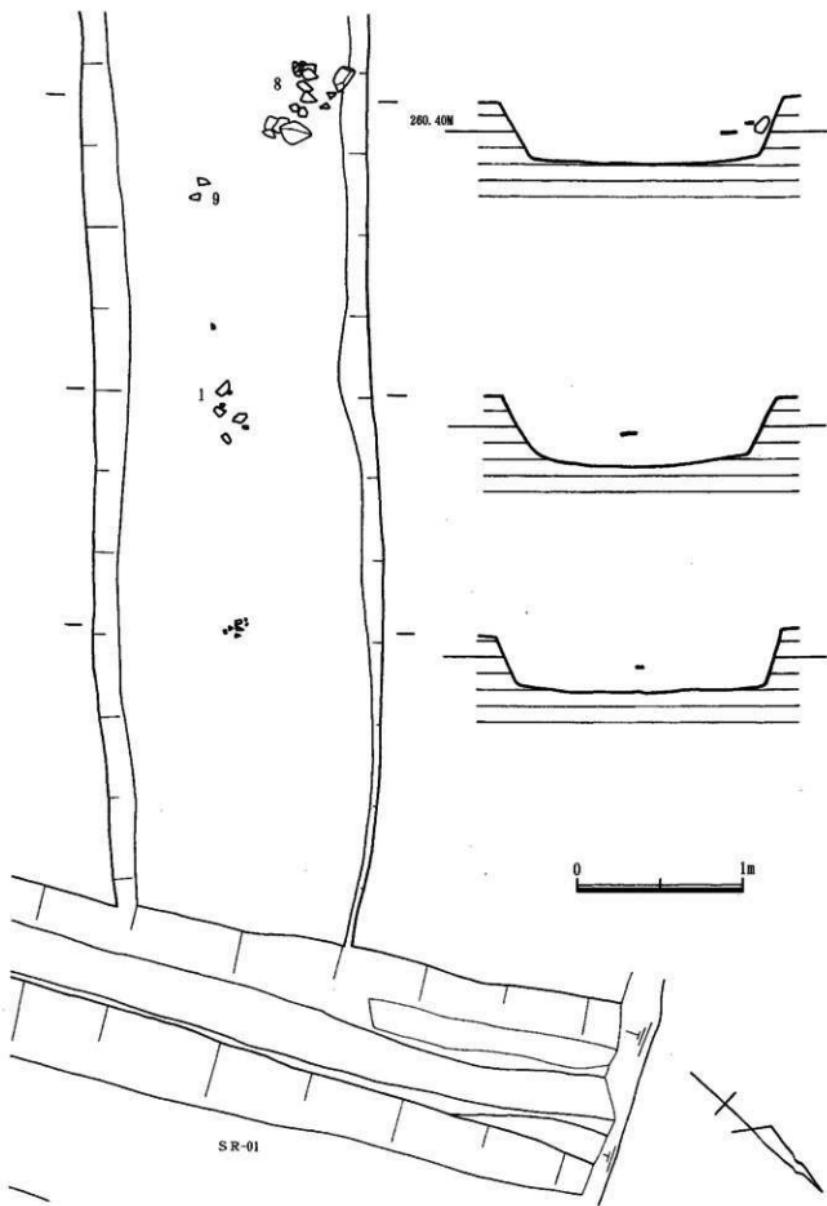
第5図 SD-04 断面層序図

では66cmを測る。中央寄りの部分の掘方中位には、明瞭な稜がある。北東部12m分の底面は埴層で堅く、他はⅦ層内である。いずれにしても底面は砂～砂礫層であることから、一定の深さまで埋まるまでは水は流れない。南西端の土層断面を見ると（第5図A-A'）、本来はⅢ b層上面から掘り込まれ、深さは80cm、堆土は北側へ置かれる。G-G'ラインでⅢ b層上面を推定すると、50cm削失していることが推定される。

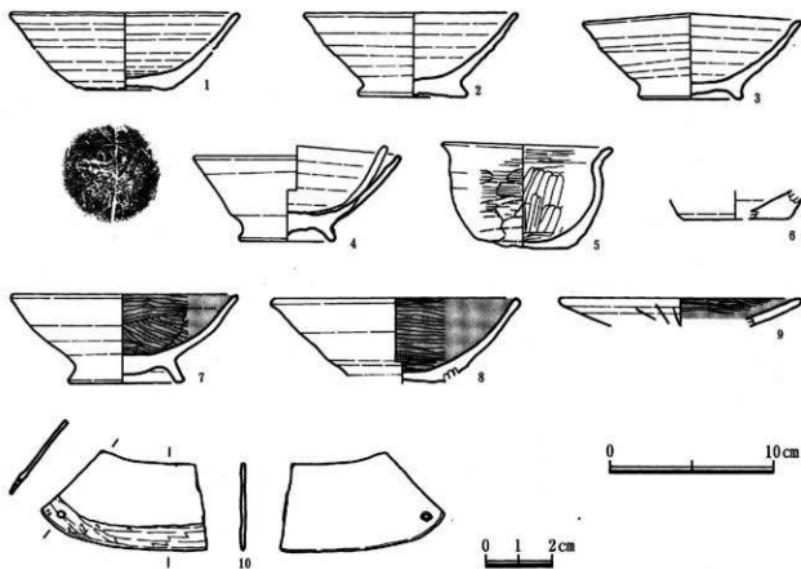
出土遺物は2ヶ所で若干出土した（第8図）。先ず、南西部では土師器壺（2）と塊（4）と黒色土器塊（7）の完形品3点と垂飾品（10）、そこから1.2m離れて、鉢型土器（5）と土師器壺（3）が出土した。これらはいずれも底面から10～20cm浮いた状態で、原位置よりも若干移動しているようである。10は鏽も無く、旧状を保ち、縁は丁寧に磨かれ、刃部状に面取りがされている。屈曲部には直径1.5mmの穿孔があるが、紐ズレ痕は確認されない。原材料は、方形鏡の可能性がある。A面



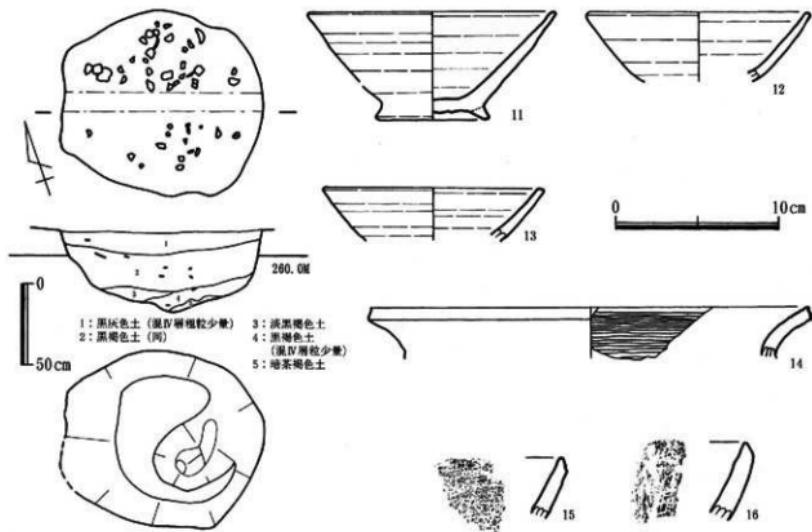
第6図 SD-04 遺物出土状態実測図(1)。



第7図 SD-04 遺物出土状態実測図(2)



第8図 SD-04 出土遺物実測図



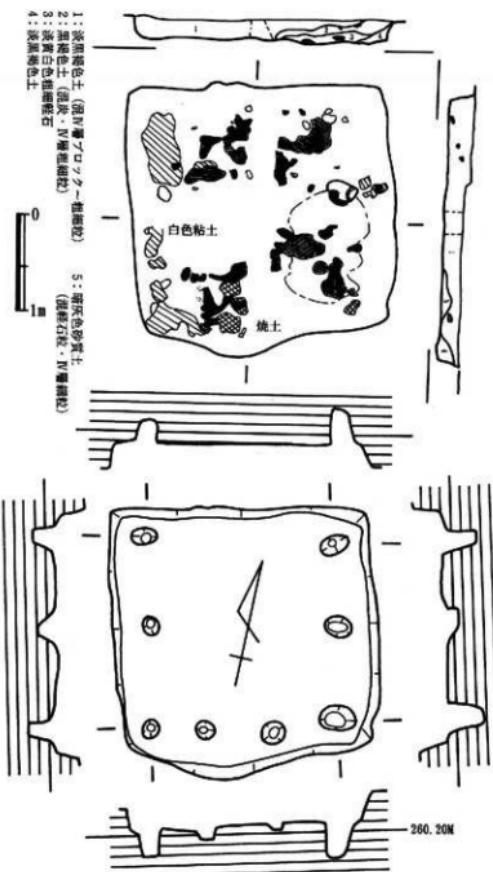
第9図 SK-06 遺構実測図・出土遺物実測図

の内区は鉢の敲打痕のようなやや粗い面になっている。B面は丁寧に研磨されている。

S K-06 (第9図)

長径1.20m・短径1.10mの不正楕円形を呈し、深さは最深部で49cmを測る。出土遺物は小破片のみで、土師器が39点・黑色土器2点、土製品（布痕土器）35点のほか、釘状鉄製品が1点出土した。

04号溝と主軸と同じくする掘立柱建物跡は無い。若干の年代差があると思われるが、主軸を北東にとる05~08・40・66号掘立柱建物跡が初期の掘立柱建物跡と推定される（個々の建物跡については後述）。66号以外は、他の建物群よりも柱間が長い特徴がある。又、06~08号は、少しいびつである点も共通する。



第10図 S A-01 遺構実測図

中世

豎穴状遺構1基、掘立柱建物跡72棟、断片の溝状遺構7条のほか、土坑・土塙墓60基を検出した。

S A-01 (第10図)

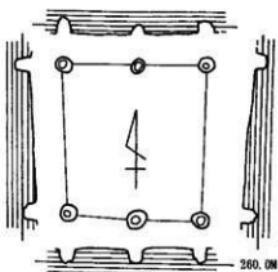
04号溝埋没後に掘削された、一辺2.4~2.6mの方形を呈し、柱穴は、4隅と西・東面の中央部に補助坑がある。南側中央部には柱穴が2個あるので、入口の可能性が高い。覆土には、細木の炭化材や白色粘土・焼土が混在する。

S B-01 (第11図)

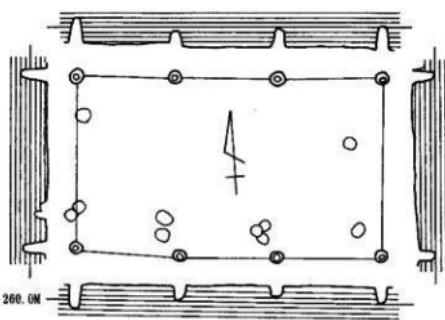
調査区の東側にあり、梁行2間(2.68~2.90m)・桁行1間(3.04~3.15m)の建物で、柱穴の規模は直径26~43cm・深さ20~32cmを測る。主軸方位は、N 2°Wである。

S B-02 (第11図)

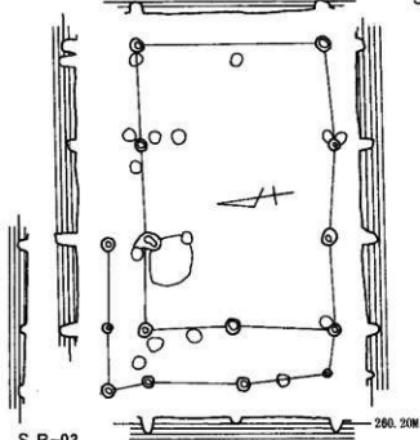
01号建物の4m余南に位置し、梁行1間(3.54~3.64m)・桁行3間(6.20m)の東西方向の建物で、柱穴の規模は直径26~43cm・深さ20~52cmを測る。主軸方位は、N 86°Wである。



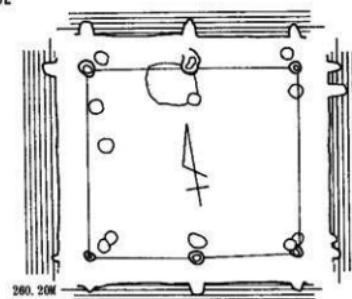
S B-01



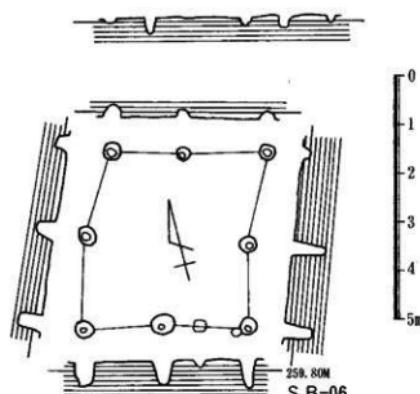
S B-02



S B-03

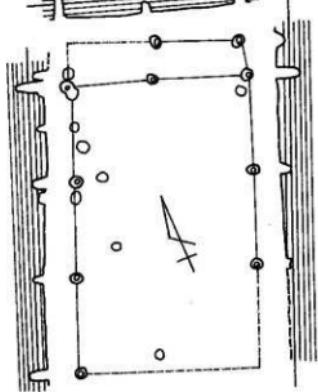


S B-04



0
1
2
3
4
5m

S B-06 260.0M



第11図 S B-01~06 遺構実測図

S B-03 (第11図)

02号建物と重複し、梁行2間（3.76～3.84m、東側は1間）・桁行3間（5.84～5.90m）の東西方向の身舎の、西～北面中央に扉を有する。柱穴の規模は直径17～36cm・深さ9～42cmを測る。主軸方位は、N84°Wである。

S B-04 (第11図)

02号建物と重複する、梁行1間（3.82m）・桁行2間（4.20～4.26m）の東西方向の建物で、柱穴の規模は直径17～32cm・深さ12～33cmを測る。主軸方位は、N80°Wである。

S B-05 (第11図)

東端部に位置した、梁行2間（3.66m）・桁行3間（5.88m）の、やや東向きの南北方向の身舎の北面に扉を有する。柱穴の規模は、直径19～28cm・深さ10～60cmを測る。主軸方位は、N22°Eである。東南隅の柱穴は、機械掘削による削失と思われる。

S B-06 (第11図)

東部中央付近に位置した、梁行2間（3.18～3.34m）・桁行2間（3.61～3.67m）の、北半部が東側に垂む建物である。柱穴の規模は直径27～46cm・深さ15～66cmを測り、大型の部類に入る。主軸方位は、N18°Eである。

S B-07 (第12図)

06号建物の約2m南に並行して位置した、梁行2間（4.32～4.41m）・桁行2間（4.16～4.60m）の、東の桁がやや短い建物である。柱穴の規模は、直径30～50cm・深さ34～71cmを測り、大型の部類に入る。主軸方位は、N12°Eである。

S B-08 (第12図)

調査区の中央寄り南側に位置した、梁行2間（4.07～4.10m）・桁行2間（4.10～4.24m）の方形に近い建物である。北西隅と北梁中央の柱穴は柱抜き取り穴のような重複がみられたが、判定し難い。柱穴の規模は直径26～45cm・深さ40～82cmを測り、大型の部類に入る。主軸方位はN14°E、である。

S B-09 (第12図)

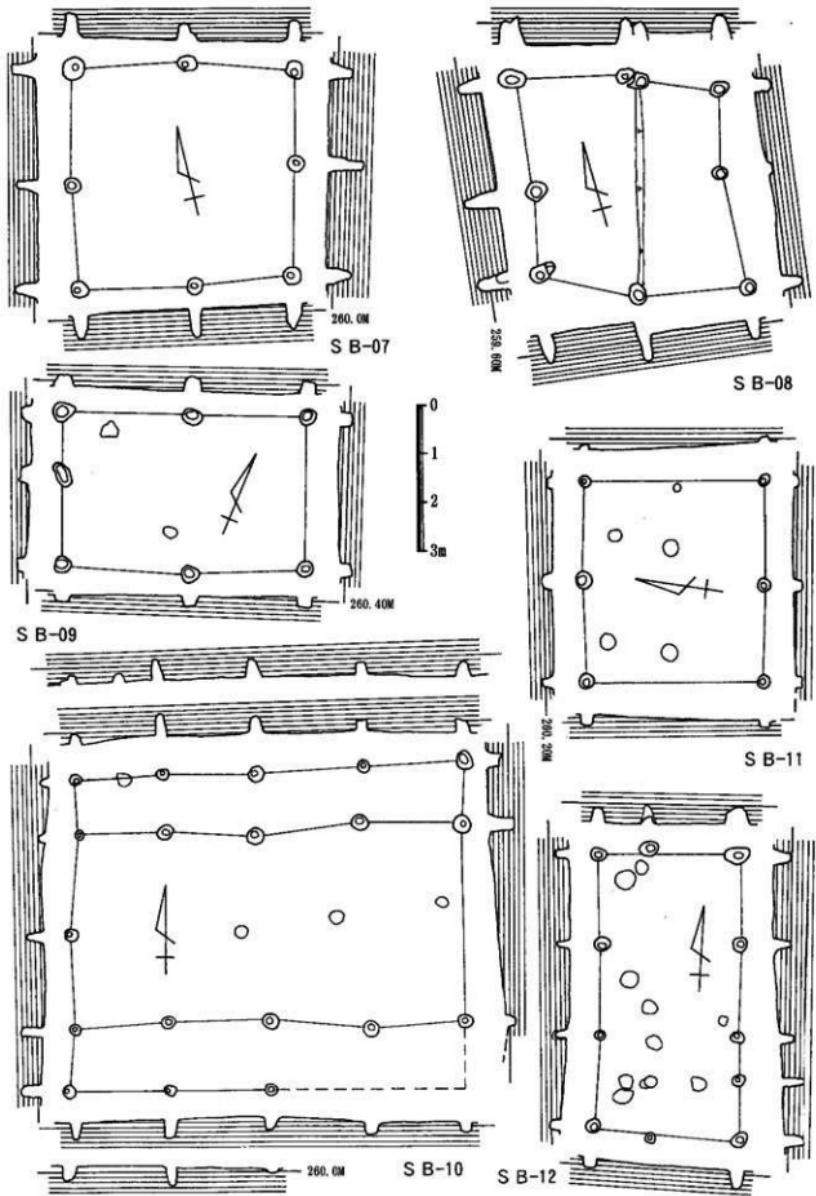
東部やや北寄りに位置した、梁行1間（3.13m）・桁行2間（4.93m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径30～40cm・深さ16～29cmを測る。主軸方位は、N80°Eである。西南部外方にある3基の柱穴は、当該建物の扉であった可能性もある。

S B-10 (第12図)

09号建物の2m南西に位置した、梁行2間（3.97～4.04m）・桁行4間（7.78～7.90m）の東西方向の身舎の、北と南に幅半間の扉が付く。柱穴の規模は、直径17～37cm・深さ12～52cmを測る。主軸方位は、N89°Eである。

S B-11 (第12図)

10号建物の北東部に重複する、梁行1間（3.56～3.63m）・桁行2間（4.10m）の東西にやや長い建物である。柱穴の規模は、直径20～37cm・深さ10～24cmを測る。主軸方位は、N81°Eである。



第12図 SB-07~12 遺構実測図

S B-12 (第12図)

11号建物の北西部に位置した、梁行1間（2.86～2.94m）・桁行3間（5.57～5.82m）の建物である。柱穴の規模は、直径20～50cm・深さ18～47cmを測る。主軸方位は、N 3°Wである。

S B-13 (第13図)

09号建物に北接する、梁行2間（3.06～3.16m）・桁行2間（4.17～4.57m）のやや歪な建物である。柱穴の規模は、直径19～40cm・深さ9～34cmを測る。主軸方位は、N70°Eである。

S B-14 (第13図)

北東中央部に位置した、梁行2間（3.04m）・桁行3間（5.06～5.16m）の東西方向の建物と推定される。柱穴の規模は、直径15～33cm・深さ10～37cmを測る。主軸方位は、N86°Wである。

S B-15 (第13図)

14号建物と北接した、梁行2間（3.85～3.94m）・桁行3間（5.52m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径19～36cm・深さ22～60cmを測る。主軸方位は、N87°Wである。

S B-16 (第13図)

15号建物の北半分と重複した、梁行2間（3.45～3.58m）・桁行3間（5.98～6.04m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径18～30cm・深さ10～32cmを測る。主軸方位は、N79°Eである。

S B-17 (第13図)

14号建物の西に位置した、梁行2間（3.28～3.56m）・桁行3間（5.30～5.47m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23～40cm・深さ12～34cmを測る。主軸方位は、N88°Eである。

S B-18 (第13図)

北東部の中央寄りに位置した、梁行2間（3.70～4.0m）・桁行3間（6.40m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径24～42cm・深さ15～60cmを測る。主軸方位は、N 2°Wである。

S B-19 (第14図)

18号建物の西約3mに位置した、梁行2間（3.66～4.04m）・桁行3間（5.60～5.70m）の南北方向の建物と推定される。柱穴の規模は、直径25～45cm・深さ34～62cmを測る。主軸方位は、N 4°Wである。

S B-20 (第14図)

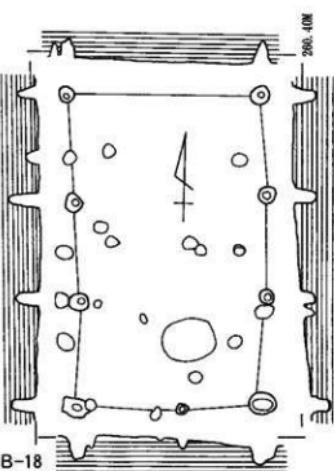
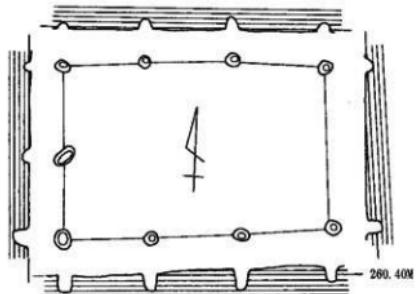
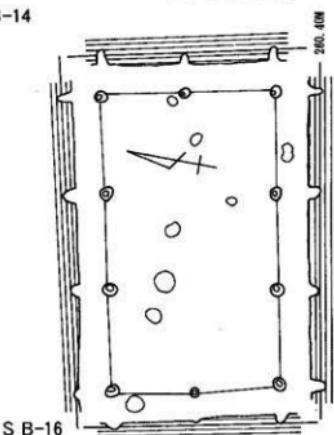
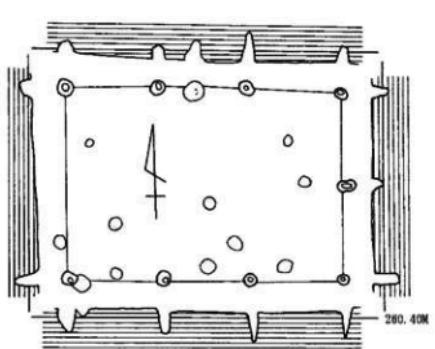
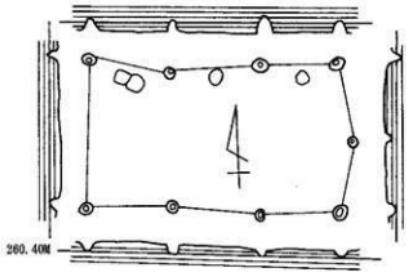
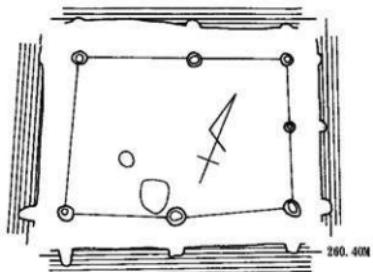
西部の中央寄りに位置した、梁行2間（3.72～3.80m）・桁行3間（5.86～6.0m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径20～32cm・深さ18～35cmを測る。主軸方位は、N 2°Wである。

S B-21 (第14図)

20号建物の南西に位置した、梁行1間（4.02m）・桁行3間（6.52m）の南北方向の身舎の、西と東に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径18～33cm・深さ18～42cmを測る。主軸方位は、N 5°Eである。

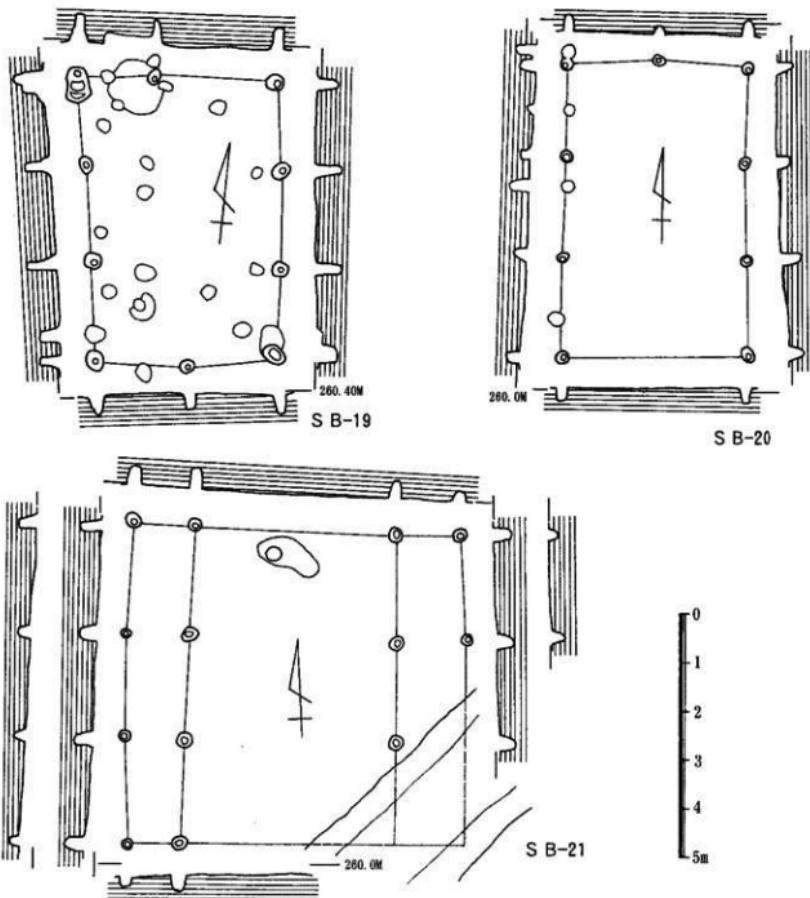
S B-22 (第15図)

21号建物の北に位置した、梁行1間（3.26～3.45m）・桁行3間（7.35～7.38m）の東西方向の



0 1 2 3 4 5m

第13図 SB-13~18 造構実測図



第14図 SB-19~21 遺構実測図

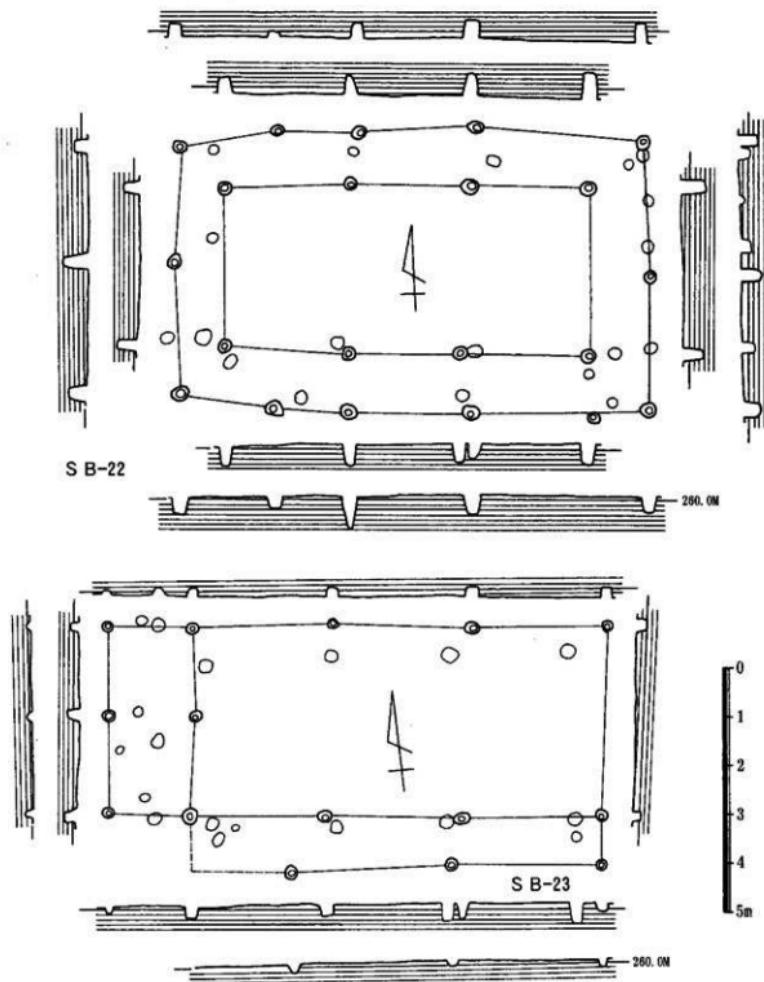
身舎の、四面に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径20~35cm・深さ12~66cmを測る。主軸方位は、N 88°Wである。

S B-23 (第15図)

22号建物と重複した、梁行2間(3.85~3.90m)・桁行3間(8.34~8.41m)の東西方向の身舎の、西と南に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径20~34cm・深さ13~33cmを測る。主軸方位は、N 86°Wである。

S B-24 (第16図)

23号建物の西に位置した、梁行2間(3.45~3.56m)・桁行4間(7.38~7.64m)の南北方向の

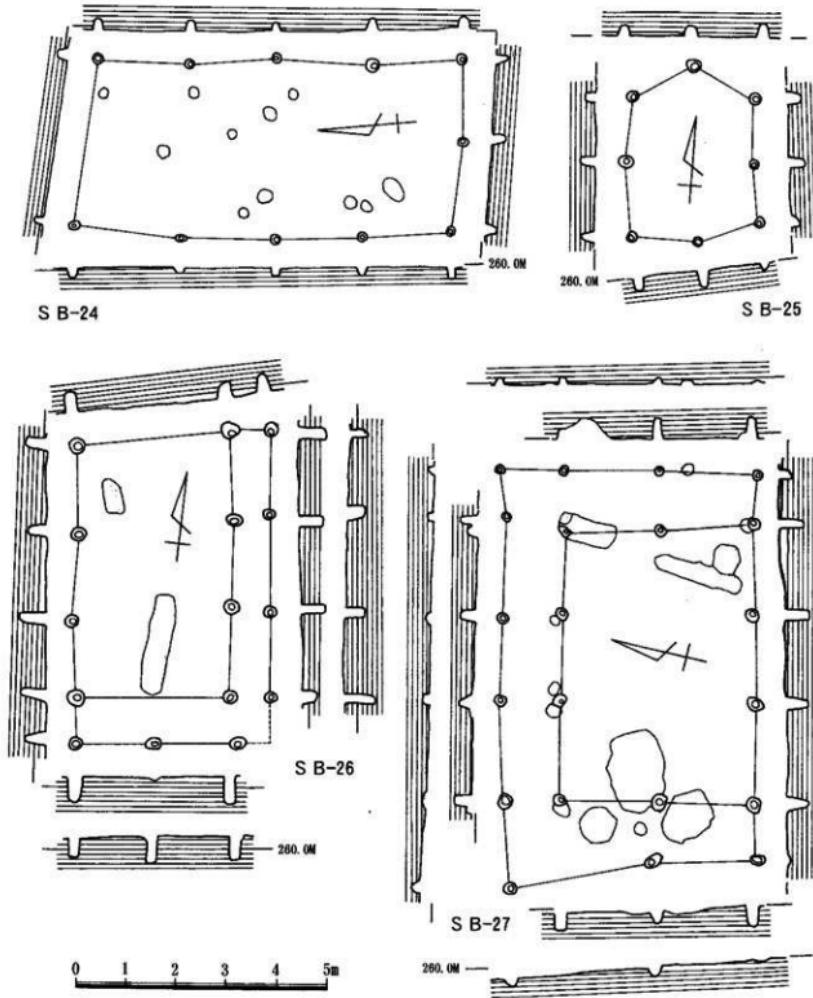


第15図 SB-22・23 造構実測図

建物である。柱穴の規模は、直径15~29cm・深さ14~27cmを測る。主軸方位は、N 5°Eである。

S B-25 (第16図)

24号建物の西、調査区の西端に位置した、梁行1間(2.50~2.63m)・桁行2間(2.55~2.88m)の南北方向の建物で、棟持柱を有する。柱穴の規模は、直径16~26cm・深さ17~36cmを測る。主軸方位は、N 4°Wである。

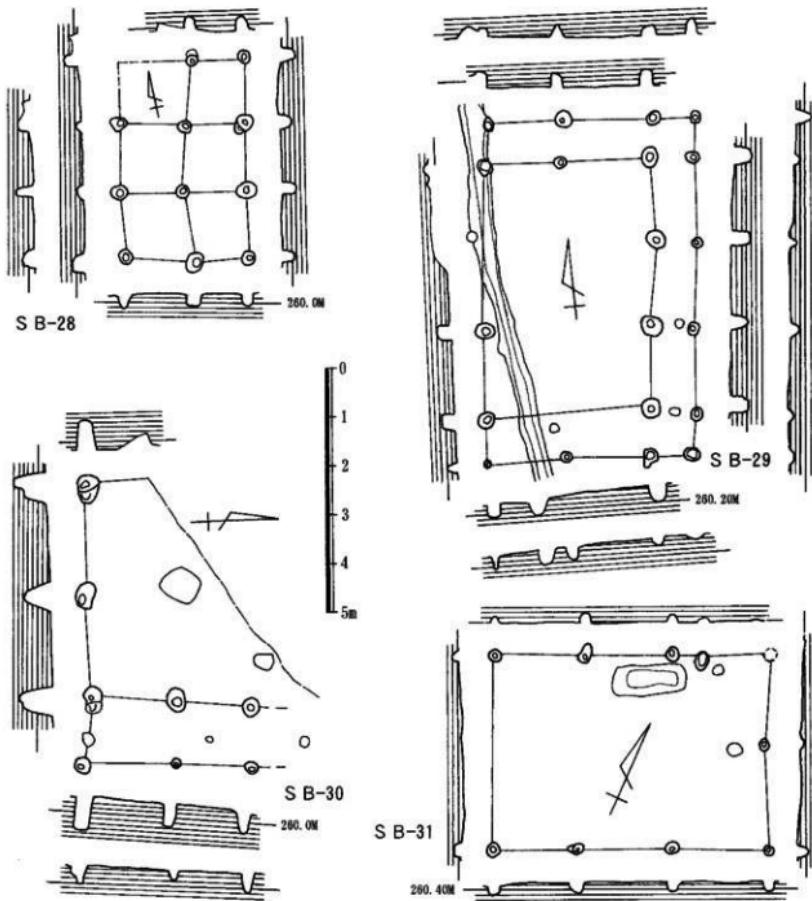


第16図 SB-24～27 遺構実測図

SB-26 (第16図)

調査区の北西部に位置した、梁行1間（3.06～3.10m）・桁行3間（5.15～5.40m）の南北方向の身舎の、東～南面に幅半間の窓が付く。柱穴の規模は、直径20～36cm・深さ32～63cmを測る。主軸方位は、N 5°Wである。

SB-27 (第16図)



第17図 SB-28~31 遺構実測図

26号建物に北接する、梁行2間(3.80~3.92m)・桁行3間(5.75~5.78m)の東西方向の身舎の、西~北~東面に幅半間~1間弱の廊が付く。柱穴の規模は、直径17~31cm・深さ6~50cmを測る。主軸方位は、N77°Eである。

SB-28 (第17図)

北西縁中央寄りに位置する、桁行2間(2.50m)・桁行3間(4.15m)の唯一の総柱の建物である。柱穴の規模は、直径17~31cm・深さ6~50cmを測る。主軸方位は、N77°Eである。

SB-29 (第17図)

北寄りに位置した、梁行2間(3.34~3.38m)・桁行3間(5.16~5.20m)の南北方向の身舎の

北～東～南面に廂が付く。柱穴の規模は、直径17～42cm・深さ10～37cmを測る。主軸方位は、N 5°Eである。

S B-30 (第17図)

29号建物と西接する梁行2間(4.38m)・桁行2間以上(4間か、3.2m以上)の南北方向の身舎の、東面に廂が付く。柱穴の規模は、直径16～47cm・深さ18～68cmを測る。主軸方位は、N 5°Eである。

S B-31 (第17図)

北端部に位置した、梁行2間(3.96～4.0m)・梁行3間(5.60m)の建物である。柱穴の規模は、直径18～26cm・深さ6～20cmを測る。主軸方位は、N 65°Eである。

S B-32 (第18図)

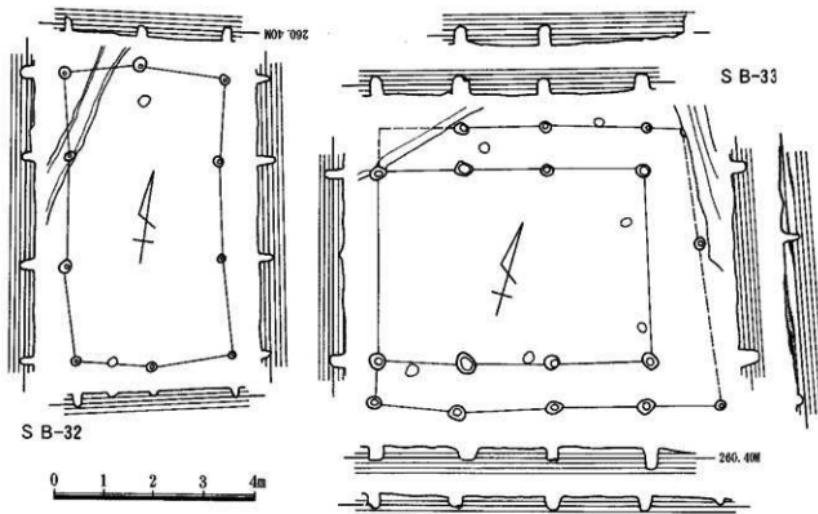
北部に位置した、梁行2間(3.16～3.24m)・桁行3間(5.65～5.92m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径14～30cm・深さ7～37cmを測る。主軸方位は、N 8°Wである。

S B-33 (第18図)

北東部に位置した、梁行1間(3.86～3.94m)・桁行3間(5.36～5.50m)の身舎の、北～東～南の3面に廂を有すると推定されるが、東南部の幅が広く、2面廂かもしれない。柱穴の規模は、直径18～46cm・深さ4～45cmを測るが、上部30～40cmは削失している。主軸方位は、N 72°Eである。

S B-34 (第19図)

33号建物の南に位置した、梁行1間(3.65m)・桁行3間(4.75～4.86m)の建物である。柱穴の規模は、直径18～32cm・深さ14～41cmを測る。主軸方位は、N 11°Wである。



第18図 S B-32・33 遺構実測図

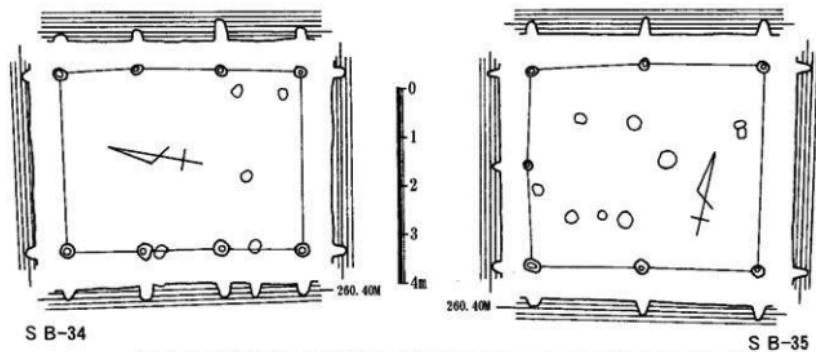
S B-35 (第19図)

34号建物の西に位置した、梁行2間(3.53~3.93m)・桁行5間(10.40m)の南北方向の身舎の、西~北~東面に廂が付く。柱穴の規模は、直径18~37cm・深さ4~57cmを測る。主軸方位は、N 8°Wである。

S B-36 (第19図)

35号建物の南西部に重複した、梁行2間(3.97~4.17m)・桁行2間(4.58~4.72m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径18~30cm・深さ16~35cmを測る。主軸方位は、N 78°Eである。

S B-37 (第20図)



S B-34

S B-35

S B-36

第19図 S B-34~36 造構実測図

北東部の14・15号建物と重複した梁行2間（3.70～3.78m）・桁行1間（3.90～3.94m）の方形の建物である。柱穴の規模は、直径20～36cm・深さ11～31cmを測る。主軸方位は、N 3°Wである。

S B-38 (第20図)

34号建物と重複した、梁行2間（3.78～3.92m）・桁行3間（4.54～4.72m）の建物である。柱穴の規模は、直径15～27cm・深さ17～40cmを測る。主軸方位は、N75°Eである。

S B-39 (第20図)

中央付近に位置した、梁行2間（4.15m）・桁行4間（7.50～7.81m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22～38cm・深さ22～68cmを測る。主軸方位は、N82°Eである。

S B-40 (第20図)

中央南側に位置した、梁行2間（3.30m）・桁行2間（4.75m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23～36cm・深さ18～40cmを測る。主軸方位は、N77°Wである。

S B-41 (第20図)

中央南縁に位置した、梁行2間（3.02～3.37m）・桁行3間（4.78～5.23m）の南北方向のやや歪な建物である。柱穴の規模は、直径16～40cm・深さ16～48cmを測る。主軸方位は、N 3°Eである。

S B-42 (第20図)

40号建物の南西に位置した、梁行2間（2.23～2.30m）・桁行2間（2.84～3.06m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23～35cm・深さ12～30cmを測る。主軸方位は、N84°Wである。

S B-43 (第21図)

中央に位置した、梁行2間（4.17m）・桁行3間（6.20～6.44m）の南北方向の身舎の、西と東に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径23～37cm・深さ27～62cmを測る。主軸方位は、N12°Wである。

S B-44 (第21図)

43号建物の東に位置した、梁行2間（4.18～4.28m）・桁行6間（12.17～12.62m）の東西方向の身舎の、北と南面に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径21～50cm・深さ22～74cmを測る。主軸方位は、N86°Eである。

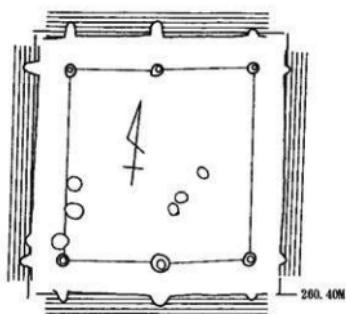
S B-45 (第22図)

44号建物の北半部と重複した、梁行2間（4.20～4.28m）・桁行3間（5.86～6.18m）の身舎の、東面に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径26～43cm・深さ20～58cmを測る。主軸方位は、N79°Eである。

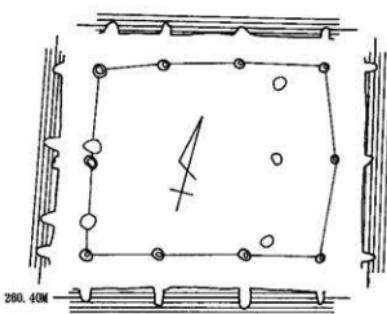
S B-46 (第22図)

西南部に位置した、梁行2間（3.42～3.53m）・桁行3間（6.34m）の南北方向の身舎の、北～西～南3面に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径10～38cm・深さ16～72cmを測る。主軸方位は、N 9°Eである。

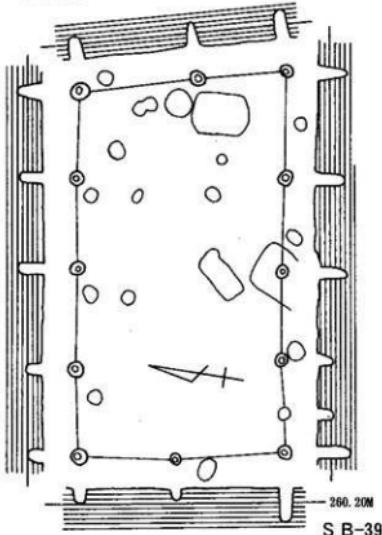
S B-47 (第22図)



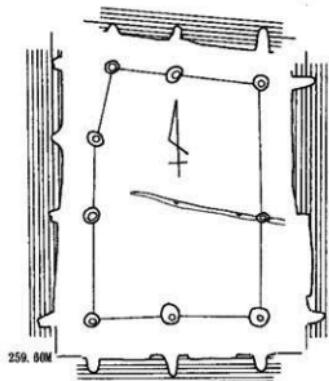
S B-37



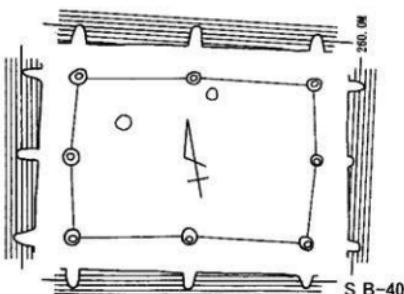
S B-38



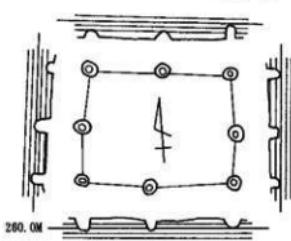
S B-39



S B-41



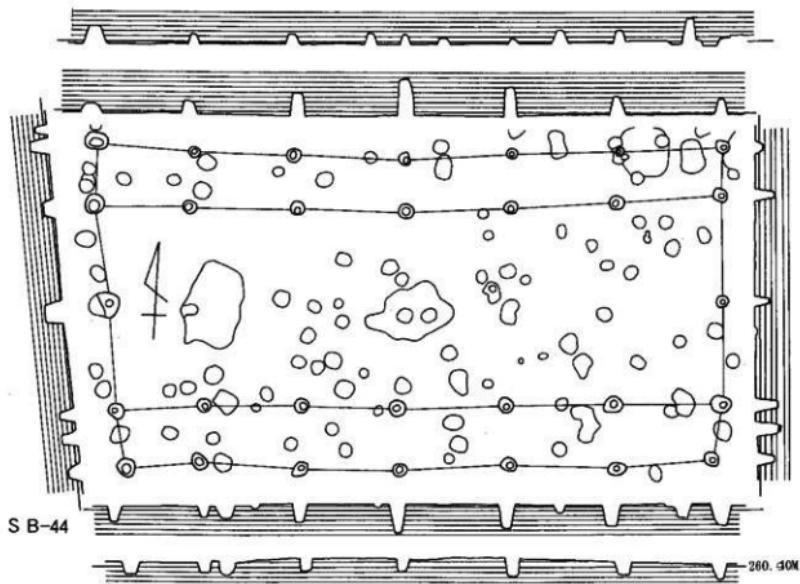
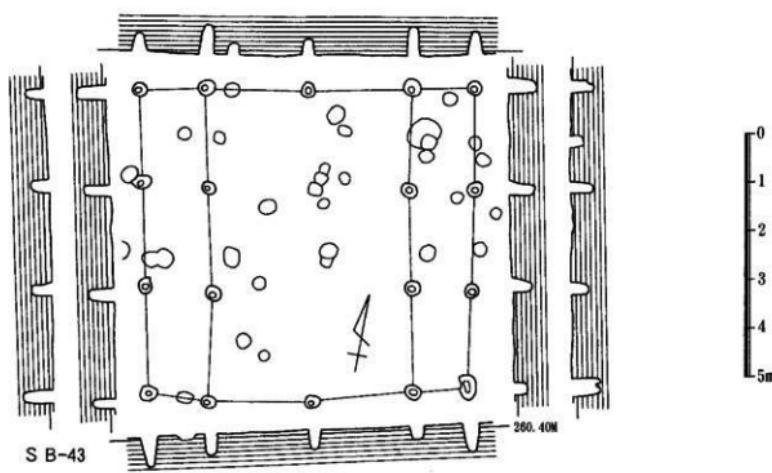
S B-40



S B-42

0 1 2 3 4 5m

第20図 S B-37~42 遺構実測図

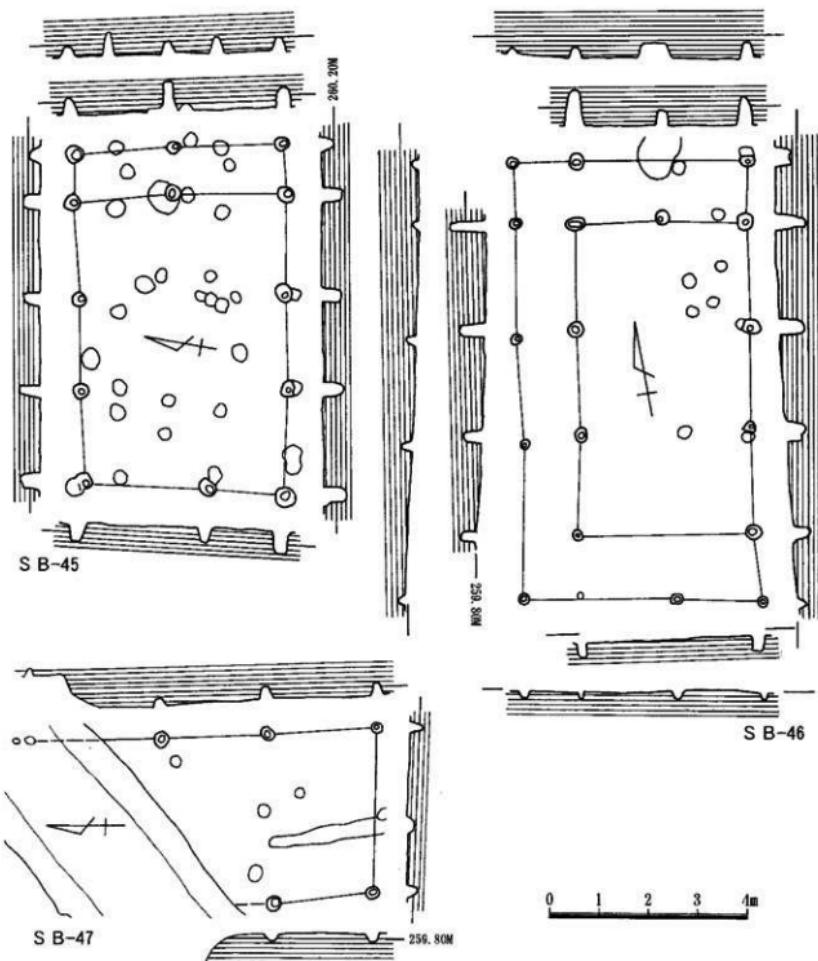


第21図 SB-43・44 遺構実測図

46号建物の西に位置した、梁行2間（3.36m）・桁行3間（5.5m以上）と推定される南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径22~34cm・深さ16~26cmを測る。主軸方位は、N 2°Wである。

S B-48（第23図）

中央部44号建物と重複した、梁行2間（4.08~4.34m）・桁行4間（9.20~9.33m）の身舎の、南面に幅半間強の窓が付く。柱穴の規模は、直径26~54cm・深さ14~33cmを測る。主軸方位は、N 82°Eである。



第22図 S B-45~47 遺構実測図

S B-49 (第23図)

中央やや北側に位置した、梁行2間（4.16～4.74m）・桁行4間（7.48～8.35m）の東西方向の身舎の、北と南面に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径20～41cm・深さ14～48cmを測る。主軸方位は、N80°Eである。

S B-50 (第23図)

北部中央寄りに位置した、梁行1間（3.95m）・桁行2間（5.36～5.65m）の建物である。柱穴の規模は、直径12～25cm・深さ12～20cmを測る。主軸方位は、N26°Eである。

S B-51 (第24図)

中央やや西寄りに位置した、梁行1間（2.93～3.29m）・桁行3間（5.77m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径23～39cm・深さ15～30cmを測る。主軸方位は、N12°Eである。

S B-52 (第24図)

51号建物の南西に位置した、梁行2間（4.28～4.35m）・桁行3間（6.38～6.50m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22～30cm・深さ12～42cmを測る。主軸方位は、N84°Eである。

S B-53 (第24図)

北東部に位置した、梁行1間（2.45m）・桁行2間（2.65m）の建物で、棟持柱を有する。柱穴の規模は、直径18～28cm・深さ14～42cmを測る。主軸方位は、N19°Wである。

S B-54 (第24図)

53号建物の南東に位置した、梁行1間（2.40～2.46m）・桁行1間（2.56～2.70m）の建物である。柱穴の規模は、直径17～28cm・深さ15～36cmを測る。主軸方位は、N10°Wである。

S B-55 (第24図)

北部33号建物と重複した、梁行2間（4.30m）・桁行3間（6.70～7.0m）の建物である。柱穴の規模は、直径20～26cm・深さ17～28cmを測る。主軸方位は、N62°Eである。

S B-56 (第24図)

北部35号建物の南東部に重複した、梁行1間（3.06～3.11m）・桁行1間（3.24m）の建物である。柱穴の規模は、直径17～38cm・深さ17～40cmを測る。主軸方位は、N7°Wである。

S B-57 (第24図)

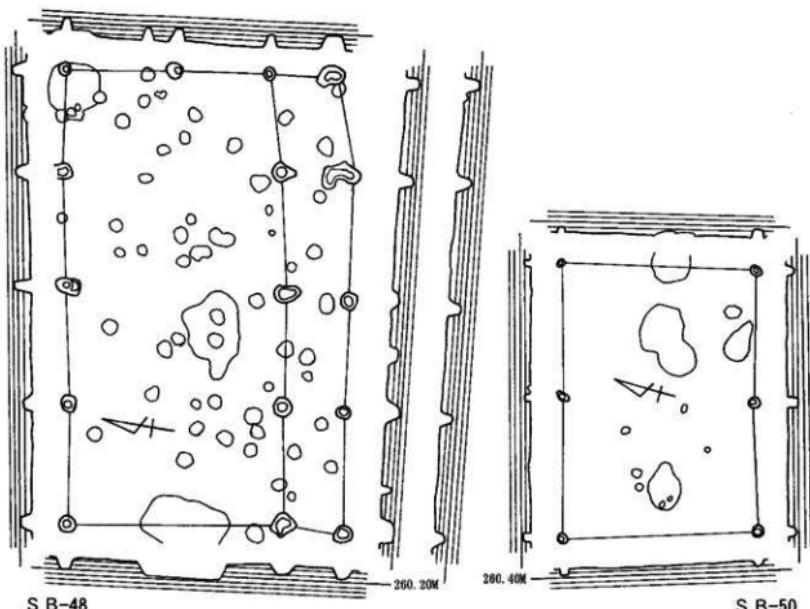
北東部14・15号建物と重複した、桁行1間（3.06～3.20m）・桁行1間（3.16～3.22m）の建物である。柱穴の規模は、直径20～40cm・深さ17～45cmを測る。主軸方位は、N14°Wである。

S B-58 (第25図)

北東部中央寄り12号建物と重複した、桁行2間（3.62～3.70m）・桁行2間（3.68～3.98m）の建物である。柱穴の規模は、直径20～37cm・深さ22～37cmを測る。主軸方位は、N3°Wである。

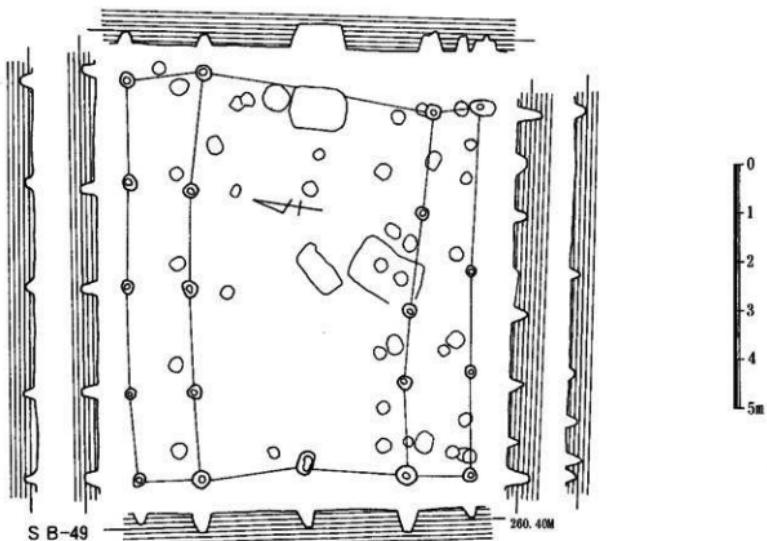
S B-59 (第25図)

01号竪穴状遺構と重複した、梁行1間（4.13～4.62m）・桁行3間（6.28～6.63m）の東西方向の建物と推定されるが、南の桁は明瞭でない。柱穴の規模は、直径17～27cm・深さ10～15cmを測る。



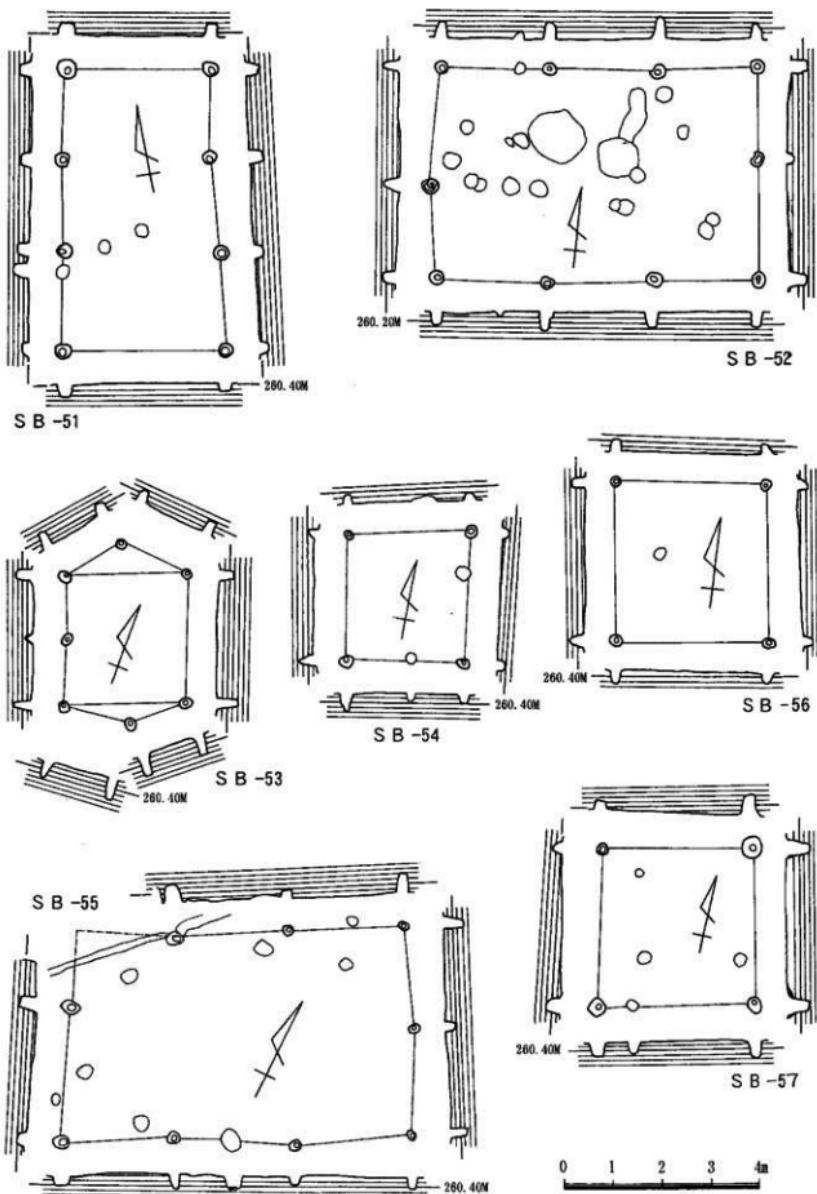
S B-48

S B-50

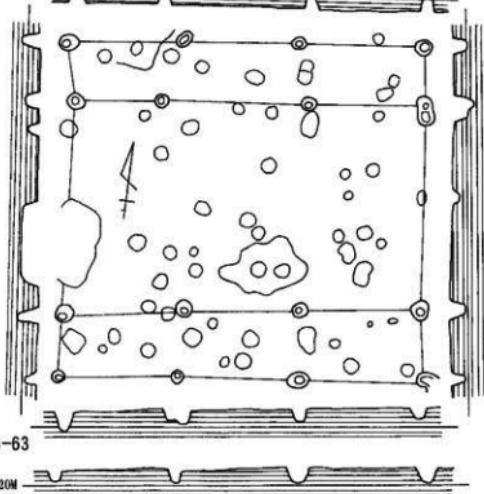
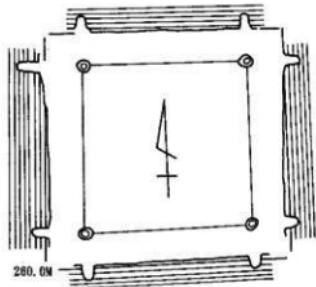
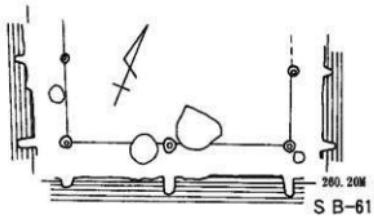
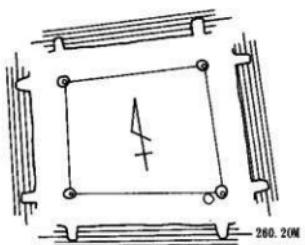
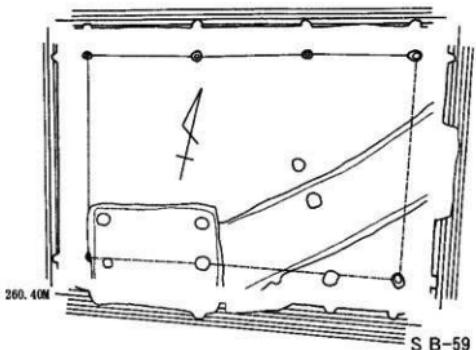
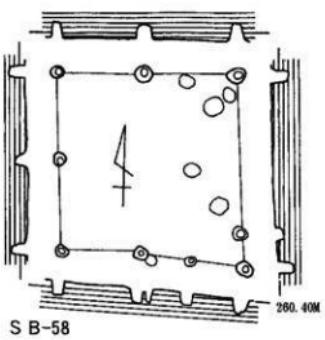


S B-49

第23図 S B-48~50 遺構実測図



第24図 SB-51～57 遺構実測図



0 1 2 3 4m

第25図 SB-58~63 造構実測図

主軸方位は、N76°Eである。

S B-60 (第25図)

北部寄り32号建物の南西に位置した、梁行1間（2.31～2.64m）・桁行1間（2.80～3.05m）の建物である。柱穴の規模は、直径18～27cm・深さ23～30cmを測る。主軸方位は、N85°Wである。

S B-61 (第25図)

北端部に位置した、梁行2間（2.6m以上）・桁行2間（4.52m）と推定される建物である。柱穴の規模は、直径15～26cm・深さ18～36cmを測る。主軸方位は、N67°Eである。

S B-62 (第25図)

北西縁に位置した、梁行1間（3.28～3.38m）・桁行1間（3.33～3.44m）の建物である。柱穴の規模は、直径22～29cm・深さ26～50cmを測る。主軸方位は、N5°Eである。

S B-63 (第25図)

中央部に位置した、梁行2間（3.85～4.0m）・桁行3間（7.23m）の身舎の、北と南面に幅半間の廂が付く。柱穴の規模は、直径24～43cm・深さ14～40cmを測る。主軸方位は、N81°Eである。

S B-64 (第26図)

中央やや東寄り19号建物と重複した、梁行2間（3.97～4.25m）・桁行3間（7.10～7.30m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径18～43cm・深さ18～50cmを測る。主軸方位は、N3°Wである。

S B-65 (第26図)

64号建物と重複した、梁行2間（4.65～4.88m）・桁行4間（8.55～8.60m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径22～41cm・深さ13～60cmを測る。主軸方位は、N3°Wである。

S B-66 (第26図)

南東部中央寄りに位置した、梁行1間（3.84m）・桁行3間（5.54m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径17～28cm・深さ5～15cmを測る。主軸方位は、N79°Wである。

S B-67 (第26図)

中央やや北寄りに位置した、梁行1間（3.32m）・桁行3間（5.88m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23～46cm・深さ21～26cmを測る。主軸方位は、東西である。

S B-68 (第27図)

中央北東寄りに位置した、梁行1間（3.16～3.19m）・桁行3間（4.85～5.13m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径20～33cm・深さ9～21cmを測る。主軸方位は、N88°Eである。

S B-69 (第27図)

東南端05号建物と重複した、梁行2間（3.40m）・桁行3間（6.59m）の建物であり、同一タイプの05号建物とは18度北へ傾く。柱穴の規模は、直径15～33cm・深さ10～34cmを測る。主軸方位は、N3°Eである。

S B-70 (第27図)

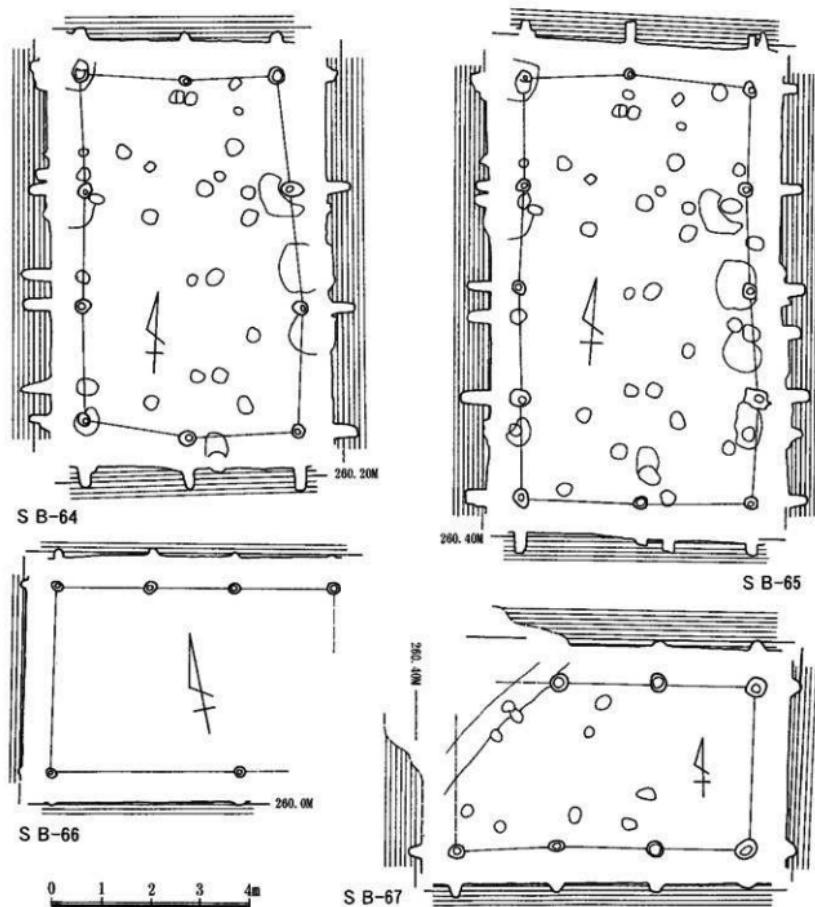
西南部やや中央寄りに位置した、梁行1間（2.79～2.83m）・桁行3間（4.60～4.75m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径20～39cm・深さ21～33cmを測る。主軸方位は、N81°Wである。

S B-71 (第27図)

70号建物の北に位置した、梁行1間（2.96～3.06m）・桁行3間（5.18～5.28m）の歪な東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径26～35cm・深さ23～38cmを測る。主軸方位は、N80°Wである。

S B-72 (第28図)

71号建物の北半分と重複した、梁行1間（3.81～3.86m）・桁行3間（6.18～6.33m）の東西方



第26図 S B-64～67 造構実測図

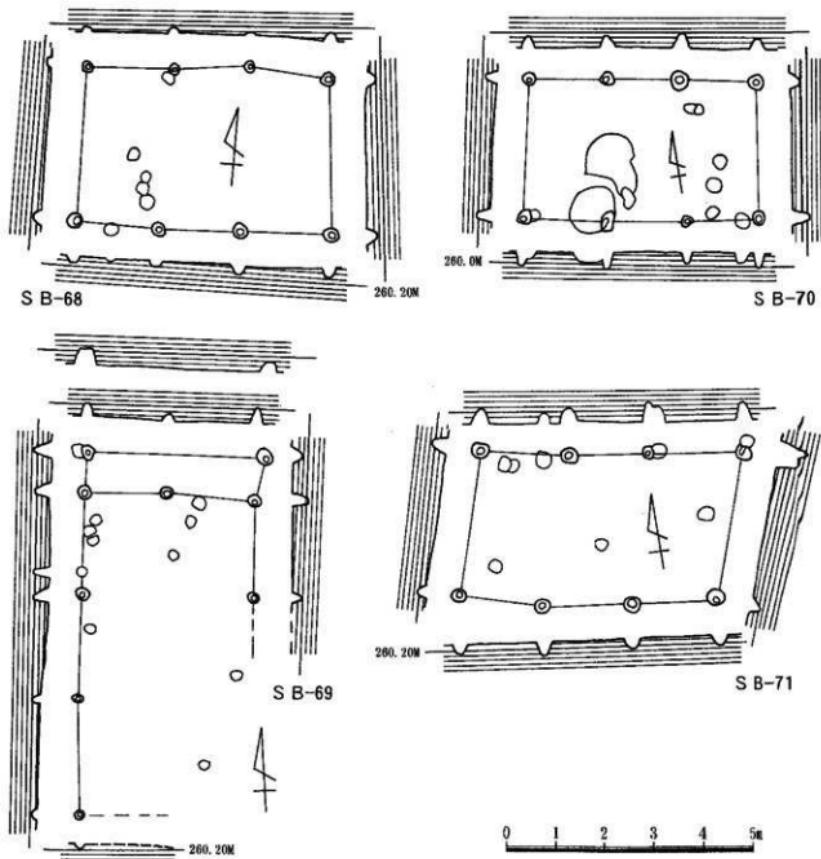
向の建物である。柱穴の規模は、直径22~34cm・深さ22~54cmを測る。主軸方位は、N88°Wである。

S B-73 (第28図)

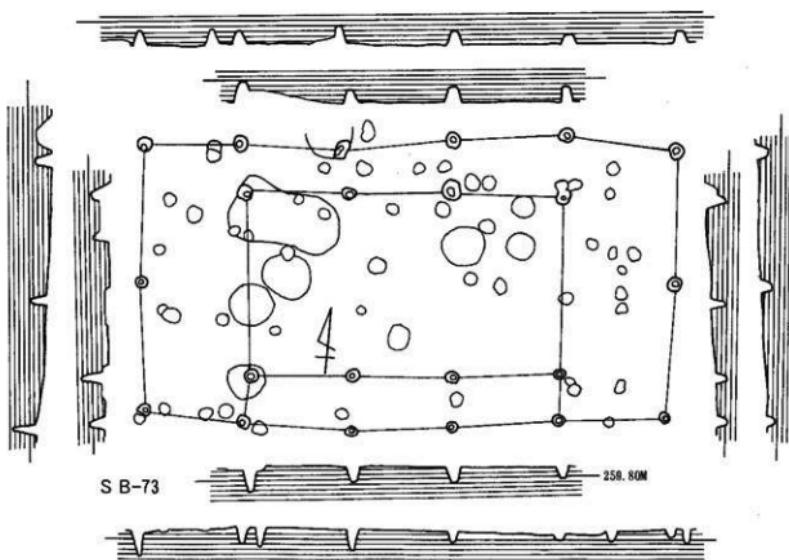
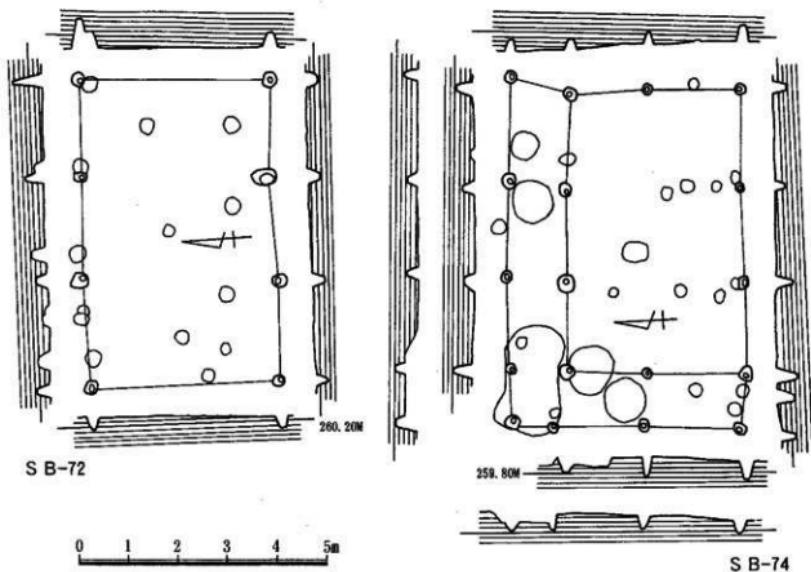
東南部東寄りに位置した、梁行1間(3.59~3.71m)・桁行3間(6.26~6.40m)の東西方向の身舎に、4面廂を有すると推定される。ただし、西と東の廂の幅は1間あり、同様の建物は他に存在しないので、北と南面に廂が付いて、西と東には檻を有する建物なのかもしれない。柱穴の規模は、直径18~36cm・深さ12~54cmを測る。主軸方位は、N84°Eである。

S B-74 (第28図)

73号建物と重複した、梁行2間(3.45~3.58m)・桁行3間(5.67~5.86m)の東西方向の身舎の、西~北面に幅半間の廂が付く。柱穴の規模は、直径17~38cm・深さ20~42cmを測る。主軸方位



第27図 S B-68~71 造構実測図



第28図 S B-72~74 遺構実測図

は、N87°Wである。

S B-75 (第29図)

73・74号建物と重複した、梁行1間(3.93~4.10m)・桁行2間(4.71~4.90m)の東西方向の身舎の、北~東~南3面に扉が付く建物と推定される。柱穴の規模は、直径16~31cm・深さ15~44cmを測る。主軸方位は、N78°Eである。

S B-76 (第29図)

中央やや東、19・48号建物等と重複した、梁行2間(3.84m)・桁行3間(5.92m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径20~37cm・深さ24~34cmを測る。主軸方位は、N86°Eである。

S B-77 (第29図)

中央北東寄り、37・68号建物と重複した、梁行1間(4.0~4.22m)・桁行3間(5.90~6.30m)の建物である。柱穴の規模は、直径18~37cm・深さ10~32cmを測る。主軸方位は、N78°Eである。

S B-78 (第29図)

中央南寄り、40・42号建物と重複した、梁行1間(3.66m)・桁行3間(5.57m)の東西方向の建物と推定される。柱穴の規模は、直径20~33cm・深さ18~48cmを測る。主軸方位は、N82°Eである。

S F-01 (第29図)

北部31号建物の南東に位置した、2間(3.83m)の構状遺構である。柱穴の規模は、直径18~28cm・深さ16~27cmを測る。主軸方位は、N23°Wである。

S F-02 (第29図)

北東部34号建物の東に延びる3間(6.62m)の構状遺構である。柱穴の規模は、直径15~22cm・深さ8~24cmを測る。主軸方位は、N86°Eである。

S F-03 (第29図)

39号建物の西・43号建物の北に位置した、3間(4.95m)の構状遺構である。柱穴の規模は、直径29~43cm・深さ20~32cmを測る。主軸方位は、N10°Wである。

S D-03

32号建物の北から60号建物の北まで約10.2m、最大幅70cmの溝状遺構で、深さは4~9cmである。

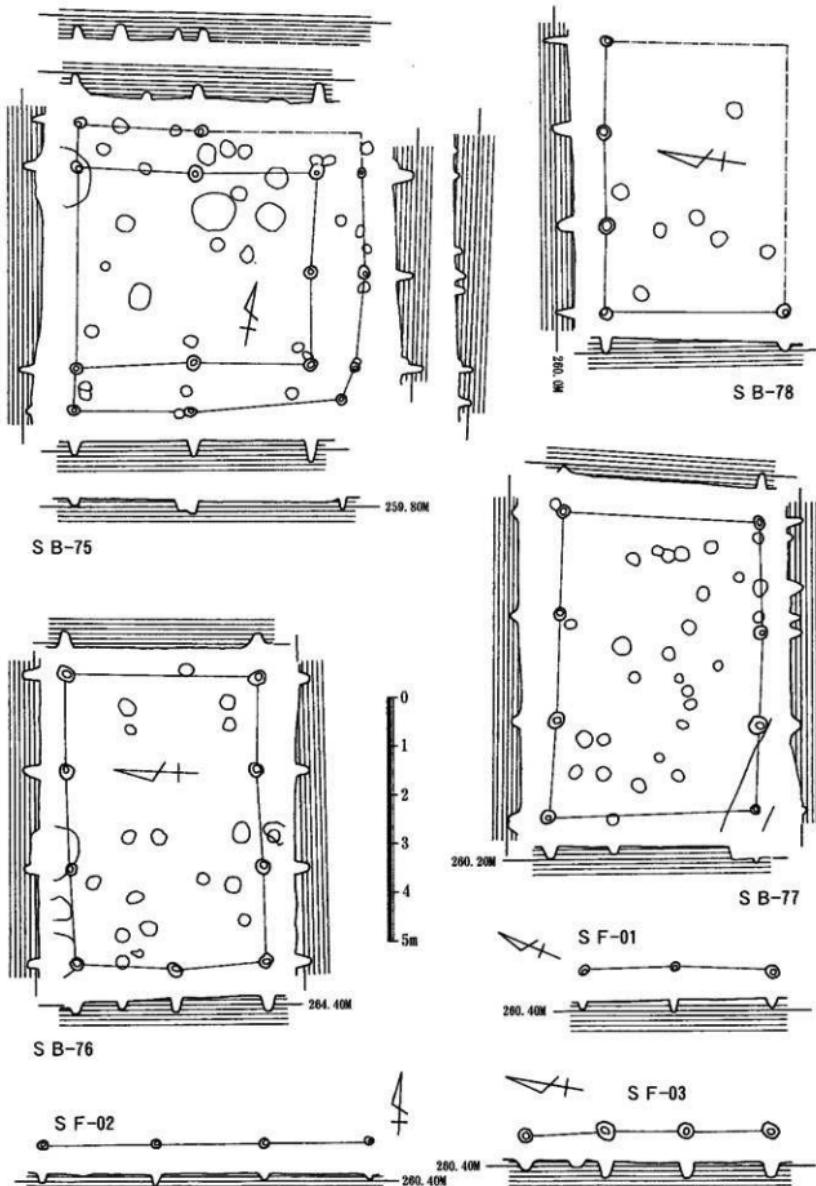
S D-05

04号溝のほぼ中央部から北へ約2m離れた地点から13m程北東へ延びて、ゆるやかに135度北へ傾いて29・30号建物の間を通る溝状遺構で、幅は40~50cm、深さは10~30cmを測る。覆土は淡黒灰色土で、明瞭に水が流れた形跡は無い。

S D-06

27号建物の北東部に位置した、検出長4.20m、幅50cm前後、深さ5~10cmの溝状遺構である。

S D-07



第29図 S B-75~78・S F-01~03 造構実測図

62号建物の南西に位置した、全長5.65m、幅35cm前後、深さ3~7cmの溝状遺構である。

S D-08

07号溝の西約9mの位置で、検出長4.50m、最大幅90cm、深さ3~10cmの弧状を呈する溝状遺構である。

S D-09

西端部に位置した、検出長10.9m、幅15~25cm前後、深さ6~23cmの溝状遺構である。南側のほうがレベルが低く、中央付近で西へ曲がる。壁面は急角度で、覆土は黒灰色土である。

S D-10

20号建物の北に位置した、全長4.7m・最大幅60cm・深さ5cm程の溝状遺構である。

S D-11

10号溝の12m南に位置した、全長4m・最大幅35cm・深さ10cmの溝状遺構である。

S K-56 (第30図)

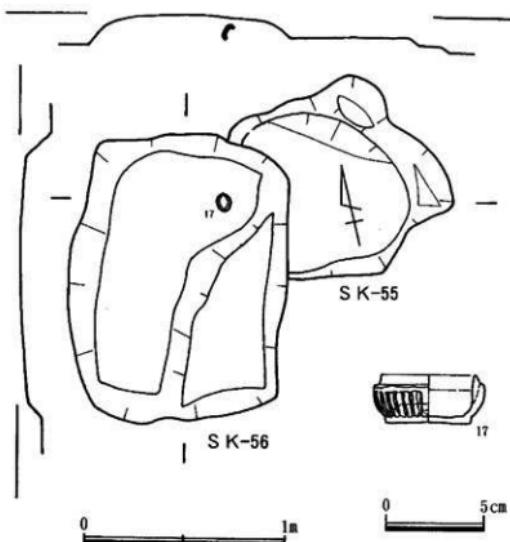
西南部に位置した、長軸1.46m・短軸1.09mの隅丸長方形を呈する土壙墓である。検出面からの深さは7~13cmで、底面は若干の段差があり、最も深い北東部において青白磁の合子の身が傾いた状態で出土した。遺構の上部は40~50cm削失していると推定される。

当該遺構の構築後に、円形土坑55号土坑が掘られているが、無遺物である。又、1.2m程北には、幅0.5~1.5m・深さ12~20cmのくの字状の掘り込み(S Z-01)があり、墓域の区画溝の可能性があると思われるが、さらに西側にも同様の掘り込み(S Z-02・03)があり、機能は不明確である。

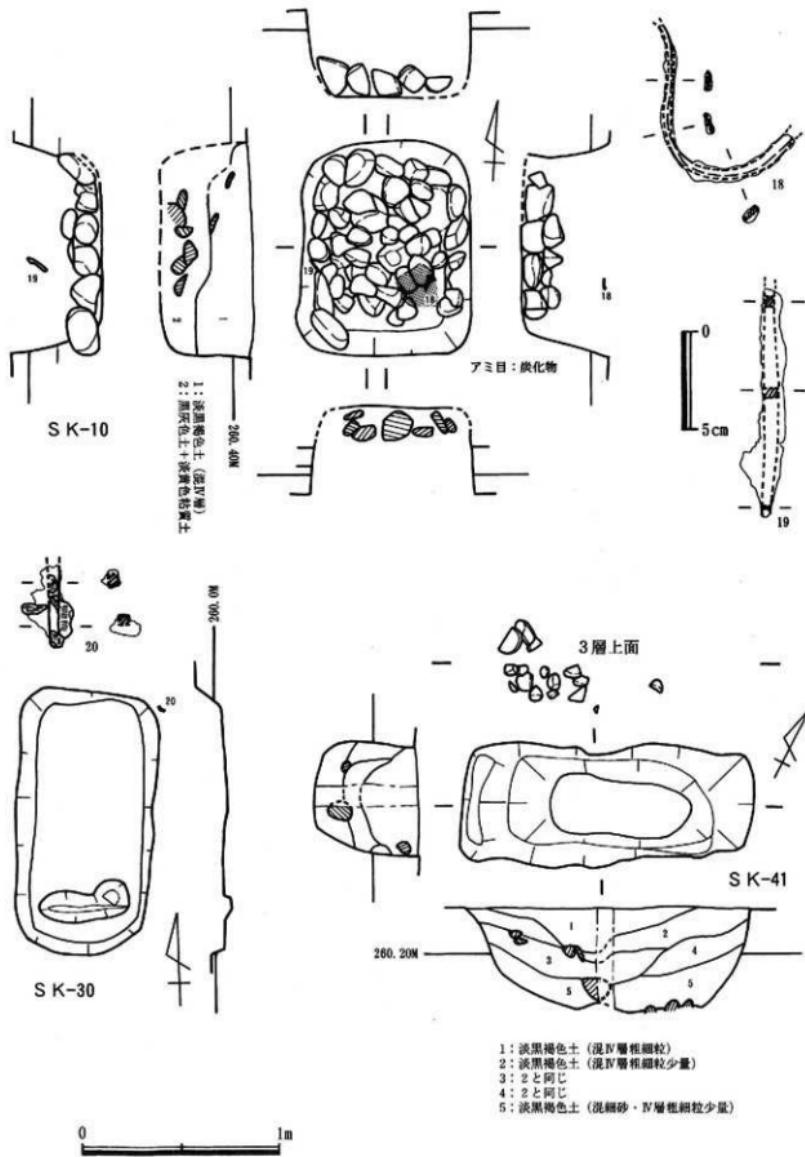
S K-10 (第31図)

中央やや北東寄り、39号建物の東縁に位置する土壙墓である。掘方は長さ1.11m・幅0.85mの隅丸長方形を呈し、深さは45cm内外を測る。

底面の西~北~東壁沿いには拳大~人頭大の円碟が配置され、中には同様の円碟が落ち込んだ状態であった。底面南東部には炭化物片が若干認められた。碟や壁面の被熱痕跡は明瞭ではないが、火葬墓



第30図 S K-55・56 遺構実測図



第31図 SK-10・30・41 遺構実測図

であると思われる。副葬品は、用途不明の鉄製品が2点ある。東南部の上面においては、幅9mm前後の板状の素材と壺錠の様に整形したもの(18)が、南西壁付近においては、鉄製品の柄部のようなものが落ち込んだような状態で出土した(19)。

S K-30 (第31図)

26号建物の西に位置した、長さ1.35m・最大幅0.9mの隅丸長方形～椭円形を呈する土壙墓である。残存する深さは7～14cmで、南辺には幅15cm内外・深さ4～5cmの溝状の掘り込みがある。副葬品は出土しなかったが、北東部において鉄釘を1点検出し(20)、2段掘りの木棺墓が想定される。

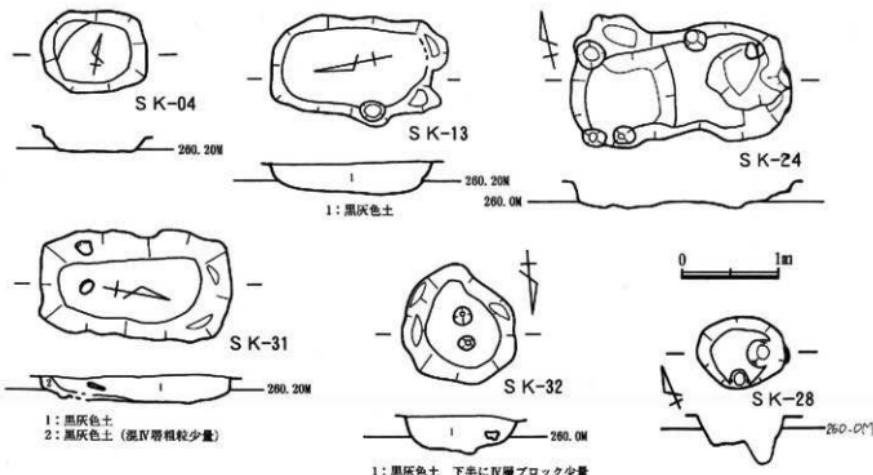
S K-41 (第31図)

北端付近、31号建物の北桁と並行した、長さ1.47m・幅0.49～0.62mの隅丸長方形を呈する土壙墓である。掘方は円みをもち、深さは53cmを測る。木棺の痕跡は無く、3層上面に若干の小礫が認められたことから、木蓋土壙墓であると推定される。副葬品は無いが、31号建物前後の時期の構築と思われる。

S K-28 (第32図)

30号土坑の北1.5mに位置した、長径46cm・短径36cmの椭円形を呈し、深さ23～26cmを測る。覆土から、青磁碗の口縁部片1点と銅鏡片1点(鏡化により鏡貨名は不詳)が出土した。

このほか、成人墓と推定されるもの(S K-13・24・31)や未成人墓と推定されるもの(S K-04・32)ほか円形土坑約50基)が検出された。

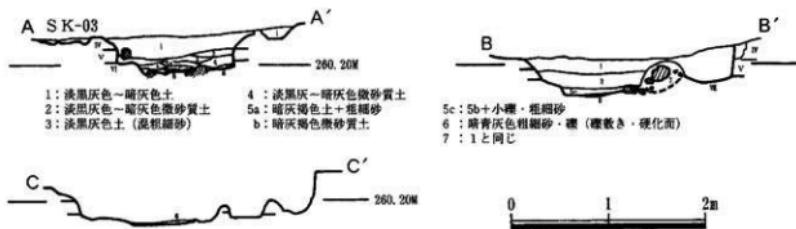


第32図 S K-04・13・24・28・31・32 遺構実測図

近世

調査区の北東沿いにおいて、側溝（S D-02）を伴う道路跡（S R-01）を検出した。機械掘削の際に南端部は削平したが、東端の未調査地でも継続しており、高位面へと延びることを確認している。調査した部分は50m程で、遺存する幅は1~2.5m、南東部15m程の底面には小疊が敷かれ、堅固な道路面になっていた。他の底面は畠層（疊層）内であり、若干の硬化が認められた。南端から10~25m程の南縁には初期の側溝の痕跡があり、中央やや北側には、初期と2次の側溝がみられる（断面C-C'）。北側15m程は、初期の側溝が消失している。02号溝は2次の側溝とみられ、幅1m前後・深さ5~10cmを測る。2次の旧状を復元すると、側溝も含めた掘方の幅は4m位になる。

出土遺物は少ないが最新の遺物は19世紀前半の白磁片であり、この頃に構築・使用された道路跡と推定される。



第33図 S R-01 断面図

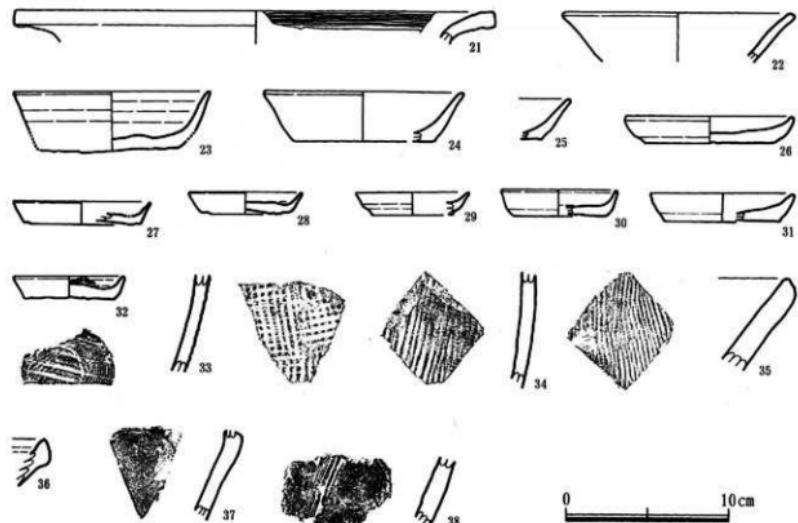
出土遺物（第34~36図）

良好な遺物包含層も形成されず、旧生活面も殆ど削除していることから出土遺物は少なく、小片が多くあった。縄文～弥生期の地層は断続的に若干認められたが、遺物は打製石器1点（64）のみである。

古代、04号溝が掘削されてから徐々に定住化し、土師器や黒色土器・須恵器が若干出土する。04号溝では埋没時の祭祀として完形品や破片が出土している。

中世の遺物は13~15世紀代が多く、土師質土器の皿（糸切り底）や灯明皿（32）・鉢（35~37）、白磁の口禿げ皿（39）、青磁の割花文碗（49）・鎌蓮弁文碗（41~43・46）が目立つ。青花も若干（55~57）出土しており、中世末まで集落が営まれたようである。

近世初頭は断絶し、18世紀頃から耕作地として開拓されていくと想定される。

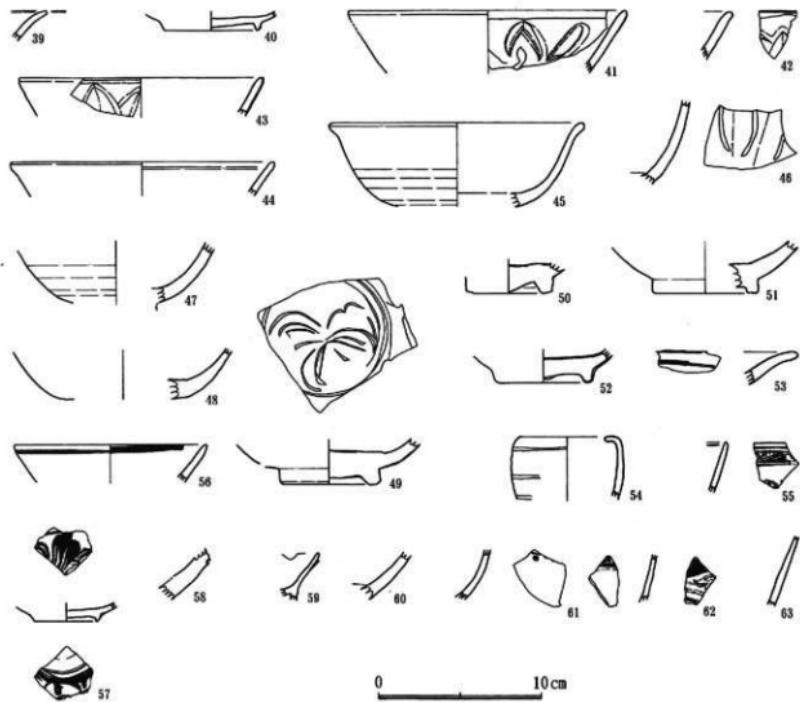


第34図 調査区出土遺物実測図（1） 土師器・土師質土器・須恵器・中世窯産陶器

21: 417, 22: 58-01, 23: 825, 24: 1090, 25・34: SA-01, 26: 1293, 28: SD-04, 29: 1014, 30: 691,
31: 4553, 32: 827, 27: 816号, 33: 815号, 35-38: 8-8号, 36-37: 8号

表1 出土遺物観察表（1） 土師器・土師質土器

No.	出土地	種類	器種	法量 (mm)		調査		粘土	焼成	色調		備考	
				口径	底径	器高	外 面			外 面	内 面		
第34回 1	SD-04	土 師 器	壺	140	58	48	工具ナデ	ナデー工具ナデ	精良	ややあまい	淡黄褐色～淡青黃	淡青褐色～淡青黃	ハク切り
2	SD-04	土 師 器	壺	132	67	52	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡黃白～褐	淡黃褐色	
3	SD-04	土 師 器	壺	133	65	53	ナデ	ナデ	良	あまい	淡桃～淡青白	淡青黃～淡青白	
4	SD-04	土 師 器	壺	118～ 126	59	59	ナデ	ナデ	良	淡黃白～淡褐	黃褐色～暗褐褐色		
5	SD-04	土 師 器	鉢	104	55	65	ハマナカナデ	ミガキ	茶褐色粒少量	良	淡青白～淡褐褐色	淡青褐色～淡灰褐色	
6	SD-04	土 師 器	壺	—	65	—	工具ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡黃褐色～淡黃	淡黃褐色	
7	SD-04	黒 色 土 器	壺	139	—	—	ナデ	ミガキ	良	淡青褐色～灰	黑褐色		背面: 黑
8	SD-04	黒 色 土 器	壺	153	—	—	ナデ	ミガキ	良	ややあまい	淡黃白～暗灰褐色	黑褐色	
9	SD-04	黒 色 土 器	壺	148	—	—	ナデ	ミガキ	良	淡青褐色	黑褐色		
第34回 11	SK-06	土 師 器	壺	151	70	67	ナデ	ナデ	茶褐色粒少量	ややあまい	淡茶褐色～淡青	暗褐色～淡褐褐色	
12	SK-06	土 師 器	壺	137	—	—	ナデ	ナデ	良(粗)	ややあまい	淡黃褐色～淡黃	淡褐色～淡桃黃	
13	SK-06	土 師 器	壺	136	—	—	ナデ	ナデ	良(粗)	良(粗)	淡茶褐色～灰	褐色	
14	SK-06	土 師 器	壺	268	—	—	ナデ	ハケ	粗砂粒や多い	ややあまい	淡茶褐色～灰	淡褐褐色	
第34回 21 (417)	土 師 器	壺	295	—	—	ハケーナデ	ハケ	微細砂多量	ややあまい	淡茶褐色	淡褐色～黃褐色		
22	S R -01	土師質土器	壺	143	—	—	—	—	良(粗)	ややあまい	淡青褐色	淡青褐色	マツツ
23	(825)	土師質土器	壺	120	86	38	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡褐褐色～淡黃褐色	淡黃褐色	糸切り
24	(1090)	土師質土器	壺	124	89	31	ナデ	—	精良	あまい	淡黃褐色	淡黃褐色	糸切り
25	S A -01	土師質土器	壺	—	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	褐色～淡棕褐色	淡褐色	糸切り
26	(1293)	土師質土器	壺	104	81	17	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡褐色	淡褐色	糸切り
27	8 b 剛	土師質土器	壺	84	73	14	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黃白～淡灰褐色	淡黃白	糸切り、内面: ブラック
28	SD-04内核穴	土師質土器	壺	71	44	14	ナデ	ナデ	良	良	褐色	淡褐色	糸切り
29	(1014)	土 師 器	壺	70	51	14	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡茶褐色～淡青褐色	淡灰褐色～淡青褐色	糸切り
30	(691)	土師質土器	壺	72	58	16	ナデ	ナデ	精良	淡黃褐色	淡黃褐色	糸切り	
31	(1253)	土師質土器	壺	88	71	18	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	茶褐色～淡褐	茶褐色～淡褐	糸切り
32	(827)	土師質土器	明 顯	69	56	15	ナデ	ナデ	精良	淡青褐色	淡青褐色	淡青褐色	糸切り



第35図 調査区出土遺物実測図（2）輸入陶磁器・近世国産陶磁器

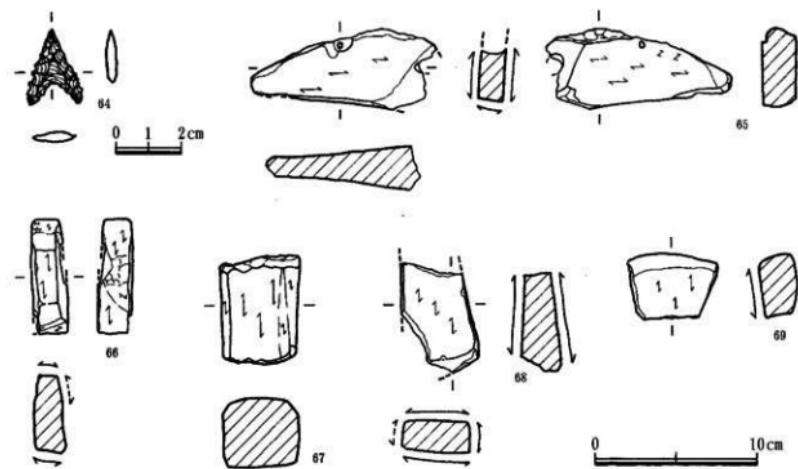
41: 1288, 42: SD-01, 44: SK-28, 45: 700, 46: 900, 50: SD-04, 51: 1352, 54~56, 59~61, 63: SR-01, 39~40, 43, 45~53, 57~58, 62: II-Ⅲ層, 47: Ⅲ層, 52: Ⅱ層, 49: 勝土, 55: 砂土.

表2 出土遺物観察表（2）須恵器・土師質土器・中世国産陶器

No	出土地	種類	器種	法量 (cm)	調 整		胎 土	焼 成	色 漆		備考	
					外 面	内 面			外 面	内 面		
第34図 33	Ⅲ層	須 恵 器	盤	—	—	—	平行タキ	タキ→すり洗し	粗面少	良好	暗緑褐	暗灰
34	S A-01	須 恵 器	盤	—	—	—	平行タキ	平行タキ	良	堅焼	暗茶褐	自然
35	II-Ⅲ層	土師質土器	鉢	—	—	—	工具ナデ	丁寧ナデ	良	良	淡黄白-褐	淡黃褐
36	Ⅲ層	土師質土器	鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	細砂少	ややあまい	淡青褐-褐色	淡青褐
37	Ⅲ層	土師質土器	鉢	—	—	—	ハケ	—	良	良	淡青白	淡灰
38	II-Ⅲ層	傳 前 業	鉢鉢	—	—	—	工具ナデ	—	粗面少	良好	淡青褐	灰褐-淡褐

表3 出土遺物観察表（3）土製品

No	出土地	種類	器種	調 整		胎 土	焼 成	色 漆		備考	
				外 面	内 面			外 面	内 面		
第35図 15	SK-06	土 製 品	布底土器	—	—	布目	粗面クサリ繊多	ややあまい	淡青褐	桃褐	外皮: マメツ
16	SK-06	土 製 品	布底土器	粗ナデ	—	布目	粗面クサリ繊少	ややあまい	淡褐	淡褐	



第36図 調査区出土遺物実測図（3） 石器・石製器 64: SD-02, 65: SD-04, 66-67: SR-01, 68: SD-05, 69: SD-05

表4 出土遺物観察表（4） 輸入陶磁器・国産陶磁器

No.	出土地	種類	器種	法量 (mm)			調整・枚組	蓋 紋	底色	調		産地	年代・備考	
				口径	底径	器高				外 面	内 面			
第30回 17	S K-56	青白	罐	合子身	48	42	25	—	口縁部 外底	淡黄白	淡青白-淡綠白	中国	12~13 C	
第35回 39	II-Ⅱ層	白	罐	直	—	—	口壳形	口縫内部	白	透明	透明	中国	13~14 C 後	
40	II-Ⅱ層	白	罐	直	—	58	—	蓋付型 高台内面	白	乳白	乳白	中国	12~14 C	
41	G1288	青	罐	碗	171	—	—	錐面弁文	—	灰~暗灰	オリーブ	龍泉窯	13 C 後~14 C 中	
42	II-Ⅱ層	青	罐	碗	—	—	—	錐面弁文	—	淡灰白	淡オリーブ	龍泉窯	13 C 後~14 C 中	
43	II-Ⅱ層	青	罐	碗	150	—	—	錐面弁文	—	淡灰	淡オリーブ	龍泉窯	13 C 後~14 C 中	
44	S K-28	青	罐	碗	162	—	—	—	—	淡灰褐	オリーブ灰	龍泉窯	13~14 C	
45	II-Ⅱ層	青	罐	碗	156	—	—	—	—	淡灰~灰	淡オリーブ	龍泉窯	13 C 後~14 C	
46	7000	青	罐	碗	—	—	—	錐面弁文	—	淡青白	淡オリーブ	龍泉窯	13 C 後~14 C 中	
47	Ⅱ層	青	罐	碗	—	—	—	—	—	灰	オリーブ灰	龍泉窯	15~16 C	
48	9000	青	罐	碗	—	—	—	—	—	灰褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15~16 C
49	拂土	青	罐	碗	—	62	—	刻花文 一外底	蓋付型 一外底	灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	12~13 C
50	S D-04	青	罐	碗	—	53	—	—	外底	淡灰-淡灰褐	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	15~16 C
51	G1352	青	罐	碗	—	64	—	—	外底	淡褐	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	15~16 C
52	II層	青	罐	碗	—	60	—	外底: 植物形	外底	淡灰	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	15~16 C
53	II-Ⅱ層	青	花型組	—	—	—	—	—	—	淡灰褐	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15~16 C
54	S R-01	青	罐	香炉	46	—	—	—	—	乳白	淡オリーブ	淡オリーブ	中国	16 C 後~17 C 初
55	S R-01	青	花	碗	—	—	—	—	—	白	透明	透明	景德鎮	15 C 後~16 C 中
56	S R-01	青	花	直	118	—	—	—	—	白	乳白	乳白	景德鎮	15 C 後~16 C
57	II-Ⅱ層	青	花	直	—	39	—	蓋付型 一外底	淡灰白	乳白	乳白	乳白	景德鎮	16 C
58	II-Ⅱ層	褐色陶器	鉢か?	—	—	—	—	—	—	暗黒褐	暗茶褐	暗茶褐	中国	15~16 C
59	S R-01	白	罐	腹型物	—	—	—	—	—	乳白	白	白	肥前	17 C 後~18 C 前
60	S R-01	陶	器	直	—	—	—	—	—	淡灰白-淡灰	淡青白-淡綠白	淡綠青	肥前	17 C 後内野山?
61	E-Ⅱ層	陶	付	碗	—	—	—	—	—	白	乳白	乳白	肥前	18 C 代
62	II-Ⅱ層	陶	付	蝶反碗	—	—	—	—	—	淡褐	乳白-淡褐	乳白-淡褐	肥前系	1820~1860 年代
63	S R-01	白	罐	盤口型	—	—	—	—	—	淡灰白	透明	透明	波佐川	19 C 前

表5 出土遺物観察表(5) 金属製品

No.	出土地	器種	法量(cm)			重さ g	材質	備考
			長さ	幅	厚さ			
第8号 第31号 18	S D-04	重衡器?	29	50	1	—	青銅	
	S K-10	用途不明鉄製品	(79)	(11)	(2)	—	鉄	刃部無し
19	S K-10	用途不明鉄製品	(117)	(5~8)	(5)	—	鉄	
20	S K-30	鉄釘	(42)	(5)	(7)	—	鉄	

表6 出土遺物観察表(6) 石器・石製品

No.	出土地	器種	法量(cm)			重さ g	石材	備考
			長さ	幅	厚さ			
第36号 64	S D-02	石鎚	23	17	3	—	黒曜石	
65	S D-04	砾石	49	(113)	12~27	130	泥岩(硬質)	B面に擦り切り痕
66	S R-01	砾石	71	23	47	97	粘板岩	
67	S R-01	砾石	68	50	43	268	砂岩	全面使用
68	(529)	砾石	(68)	46	17~24	91	砂岩	
69	S D-05	砾石?	41	56	23	96	砂岩	

第4節 小結

まとめとして、掘立柱建物跡の主軸方向が大きく6方向に分かれることに着目し、土壙墓や堅穴状遺構・溝状遺構も同じ方向のものに分類できると仮定し、古代の04号溝の方向に近い主軸の建物群が古く、青白磁を伴う土壙墓の主軸方位と同一の建物群が12~13世紀、近世の01号道路の方向に近い建物群が最も新しいことを考慮すると、集落内の建物群の主軸方位は、北北東(Ⅱ期)からさらに北寄り(Ⅲ期)、北(Ⅳ期)、やや西寄り(Ⅴ期)、西北西(Ⅵ期)、北西寄り(Ⅶ期)へとスムーズに変遷する。以下、遺跡の変遷過程を追ってみる(第37図)。

先Ⅰ期

北田遺跡に最初に足跡が印された時期で、縄文時代後期か弥生時代後期の陥穴1基(60号土坑)が構築された。旧地形では若干の凹地となった所で、南の谷へ降りる獸道が存在した場所に構築されたと推定される。

I期

9世紀後半~10世紀前半、幅2~3m・深さ50cm前後の箱掘り掘削による村境的な空堀(04号溝)が出現する。南西端の先には深い谷があり、道路であれば橋を架けたであろうし、空堀兼排水であれば谷と直結していると推定される。北西端は第4章で述べる田之上城跡で検出した14号溝と繋がることが明瞭である。

04号溝と同時期の遺構は、土器片廃棄坑(06号土坑)1基は確実であろう。04号溝と同一主軸方位の掘立柱建物跡は無いが、埋没するまでにはⅡ期の建物が建てられたと推測する。

Ⅱ期

調査地の南東部、旧地形では凹部に散在する建物5軒がある。06~08号建物は柱穴の並びが歪であり、07・08・40号建物の柱間寸法は2~2.3mを測り他時期の柱間よりも長いことが特徴である。

なお、I期の06号土坑は07号建物に帰属するかもしれない。

Ⅲ期

主軸方位を南北にとる28・51・46号建物と、東西にとる71・70・15・14・06・04・03号建物の2小期に分けられ、さらに後者は2期に分けられると思われる。建物は、主としてⅡ期と継続した凹部(黒灰色土部)に立地する。13・56号土坑といった墓も営まれる。

Ⅳ期

旧地形の凹凸面を整地し、遺跡全体に建物が建つ時期である。Ⅲ期と同様、主軸方位によって大きく2小期に細分され、さらに東西方向の建物は細分される。建物群は、21~24号、29・30号、44・10号、69号といった廂を有する建物を核として群在しているようである。

V期

IV期よりも若干西向きの建物群で、IV期の空地部に26・73・35・63号といった廂を有する建物が占地する。建物の主軸方位では分かれないとかもしれないが、建物の重複から、2小期以上に細分されそうである。コの字型に並ぶ26・27号建物は、一単位の家屋として考えられる。

VI期

V期の建物と一部混在するかもしれないが、遺跡の中央部に細長くまとまる時期であり、05号溝によって村境的な表示もした可能性がある。

建物の重複、近接状況から、2~3小期に分けられる。

VII期

建物群は北東側に片寄り、位置関係から2小期に分けられる。

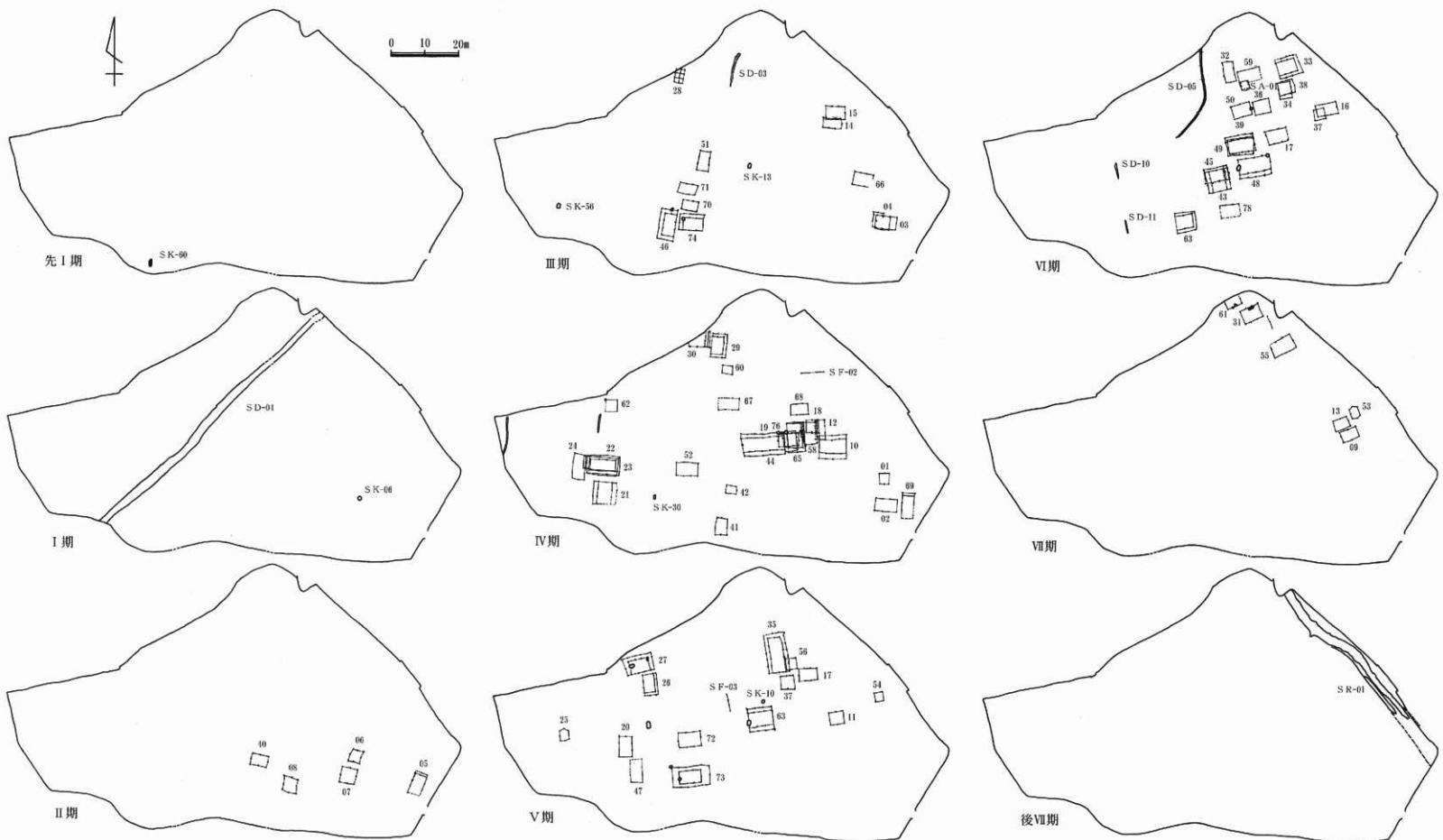
当該期は、出土遺物から、16世紀後半頃と推定される。

後VII期

集落は没落し、埋没して荒地となった。近世後半になると南の一段高い段丘から側溝を有する道路が構築され、幕末頃まで使用されたと思われる。

以上、建物群と主要土塙墓・溝状遺構については、ある程度の区分が可能であるが、遺物を含まない50基余の円形土坑の所属は不明である。遺構は13~15世紀代のものが多いと思われ、本市の他の遺跡においても小児~若年の円形土坑墓や上級クラスの成人墓（長方形~楕円形）を集落内に埋葬する風習があったようである。

北東部の柱穴の底面は疊層内に達しているものが多く、根石を必要としないので、IV層の起伏の高い部分に集中する傾向がある。



第37図 北田遺跡主要遺構変遷想定図 2桁番号はSB

表7 掘立柱建物跡 一覧表(1)

S B	渠 行		柵 行		面 積 (m ²)	席	席を含む 面積(m ²)	主軸方位	備 考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
01	2	2.68~2.90	1	3.04~3.15	8.6	—	—	N2°W	
02	1	3.54~3.64	3	6.20	22.3	—	—	N86°W	
03	2	3.76~3.84	3	5.84~5.90	22.5	北~西面	31.3	N84°W	
04	1	3.82	2	4.20~4.26	16.2	—	—	N80°W	
05	2	3.66	3	5.88	21.5	北面	24.2	N22°E	
06	2	3.18~3.34	2	3.61~3.67	11.7	—	—	N18°E	
07	2	4.32~4.41	2	4.16~4.60	20.1	—	—	N12°E	
08	2	4.07~4.10	2	4.10~4.24	17.4	—	—	N14°E	
09	1	3.13	2	4.93	15.4	—	—	N80°E	
10	2	3.97~4.04	4	7.78~7.90	31.8	北・南面	52.3	N89°E	
11	1	3.56~3.63	2	4.10	14.7	—	—	N81°E	
12	1	2.86~2.94	3	5.57~5.82	16.0	—	—	N3°W	
13	2	3.06~3.16	2	4.17~4.57	14.0	—	—	N70°E	
14	2	3.04	3	5.06~5.16	15.7	—	—	N86°W	
15	2	3.85~3.94	3	5.52	21.5	—	—	N87°W	
16	2	3.45~3.58	3	5.98~6.04	21.1	—	—	N79°E	
17	2	3.28~3.56	3	5.30~5.47	18.9	—	—	N88°E	
18	2	3.70~4.0	3	6.40	24.5	—	—	N2°W	
19	2	3.66~4.04	3	5.60~5.70	22.3	—	—	N4°W	
20	2	3.72~3.80	3	5.86~6.0	22.3	—	—	N2°W	
21	1	4.02	3	6.52	27.1	西・東面	42.2	N5°E	
22	1	3.26~3.45	3	7.35~7.38	24.7	4面	59.6	N88°W	
23	2	3.85~3.90	3	8.34~8.41	32.4	西・南面	47.7	N86°W	
24	2	3.45~3.56	4	7.38~7.64	26.3	—	—	N5°E	
25	1	2.50~2.63	2	2.55~2.88	7.7	—	—	N4°W	
26	1	3.06~3.10	3	5.15~5.40	16.2	東~南面	24.4	N5°W	
27	2	3.80~3.92	3	5.75~5.78	22.2	西~北~東面	42.4	N77°E	
28	2	2.50	3	4.15	10.4	—	—	N9°E	
29	2	3.34~3.38	3	5.16~5.20	17.4	北~東~南面	30.1	N5°E	
30	2	4.38	4か	3.2以上	—	東面	—	N5°E	
31	2	3.96~4.0	3	5.60	22.3	—	—	N65°E	
32	2	3.16~3.24	3	5.65~5.92	18.4	—	—	N8°W	
33	1	3.86~3.94	3	5.36~5.50	21.1	北~東~南面	38.3	N72°E	
34	1	3.65	3	4.75~4.86	17.5	—	—	N11°W	
35	2	3.53~3.93	5	10.40	39.8	西~北~東面	78.3	N8°W	
36	2	3.97~4.17	2	4.58~4.72	19.5	—	—	N78°E	
37	2	3.70~3.78	1	3.90~3.94	14.7	—	—	N3°W	
38	2	3.78~3.92	3	4.54~4.72	18.7	—	—	N75°E	
39	2	4.15	4	7.50~7.81	32.8	—	—	N82°E	
40	2	3.30	2	4.75	15.8	—	—	N77°W	
41	2	3.02~3.37	3	4.78~5.23	16.3	—	—	N3°E	
42	2	2.23~2.30	2	2.84~3.06	7.0	—	—	N84°W	
43	2	4.17	3	6.20~6.44	26.4	西・東面	41.8	N12°W	
44	2	4.18~4.28	6	12.17~12.62	51.4	北・南面	78.7	N86°E	
45	2	4.20~4.28	3	5.86~6.18	25.6	東面	29.4	N79°E	
46	2	3.42~3.53	3	6.34	22.0	北~西~南面	41.8	N9°E	
47	2	3.36~	3	5.5以上	—	—	—	N2°W	
48	2	4.08~4.34	4	9.2~9.33	39.0	南面	51.2	N82°E	
49	2	4.16~4.74	4	7.48~8.35	35.0	北・南面	54.8	N80°E	
50	1	3.95	2	5.36~5.65	21.7	—	—	N26°E	
51	1	2.93~3.29	3	5.77	17.9	—	—	N12°E	
52	2	4.28~4.35	3	6.38~6.50	27.7	—	—	N84°E	柱

表8 挖立柱建物跡 一覧表(2)

S B	梁 行		桁 行		面 積 (m ²)	幅	面積を含む 面積(m ²)	主軸方位	備 考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
53	1	2.45	2	2.65	6.5	—	7.8	N19°W	権持柱
54	1	2.40~2.46	1	2.56~2.70	6.4	—	—	N10°W	
55	2	4.30	3	6.7~7.0	30.1	—	—	N62°E	
56	1	3.06~3.11	1	3.24	10.0	—	—	N7°W	
57	1	3.06~3.20	1	3.16~3.22	10.0	—	—	N14°W	
58	2	3.62~3.70	2	3.68~3.98	14.0	—	—	N3°W	
59	1	4.13~4.62	3	6.28~6.63	28.0	—	—	N76°E	
60	1	2.31~2.64	1	2.80~3.05	7.1	—	—	N85°W	
61	2か	2.6以上	2	4.52	—	—	—	N67°E	
62	1	3.28~3.38	1	3.33~3.44	11.3	—	—	N5°E	
63	2	3.85~4.0	3	7.23	28.3	北・南面	48.8	N81°E	
64	2	3.97~4.25	3	7.10~7.30	29.3	—	—	N3°W	
65	2	4.65~4.88	4	8.55~8.60	40.8	—	—	N3°W	
66	1	3.84	3	5.54	21.3	—	—	N79°W	
67	1	3.32	3	5.88	19.5	—	—	N90°E	
68	1	3.16~3.19	3	4.85~5.13	16.2	—	—	N88°E	
69	2	3.40	3	6.59	22.4	北面	25.1	N3°E	
70	1	2.79~2.83	3	4.60~4.75	13.1	—	—	N81°W	
71	1	2.96~3.06	3	5.18~5.28	15.9	—	—	N80°W	
72	1	3.81~3.86	3	6.18~6.33	24.0	—	—	N88°W	
73	1	3.59~3.71	3	6.26~6.40	23.1	4面	75.6	N84°E	
74	2	3.45~3.58	3	5.67~5.86	20.2	北~西面	31.7	N87°W	
75	1	3.93~4.10	2	4.71~4.90	19.3	北~東~南面	32.0	N78°E	
76	2	3.84	3	5.92	22.7	—	—	N86°E	
77	1	4.0~4.22	3	5.90~6.30	25.1	—	—	N78°E	
78	1	3.66	3	5.57	20.4	—	—	N82°E	

第4章 田之上城跡

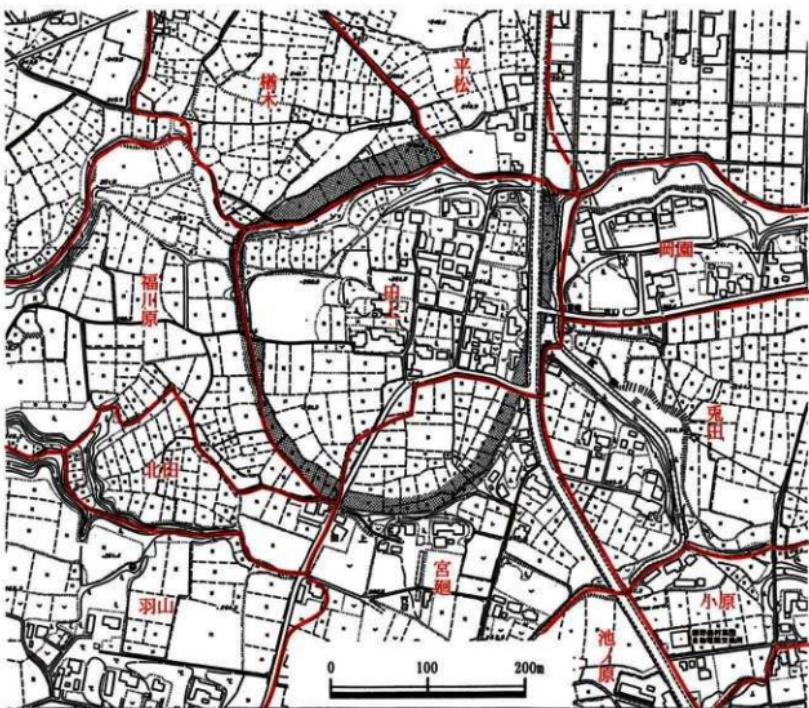
第1節 はじめに

北田遺跡と60m隔てて、田之上城跡が立地する。地形図（1/2500、第38図）を見ても、見かけ上の外堀が読み取れる。田之上城跡は、大字前田字橋木の南縁と、大字上江字田上、字宮廻の北端に位置する。

「田之上城跡」は、『相良文書』の島津道鑑貞久が相良兵庫助（定頼）に出した書状に「馳越日向國真幸院、追落畠山修理亮直顎代官後藤新左衛門尉井和田又次郎等、橋籠田上城、取誘同院稻荷城、……恐々謹言」とあり、唯一の出典である。島津貞久が1366年に没していることや当時の歴史的状況から1360年代に田之上城が攻め落とされた可能性が強いようである。

第2節 縄張り

山城の調査としては、第1に縄張り図を作成することであるが、当該山城は比高10mの高低差の



第38図 田之上城跡およびその周辺地形図（1：5,000） 赤色は字界・字名

少ない水田と宅地から成るために郭の境も不明であることから、耕地課から提供された1/1,000地形図を基に現況を説明する（第39図）。

山城の北面と南面は低位段丘の地形に沿い、東西250～300m・南北280～330mのD字型を呈する郭に外堀が環る。西北部I地点と東北部D地点は流路による自然の谷を利用した可能性があり、南東部H～F地点は段丘崖を利用していている。北東部L地点と南東部G地点は若干高いため、陸橋になっている可能性もある。E地点は、県道と宅地によって外堀の有無が推定できない。C地点には幅2m程の生活道路が切り通しになっているが、後世の開削だと思われる。J地点には高さ80cm程の畦畔があり、外堀の肩として遺存しているようである。

郭の中央付近A地点には、幅6.3～10m・高さ0.6m前後の土壘状の高まりがある。その北側B地点には、約40年前まで、長さ25～30m・幅約1.5m・高さ約1.5mの土壘があつたらしい（地権者からの聞き取り）。これ以外には顯著な構造物は無い。K地点は、以前は多くの水田に分かれており（第38図）、東西の畦畔が堀の肩をほぼ踏襲する。

郭内で最も標高が高い所はM地点の畠地で、261.8mを測り、周囲よりも1.5m余高い。物見櫓が想定される地点である。北西部は段差がつき、Q地点は東の水田よりも1.4m下がる。P・N地点はさらに2.1m下がりO地点に向かって徐々に下る。O地点の標高は256mである。R地点は251.2m前後と低いが、近年、南の斜面が何度も崩落したようで、再三、復旧工事をしたらしく、帶郭かどうかは不明である。

第3節 基本的層序

基本的には北田遺跡に準じ、I層：耕作土、II層：旧耕作土・客土・近世以降の覆土、III層：淡黒灰色土、IV層：アカホヤ火山灰、V層：暗茶褐色硬質火山灰、VI層：黒灰色土、VII層：淡黄褐色微砂質土～粗細砂、VIII層：砂礫層に大別した。段丘の低位面に当たるVII～IX区においては、IV層の2次堆積層や微砂質土が堆積している。

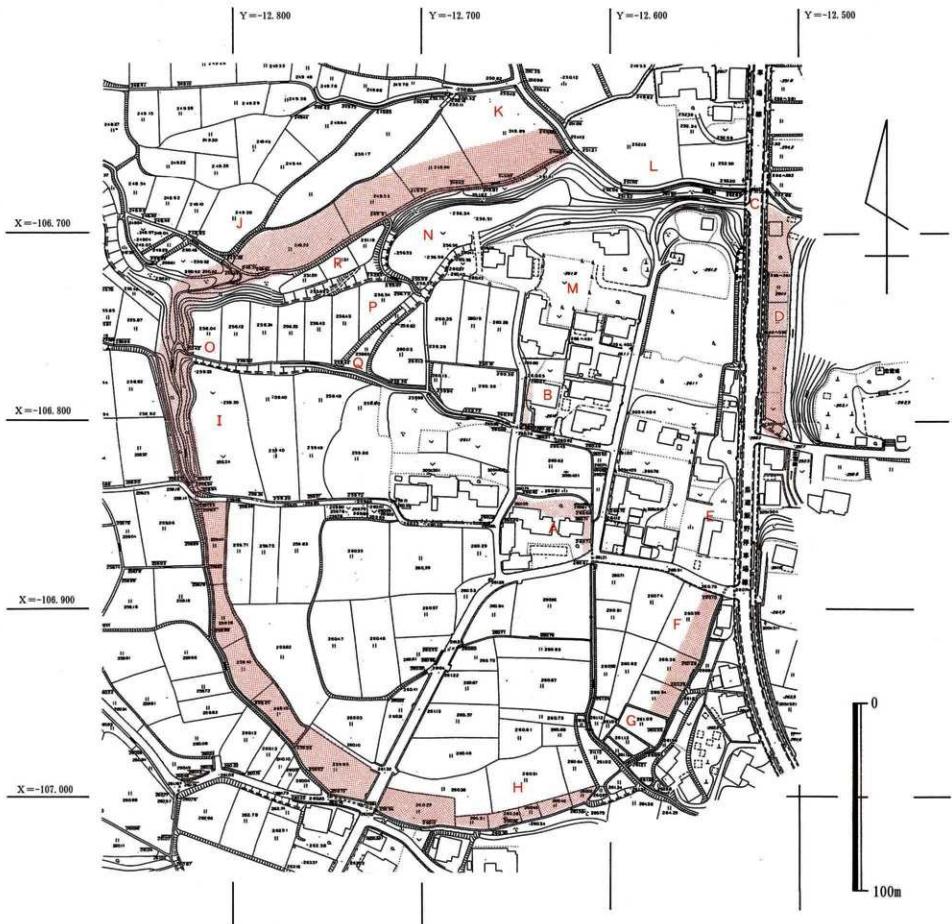
遺構面も北田遺跡と同様、III層とIV層が10～20m前後の幅で縦横に露呈する。

第4節 発掘調査

平成12年度に調査した氾濫原の工事計画道路部分をA区とし、水路部分をB区と仮称する。平成13年度は、南の計画水路部分をI区、計画道路部分は水路を挟んで調査した順にII～IV区とし、残りは農道や段差でVI～IX区と仮称し、順次調査していく（第40図）。なお、I区とII区の間ににおいて6ヶ所の試掘溝を設けて、外堀の有無や掘方の位置の確認調査を実施した。

a. A区の調査（第41図）

氾濫原に位置していることから、III～VI層は流失している。遺構面は沖積層の粘性のある微砂質土で、北から約20mまでは表土下50～80cmで露呈したため、このレベルで南まで機械掘削をした。



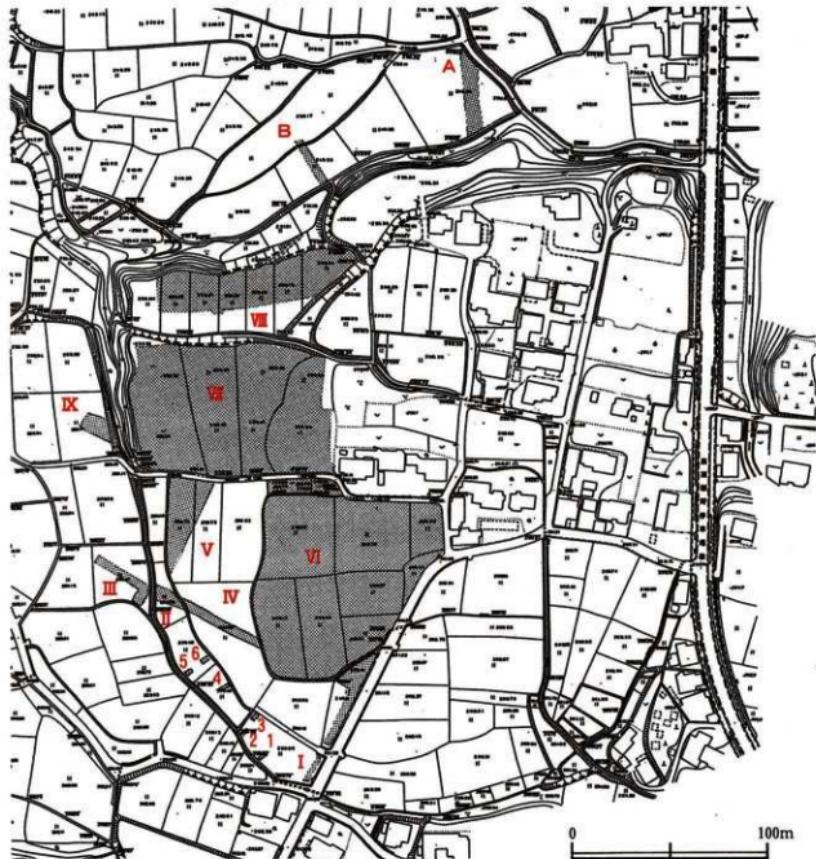
第39図 田之上城跡 現況図 (1 : 2,000) スクリーントーンは見た目の外観

その後、作業員による手掘りで遺構（外堀）を掘り上げた。

結果的には外堀のみの検出となった。ただし北側掘方から0.9~2.4mの部分は外堀埋没後の溝状遺構があり、近世の水路の可能性がある。

外堀の底面は極めて緩やかに南へ下降し、凹凸の無い平らな面になっている。遺構面からの深さは50cm程度しかなく、防御にならない。土壌の痕跡は無いが、覆土は南の段丘から流入しているので、掘削土は北側へ盛られて土壌が築かれたと推定される。

覆土は微砂質土を基本とするが、最下層は粘質土であることから、雨水等は溜って若干の水濠になりうる。しかし、腐植土層などは形成されていないので、緩やかながら埋没していった様相を示す土層堆積である。南側は特にクサリ疊碎片が多く、段丘崖の崩落土が混入した要因であろう。



第40図 田之上城跡 地区割図 (1 : 2,500)

南の掘方は検出できなかったが、底面から30度位の傾斜で上がって行き郭に至ると推定すると、堀の幅は約27mを測る。文明ボラの軽石粒は、覆土の最上層～II層に混入することから、15世紀中葉には埋没していることを示す。

出土遺物は極めて少なく、土師器や土師質土器の細片が若干出土している。

b. B区

B区は北側の若干高い水田にも調査区を延ばして設定し、確実な堀の肩の検出にも注意した。

北側の水田基盤土の下はⅦ層もしくは沖積層の砂礫であり、現代畦畔のやや北側に掘方が推定されるが、水田化の際に搅乱されており、位置が確定できない。

北側の底面は掘方から13m南の地点で平らになり、幅1.5m前後の水平部を過ぎると極めて緩やかに南へ上がって行く。底面はシルト～シルト質粘土で、少量の水が滲み出る。南の肩は調査区南端からほどなく25度前後の傾斜で上がって行くと推定され、堀の幅は27m前後を測る。

覆土はA区と大差無いが、クサリ礫碎片は少ない。

出土遺物は少なく、土師器や土師質土器の小片が若干出土している。

堀の幅もA区と殆ど同じであり、A-B間は幅広い浅い堀が環っていたと推定される。外堀の掘削土で北側に土塁を築くとして、底辺を6mにすれば高さは6m位にすると推定され、堀の掘削は浅くても、充分な防衛体制がとれる。

c. I区（第43図）

調査区最南端の、計画水路部分の調査で限られた範囲であったが、外堀（SD-01）の東側の掘方の確定、底面の幅、深さ等を確認できた。

西の掘方は現農道下にあると推定されるが、堀として機能しているのは幅9m、底面の幅4.15mであり、深さは1.0mである。底面には人頭大の礫が多く認められ、Ⅶ層上面からの伏流水がある。

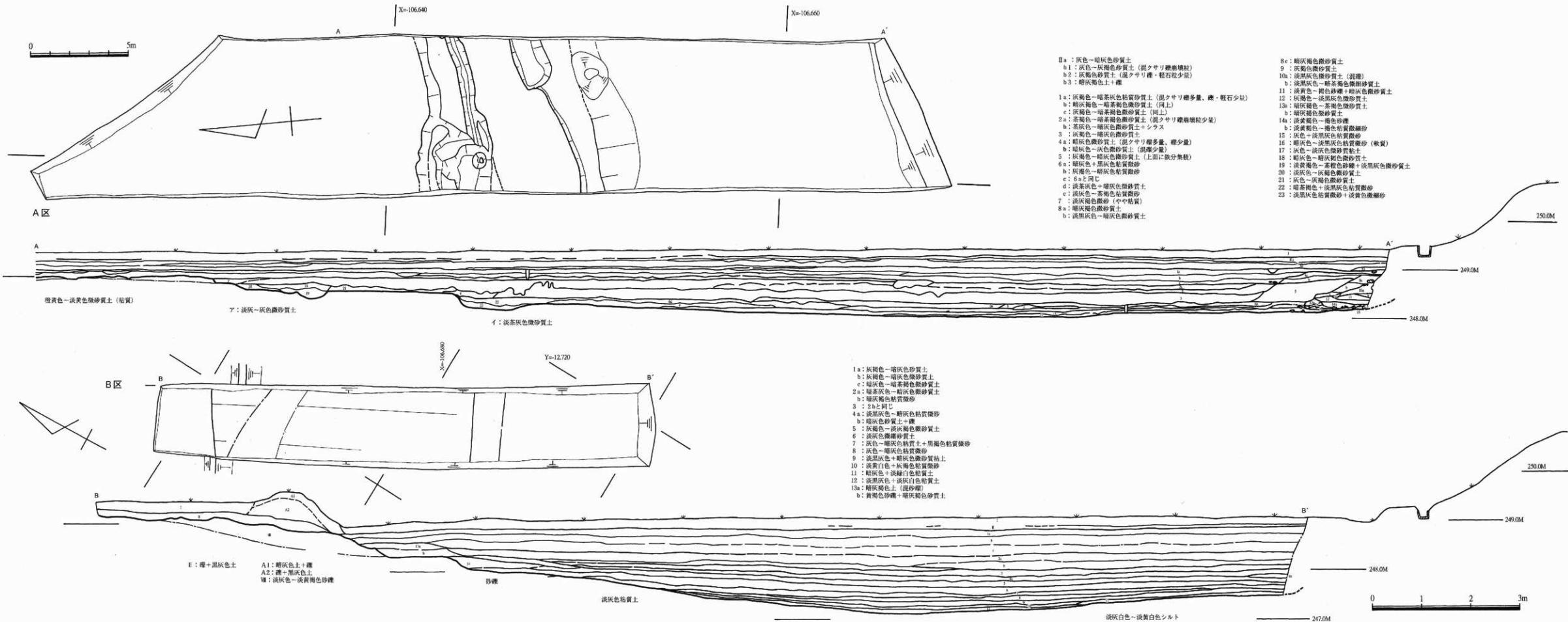
堀の覆土の下半3～5層には、文明8年（1476）降下軽石が含まれておらず、降下以前には埋没して15世紀中頃にはすでに機能していないことが明白である。

掘方壁面のIV層は通常の40cm前後の数値よりも厚く60cmの厚さがあり、当地点は元来、砂礫層の凹部に当たり、伏流水もあることから中世においても若干の凹みがあり、段丘直下に位置する外堀計画ラインとして掘削整備したと推定される。

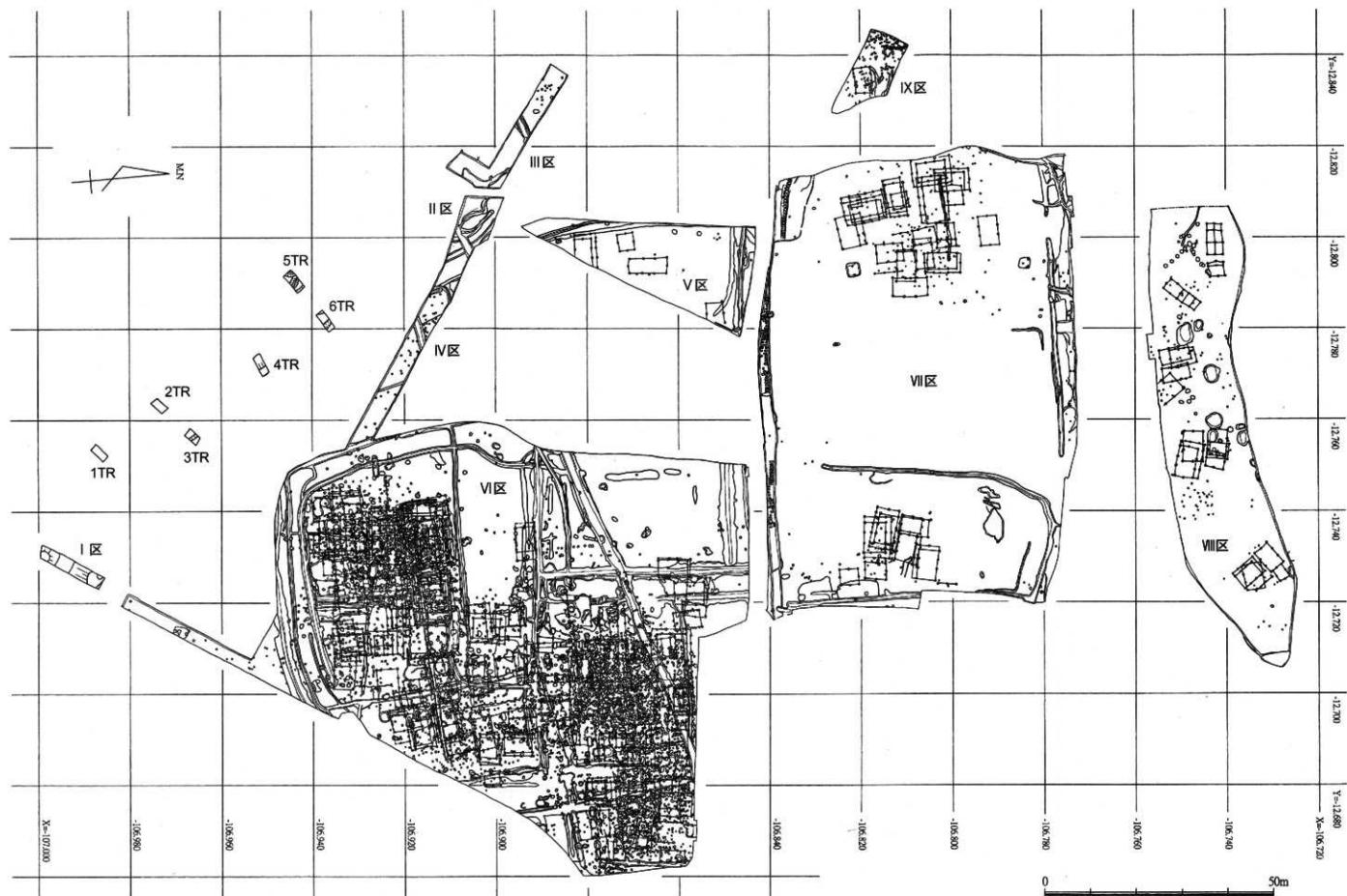
その他、北東端には、幅40cm内外・深さ6cm内外の中世の溝状遺構（SD-02）と長径1.3m以上・短径1.2m以上・深さ12cm前後の中世の土坑（SK-01）を検出した。

d. 第1試掘溝（第44図）

現代の用水路（調査区南東端南方からの湧水）から西へ1.5mあたりで外堀の底面が落ち込む状況を確認した。覆土も同様で、埋没土には軽石粒を含まない。

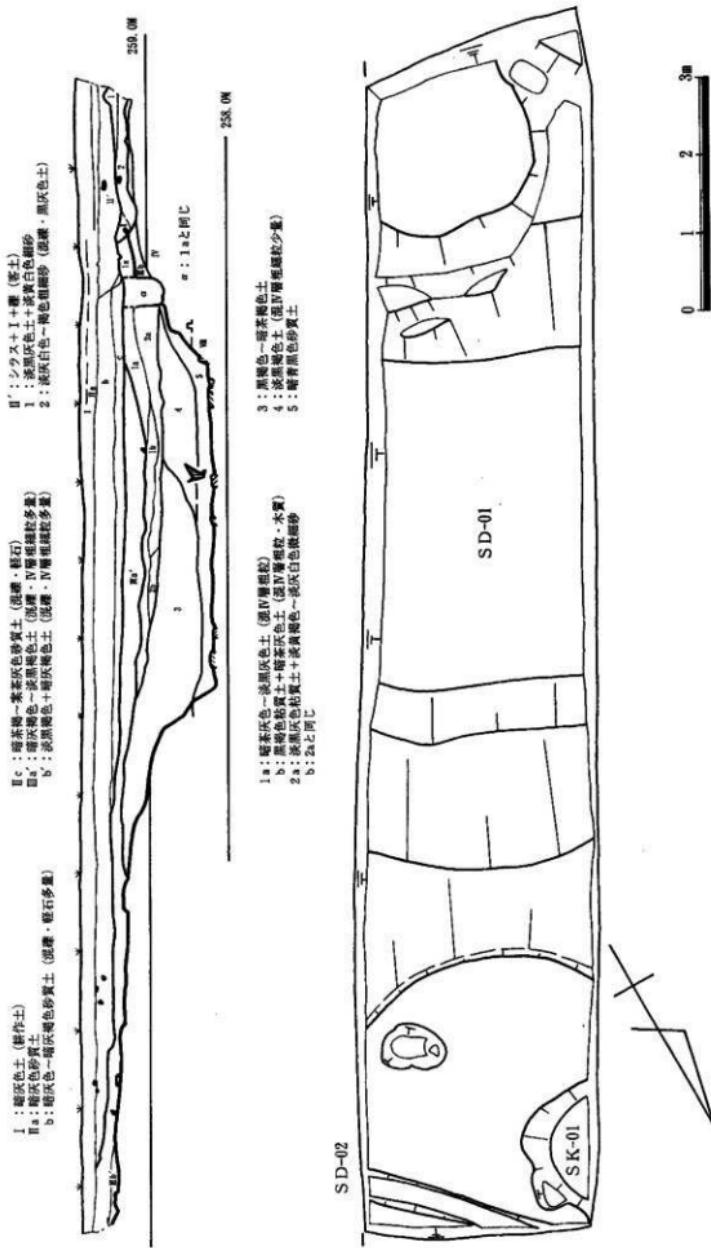


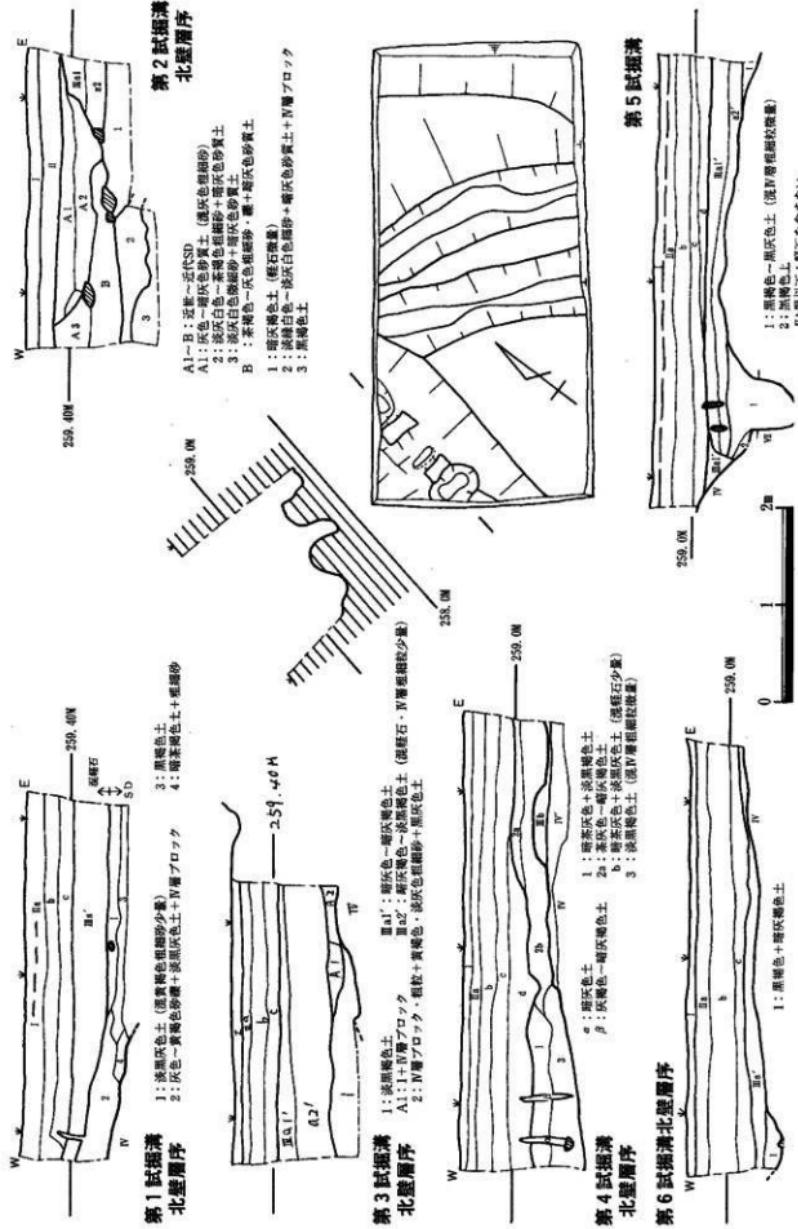
第41図 A・B区 遺構実測図・東壁層序図



第42図 調査区全体図

第43図 I区 遺構実測図・南壁層序図





第44図 第1～4・6試掘溝断面層序図・第5試掘溝遺構実測図

e. 第2試掘溝

近世～近代の杭列を伴う用水路（A～B層）の下に、外堀の覆土を確認した。用水路跡は砂礫を多く含み、相当量の湧水があったと推定される。

f. 第3試掘溝

外堀の底面東側テラスと、段落ちの状況を確認した。

g. 第4試掘溝

外堀の底面東側テラスと、緩やかに下降する底面を確認した。

h. 第5試掘溝

外堀への通路的機能が推定される、底面に波板状凹凸面を有する掘り込みや、幅60cm内外・深さ8cm内外の2条の溝状掘込、東側へ下降する外堀の底面を確認した。覆土には軽石粒を含まず、15世紀前半には埋没している。

i. 第6試掘溝

緩やかに西へ下降する遺構面と、溝状の落ち込みを検出した。外堀は、試掘溝の西側が想定される。

試掘溝の調査によって、現代畦畔は見掛け状の堀の肩であり、外堀深掘部は底面の幅が4m程で見掛け状の堀の西寄りに埋没していることが判明した。

j. II区（第45図）

計画道路の、現代用水路より東側をII区とし、全て手掘りで掘り下げた（B-B'ラインまで）。

外堀のテラス（東側平坦面から-10~-40cm、SD-01）と、外堀へ下りる階段状掘り込み、溝状遺構（SD-02）、古代の溝状遺構（SD-03）を検出した。

SD-01では褐釉陶器（42）などが出土することから、外堀の最上層が中世末に埋没したことを見示す。SD-02は幅0.7~1.4m・深さ17~32cmを測り、南から北へ流れる。覆土には砂を多く含み、青磁（36）と青花（37）が出土した。

階段状掘り込みの東肩はSD-02と並行し、西南部が幅4m前後に広がって屈曲する。ステップは20×35cm・60×20~33cm・75×30~53cm・82×35~74cmと大きくなり、広い面に繋がる。北半の狭長な部分は、長さ5.85m・幅0.42~1.0m・深さ8~19cmを測る。上から2段目のステップの所で土師質土器皿（16）が出土している。

SD-03は、幅2.1m・深さ43~48cmを測り、西側は外堀縁部掘削によって削られる。東端底面にはⅦ層が現れ、覆土は砂混じり～微砂質土である。西端の延長部は、北田遺跡の04号溝へ繋がる。出土遺物としては牛か馬の歯が中層から出土したのみである。

k. III区

現代用水路の北側の計画道路部分と、南西部に外堀確認の補助試掘溝を加えた。外堀（S D-01）は、調査区の中程で陸橋になり、推定位置よりもかなり南側に位置することが判明した。覆土には軽石粒を含まず、9～10世紀代の土師器を若干含む。底面はⅢ層でⅠ区と同様、Ⅳ層の凹地を利用して掘り込まれた状況である。北東の底面付近では、甕の破片が集積していたが、口縁部と底部が欠損している。北の肩部には、幅70cm前後・深さ22～25cmの溝状遺構が掘られており、Ⅱ区検出のS D-02と繋がると推定される。

北半部では、直径20～43cm・深さ7～45cmの柱穴16基のほか（中世、顯著な並びは無し）、長径1.23m・短径0.65m・深さ34cmの土坑1基を検出した。これらは、外堀埋没後の建物と思われる。

I. IV区

稲刈後、Ⅱ区以南の計画道路部分を調査した。

柱穴は60余検出したが、建物復元には至らない。溝状遺構は、Ⅱ区の02号溝と並行もしくは直交するものを検出した。S D-04は、幅50cm内外・深さ21～30cmを測り、S Z-01へ流れる。S D-05はS D-04と直交し、幅1.85～1.9m・深さ45cm前後を測る。S D-06は、幅30～38cm・深さ12cm前後を測る。

S Z-01は、S D-04と同時期の、長軸7.85m・短軸6.3m以上の大型土坑で、深さ25cm前後を測る。西北部にはさらに幅80cm前後・深さ20cm前後の溝状掘り込みがある。底面はほぼ平らで、柱穴は全て遺構削前の建物に関連する。出土遺物としては、土師質土器のほか、白磁（45・52）や青花（44・47）などがある。

m. V区

Ⅱ区の北側に位置した三角形の調査区で、掘立柱建物跡4棟と、土壙墓3基、溝状遺構4条を検出した。

S B-01（第46図）

調査区のはば中央に位置した、梁行2間（3.15～3.50m）・桁行3間（8.18～8.28m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径23～36cm・深さ24～47cmを測る。主軸方位は、N 1°Eである。

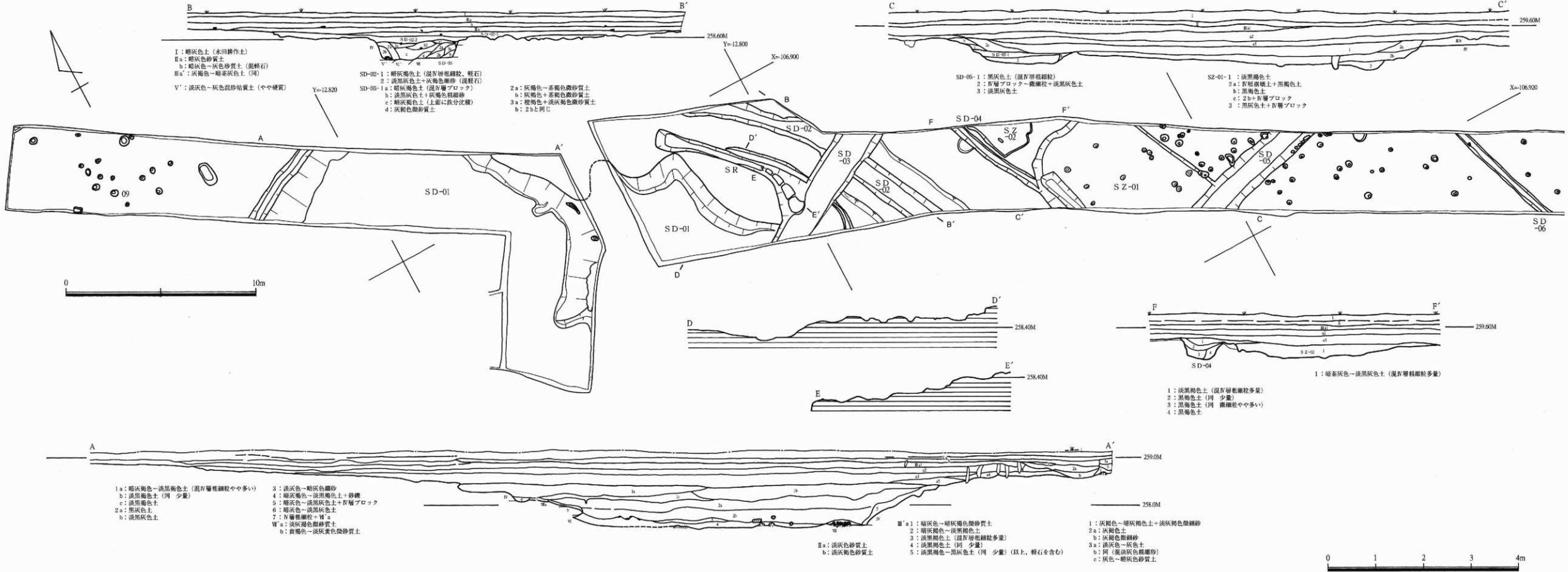
S B-02（第46図）

01号建物の南西に位置した、梁行2間（3.28～3.35m）・梁行2間（3.58～3.62m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径15～22cm・深さ8～28cmを測る。主軸方位は、N 88°Eである。

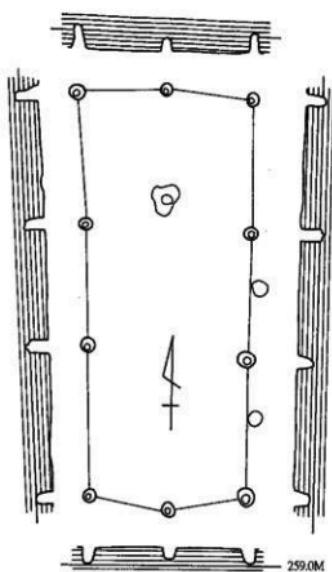
S B-03（第46図）

01号建物の7m南に位置した、梁行2間（3.50m）・桁行3間（7.24m）と推定される東西方向の建物で、北～西に廟が付く。柱穴の規模は、直径23～27cm・深さ10～46cmを測る。主軸方位は、N 86°Eである。

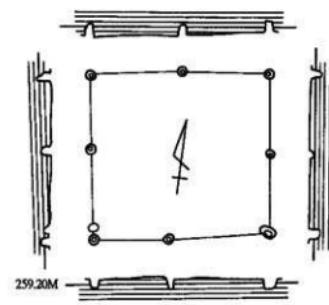
S B-04（第46図）



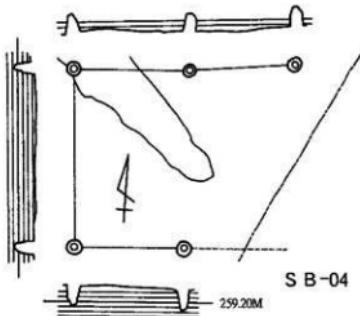
第45図 II～IV区 遺構・断面実測図



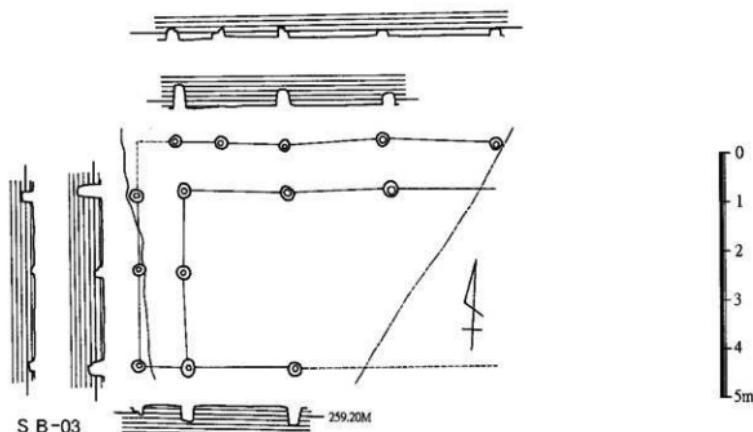
S B-01



S B-02



S B-04



第46図 S B-01~04 透構実測図

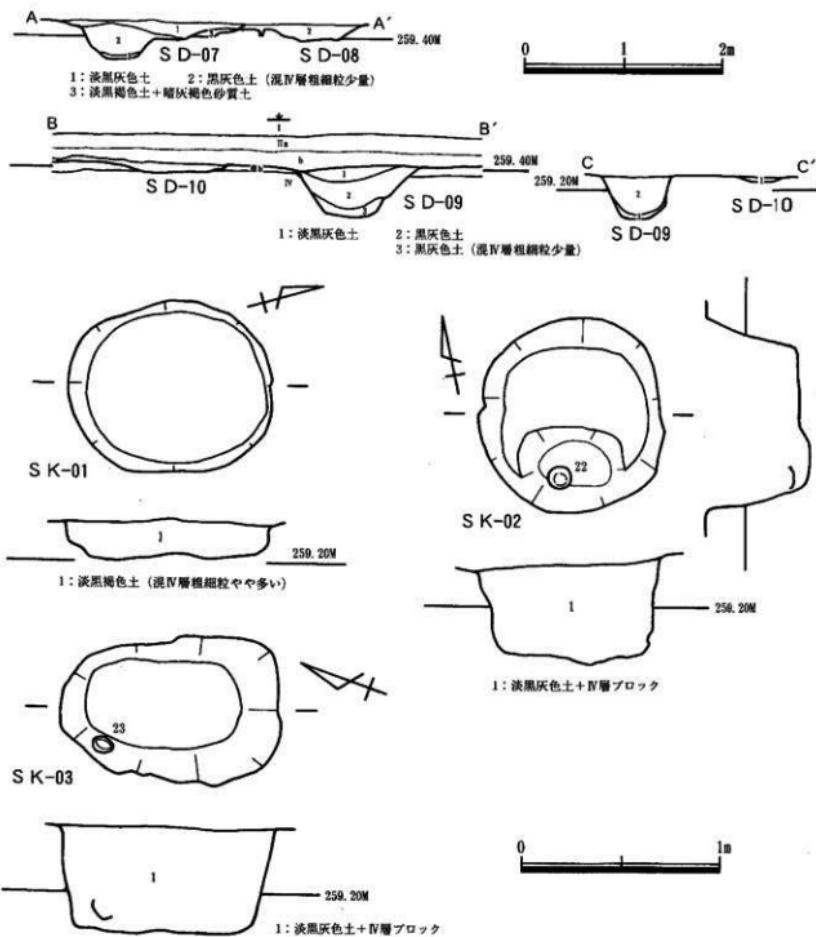
調査区の北東部に位置した、梁行1間（3.64m）・桁行2間（4.50m）以上と推定される東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径25~30cm・深さ36~44cmを測る。主軸方位は、N86°Eである。

S K-01 (第47図)

調査区の北西部に位置した、長径1.0m・短径0.87mの楕円形を呈する、深さ15~20cmの土壌墓と推定される。出土遺物は無いが、02号土坑とほぼ同時期と推定される。主軸方位は、N18°Wである。

S K-02 (第47図)

01号土坑の4.5m南に位置した、直径0.94~1.0mの円形を呈する、深さ47cmの土壌墓である。底



第47図 SD-07~10 断面図、SK-01~03 遺構実測図

面南側はさらに5~6cm低くなり、土師質土器（22）1点が副葬されていた。

S K-03 (第47図)

調査区の南端付近、03号建物から2.8m南に位置した、長径1.07m・短径0.75mの楕円形を呈し、深さ53cm前後の土壙墓である。南側が幅広いが、横臥屈葬であれば北枕と推定される。北西部に土師質土器1点（23）が副葬されていた。主軸方位は、N20°Wである。

S D-07

調査区の北端に位置する、幅1.5~2m・深さ21~31cmの溝状遺構で、西側が深く掘方が不明瞭になっている。断面層序（第47図）から、08号溝よりも新しいことが解っている。

S D-08

07号溝と1m前後離れて並行し、東端部が南東方向へ屈曲して収束する、幅0.8~1.25m・深さ10~25cmの溝状遺構である。覆土には砂粒が無く、用排水路では無い。

S D-09

調査区の南西部に位置する、幅50~80cm・深さ40~52cmの溝状遺構で、北側が若干低い。

S D-10

09号溝と0.5~1.5m離れてやや北向きに位置する、幅42~95cm・深さ5~15cmの溝状遺構で、北側が若干低い。

出土遺物

良好な遺物包含層は形成されず、重機掘削時もしくは遺構覆土からの出土に限られることから量的には少ない。

縄文~弥生時代の遺物は無いに等しいが、アカホヤ火山灰2次堆積層から石匙1点（71）や、石包丁片（72）が出土している。

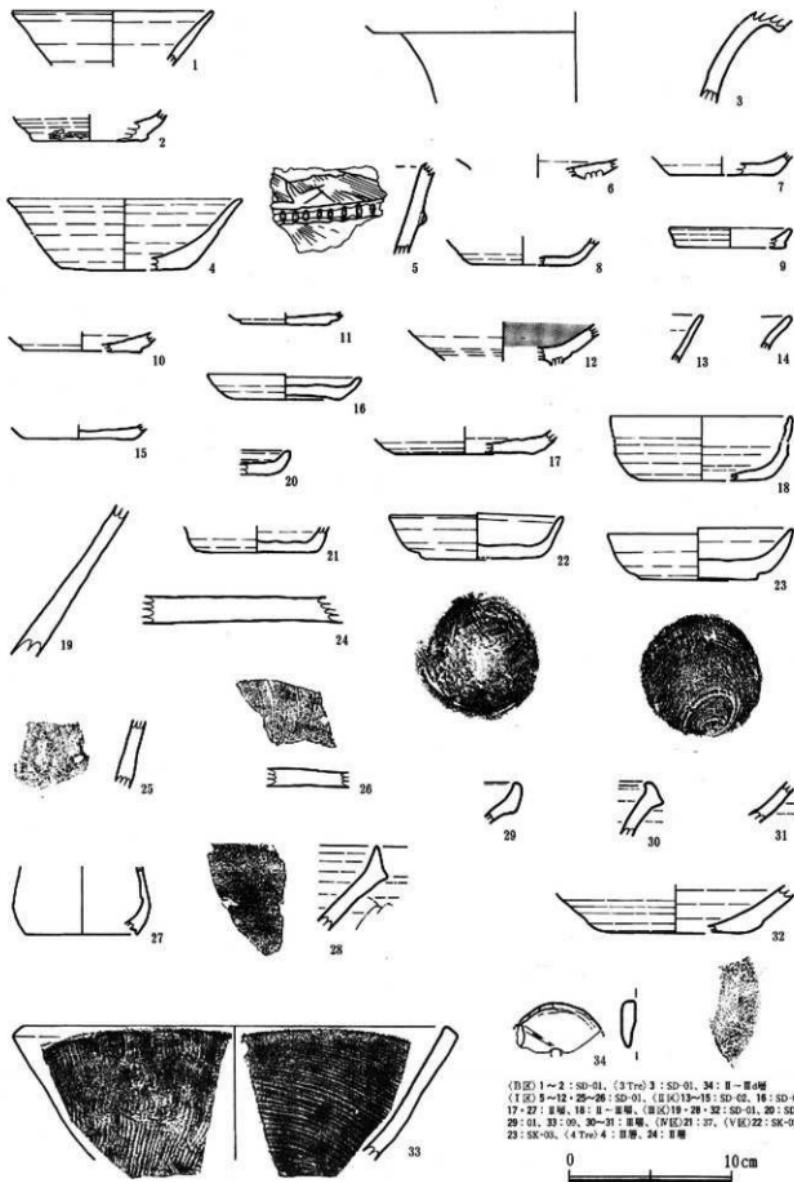
外堀（S D-01）の上層~上面では、土師質土器や青花（35）などが出土している。

近世陶磁器の殆どは18世紀後半以降で、この頃から田畠が開作されたと推定される。

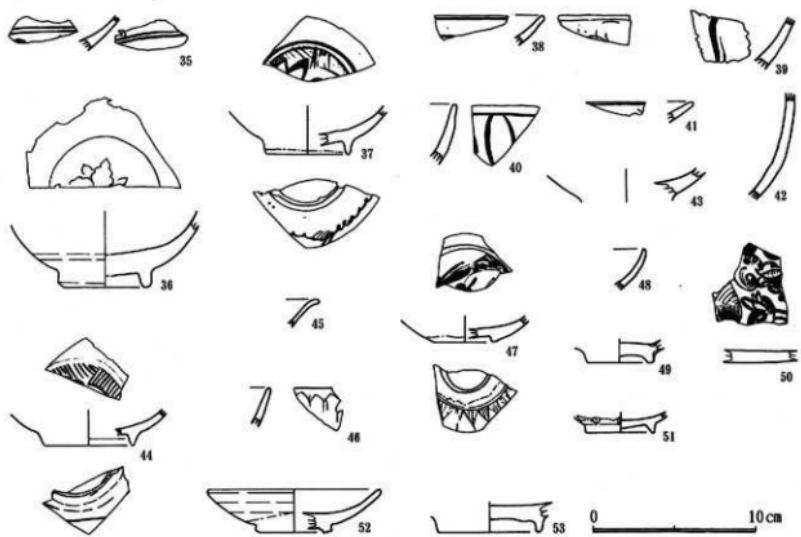
n. VI区（第52図）

調査対象地の中で最も標高の高い地区であり、東南部が最も高い。東南端部ではⅡ層の下がすぐⅣa層が露出し、70~80cm削平されている。反面、西側の地層は良好に遺存しており、Ⅲb層上面での遺構検出が可能である。航空写真を見ると一目瞭然であるが、Ⅲ層（黒色土）の部分は遺構密度が低く、Ⅳ層（アカホヤ火山灰）が広がる部分は密度が高い。東側のⅣ層の下はすぐにⅤ層であることから柱穴の根石は不用で建物も安定することから、無数の柱穴が検出される。

遺構検出は1面で、古代~近世前半の遺構があり、中世が主である。遺構（特に柱穴）が密集する部分は、検出時は不定形な数m~10数mの広い暗灰褐色~淡黒灰色土に覆われておらず（S Z）、それを掘りあげて新たに（最終的な）遺構を検出している。また、南西部の09~16号建物部分は白

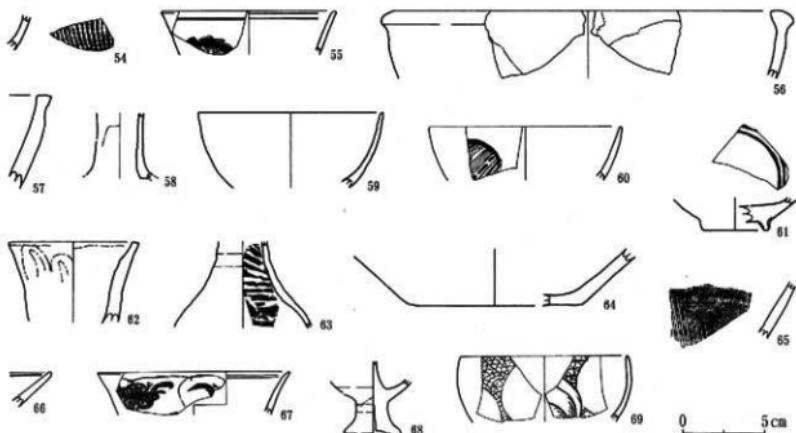


第48図 B・I～V区 出土遺物実測図(1) 土師器・土師質土器・中世国産陶器・土製品ほか



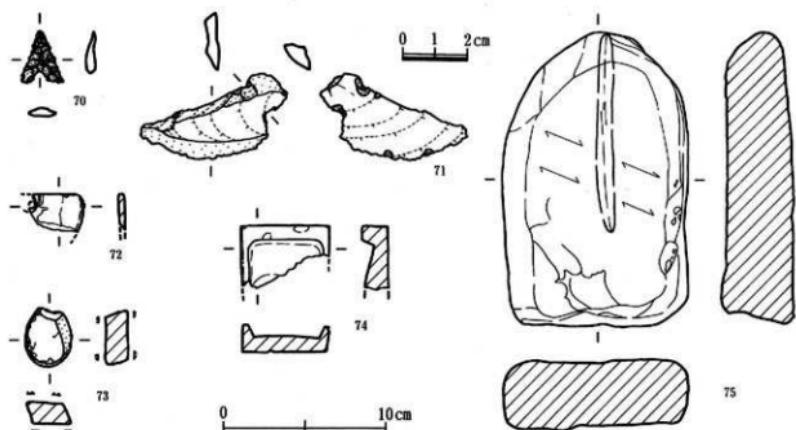
第49図 I～V区 出土遺物実測図（2） 输入陶磁器

(I区) 35: SD-01, 36: SD-02, 38: II-Ⅲ層、(II区) 37: SD-02, 42: SD-01, 40: II層, 41: II～III層、(2 Tre) 39: II-Ⅲ層、(III区) 43-49～50: SD-01, 48: Ⅲ層、(IV区) 44-45, 47-52: SZ-01, 46: SD-05、(V区) 53: SD-10, 51: Ⅲ層



第50図 I～V区 出土遺物実測図（3） 近世国産陶磁器

(2 Tre) 54-59: II層、(4 Tre) 59: II層、(II区) 60-62, 64-65: Ⅲ層、63: II-Ⅲ層、(III区) 66-67: Ⅱ層、(IV区) 68: I-Ⅲ層、(V区) 69: II-Ⅲ層



第51図 I～V区 出土遺物実測図(4) 石器・石製品

(II区)75: SD-02、74: II層、(4Tr)70: II層、(V区)71: VIaの層、
(II区)72: III層、(IV区)73: I-II層

色粘土混じりの土で広く覆われており(土間か)、それを掘り下げるにと布掘り建物の存在に気付いた。

検出した柱穴は3,000基以上(掘立柱建物跡130棟を含む)、竪穴状遺構6軒、溝状遺構50余、土坑・土壤墓120基余などがある。掘立柱建物跡は、さらに数10棟存在したと推定される。

以下、古代・中世・近世に大別して報告するが、一部、混在する。

i) 古代

SD-14

北田遺跡の04号溝・II区の03号溝から繋がる、幅1.65~3.0m・深さ0.4~1.0mの溝状遺構で、底面は西端部のほうが70cm低い。底面は64号溝まではほぼ平坦で、中程で20cmの段が付いたり、04号竪穴状遺構の西側で5.5mの範囲だけ30cm深くなったりで一定せず、また、砂~砂砾層が底面となっており、水路にはならない。

出土遺物は少ないが、62号溝との交点部において祭祀土器が出土(第53図)し、そこから8m西の地点においては合わせ口の土器棺が検出された(第54図)。

76は塊で、62号溝状遺構掘削時に破碎された可能性と、当該溝状遺構埋没時の祭祀行為による破碎が考えられるが、北田遺跡においても両者が出土していることから、断定できない。77は76の約1m西側において出土した完形品である。78は完形の塊で、赤外線カメラで見ると体部外面に「万」ほか訛読不明墨書2ヶ所(図版130)が認められた。79は塊で完形に近いが、口縁部の一部を欠く。78・79は長径97cm・短径77cmの楕円形を呈する深さ135cmの土坑(遺構検出時には把握していない)の中に位置することから、14号溝には伴わない可能性がある。84は黒色土器A類の鉢型土器で、口

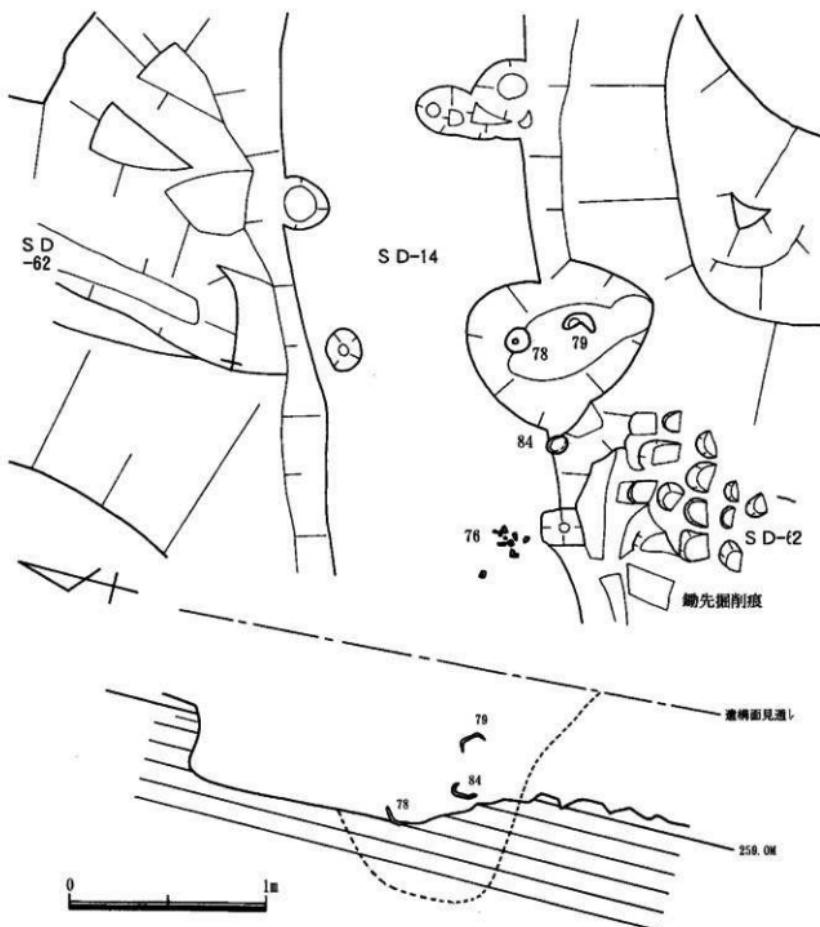


第52図 II・IV・V・VI区 造構分布図

縁部の80%を欠損する。82は04号竪穴状遺構の東側底面付近から出土している。

80の甕は土器棺の西側で、81の甕は東側であり、土圧によって半分の高さに潰れていた。外面にはススが若干付着しており、転用されたことがわかる。棺の内法は最長44.2cmであり、未熟児もしくは小柄な新生児が想定されるが、骨片も副葬品も出土していない。

14号溝と主軸方位を同じくする掘立柱建物跡や土坑などは確認されない。また、9～10世紀代と推定される遺構も未発見である。14号溝の機能推定が一層困難となる。



第53図 SD-14 祭祀遺物出土状態実測図

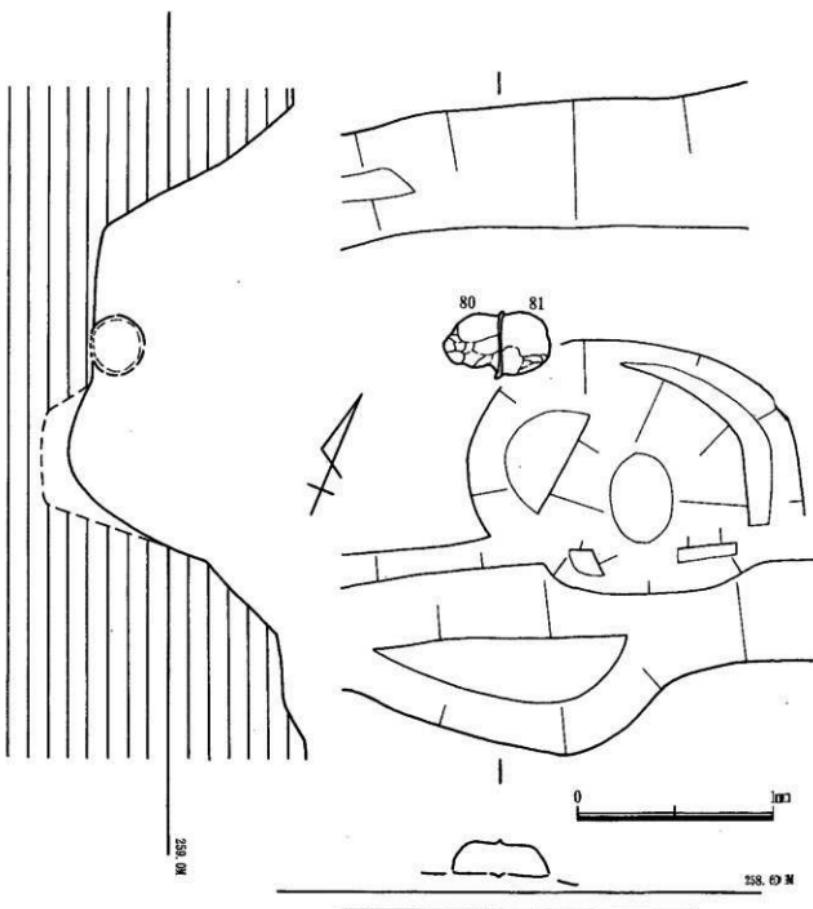
ii) 中世

遺構が密集する反面、出土遺物は少なく、新旧関係も全ては解らないので、以下、遺構の種類ごとに記述する。また、若干、近世の遺構も含む。

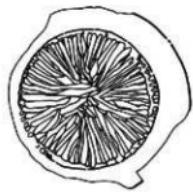
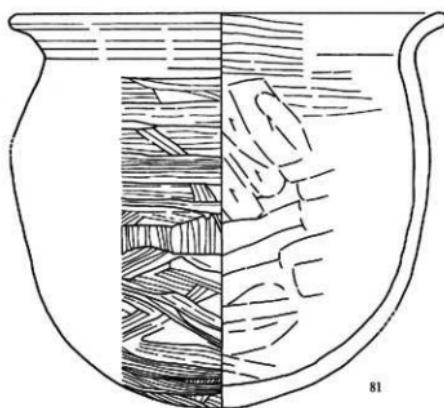
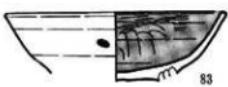
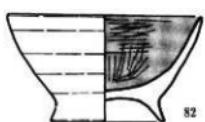
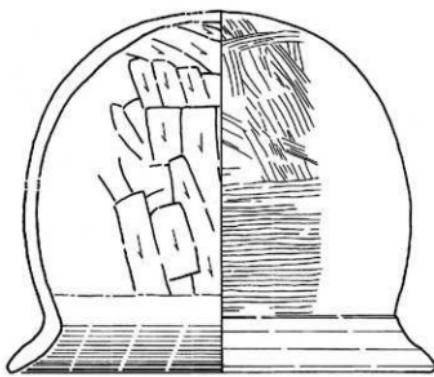
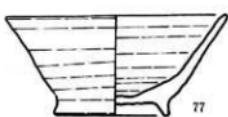
S A-01 (第56図)

調査区の北東部で検出した1辺2.6mの方形と推定される堅穴状遺構である。北側は安全対策の為に未調査である。

検出面からの深さは40cmで4隅と中に柱穴がある。南辺の中間に柱穴が2個あり北辺にも2



第54図 SD-14内 合わせ口土器館 検出状態実測図



0 10 cm

第55図 SD-14 出土遺物実測図

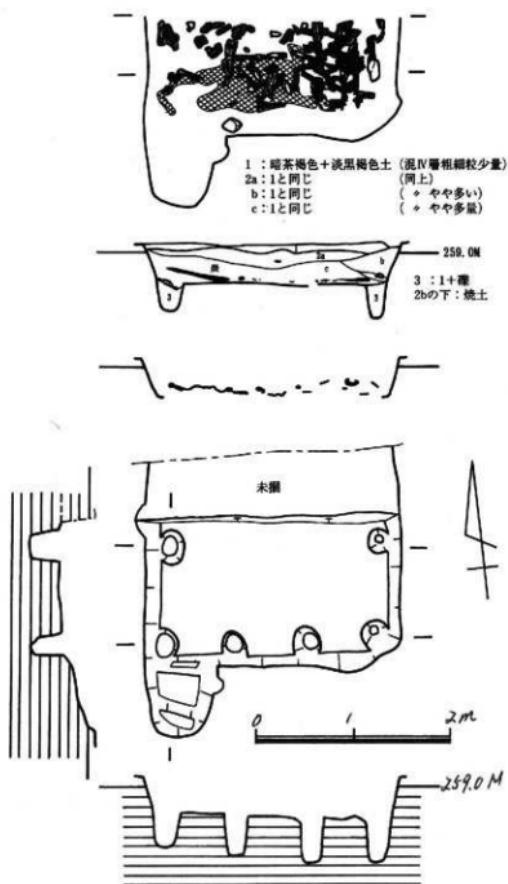
個あると推定される（SA-04と同じ）。また、西南部には入口状の階段状スロープが付属している。

出土遺物は無いが、底面に炭化材と焼土が広がっていた。直径10cm前後の炭化材は南北方向に、直径4cm前後の炭化材は東西方向に多く認められるが、柱材は混在していない。

02号と構造・主軸が同じなので、近世中頃と思われる。

SA-02 (第57図)

01号の西7mに位置した、1辺2.6m前後の方形と推定される遺構で、17世紀の道路跡埋没後に掘られている。



第56図 SA-01 遺構実測図

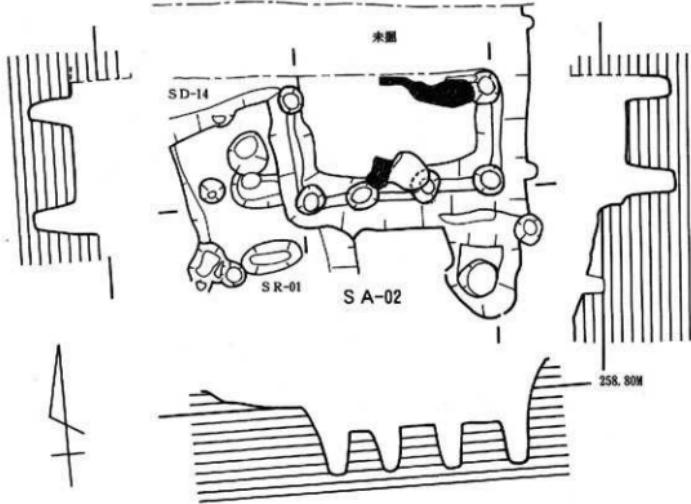
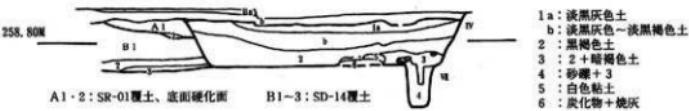
構造は01号と類似するが、壁溝が巡り、入口のスロープが東南部に付く。底面は埴層で、中央東寄りには若干の炭化物混じりの焼灰の上に白色粘土が被覆していた。南縁中央部では、若干の炭化物と台石状の板石（第152図-712）が検出された。出土遺物は無いが、01号道路跡の埋没後であることから、17世紀後半～18世紀初頭頃と推定される。

SA-03 (第57図)

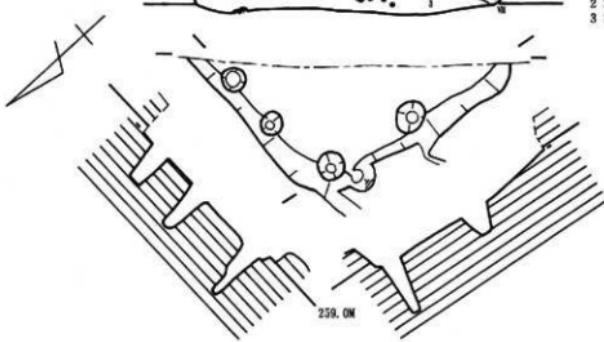
調査区の東側で検出された、1辺2.6mの隅丸方形と推定される遺構で、4隅と中间に柱穴を有する構造と推定され、北辺中央には柱穴が2個あるので、01・02号と類似型態と推定される。出土遺物は無いが、覆土から16世紀末～17世紀前半の時期と思われる。

SA-04 (第58図)

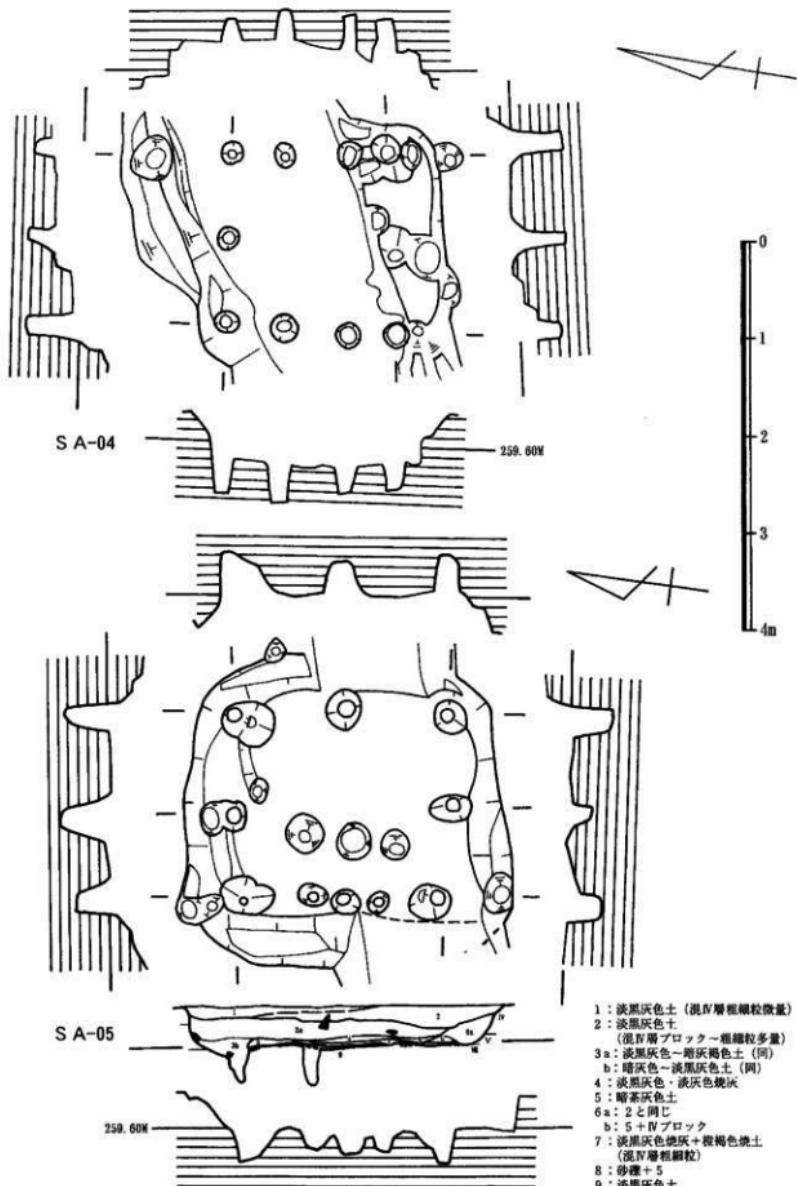
14号溝と重複していたので、掘り下げる途中で竪穴状遺構であることが解った。平面は1辺3m内外の隅丸方形であ



0 1 2m



第57図 SA-02・03 造構実測図



第58図 SA-04・05 造構実測図

り、4隅と南辺・北辺の中央、西辺・東辺の中央各2ヶ所に柱穴を有する。スロープは付属していないと思われ、入口は西か東の中央部と推定される。

出土遺物は無く、中央の炉跡や炭化材も未検出である。

S A-05 (第58図)

調査区の北縁、02号と04号の中間に位置し、14号溝と重複する、1辺3.4m前後の隅丸方形を呈する。底面は、断面から判断すると、8~9層の上面であり、中央に焼灰と焼土がある。9層の下は14号溝の底面である。柱穴は4隅と中间にあり、入口の想定が困難である。

出土遺物は無く、時期比定は困難であるが、覆土から、15世紀代と推定しておく。

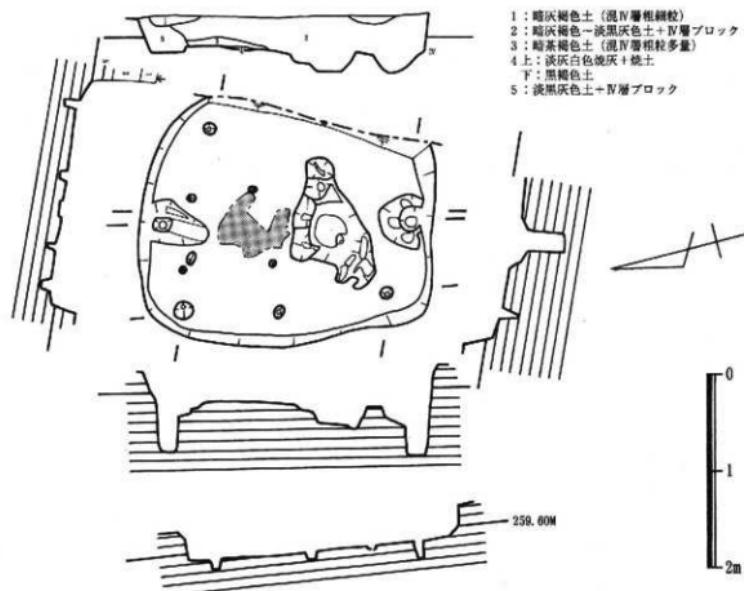
S A-06 (第59図)

調査区の南端部、50号溝と外堀の中間付近に位置した、長軸3.0m・短軸2.6m前後の隅丸台形を呈する。主柱穴は南北2個で、4隅と中央1~2ヶ所に補助的小pitが検出された。

中央北寄り底面には焼土と焼灰がみられ、その南側には深さ20cmの不定形な土坑がある。轆轤ピットにしては浅すぎるが、何らかの工房に伴う機能が想定される。

出土遺物は無く、覆土は人為的に埋められた状況を示す。

S B-05 (第60図)



第59図 S A-06 遺構実測図

調査区の中央付近に位置した、梁行3間（5.75～6.03m）・桁行4間（8.62～8.72m）の南北方向の身舎の、4面に扉が付く大型タイプである。

検出時は身舎北面の東半部と北面廂・南面廂の部分しか明確に確認されておらず、広範囲に広がっている淡黒灰色土（S Z-12）を掘り下げるに長径2m前後・幅60cm前後の長楕円形の土坑が一定の間隔で配列していた。中心部から西側にかけては削失が著しく、最深部は30cmも抉られてい るため、柱穴の痕跡すら遺存していない部分もある。

長楕円形土坑は布掘りの簡素化と思われ、50cm前後（本来は80～90cmか）掘り下げたのち、身舎と廂の柱穴を両端に、さらに10～50cm掘り下げている。底面はⅤ～Ⅵ層内であり、根石を必要としない。また、柱痕跡が明瞭に遺存するものは無かった。柱間は1.75～2.45mと不規則であり、西面の廂の幅のみ狭くなっている。南面廂は1本の布掘りで、最初の基礎（基軸）であったと推定される。主軸方位は、N 2°Wである。

出土遺物は少ないが、青磁や褐釉陶器のほか青花が出土していることから、16世紀後半、山城の最期の主要建物の一つと推定される。

S B-06（第61図）

調査区の中央南西寄りに位置した、布掘りの建物である。西の梁行の柱穴は不明瞭であるが、3間分6.9mを測る。東の梁行も不規則な位置に柱穴があるが、6.80mである。双方の梁は掘り直した形跡（西側は南半分、東側は東接する布掘り）があるが柱穴が不明瞭であるため、復元には至らない。北面の桁は身舎部分のみの布掘りで35～40cm掘られた後、深さ20～34cmの柱穴が掘られる。

南面は廂部分も一緒に掘削され、幅1.2～1.3mとなるが、西端から2.8～3.4mの部分は一部島状に掘り残されている。また、中央やや東寄りから南へ延びる溝状造構（S D-69）は48号溝へ排水する機能が推定される（後述）。主軸方位は、N 87°Eである。

出土遺物は無いに等しいが、14～15世紀代と推定される。

S B-07（第62図）

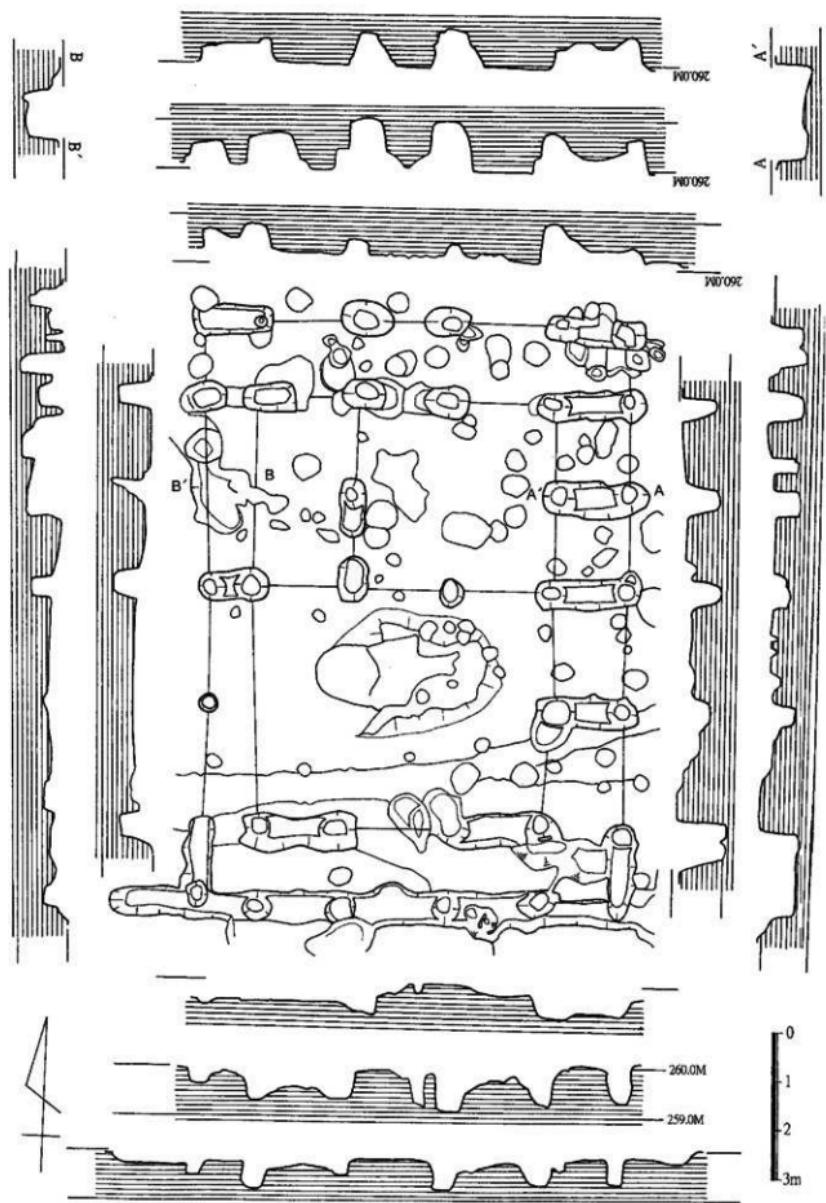
06号建物の東側と重複する、梁行4間（7.77～7.87m）・桁行5間（9.70m）の東西方向の身舎の、4面に扉が付く。柱穴の規模は、直径33～80cm・深さ40～90cmを測るが、北の桁の柱穴は小さめである。廂の幅は一定でなく、東面と西面は1m内外、北面と南面は1.5m内外である。

身舎中央には棟を支える柱が通り、さらに西側2間が細分される。南半の大型柱穴については、検出時は柱痕跡が現れなかったが10cm程度掘り下げた段階で柱痕跡を確認したものについては、半截して断面を確認（第63図）した。その結果、直径18～32cmの丸太材を使用していたことが判明した。

主軸方位は、N 87°Eである。柱穴覆土からは青花が出土しており、05号建物とほぼ同時期の中世末頃と推定される。

S B-08（第64図）

調査区の東部中央寄りに位置した、梁行2間（3.78～4.0m）・桁行3間（8.26～8.34m）の建



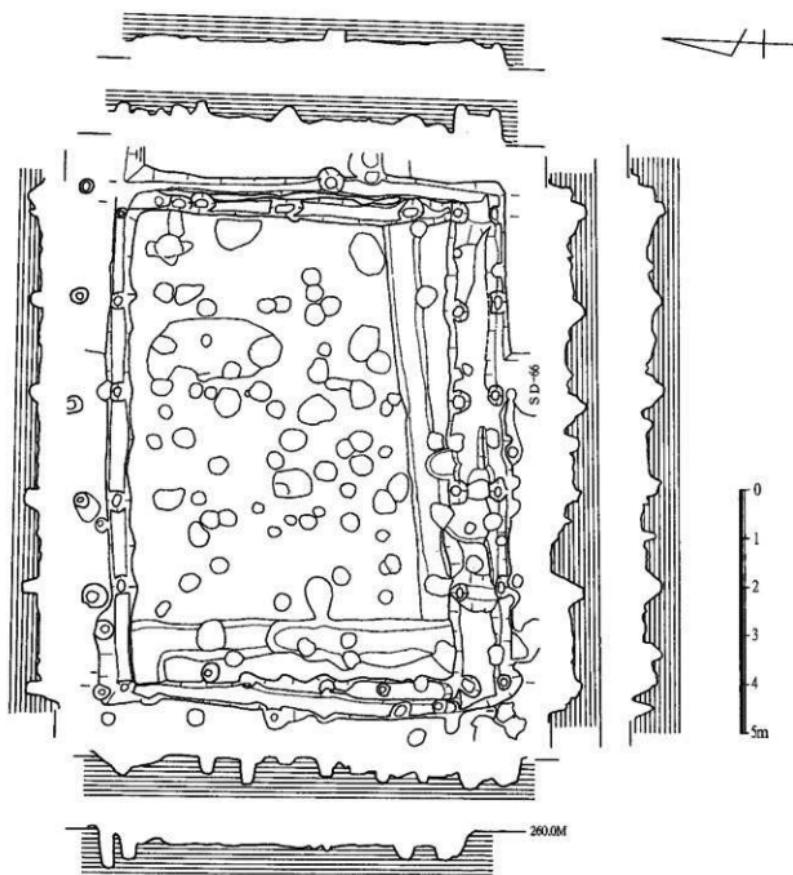
第60図 SB-05 造構実測図

物で、桁には布掘りの痕跡と間柱が認められる。桁の柱間は、2.6~2.95mと広い。柱穴の規模は、直径30~58cm・深さ25~52cmを測る。間柱の柱穴は北側に多く見られ、深さ10~20cm強のものが直結したり不規則に配列している。

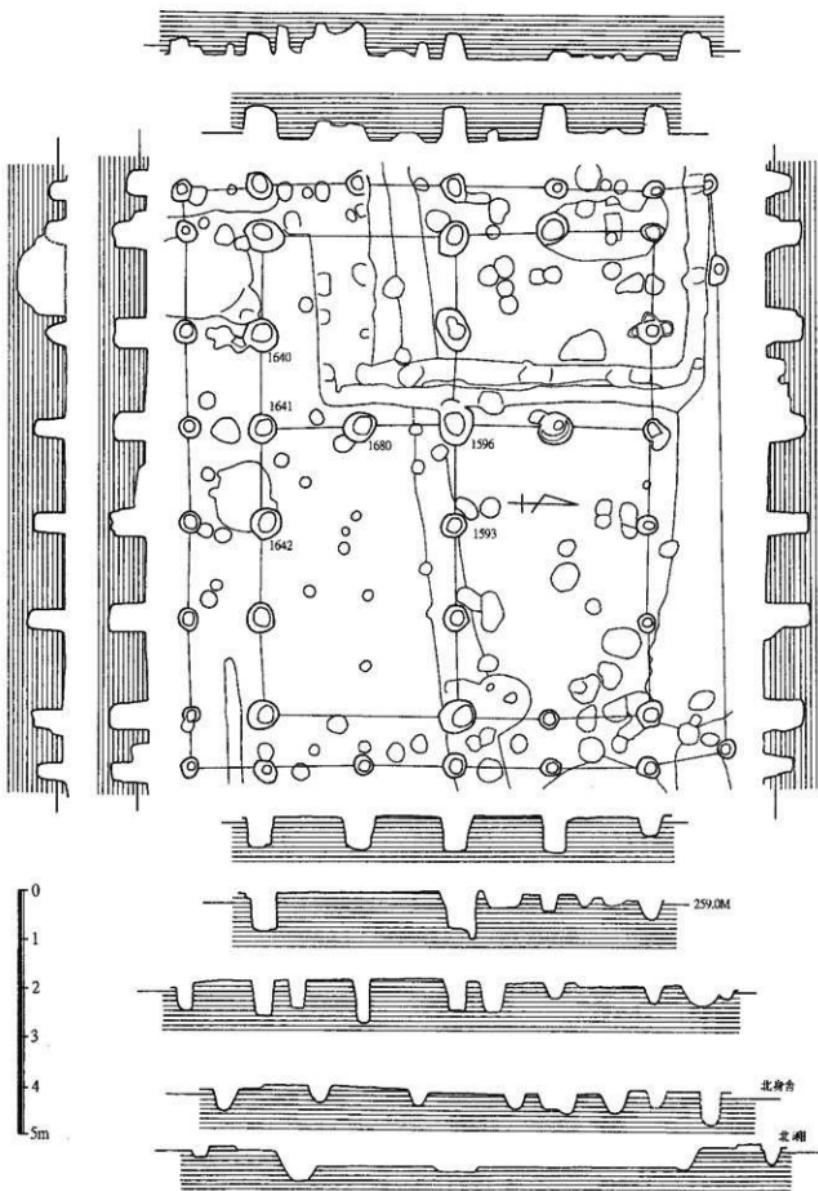
主軸方位は、N79°Eである。

S B-09 (第64図)

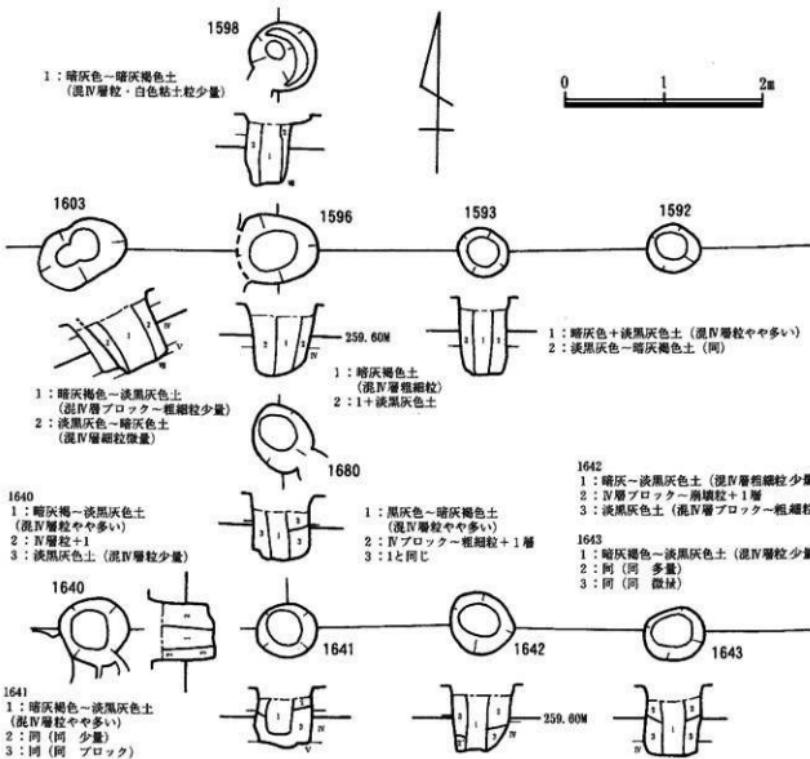
06号建物の西1.8mに位置した、梁行1間(3.40~3.60m)・桁行3間(7.04~7.54m)の東西方向の布掘り建物である。北の桁の柱間は2.50~2.60m・南の桁の柱間は2.15~2.40mを測りややバラツキがある。布掘りの桁の溝は、幅35~60cm・深さ30~40cmに掘削され、さらに底面から6~



第61図 S B-06 遺構実測図



第62図 S B-07 遺構実測図



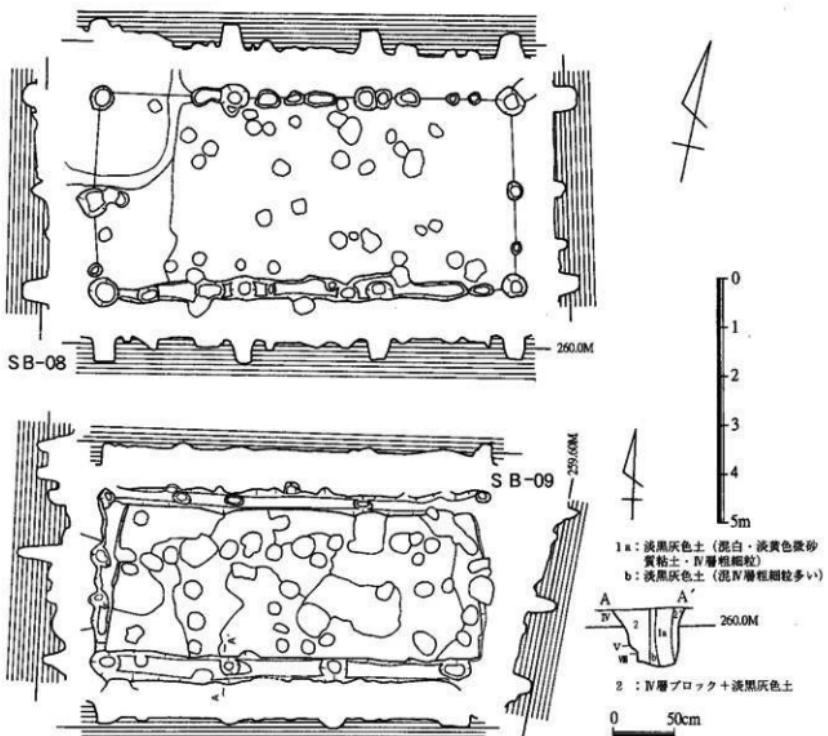
第63図 S B-07 柱穴断面層序図

21cmの深さに柱穴が掘削されている。南東隅の柱穴が北東隅とは65cm前後ズレているので、梁が斜めになっている。梁の修正と東の溝（布掘り）の機能を考えると、南東隅の柱穴は使用せず、溝の中に柱を据え置いた可能性もある。主軸方位は、N89°Eである。

S B-10 (第65図)

09号建物と重複した、梁行4間(9.35~9.53m)・桁行5間(13.14m)の東西方向の布掘り建物である。北と南には廂が付くが、北面のみ廂も含めた布掘りが施される。柱間は2.6~2.9mと広く北の桁には密に間柱が設けられ、西の梁にも若干の間柱が認められる。構造上は、土壁で、特に北面を堅固にしたことが窺える。柱穴の規模は、直径21~83cm・深さ15~83cmを測る。また、棟を支える柱と思われる大型の柱穴(直径50~75cm・深さ40~68cm)が中央に並び、当該建物に伴うものと思われる。主軸方位は、N86°Eである。

遺構検出時は南東部1/4以外は白色粘土混じりの土で覆われており、土間であったと推定される



第64図 SB-08・09 遺構実測図

(第197図)。身舎の面積は 124m^2 ・廂を含めると 146.5m^2 あり、遺跡内最大の建物である。

S B-11 (第66図)

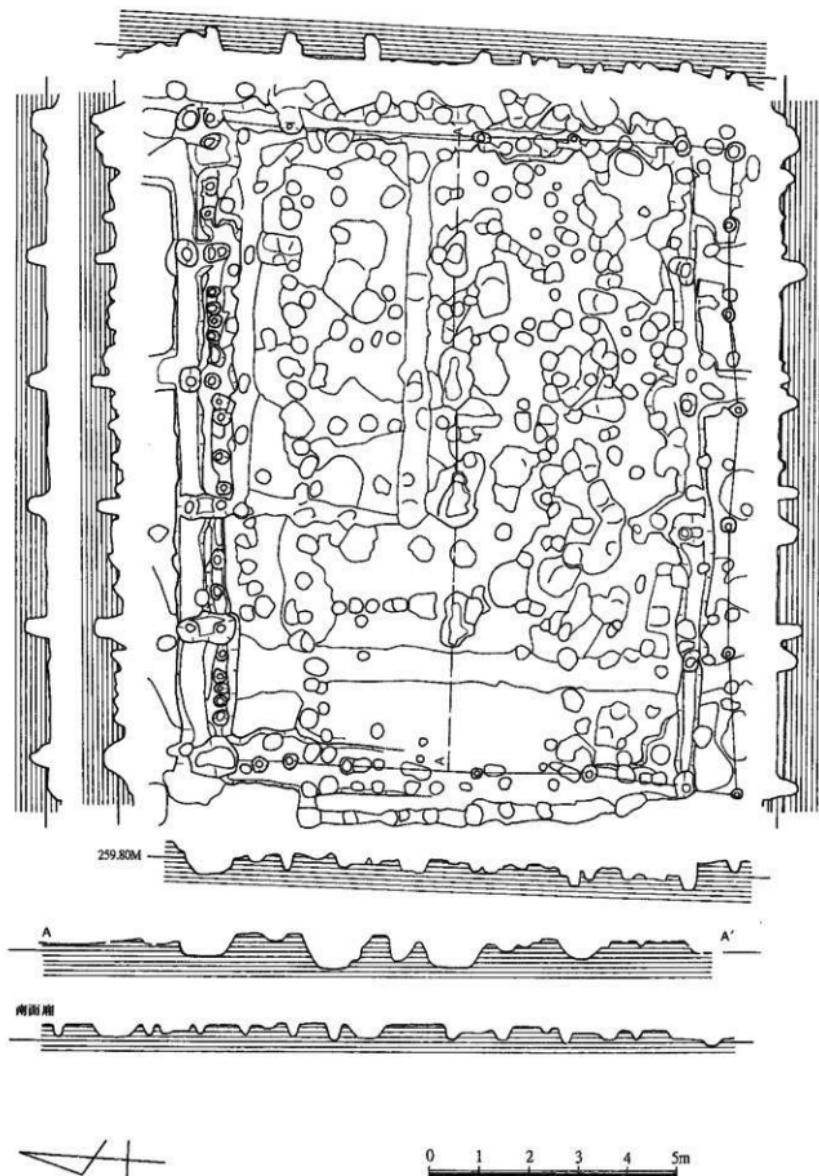
10号建物の北東部に重複した、梁行3間(5.82~5.95 m)・桁行4間(8.26~8.53 m)の東西方向の建物で、西の梁と東端の桁に不規則に間柱を有する。柱間は1.4~2.5 mと不規則で、西端が狭い。柱穴の規模は、直径23~40 cm・深さ16~59 cmを測る。主軸方位は、N85°Eである。

S B-12 (第66図)

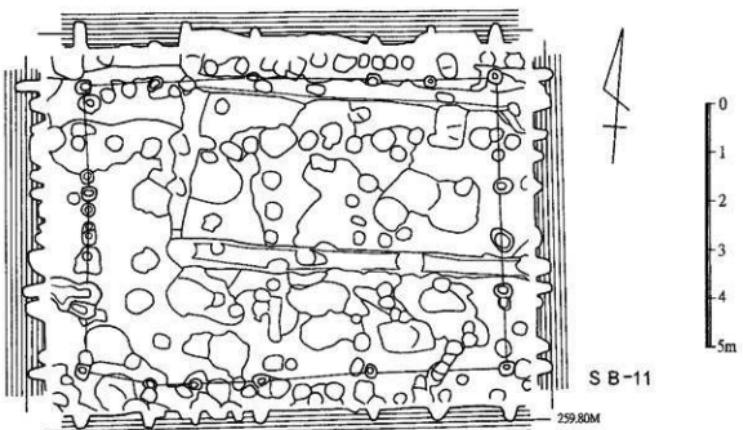
10号建物と重複した、梁行3間(5.88~6.0 m)・桁行6間(12.80~13.0 m)の東西方向の身舎の南面に廂が付く。柱穴の規模は、直径23~47 cm・深さ10~56 cmを測る。身舎の中には、棟と並行する大型の柱穴が並ぶが、当該建物に伴うかどうかは不明である。主軸方位は、N86°Eである。

S B-13 (第67図)

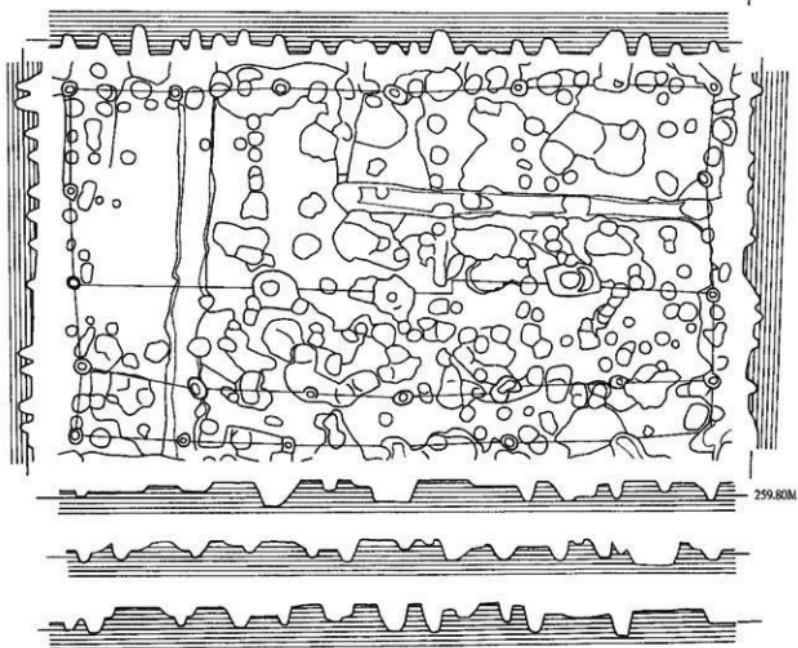
10号建物と重複した、梁行4間(6.30~6.36 m)・桁行7間(14.22~14.28 m)の東西方向の建物で、西の梁が明瞭な布掘りである。桁には1~2個ずつの間柱があり、梁には各1個の間柱を有



第65図 SB-10 遺構実測図



SB-12



第66図 SB-11・12 遺構実測図

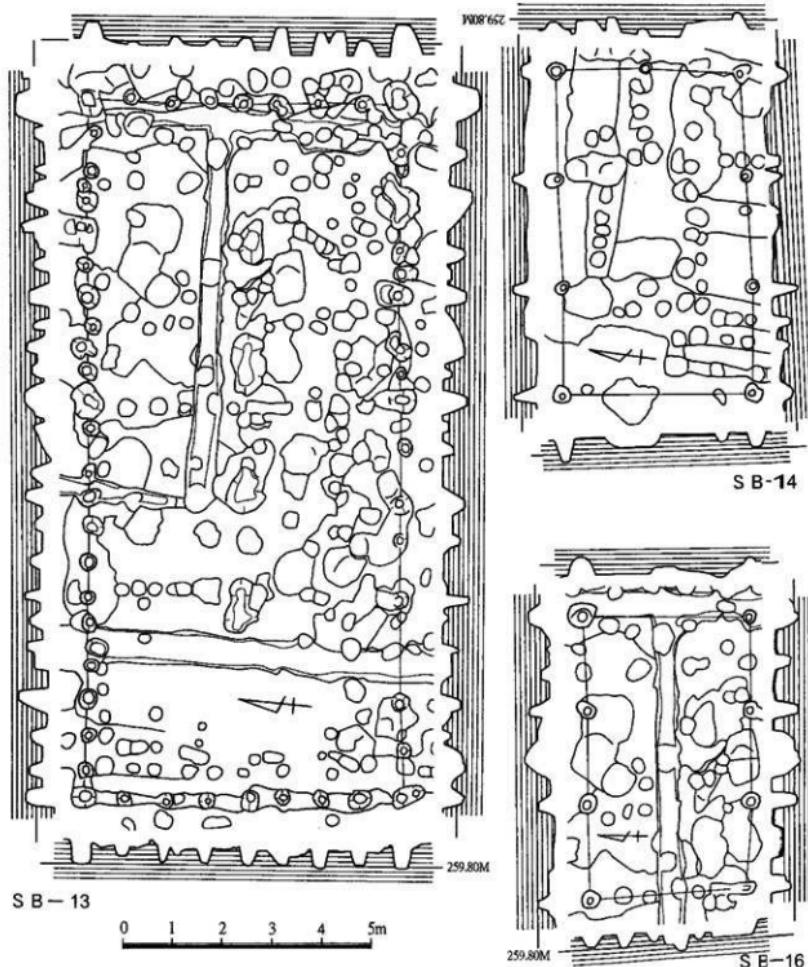
する土壁の建物と推定される。また、棟を支える柱が中央に並んでいたと推定される。

柱穴の規模は、直径36~60cm・深さ40~57cmを測る。主軸方位は、N85°Eである。

検出時は、10号建物と同様に、西側が白色粘土混じりの土で覆われていた。

S B-14 (第67図)

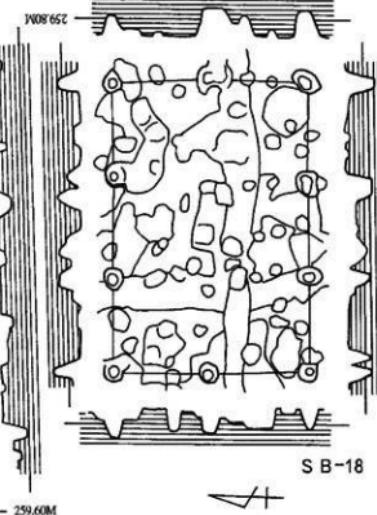
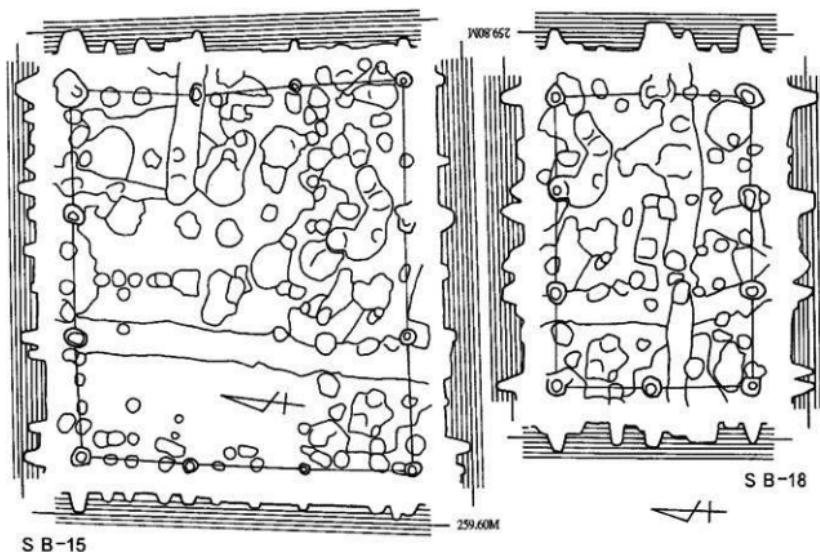
10号建物の北西部に重複した、梁行2間(3.70~3.82m)・桁行3間(6.55~6.64m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23~36cm・深さ16~42cmを測る。主軸方位は、N81°Eである。



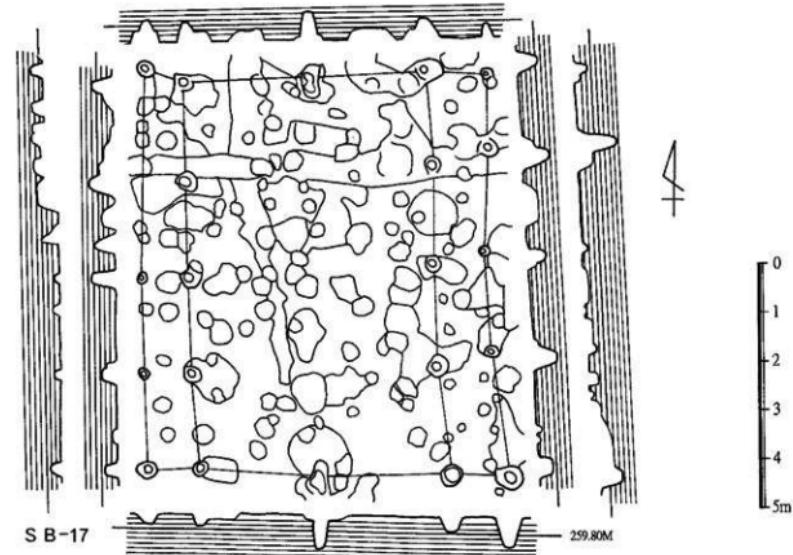
第67図 S B-13・14・16 遺構実測図

S B-15 (第68図)

10・12号建物と重複した、梁行3間(6.48~6.66m)・桁行3間(7.48~7.95m)の東西方向の



S B-15



第68図 S B-15・17・18 造構実測図

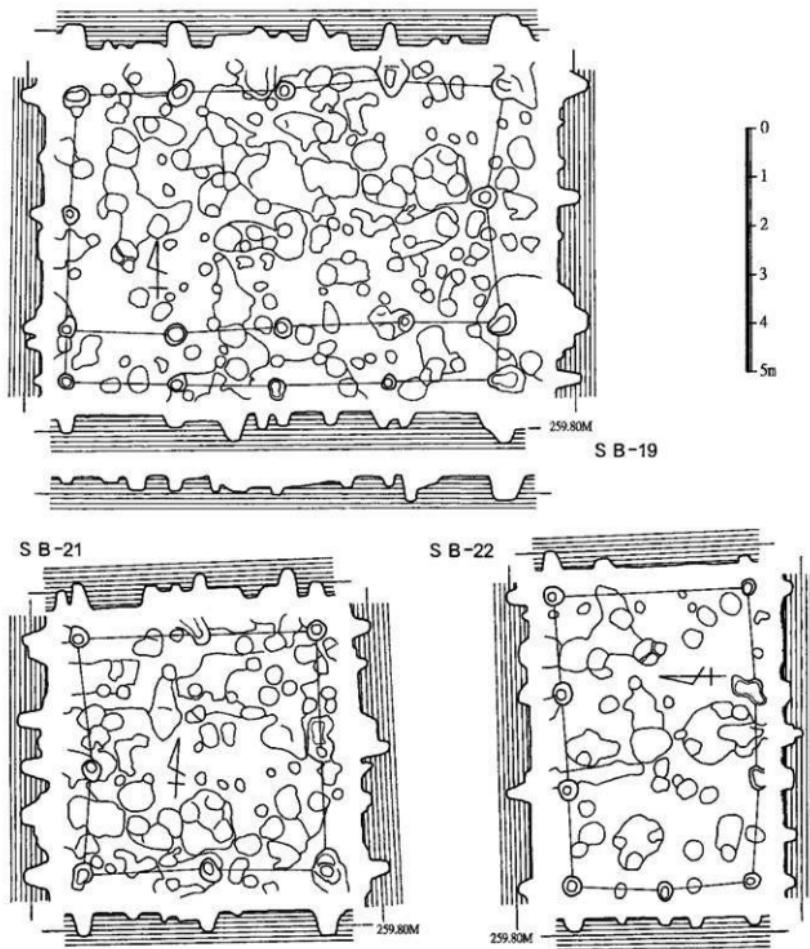
建物である。柱穴の規模は、直径23~46cm・深さ23~57cmを測る。主軸方位は、N82°Eである。

S B-16 (第67図)

09・10号建物に重複した、梁行1間(3.20~3.35m)・桁行3間(5.54~5.83m)の東西方方向の建物である。柱穴の規模は、直径23~40cm・深さ28~42cmを測る。主軸方位は、N86°Eである。

S B-17 (第68図)

10号建物の西南部に隣接する、梁行2間(4.86~5.10m)・桁行4間(7.90~8.32m)の南北方



第69図 S B-19・21・22 造構実測図

向の身舎の、西と東面に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径18~45cm・深さ9~80cmを測る。主軸方位は、N 3°Wである。

S B-18 (第67図)

10号建物の南西部に重複した、梁行2間(3.92~3.95m)・桁行3間(5.90m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径36~52cm・深さ43~59cmを測る。主軸方位は、N 84°Eである。

S B-19 (第69図)

18号建物の南に位置した、梁行2間(4.82~4.90m)・桁行4間(8.60~8.74m)の東西方向の身舎の、南面に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は、直径26~50cm・深さ17~56cmを測る。主軸方位は、N 89°Eである。

S B-20 (第70図)

10号建物の南側に重複した、梁行4間(7.90~7.94m)・桁行7間(13.90~14.04m)の東西方向の身舎の、西と東面に廊が付く。身舎は110.6m²、廊を含めると128.4m²の大型建物で、10号建物に次ぐ大きさである。身舎の中央には棟を支える柱が通る。柱穴の規模は、直径30~57cm・深さ23~59cmを測る。主軸方位は、東西である。

S B-21 (第69図)

20号建物の北東部に位置した、梁行2間(4.84~4.90m)・桁行2間(4.82~4.94m)の方形の建物である。柱穴の規模は、直径37~51cm・深さ28~52cmを測る。主軸方位は、N 3°Wである。

S B-22 (第69図)

20号建物の南西部に重複した、梁行2間(3.64~3.99m)・桁行3間(5.93~6.0m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径37~51cm・深さ28~52cmを測る。主軸方位は、N 3°Wである。

S B-23 (第71図)

調査区の南西隅に位置した、梁行2間(4.26~4.45m)・桁行2間(4.54~4.84m)の南北方向の建物で、桁行は北へさらに1間延びる可能性がある。柱穴の規模は、直径22~40cm・深さ20~36cmを測る。主軸方位は、北である。

S B-24 (第71図)

23号建物の北に位置した、梁行1間(4.38~4.55m)・桁行3間(6.40~6.52m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径27~43cm・深さ17~49cmを測る。主軸方位は、N 2°Wである。

S B-25 (第71図)

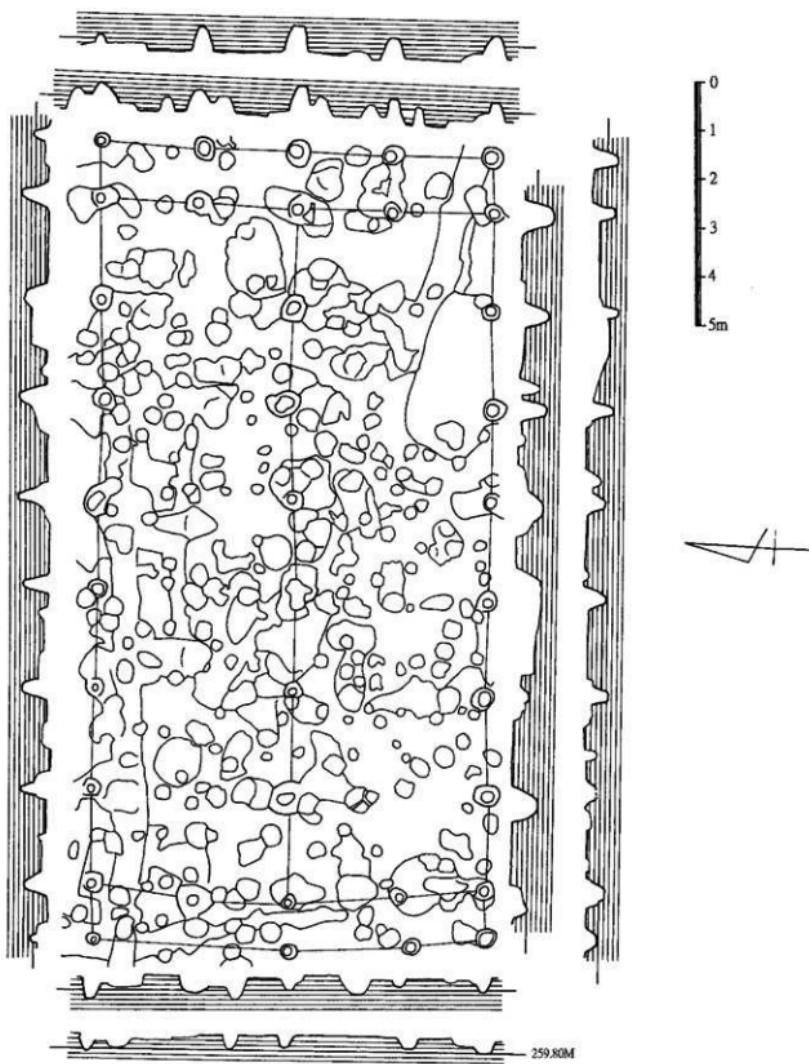
24号建物と重複した、梁行2間(3.96~4.05m)・桁行3間(5.90~6.02m)の南北方向の身舎の、西と東面に廊が付く。柱穴の規模は、直径23~46cm・深さ8~42cmを測る。主軸方位は、N 1°Wである。

S B-26 (第71図)

24・25号建物と重複した、梁行2間(3.63~4.22m)・桁行4間(8.20m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径20~44cm・深さ20~42cmを測る。主軸方位は、N 6°Wである。

S B-27 (第72図)

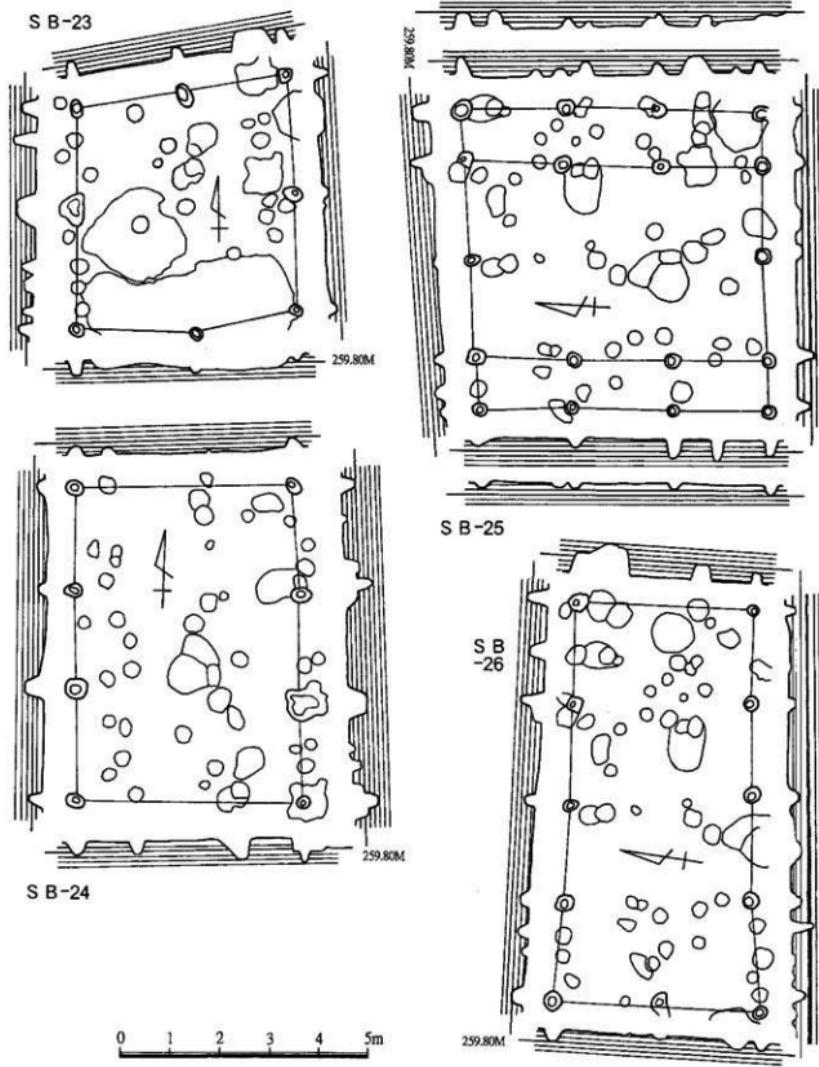
23号建物と重複した、梁行2間(4.0m)・桁行3間(6.50m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径33~44cm・深さ17~40cmを測る。主軸方位は、N85°Eである。



第70図 S B-20 遺構実測図

S B-28 (第72図)

23号建物の東に位置した、梁行2間(4.40~4.62m)・桁行3間(6.06~6.27m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23~42cm・深さ14~47cmを測る。主軸方位は、N85°Eである。

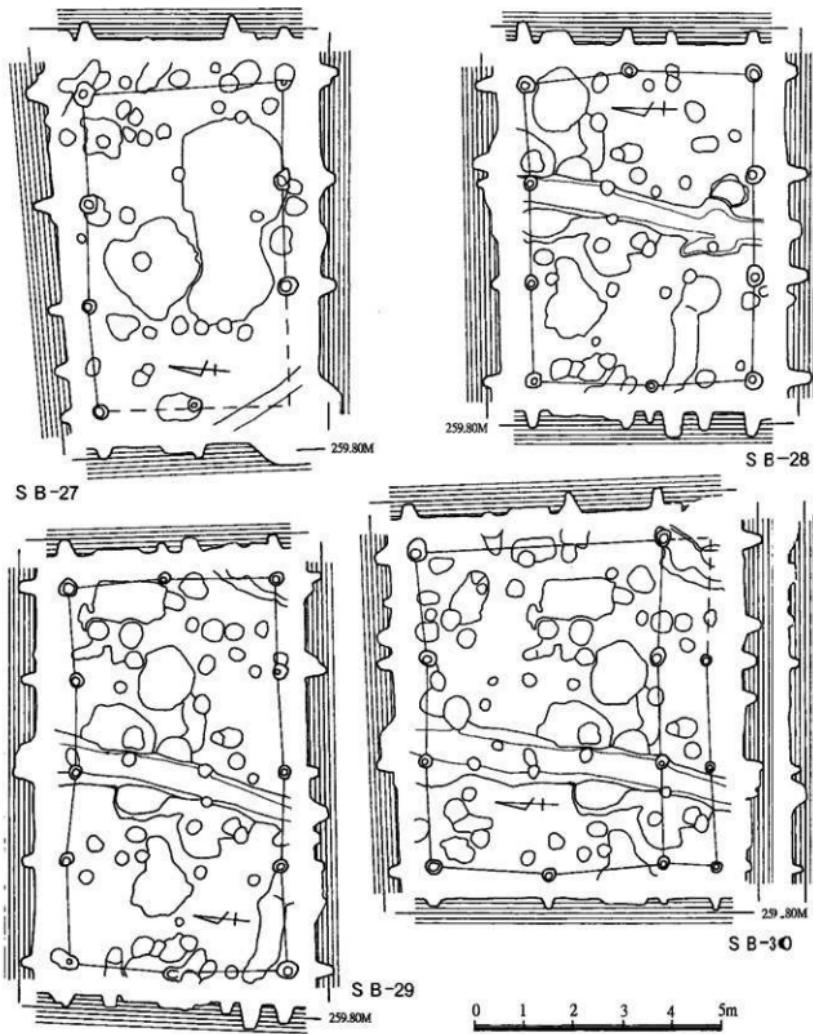


第71図 S B-23~26 造構実測図

SB-29 (第72図)

28号建物と重複した、梁行2間(4.16~4.40m)・桁行4間(7.64~8.0m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22~41cm・深さ17~41cmを測る。主軸方位は、N83°Eである。

S B-30 (第72図)



第72図 SB-27~30 造構実測図

29号建物と重複した、梁行2間（4.65～5.0m）・桁行3間（6.42～6.64m）の東西方向の身舎の南面に瘤が付く。柱穴の規模は、直径20～46cm・深さ8～43cmを測る。主軸方位は、N86°Eである。

S B-31 (第73図)

20号建物の南に位置した、梁行2間（4.94m）・桁行5間（10.37m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径36～62cm・深さ25～65cmを測る。主軸方位は、N84°Eである。

S B-32 (第73図)

31号建物の北西部と重複した、梁行1間（1.42～1.63m）・桁行2間（3.90～4.35m）の東西方向の建物と推定される。柱穴の規模は、直径36～67cm・深さ26～69cmを測る。主軸方位は、N85°Eである。

S B-33 (第73図)

27号建物の東に位置した、梁行2間（4.38～4.69m）・桁行2間（4.69～4.80m）の方形に近い建物である。柱穴の規模は、直径28～47cm・深さ27～48cmを測る。主軸方位は、N85°Eである。

S B-34 (第73図)

31号建物の東南部に重複する、梁行2間（4.86～4.90m）・桁行3間（7.25m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径30～48cm・深さ26～55cmを測る。主軸方位は、N3°Wである。

S B-35 (第74図)

南縁中央付近に位置した、梁行1間（3.64～3.90m）・桁行5間（9.02～9.20m）と推定される東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径35～47cm・深さ36～48cmを測る。主軸方位は、N81°Eである。

S B-36 (第74図)

35号建物の南に位置した、梁行2間（4.08～4.36m）・桁行3間（6.35～6.44m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径35～47cm・深さ36～48cmを測る。主軸方位は、N81°Eである。

S B-37 (第74図)

20・21号建物と重複した、梁行2間（4.67～5.42m）・桁行4間（8.17～8.34m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径15～39cm・深さ8～51cmを測る。主軸方位は、N89°Eである。

S B-38 (第74図)

35号建物の東側に重複した、梁行2間（3.30～3.60m）・桁行3間（5.60～6.44m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径29～50cm・深さ9～57cmを測る。主軸方位は、N4°Wである。

S B-39 (第75図)

38号建物の東側に重複した、梁行2間（4.40～4.66m）・桁行3間（7.34～7.36m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径30～56cm・深さ27～58cmを測る。主軸方位は、N1°Eである。

S B-40 (第75図)

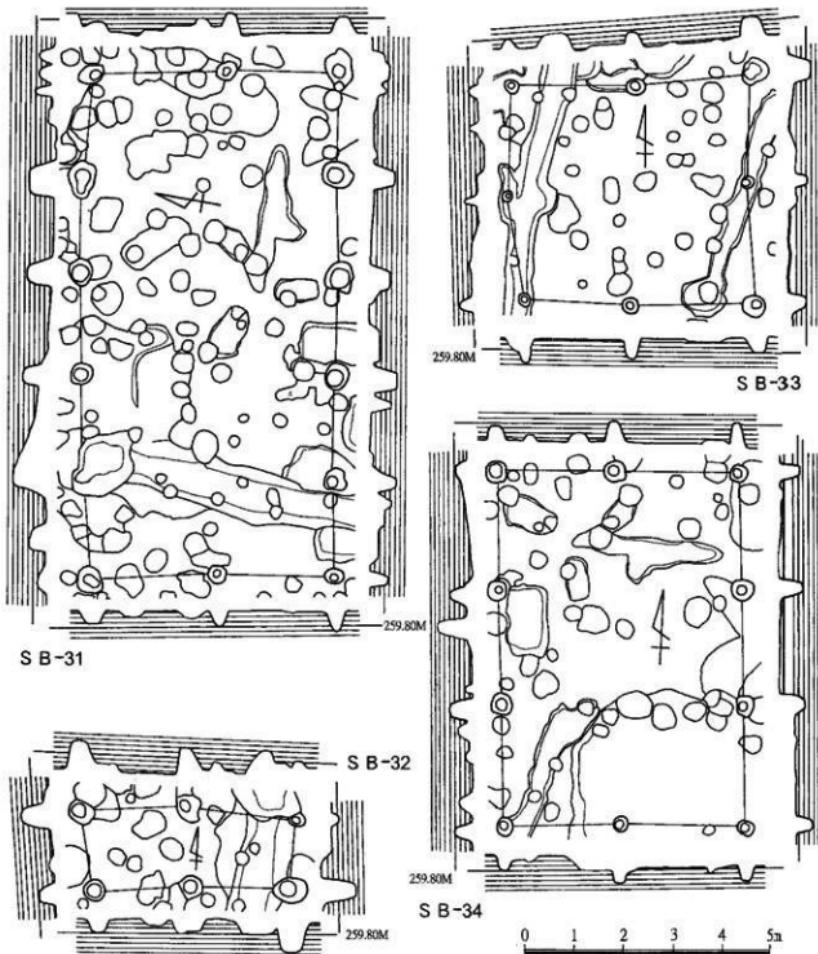
20号建物の東側に重複した、梁行2間（4.47～4.61m）・桁行3間（6.45～6.70m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径26～45cm・深さ20～63cmを測る。主軸方位は、N4°Wである。

S B-41 (第75図)

07号建物の南東部と重複した、梁行1間 (2.10~2.14m)・桁行3間 (6.84~6.94m) の東西方向の身舎の、南面に廻が付く。柱穴の規模は、直径30~52cm・深さ10~53cmを測る。主軸方位は、N82°Eである。

S B-42 (第76図)

41号建物に重複した、梁行2間 (4.80m)・桁行3間 (6.84~6.94m) の東西方向の身舎の、南

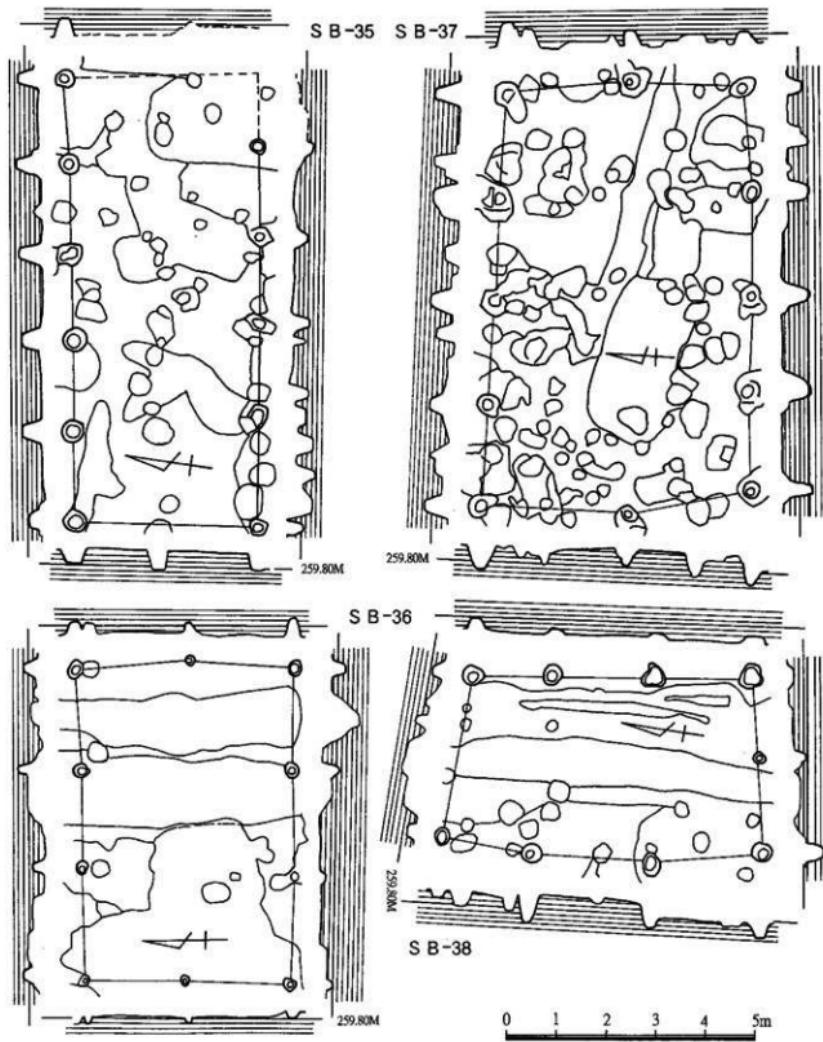


第73図 S B-31~34 遺構実測図

面に幅半間の窓が付く。柱穴の規模は、直径30~52cm・深さ10~53cmを測る。主軸方位は、N82°Eである。

S B-43 (第76図)

06号建物に重複した、梁行2間(5.0~5.08m)・桁行4間(7.82~7.90m)の東西方向の建物



第74図 S B-35~38 遺構実測図

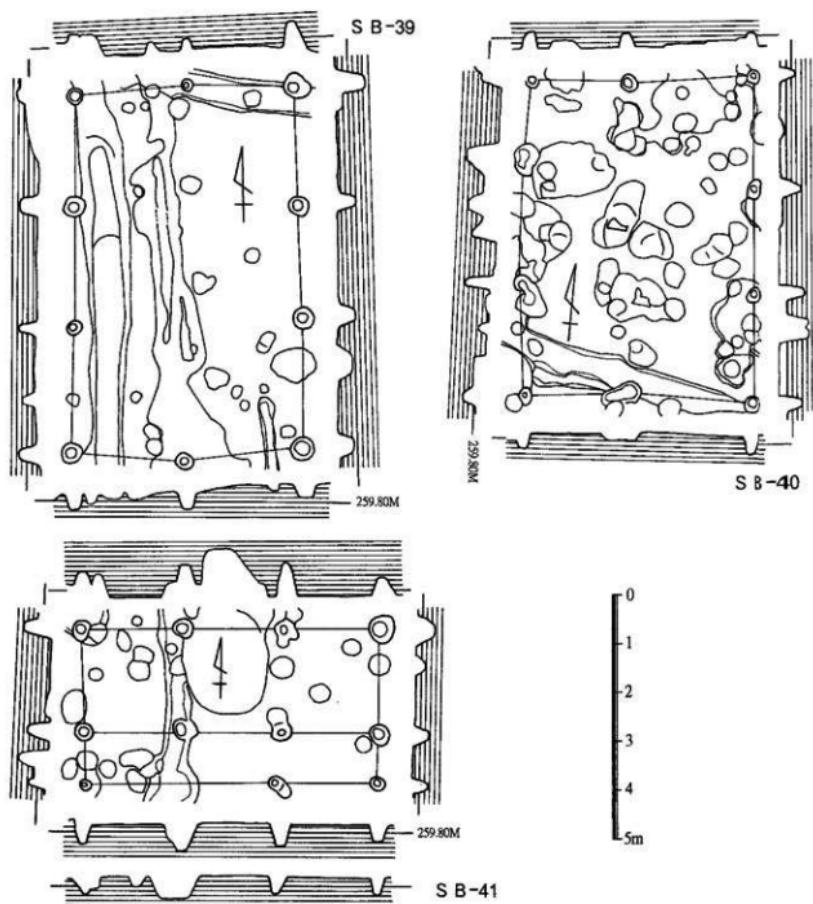
である。柱穴の規模は、直径34~49cm・深さ26~50cmを測る。主軸方位は、N81°Eである。

S B-44 (第76図)

06号建物の北西部に重複した、梁行2間(3.82~4.0m)・桁行2間(4.45~4.47m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径25~50cm・深さ10~54cmを測る。主軸方位は、N 5°Wである。

S B-45 (第76図)

06号建物に重複した、梁行2間(4.88~4.95m)・桁行2間(5.90m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径33~64cm・深さ34~50cmを測る。主軸方位は、N87°Eである。

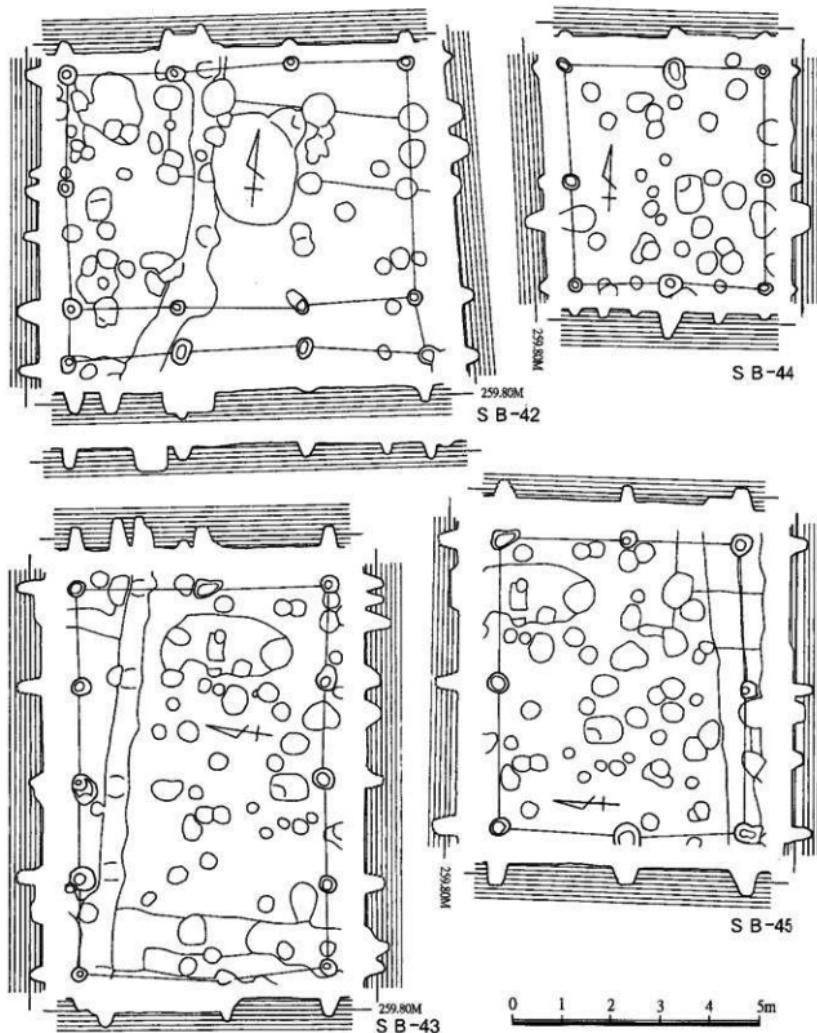


第75図 S B-39~41 遺構実測図

S B-46 (第77図)

06号建物の西部に重複した、梁行2間(4.24~4.47m)・桁行2間(4.32~4.52m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径33~60cm・深さ17~49cmを測る。主軸方位は、N 3°Wである。

S B-47 (第77図)



第76図 S B-42~45 造構実測図

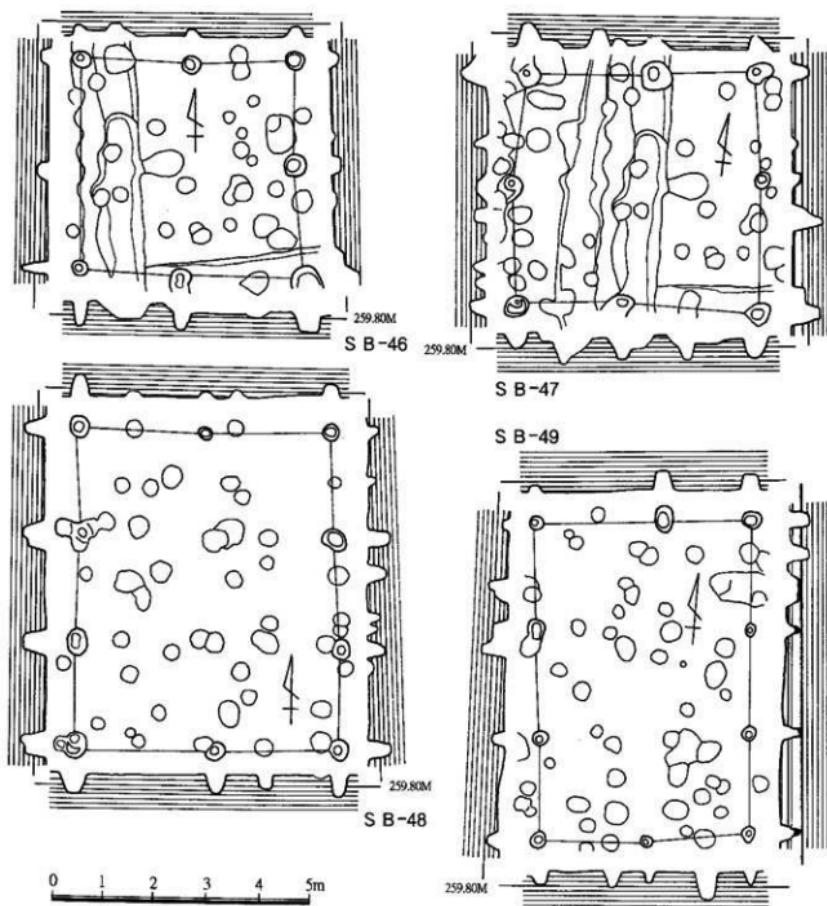
46号建物と重複した、梁行2間(4.65~4.86m)・桁行2間(4.68~4.96m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径30~65cm・深さ14~60cmを測る。主軸方位は、N 9°Wである。

S B-48 (第77図)

07号建物の南東に位置した、梁行2間(4.98~5.17m)・桁行3間(6.50~6.60m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径26~63cm・深さ13~47cmを測る。主軸方位は、北である。

S B-49 (第77図)

48号建物の南に位置した、梁行2間(4.28~4.40m)・桁行3間(6.42~6.48m)の南北方向の



第77図 S B-46~49 造構実測図

建物である。柱穴の規模は22~52cm・深さは12~38cmを測る。主軸方位は、N 4°Wである。

S B-50 (第78図)

49号建物と重複した、梁行2間(3.96~4.0m)・桁行3間(5.88~5.98m)の東西方向の身舎の4面に廟が付く。柱穴の規模は、直径19~50cm・深さ9~54cmを測る。主軸方位は、N 86°Eである。

S B-51 (第78図)

50号建物と重複した、梁行2間(3.80~4.0m)・桁行3間(6.60~6.70m)の南北方向の身舎の東面に幅半間の廟が付く。柱穴の規模は、直径19~41cm・深さ12~40cmを測る。主軸方位は、N 5°Wである。

S B-52 (第78図)

50・51号建物と重複した、梁行2間(3.54~3.66m)・桁行3間(5.88~6.12m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22~38cm・深さ17~33cmを測る。主軸方位は、N 79°Eである。

S B-53 (第79図)

調査区の南東部に位置した、梁行1間(4.20~4.28m)・桁行4間(8.32~8.50m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径27~71cm・深さ21~39cmを測る。主軸方位は、N 86°Wである。

S B-54 (第79図)

53号建物の北に位置した、梁行1間(4.56~4.67m)・桁行3間(6.16~6.28m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径30~38cm・深さ21~39cmを測る。主軸方位は、N 86°Eである。

S B-55 (第79図)

54号建物の北東部と重複した、梁行1間(3.10~3.14m)・桁行3間(5.60~5.63m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径23~41cm・深さ23~34cmを測る。主軸方位は、N 9°Wである。

S B-56 (第79図)

55号建物と重複した、梁行2間(3.38~3.50m)・桁行3間(5.90~6.16m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径25~50cm・深さ20~51cmを測る。主軸方位は、N 77°Eである。

S B-57 (第79図)

07号建物の東に隣接した、梁行2間(4.02m)・桁行2間(4.0~4.10m)の方形の建物である。柱穴の規模は、直径52~67cm・深さ43~87cmを測る。主軸方位は、N 80°Eである。

S B-58 (第80図)

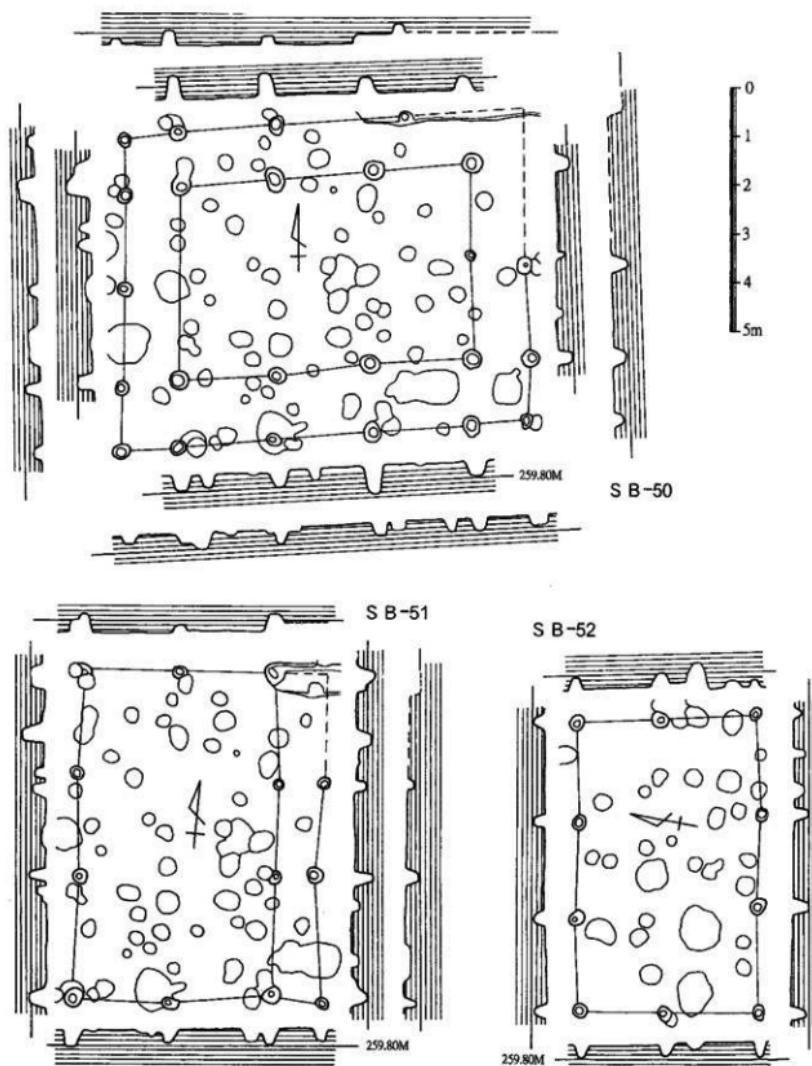
54号建物の東に位置した、梁行2間(2.98~3.40m)・桁行2間(4.96~5.01m)の東西方向の建物と推定したが、歪みと柱穴の欠陥・不揃いから建物として成立しない可能性がある。柱穴の規模は、直径26~40cm・深さ20~38cmを測る。主軸方位は、N 80°Eである。

S B-59 (第80図)

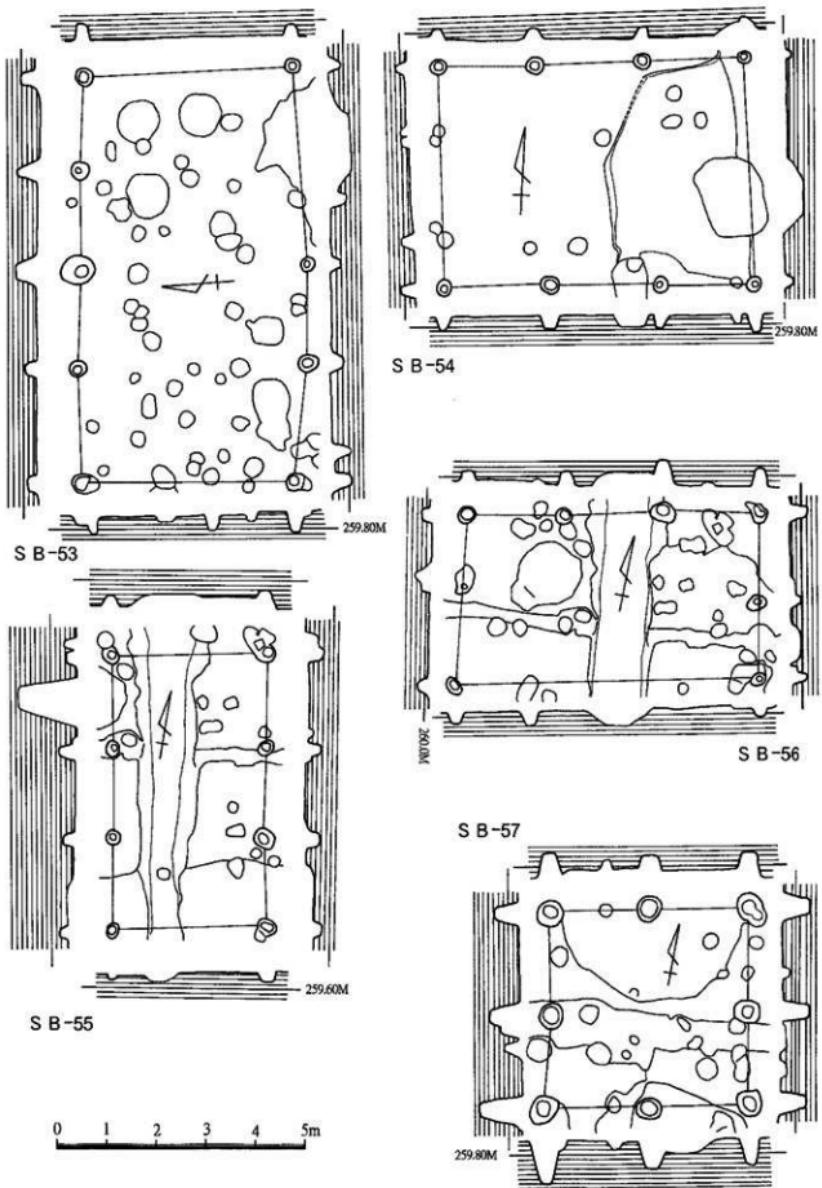
58号建物と重複した、梁行2間(4.65~4.76m)・桁行3間(6.0~6.06m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径19~37cm・深さ17~41cmを測る。主軸方位は、N 13°Wである。

S B-60 (第80図)

58号建物に北接した、梁行2間（3.85～3.95m）・桁行2間（5.82～6.0m）の東西方向の身舎の4面に廟が付くと推定される。ただ、東と南の廟の幅は65～75cmと狭く、西の廟の幅は1.4m前後もあり、通常より広い。西の柱穴3基は底面の長さが1m前後もある土坑状を呈し、身舎の柱穴



第78図 SB-50～52 造構実測図

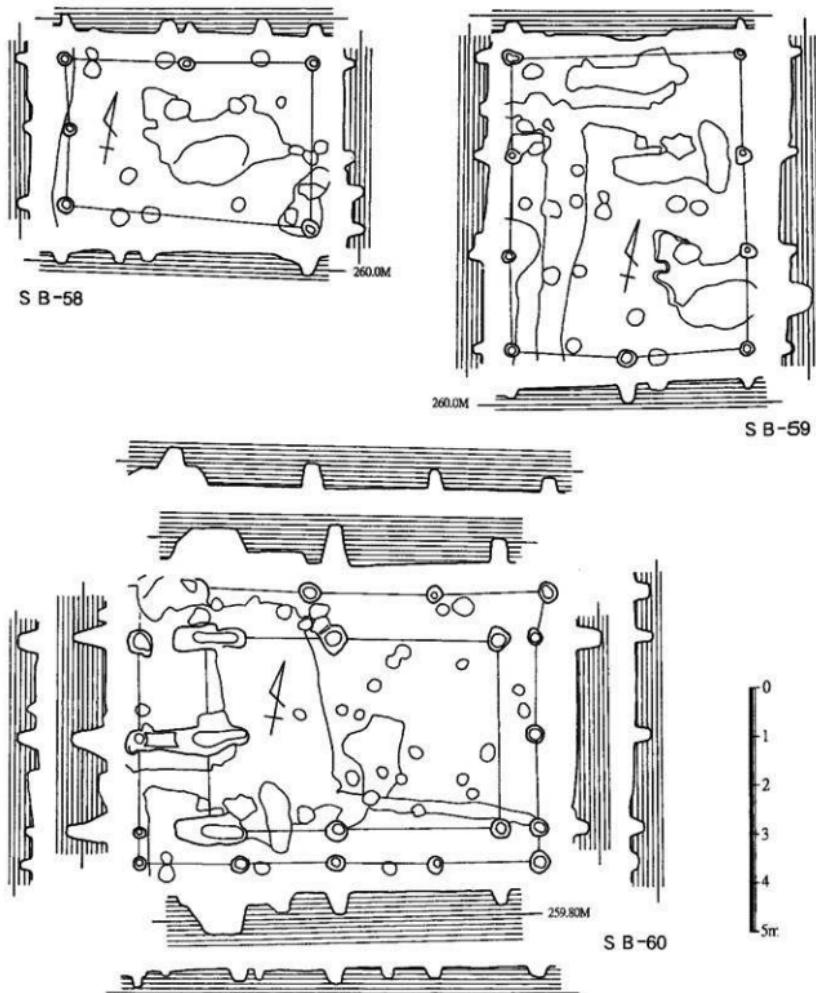


第79図 S B-53~57 造構実測図

の位置は明確ではない。さらに中央の柱穴は廂まで伸びた布掘りになっている。柱穴の規模は、直徑20~58cm・深さ16~77cmである。主軸方位は、N80°Eである。

S B-61 (第81図)

60号建物の北に位置した、梁行2間(3.92~3.98m)・桁行4間(7.90~7.98m)の東西方向の身舎の、北面に廂が付き、身舎中央にも柱穴を有する建物である。柱穴の規模は、直徑19~68cm・



第80図 S B-58~60 遺構実測図

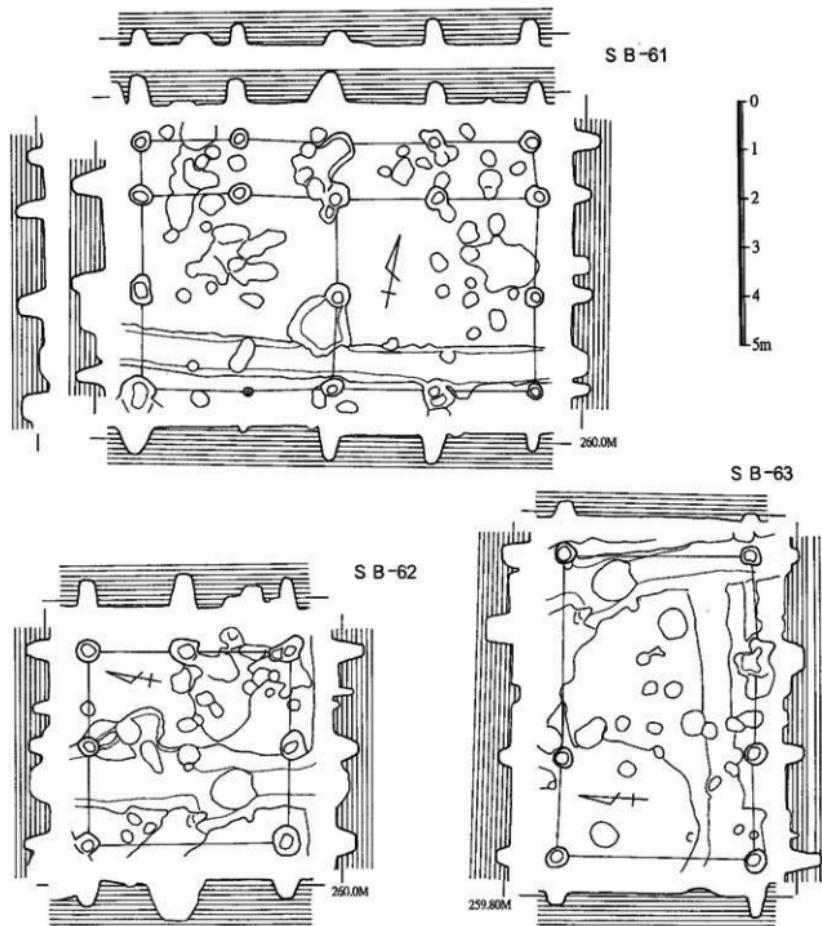
深さ10~60cmを測る。主軸方位は、N78°Eである。

S B-62 (第81図)

61号建物の西に位置した、梁行2間(3.90~3.95m)・桁行2間(3.97~4.0m)の方形の建物である。柱穴の規模は、直径37~57cm・深さ40~64cmを測る。主軸方位は、N11°Wである。

S B-63 (第81図)

62号建物の西に位置した、梁行1間(3.77~3.98m)・桁行3間(6.15~6.19m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径39~50cm・深さ37~69cmを測る。主軸方位は、N86°Eである。



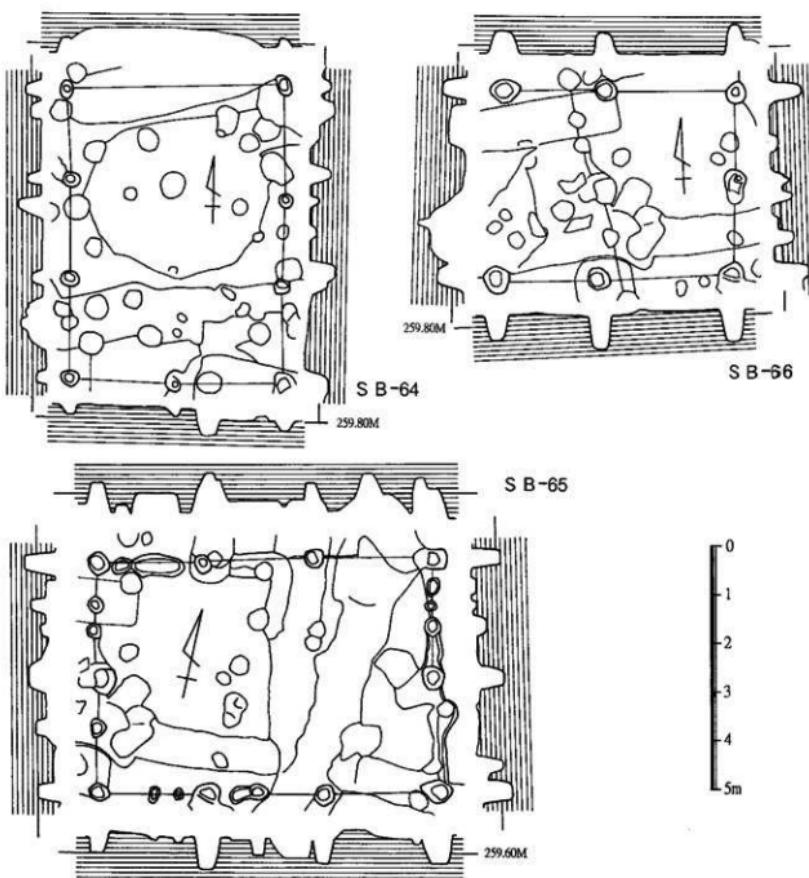
第81図 S B-61~63 造構実測図

S B-64 (第82図)

57・63号建物と重複した、梁行2間(4.30~4.36m)・桁行3間(5.92~6.10m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径27~37cm・深さ17~48cmを測る。主軸方位は、N 1°Wである。

S B-65 (第82図)

08号建物の西に位置した、梁行2間(4.72~4.80m)・桁行3間(6.72~6.85m)の東西方向の布掘り建物である。北西部と東梁に浅い溝状の布掘りの痕跡と、両梁・南桁の西半部に間柱が認められ、土壁の建物が想定される。柱穴の規模は、直径40~62cm・深さ45~71cmを測る。主軸方位は、N 79°Eである。



第82図 S B-64~66 造構実測図

S B-66 (第82図)

65号建物の西側に重複した、梁行2間(3.72~3.90m)・桁行2間(4.68~4.75m)の東西方向の建物で、総柱の可能性もある。柱穴の規模は、直径40~62cm・深さ38~73cmを測る。主軸方位は、N87°Wである。

S B-67 (第83図)

調査区の中央に位置した、梁行2間(4.32m)・桁行3間(5.85~5.90m)の南北方向の身舎の4面に幅半間の扉が付く。柱穴の規模は、直径20~58cm・深さ20~68cmを測る。主軸方位は、N3°Eである。

S B-68 (第83図)

67号建物と重複した、梁行2間(4.32m)・桁行4間(8.16~8.27m)の東西方向の身舎の、北面に幅半間の扉が付く。柱穴の規模は、直径24~57cm・深さ15~57cmを測る。主軸方位は、N84°Eである。

S B-69 (第84図)

68号建物の北側と重複した、梁行2間(5.35m)・桁行3間(6.53~6.63m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径32~62cm・深さ23~47cmを測る。主軸方位は、N88°Wである。

S B-70 (第84図)

69号建物の北西部に重複した、梁行2間(3.60~3.78m)・桁行2間(4.38~4.42m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23~37cm・深さ15~31cmを測る。主軸方位は、N88°Wである。

S B-71 (第84図)

50号建物と65号建物の中間に位置した、梁行2間(4.0m)・桁行3間(6.0m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23~44cm・深さ19~53cmを測る。主軸方位は、N83°Eである。

S B-72 (第84図)

71号建物の東に位置した、梁行1間(3.0~3.05m)・桁行3間(5.92~6.12m)の南北方向の身舎の、西面に幅2m前後の扉が付く。柱穴の規模は、直径25~53cm・深さ36~61cmを測る。主軸方位は、N2°Wである。

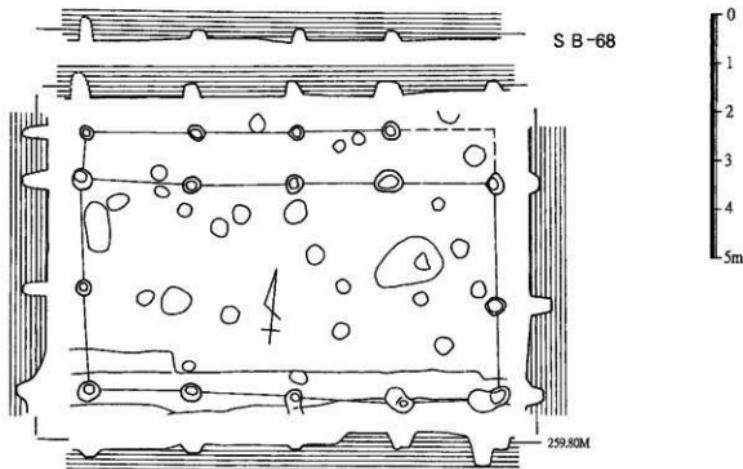
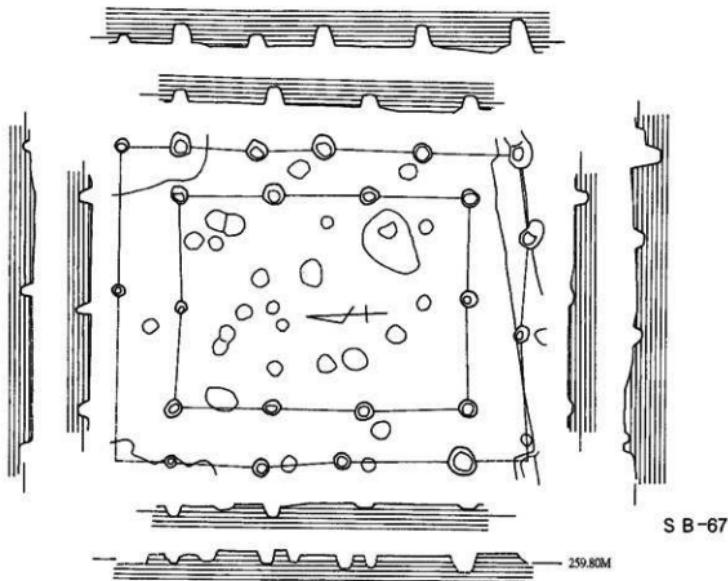
S B-73 (第85図)

72号建物の西に位置した、梁行1間(2.79~3.34m)・桁行3間(5.96~6.02m)の南北方向の身舎の、西と東面に幅60~112cmの扉が付く。柱穴の規模は、直径28~37cm・深さ28~45cmを測る。主軸方位は、北である。

S B-74 (第85図)

73号建物の南に位置した、梁行2間(3.82~4.02m)・桁行2間(4.25~4.34m)のやや東西に長い身舎の、北と東に扉が付く。柱穴の規模は、直径24~44cm・深さ9~47cmを測る。主軸方位は、N86°Wである。

S B-75 (第85図)



第83図 SB-67・68 遺構実測図

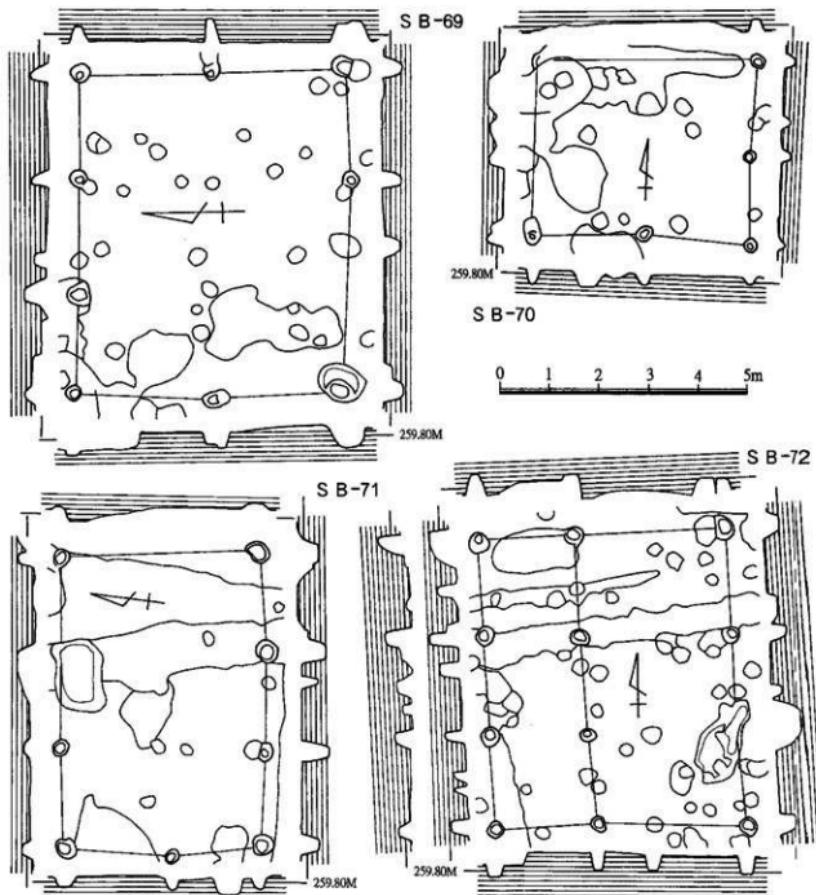
74号建物と重複した、梁行1間（4.04～4.14m）・桁行3間（6.60～6.80m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径25～54cm・深さ24～47cmを測る。主軸方位は、東西である。

S B-76（第86図）

74・75号建物の東に位置した、梁行2間（3.10～3.20m）・桁行2間（3.26m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径27～40cm・深さ22～31cmを測る。主軸方位は、N 1°Wである。

S B-77（第86図）

08号建物の南東部に位置した、梁行2間（3.90m）・桁行3間（5.32～5.38m）の南北方向の身



第84図 S B-69～72 遺構実測図

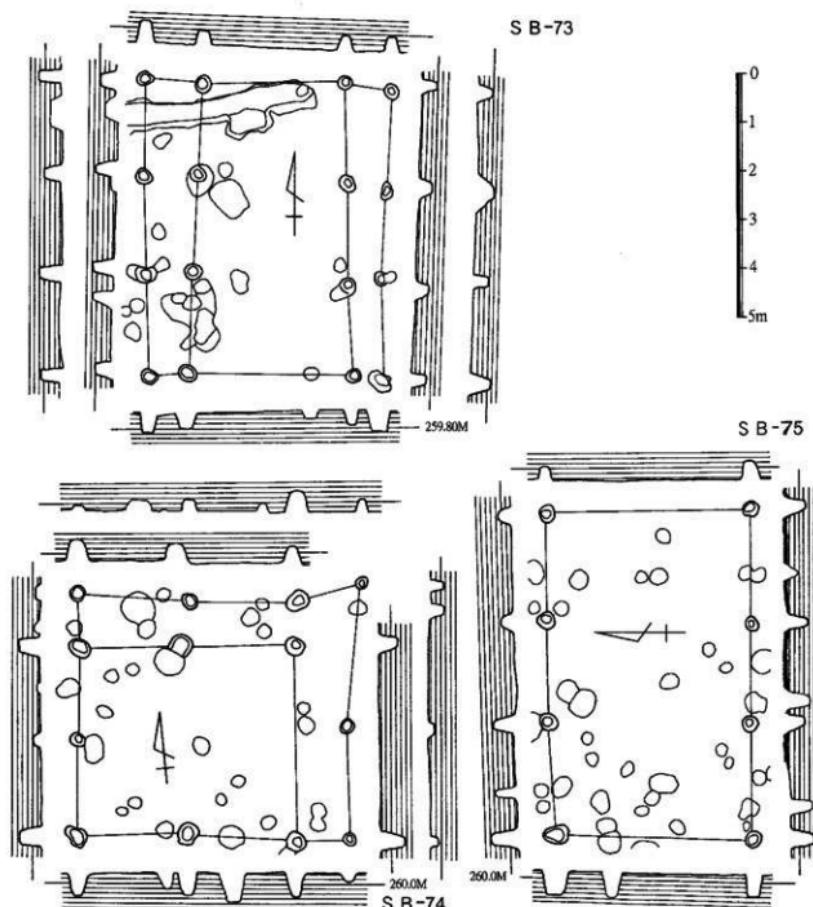
舎の、南面に扉が付く。柱穴の規模は、直径14~48cm・深さ19~50cmを測る。主軸方位は、N10°Wである。

S B-78 (第86図)

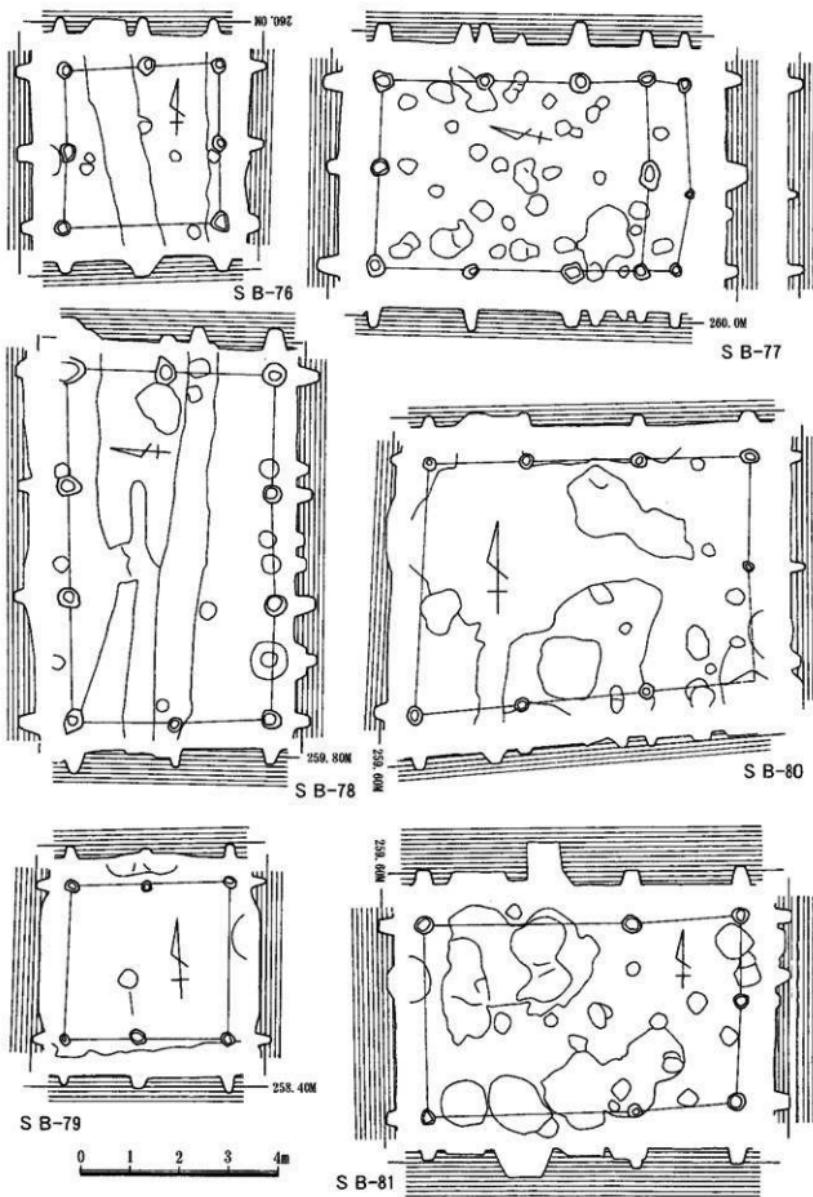
調査区の中央西寄りに位置した、梁行2間(4.0~4.10m)・桁行3間(7.03~7.18m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径14~48cm・深さ19~50cmを測る。主軸方位は、N87°Eである。

S B-79 (第86図)

調査区の中央付近、05号建物の東部に重複した、梁行1間(3.14~3.28m)・桁行2間(3.20~



第85図 S B-73~75 遺構実測図



第86図 S B-76~81 遺構実測図

3.30m) の方形の建物である。柱穴の規模は、直径16~35cm・深さ22~31cmを測る。主軸方位は、N 2° Eである。

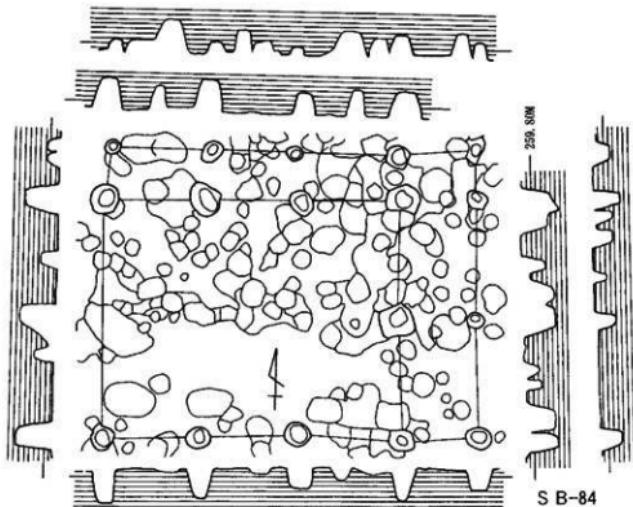
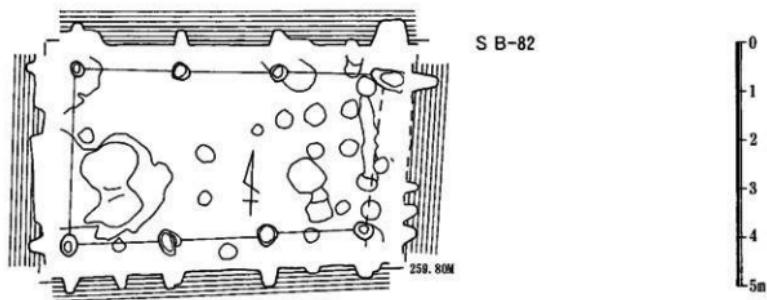
S B-80 (第86図)

中央やや北西寄りに位置した、梁行2間(4.60~5.18m)・桁行3間(6.53~6.90m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径18~39cm・深さ11~27cmを測る。主軸方位は、N 88° Eである。

S B-81 (第86図)

中央やや北寄りに位置した、梁行2間(3.82~3.96m)・桁行3間(6.27~6.45m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径28~40cm・深さ19~40cmを測る。主軸方位は、N 89° Eである。

S B-82 (第87図)



第87図 S B-82・84 遺構実測図

81号建物の北側と重複した、梁行1間（3.15～3.64m）・桁行3間（5.98～6.20m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径31～43cm・深さ29～57cmを測る。主軸方位は、N88°Eである。

S B-83 (第88図)

05号建物の北西に位置した、梁行2間（3.94～4.0m）・桁行6間（11.70～11.84m）の南北方向の身舎の、南面に廟、南東部に2×2間の張り出しが付く。柱穴の規模は、直径30～54cm・深さ21～56cmを測る。主軸方位は、N 1°Wである。形態から、近世に入ると推定される。

S B-84 (第87図)

05号建物の北に位置した、梁行2間（4.90～4.96m）・桁行3間（6.0m）の東西方向の身舎の、北～東面に廟が付く。柱穴の規模は、直径27～67cm・深さ18～70cmを測る。主軸方位は、N88°Eである。

S B-85 (第89図)

05号建物の北に位置した、梁行2間（3.86～4.0m）・桁行4間（7.84～7.90m）の東西方向の総柱の身舎の、4面に廟が付く。柱穴の規模は、直径28～67cm・深さ14～76cmを測る。主軸方位は、N88°Eである。

S B-86 (第90図)

中央北寄りに位置した、梁行2間（4.75～4.82m）・桁行4間（7.90m）の南北方向の身舎の、西と東面に幅半間の廟が付く。柱穴の規模は、直径27～67cm・深さ32～72cmを測る。主軸方位は、N 1°Wである。

S B-87 (第90図)

中央北東寄りに位置した、梁行2間（4.86m）・桁行2間（4.90m）の方形の身舎の、東～南面に廟が付く。柱穴の規模は、直径33～70cm・深さ38～91cmを測る。主軸方位は、北である。

S B-88 (第91図)

86号建物の北側に重複した、梁行2間（4.32～4.40m）・桁行3間（6.0～6.18m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径33～65cm・深さ28～72cmを測る。主軸方位は、東西である。

S B-89 (第91図)

中央北寄りに位置した、梁行2間（3.44～3.90m）・桁行4間（7.33～7.58m）の東西方向の身舎の、西～北～東面に廟が付く。柱穴の規模は、直径23～55cm・深さ24～53cmを測る。主軸方位は、東西である。

S B-90 (第91図)

05号建物の北東に位置した、梁行2間（3.86～4.0m）・桁行2間（4.90m）の東西方向の身舎の西面に廟が付く。柱穴の規模は、直径24～63cm・深さ32～69cmを測る。主軸方位は、N89°Wである。

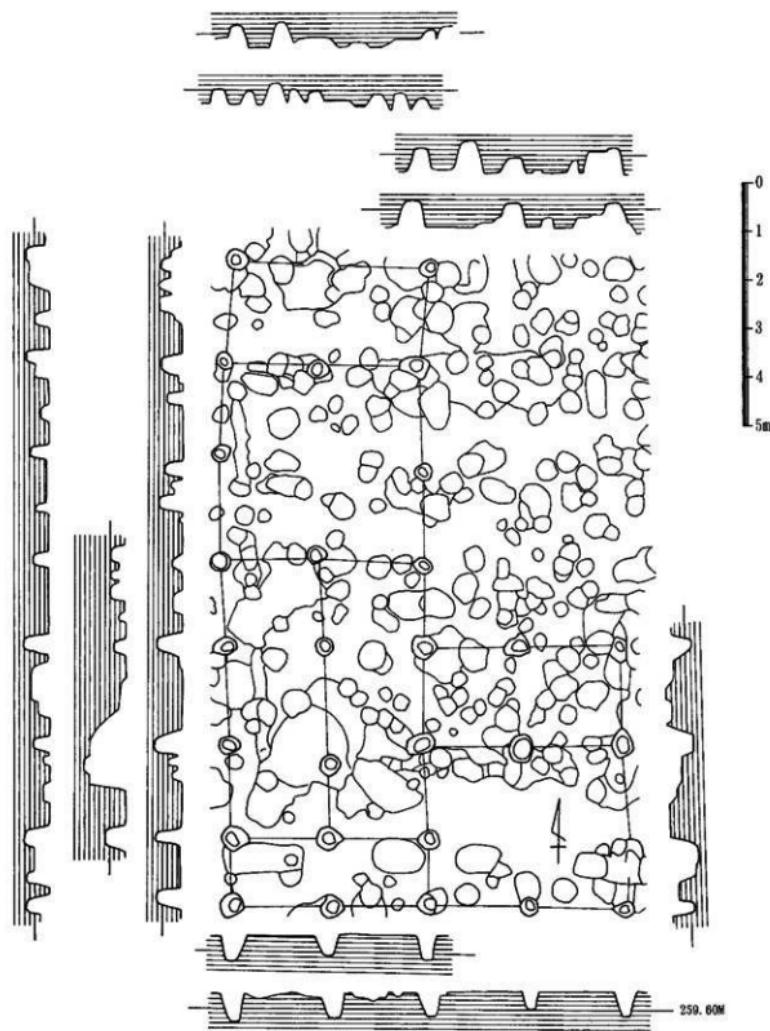
S B-91 (第92図)

90号建物の南に位置した、梁行2間（4.54～4.68m）・桁行3間（6.42～6.52m）の南北方向の総柱建物である。柱穴の規模は、直径24～80cm・深さ28～73cmを測る。主軸方位は、N89°Eである。

S B-92 (第92図)

05号建物の北東に位置した、梁行2間（4.90～4.96m）・桁行5間（9.80～10.12m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23～43cm・深さ18～43cmを測る。主軸方位は、N79°Eである。

S B-93 (第92図)



第88図 S B-83 造構実測図

92号建物の南西部に重複した、梁行2間（3.04m）・桁行3間（6.10~6.17m）の建物である。柱穴の規模は、直径24~60cm・深さ23~35cmを測る。主軸方位は、東西である。

S B-94 (第93図)

05号建物の東に重複した、梁行2間（4.28~4.40m）・桁行3間（6.22~6.27m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径26~44cm・深さ11~41cmを測る。主軸方位は、N 3°Wである。

S B-95 (第93図)

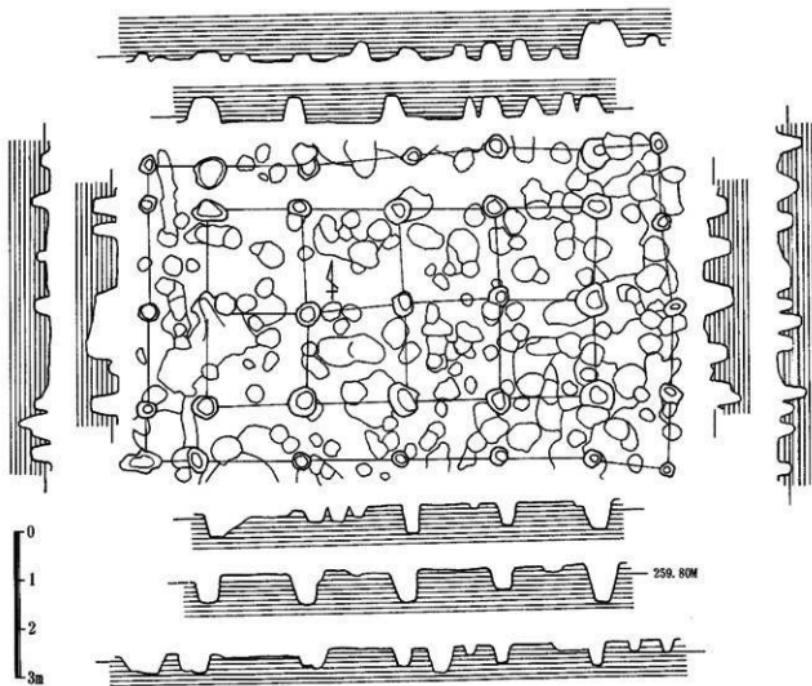
94号建物の東に位置した、梁行2間（4.24~4.30m）・桁行3間（6.20~6.40m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径22~57cm・深さ33~50cmを測る。主軸方位は、N 3°Wである。

S B-96 (第93図)

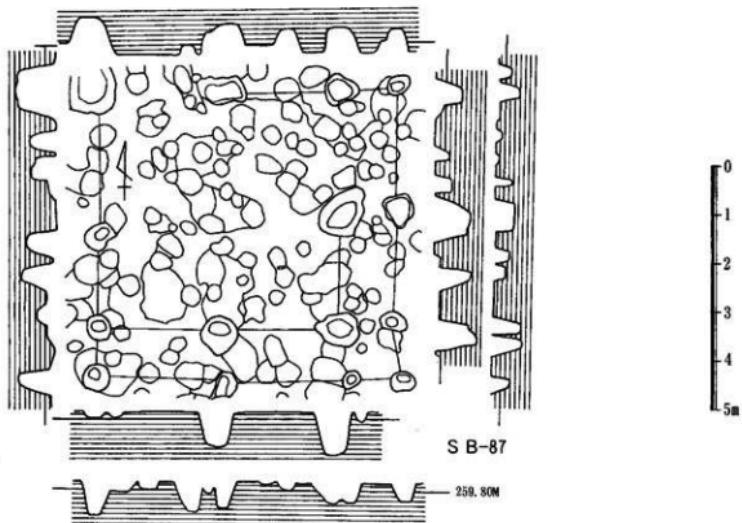
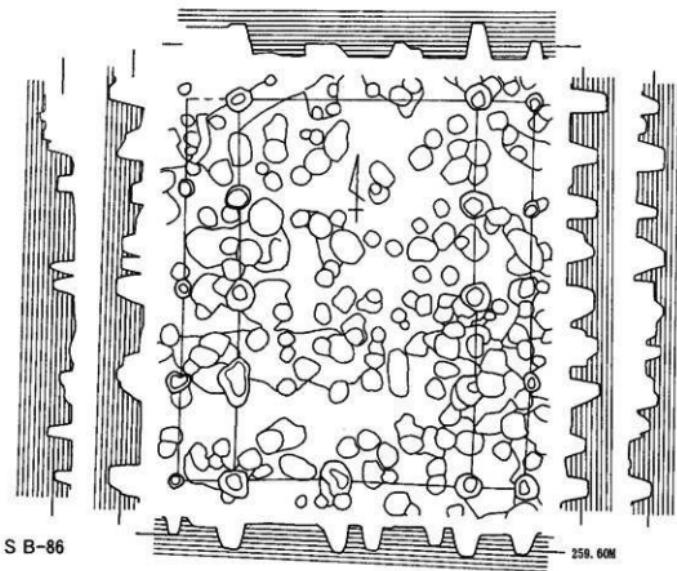
調査区の北西部に位置した、梁行1間（3.58~3.76m）・桁行3間（6.80~7.20m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径30~60cm・深さ20~40cmを測る。主軸方位は、N 1°Wである。

S B-97 (第93図)

96号建物と重複した、梁行1間（3.48m）・桁行3間（6.40~6.52m）の南北方向の建物である。



第89図 S B-85 造構実測図



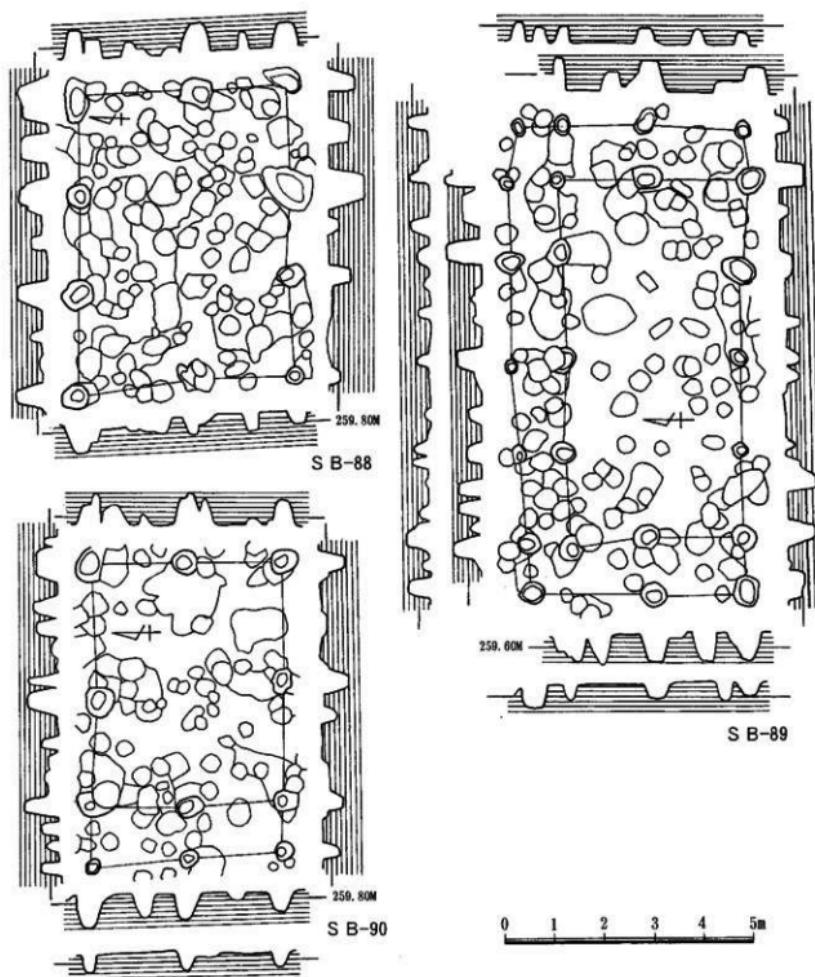
第90図 S B-86・87 遺構実測図

柱穴の規模は、直径23~63cm・深さ21~40cmを測る。主軸方位は、N 1°Wである。

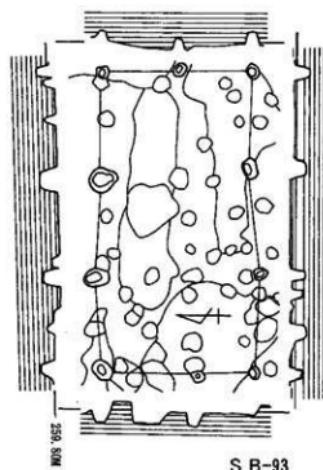
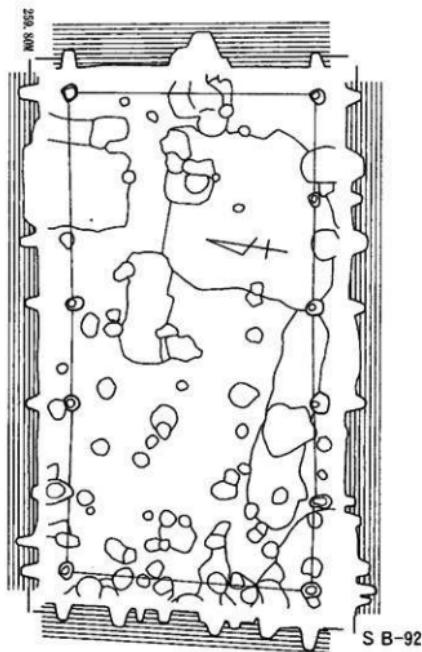
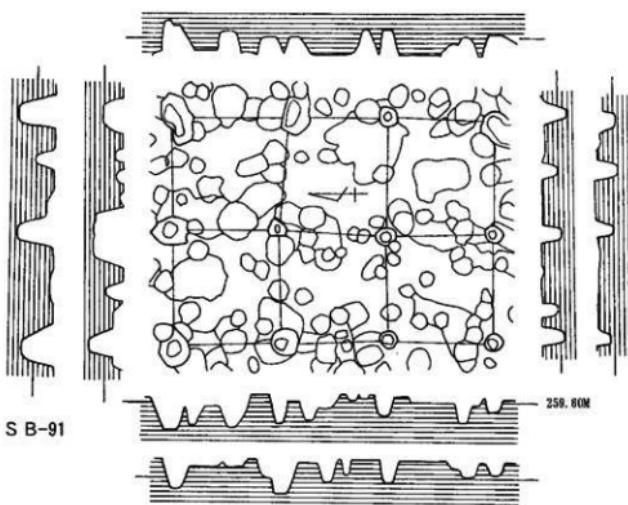
S B-98 (第93図)

96・97号建物の北東に位置した、梁行2間(4.90m)・桁行3間(6.56m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径33~62cm・深さ33~43cmを測る。主軸方位は、北である。

S B-99 (第94図)

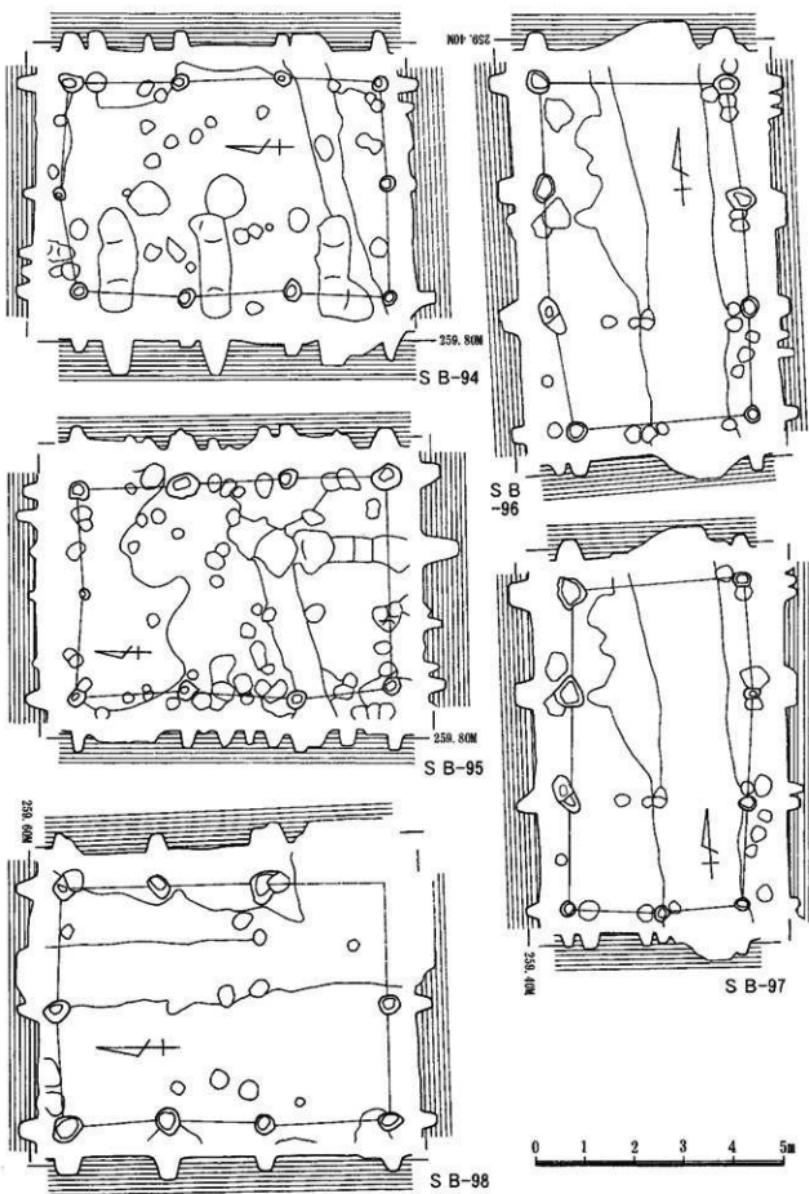


第91図 S B-88~90 遺構実測図



0 1 2 3 4 5m

第92図 S B-91~93 造構実測図



第93図 S B-94~98 遺構実測図

98号建物の北側と重複した、梁行2間(4.65~4.90m)・桁行4間(8.58~8.61m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径33~46cm・深さ32~69cmを測る。主軸方位は、N 84°Wである。

S B-100 (第94図)

調査区の中央北に位置した、梁行1間(3.62m)・桁行3間(5.84~5.92m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径32~46cm・深さ30~56cmを測る。主軸方位は、N 6°Wである。

S B-101 (第95図)

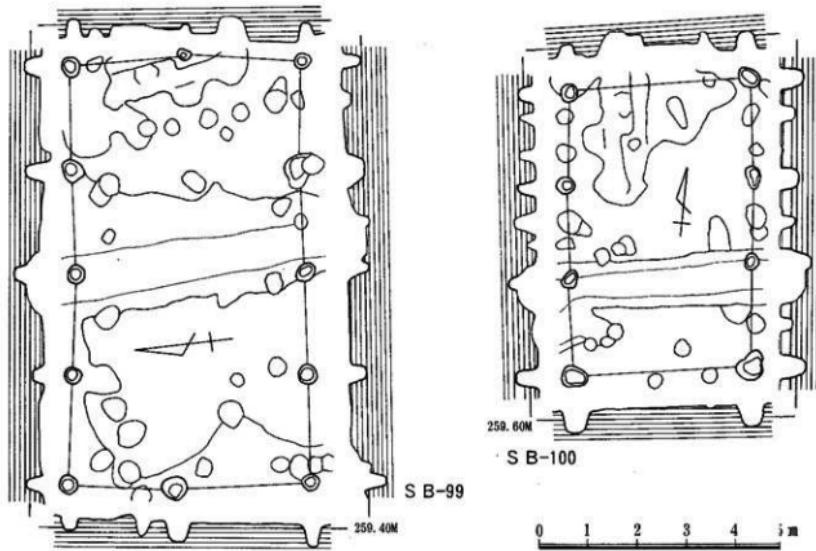
100号建物の東に位置した、梁行2間(6.18~6.37m)・桁行5間(9.84~10.08m)の東西方向の身舎の、北~西~南面に廂が付く。身舎の面積は62.5m²、廂も含めると96.7m²の建物で、大型の部類である。柱穴の規模は、直径21~47cm・深さ19~62cmを測る。主軸方位は、東西である。

S B-102 (第95図)

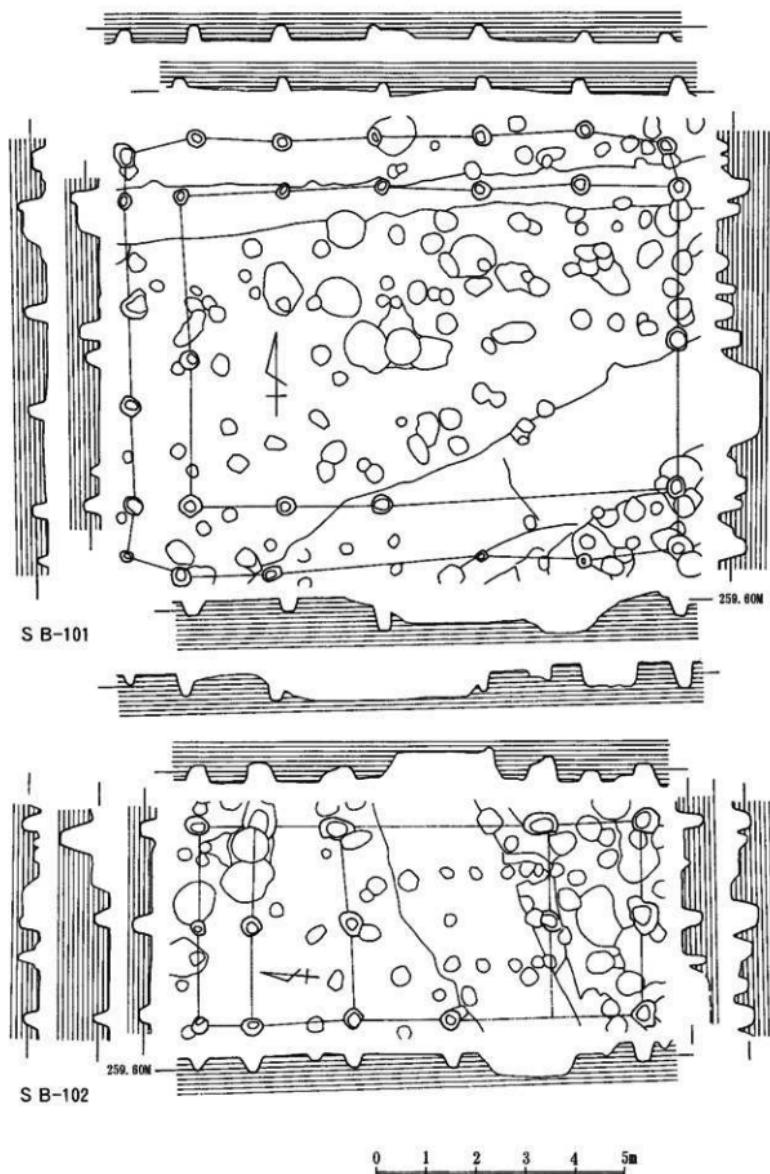
101号建物の南西部に重複した、梁行2間(3.97~4.04m)・桁行4間(7.78~7.90m)の南北方向の身舎の北面に廂が付く。総柱の可能性がある。柱穴の規模は、直径27~68cm・深さ24~51cmを測る。主軸方位は、N 6°Wである。

S B-103 (第96図)

調査区の北縁中央やや東に位置した、梁行2間(3.94~3.98m)・桁行2間(4.16~4.50m)の南北方向の総柱建物である。柱穴の規模は、直径34~58cm・深さ33~70cmを測る。主軸方位は、N 84°Eである。



第94図 S B-99・100 遺構実測図



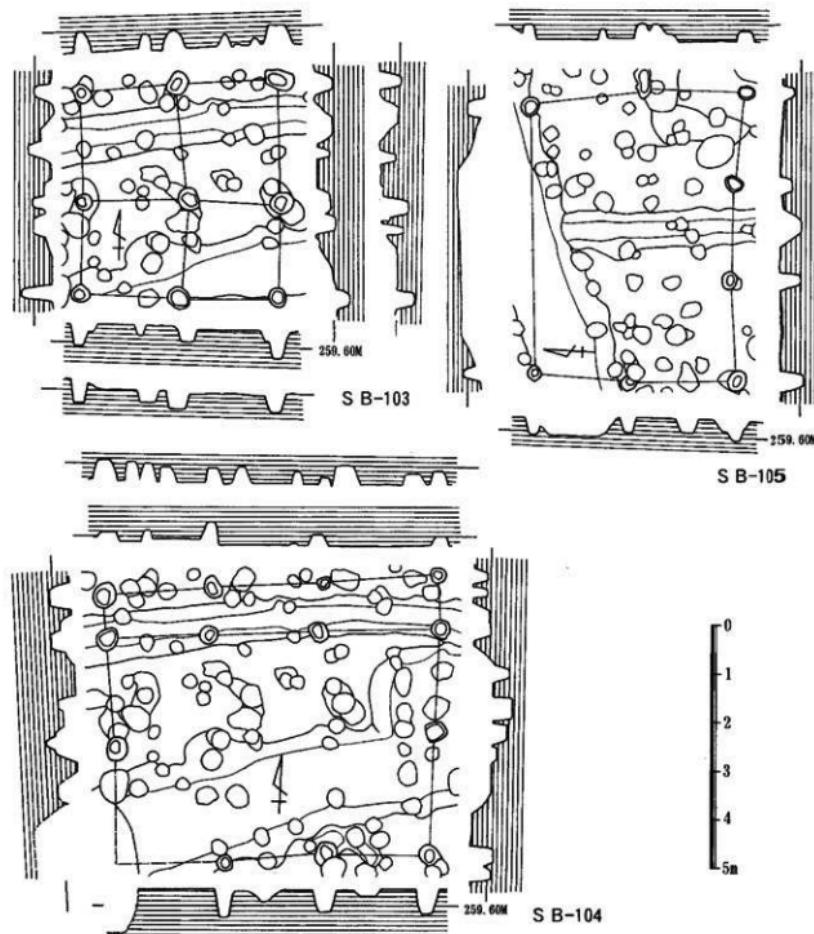
第95図 SB-101・102 造構実測図

S B-104 (第96図)

103号建物と重複した、梁行2間(4.62m)・桁行3間(6.73m)の東西方向の身舎の北面に龜が付く。柱穴の規模は、直径27~42cm・深さ13~75cmを測る。主軸方位は、N86°Eである。

S B-105 (第96図)

104号建物の東に位置した、梁行2間(4.10~4.40m)・桁行3間(5.50~5.94m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径26~45cm・深さ18~43cmを測る。主軸方位は、N89°Eである。



第96図 SB-103~105 造構実測図

S B-106 (第97図)

105号建物の南東に位置した、梁行2間(3.86~3.92m)・桁行3間(5.78~5.92m)の南北方向の身舎の、北~西~南面に扉が付く。柱穴の規模は、直径27~60cm・深さ18~68cmを測る。主軸方位は、N 2°Wである。

S B-107 (第97図)

106号建物の南半分と重複した、梁行2間(4.84~4.98m)・桁行4間(7.82~7.99m)の南北方向の身舎の、4面に幅半間の扉が付く。柱穴の規模は、直径20~48cm・深さ16~75cmを測る。主軸方位は、北である。

S B-108 (第98図)

107号建物の北西部と重複した、梁行2間(4.60~4.94m)・桁行4間(8.0m)の南北方向の身舎の、西と東面に扉が付く可能性がある。柱穴の規模は、直径31~60cm・深さ18~56cmを測る。主軸方位は、N 85°Eである。

S B-109 (第98図)

108号建物の東に位置した、梁行2間(3.90~3.96m)・桁行2間(3.90m)の方形の身舎の、南面に扉が付く。柱穴の規模は、直径34~63cm・深さ39~83cmを測る。主軸方位は、N 1°Eである。

S B-110 (第98図)

109号建物と重複した、梁行2間(3.92~4.25m)・桁行3間(5.80~6.03m)の東西方向の身舎の、北面に幅半間の扉が付く。柱穴の規模は、直径31~74cm・深さ19~70cmを測る。主軸方位は、東西である。

S B-111 (第99図)

110号建物の南東部に接した、梁行2間(3.90m)・桁行3間(6.16~6.28m)の南北方向の身舎の、西~南~東面に扉が付く。柱穴の規模は、直径16~47cm・深さ9~59cmを測る。主軸方位は、北である。

S B-112 (第99図)

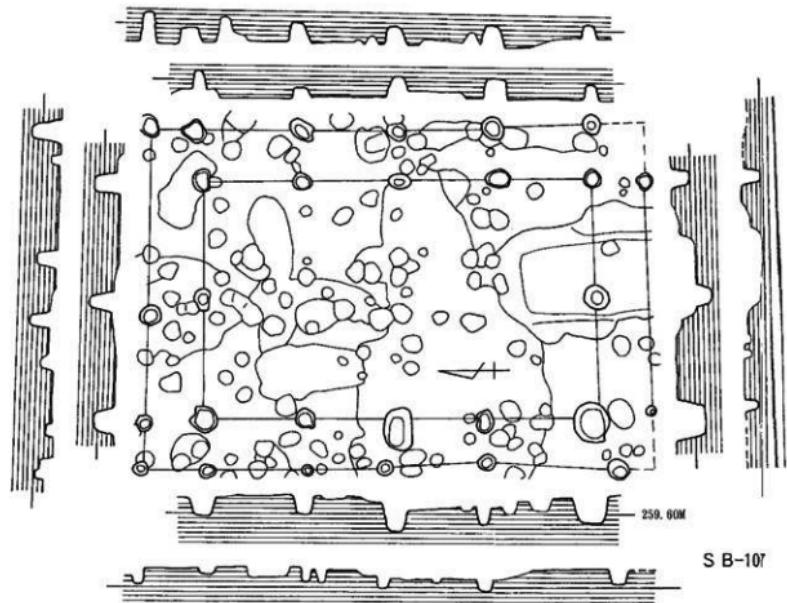
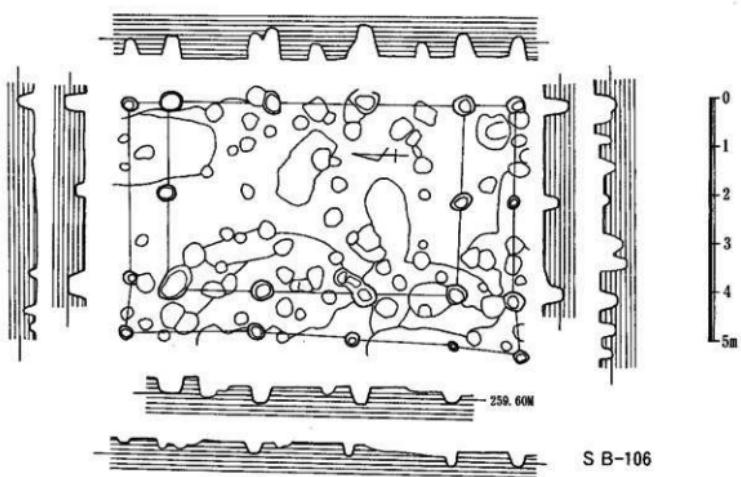
111号と重複した、梁行2間(3.90~4.02m)・桁行3間(5.90~5.98m)の南北方向の身舎の西~南~東面に扉が付く。柱穴の規模は、直径24~55cm・深さ25~75cmを測る。主軸方位は北である。当該遺構は111号建物と相似形であり、同一場所への建て替えであるが、新旧関係は不明瞭である。ただ、111号建物の方が若干柱間が長いので、112号よりも古い可能性がある。

S B-113 (第100図)

111・112号建物の南半部に重複した、梁行2間(3.54~3.88m)・桁行2間(3.76~3.86m)の方形の建物である。柱穴の規模は、直径22~40cm・深さ23~66cmを測る。主軸方位は、北である。

S B-114 (第100図)

113号建物と重複した、梁行2間(3.96~4.0m)・桁行2間(4.13~4.48m)のやや歪んだ方形の建物である。柱穴の規模は、直径24~33cm・深さ28~68cmを測る。主軸方位は、北である。

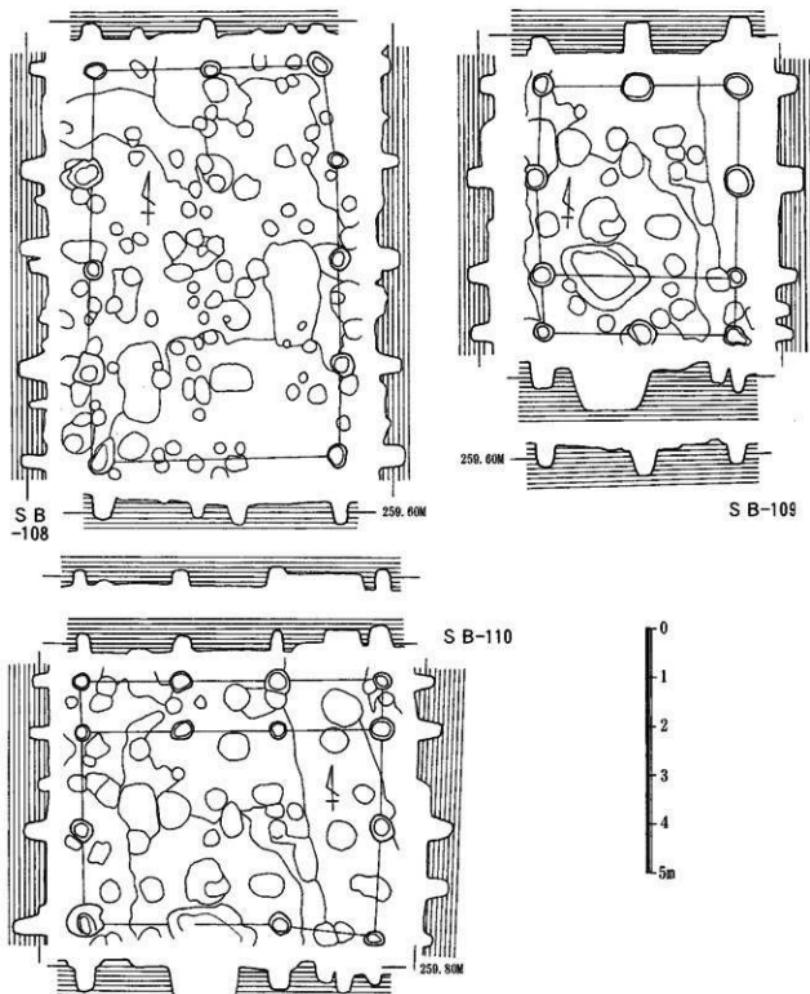


第97図 SB-106・107 造構実測図

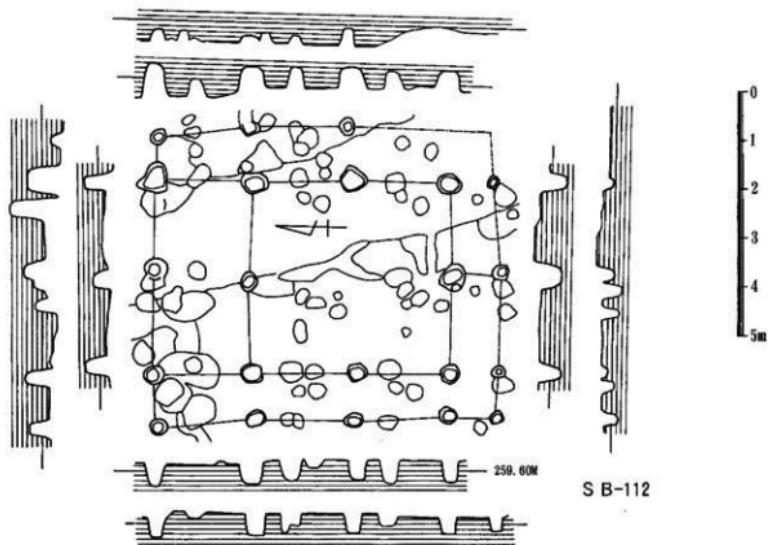
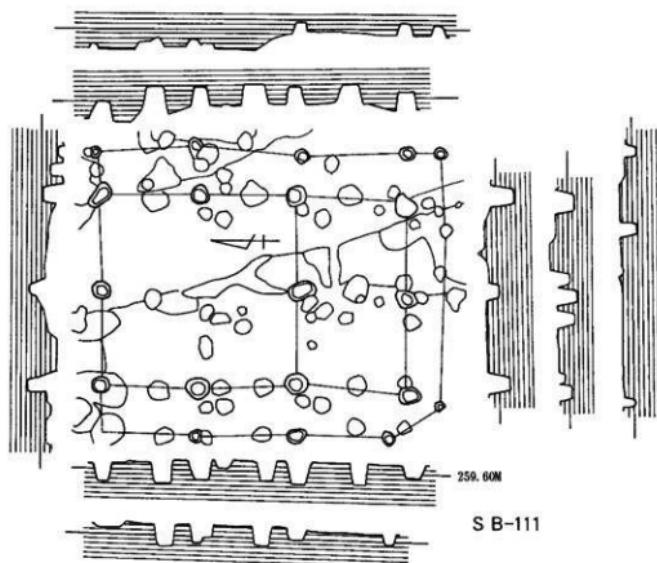
S B-115 (第100図)

111号建物の東に位置した、梁行2間(3.98m)・桁行3間(5.98m)の東西方向の建物である。南桁の2基の柱穴は、土壤基造営時に削除している。柱穴の規模は、直径27~46cm・深さ17~34cmを測る。主軸方位は、N87°Eである。

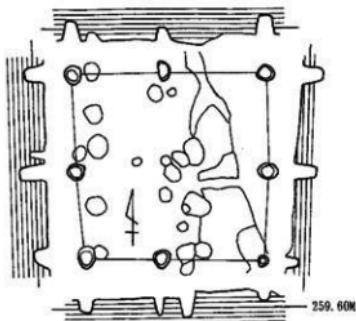
S B-116 (第100図)



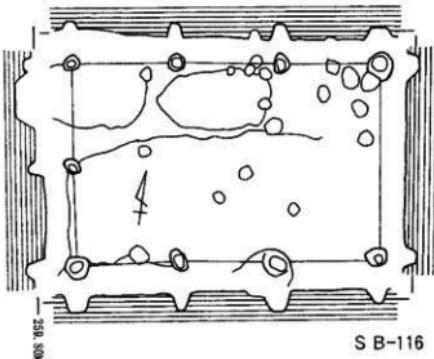
第98図 S B-108~110 遺構実測図



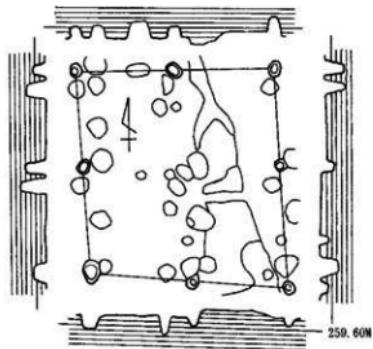
第99図 S B-111・112 造構実測図



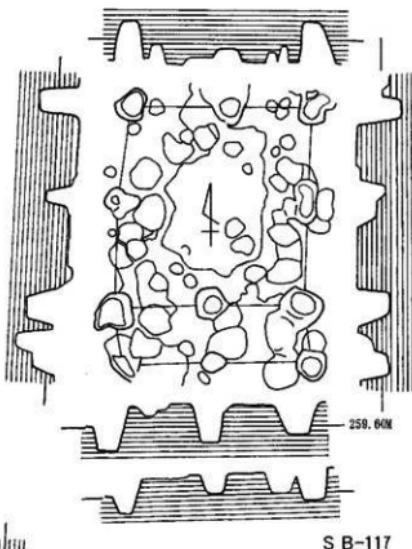
S B-113



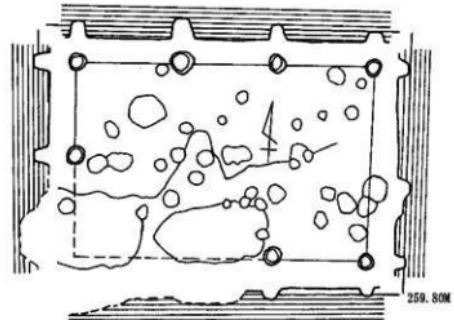
S B-116



S B-114

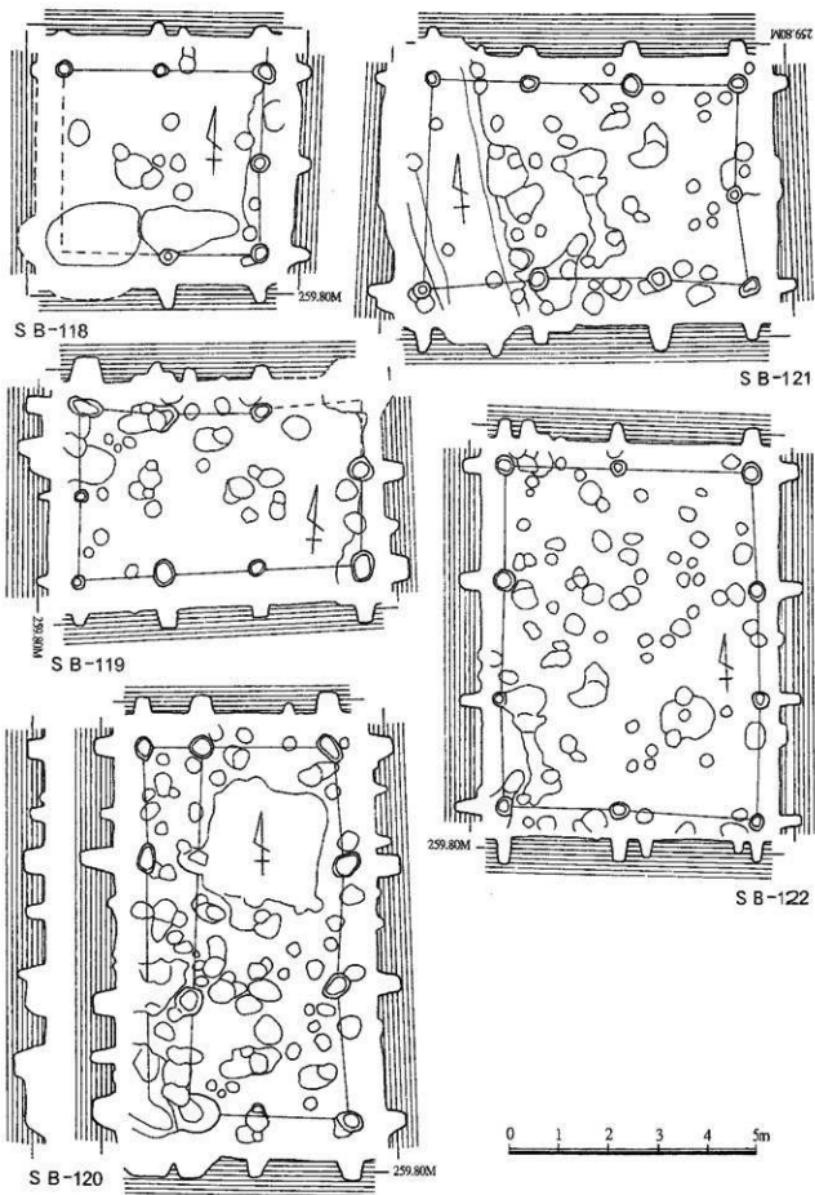


S B-117



第100図 S B-113~117 遺構実測図

0 1 2 3 4 5m



第101図 S B-118~122 遺構実測図

115号建物の南側と重複した、梁行2間（4.0～4.20m）・桁行3間（6.10～6.20m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23～52cm・深さ22～44cmを測る。主軸方位は、N 88°Eである。

S B-117 (第100図)

112号建物の北東部に重複した、梁行2間（3.64～3.84m）・桁行2間（4.0～4.14m）の身舎の南面に幅半間の廊が付く。柱穴の規模は大きく、直径44～88cm・深さ26～91cmを測る。主軸方位は、北である。

S B-118 (第101図)

調査区の東端南側に位置した、梁行2間（3.74m）・桁行2間（4.08m）の方形の建物である。柱穴の規模は、直径25～46cm・深さ9～49cmを測る。主軸方位は、N 89°Eである。

S B-119 (第101図)

118号建物の北側と重複した、梁行2間（3.58m）・桁行3間（5.72m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22～53cm・深さ22～49cmを測る。主軸方位は、N 84°Eである。

S B-120 (第101図)

119号建物の北西部と重複した、梁行1間（2.68～3.10m）・桁行3間（7.46～7.65m）の南北方向の身舎の、西面に廊が付く。柱穴の規模は、直径34～54cm・深さ34～65cmを測る。主軸方位は、N 3°Eである。

S B-121 (第101図)

調査区の北東部に位置した、梁行2間（4.15～4.32m）・桁行3間（6.18～6.62m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径30～50cm・深さ13～51cmを測る。主軸方位は、N 86°Wである。

S B-122 (第101図)

121号建物の東側と重複した、梁行2間（5.0～5.12m）・桁行3間（7.0～7.12m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径30～43cm・深さ36～59cmを測る。主軸方位は、N 5°Eである。

S B-123 (第102図)

122号建物の南半部と重複した、梁行2間（4.90～4.98m）・桁行3間（5.90～6.08m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径24～56cm・深さ21～43cmを測る。主軸方位は、N 80°Wである。

S B-124 (第102図)

121・123号建物の南に位置した、梁行1間（1.90～2.28m）・桁行4間（7.82～7.94m）の南北方向の身舎の、北面に廊が付く。柱穴の規模は、直径28～84cm・深さ23～79cmを測る。主軸方位は、N 88°Wである。

S B-125 (第102図)

調査区の北東隅に位置した、梁行1間（2.50～2.70m）・桁行3間（5.50m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径28～45cm・深さ22～59cmを測る。主軸方位は、N 3°Eである。

S B-126 (第102図)

48号建物と重複した、梁行2間（4.05～4.16m）・桁行2間（4.86～5.05m）の東西方向の建物

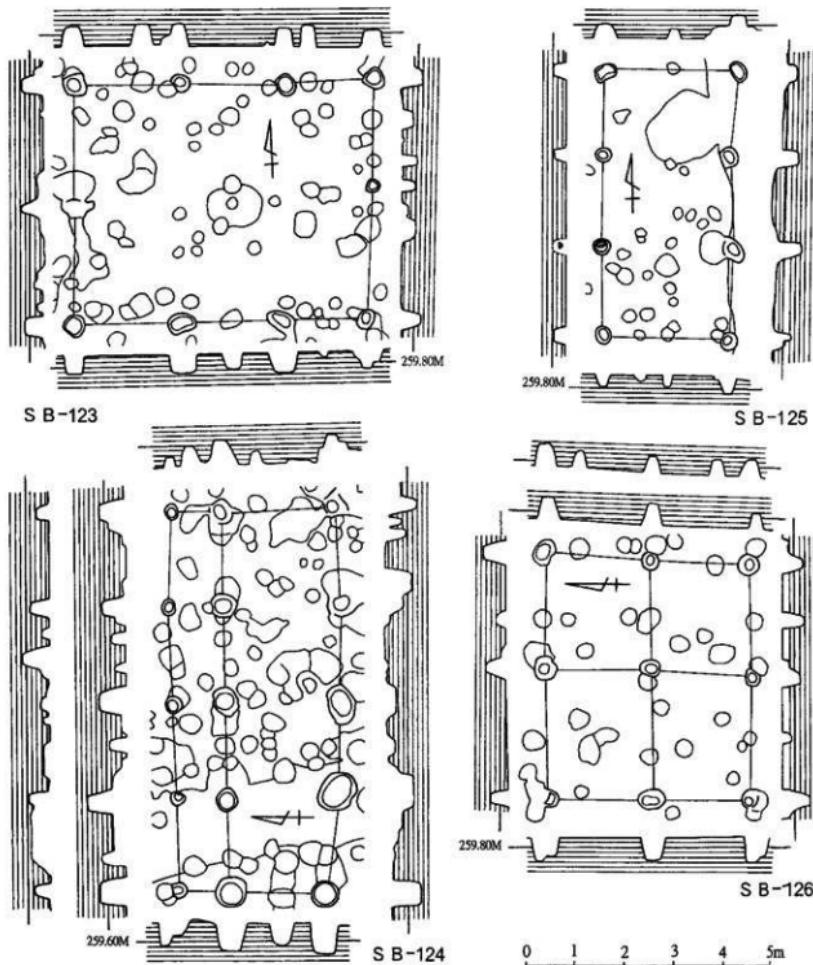
である。柱穴の規模は、直径34～44cm・深さ33～55cmを測る。主軸方位は、N89°Eである。

S B-127 (第103図)

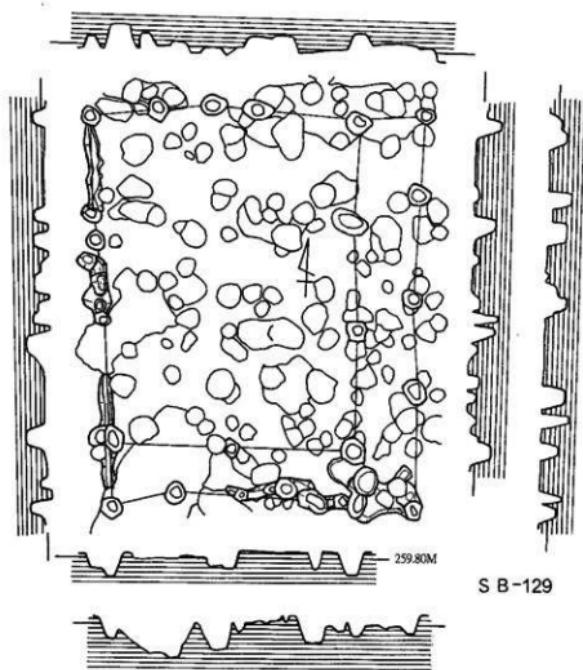
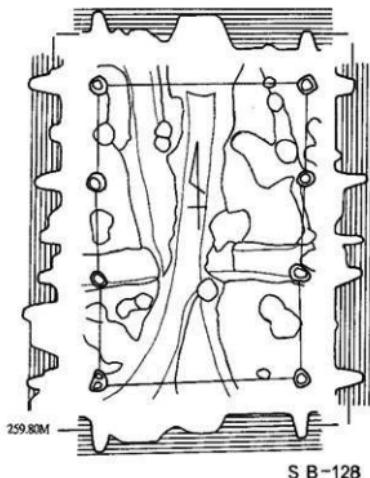
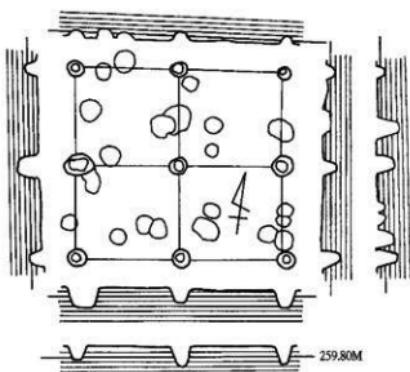
126号建物と重複した、梁行2間(3.88～3.90m)・桁行2間(4.20～4.24m)の方形に近い総柱の建物である。柱穴の規模は、直径24～42cm・深さ16～42cmを測る。主軸方位は、N82°Wである。

S B-128 (第103図)

65号建物の東半部と重複した、梁行1間(4.12～4.52m)・桁行3間(6.0～6.14m)の南北方



第102図 S B-123～126 遺構実測図



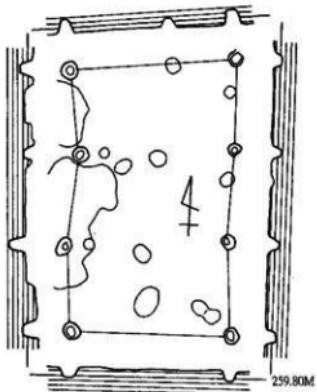
第103図 SB-127~129 遺構実測図

向の建物である。柱穴の規模は、直径32~40cm・深さ48~63cmを測る。主軸方位は、N 1°Wである。

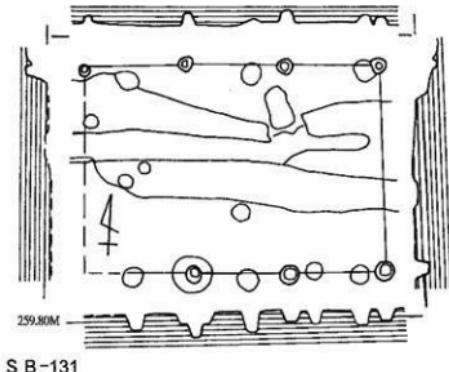
S B-129 (第103図)

調査区の中央やや北寄り、83号建物と重複した、梁行2間(4.86~5.46m)・桁行3間(6.70~6.76m)の南北方向の布掘り建物で、東~南面に幅半間の扉が付く。柱穴の規模は、直径30~60cm・深さ22~87cmを測る。西桁には幅20~30cm・深さ6~12cmの浅く狭い溝状掘り込みがあり、北梁と両桁には不規則に間柱が設けられている。主軸方位は、N 3°Wである。

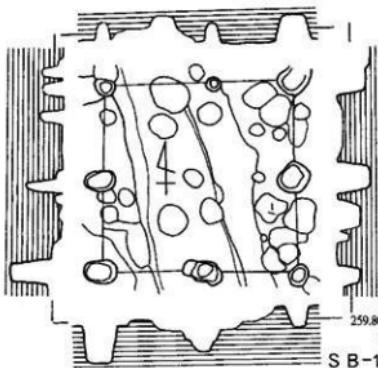
S B-130 (第104図)



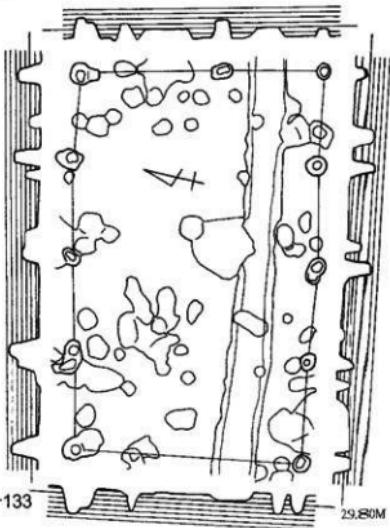
S B-130



S B-131



S B-132



S B-133

第104図 S B-130~133 造構実測図

調査区の中央部、69・70号建物と重複した、梁行1間(3.22~3.38m)・桁行3間(5.34~5.68m)の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径22~42cm・深さ19~53cmを測る。主軸方位は、N 2°Wである。

S B-131 (第104図)

中央やや西寄り、78号建物と重複した、梁行1間(4.16~4.20m)・桁行3間(6.06m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径23~38cm・深さ20~61cmを測る。主軸方位は、N 86°Eである。130号建物との新旧関係は不明である。

S B-132 (第104図)

124号建物に南接した、梁行2間(3.80~3.93m)・桁行2間(3.80~3.98m)の方形建物である。柱穴の規模は、直径30~70cm・深さ45~94cmを測る。主軸方位は、N 89°Eである。

S B-133 (第104図)

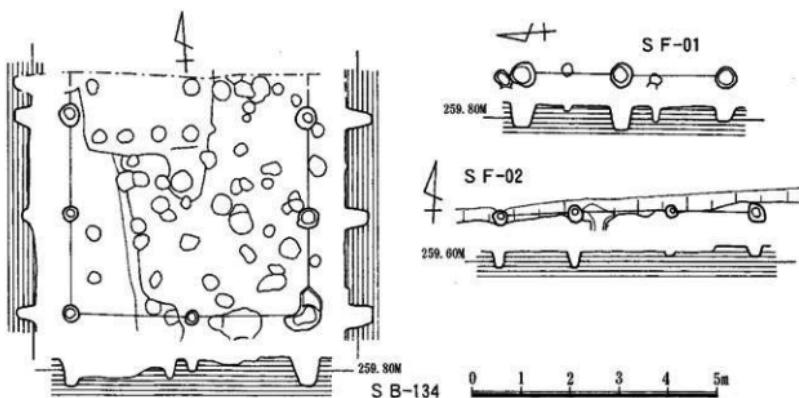
調査区の南東部、61号建物と重複した、梁行1間(4.58~4.96m)・桁行4間(7.64~8.02m)の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径28~53cm・深さ14~59cmを測る。主軸方位は、N 77°Eである。

S B-134 (第105図)

調査区の北東縁、02号竪穴状遺構と重複した、梁行2間(4.82m)・桁行2間(4.10m)以上と推定される南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径28~46cm・深さ21~58cmを測る。主軸方位は、北である。

S F-01 (第105図)

調査区の北東部、125号建物の南西に位置した、2間分(4.16m)の槽状遺構で、さらに2間南へ延びる可能性もある。柱穴の規模は、直径43~52cm・深さ29~46cmを測る。主軸方位は、N 3°



第105図 SB-134・SF-01・02 遺構実測図

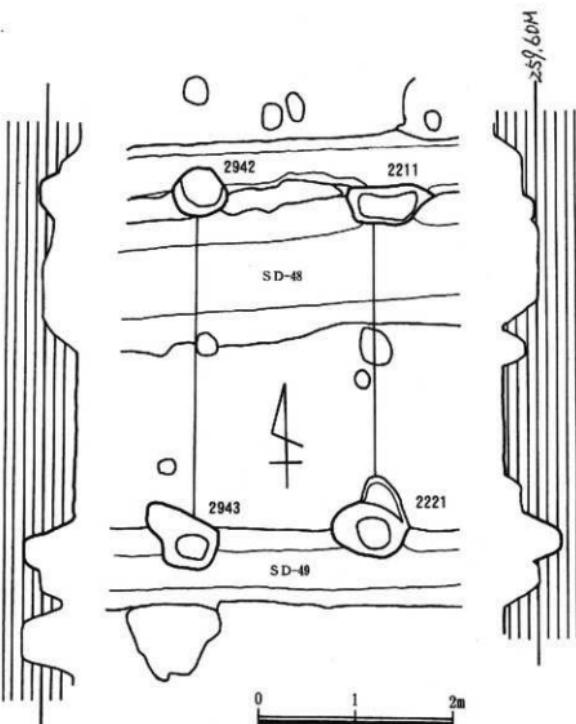
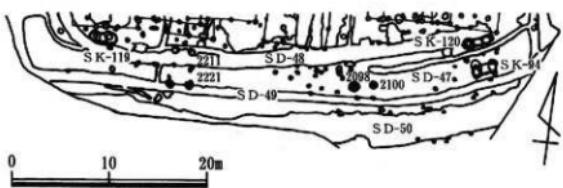
Eである。

S F-02 (第105図)

調査区の南西部、48号溝の南肩に位置した、3間分 (5.20m) の柵状遺構である。柱穴の規模は、直径20~38cm・深さ19~51cmを測る。主軸方位は、N88°Eである。

その他、建物関係の遺構として、調査区の南側、48・49号溝にかけて、対となる柱穴や土坑状の

穴(西から119号土坑、
PP2211・2221, 2942・
2943, 2908・2100,
120号土坑・94号土
坑)が計画的に配置
されたような分布を
している。



第106図 門状遺構実測図

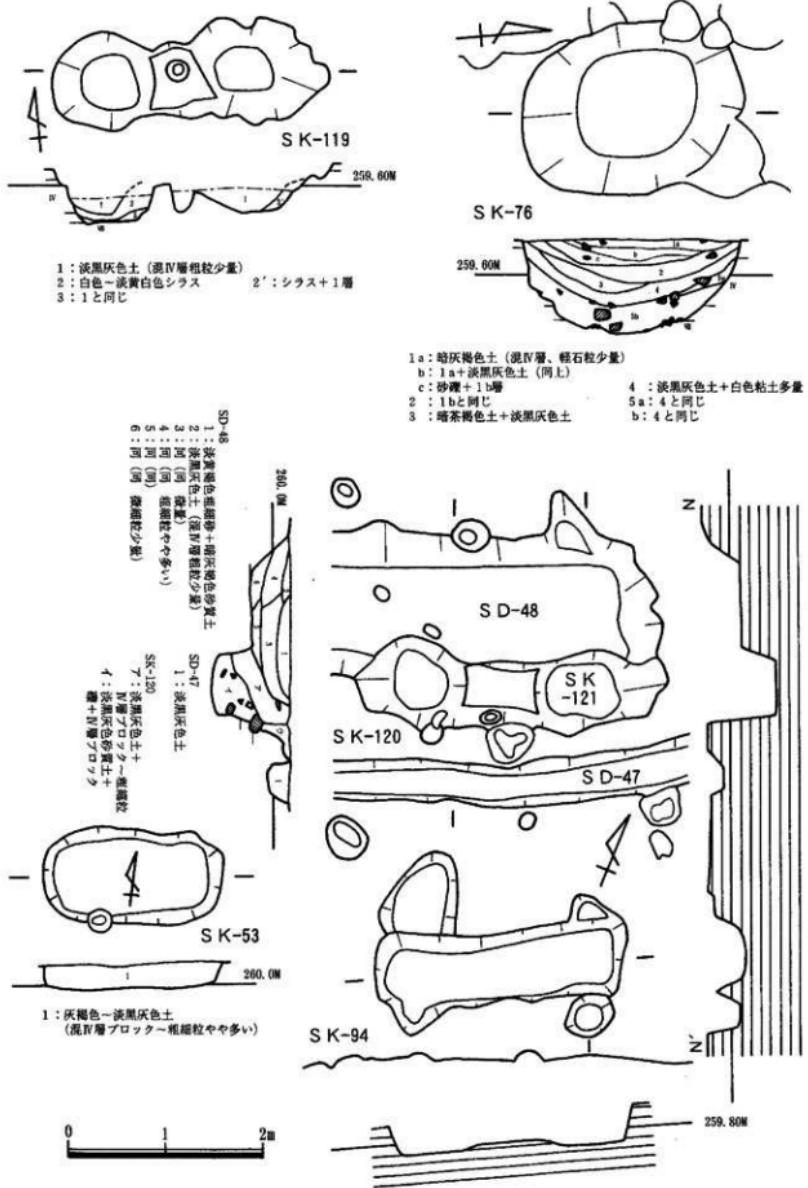
S K-119 (第107図)

ある時期の郭を囲む48号溝の南西隅に位置した、直径1m・深さ56cmの円形(西側)土坑と直径1~1.6m・深さ48cmの楕円形土坑が連結している。覆土にはシラスが若干入れられており、柱痕跡も認められない。

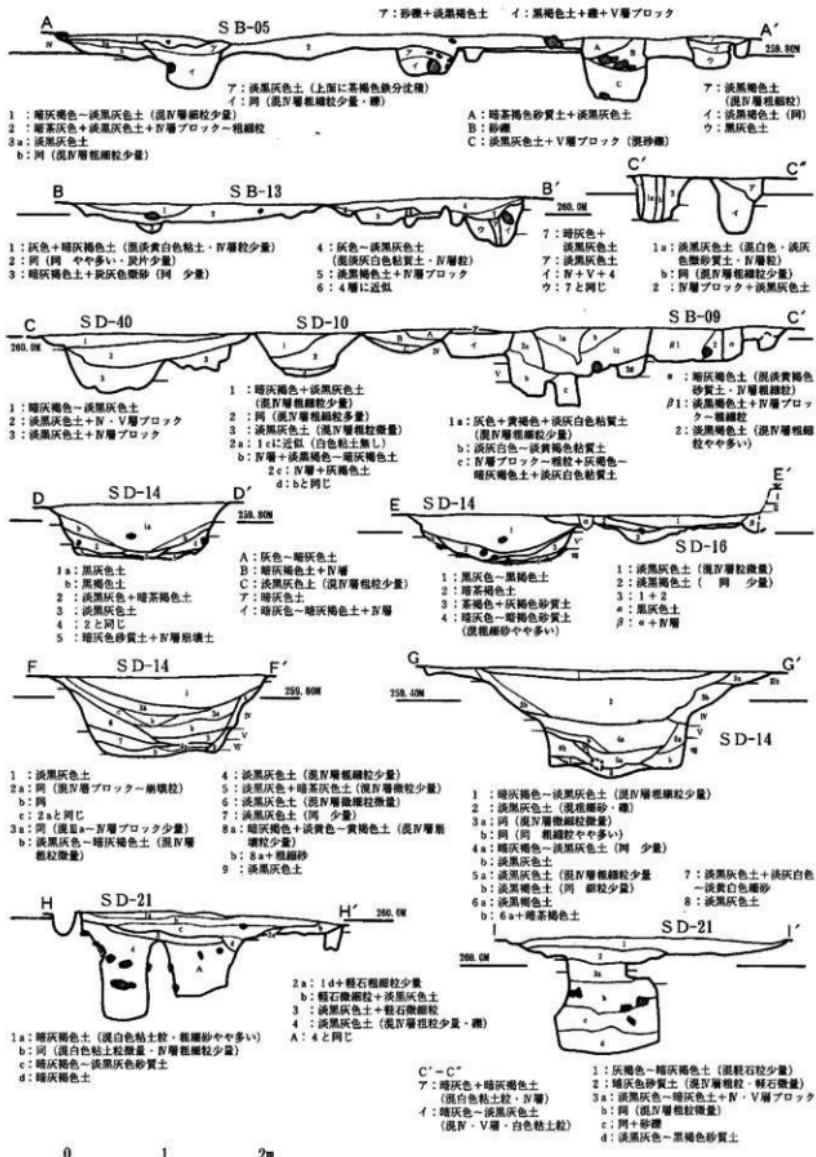
PP-2211・2221・2942

2943 (第106図)

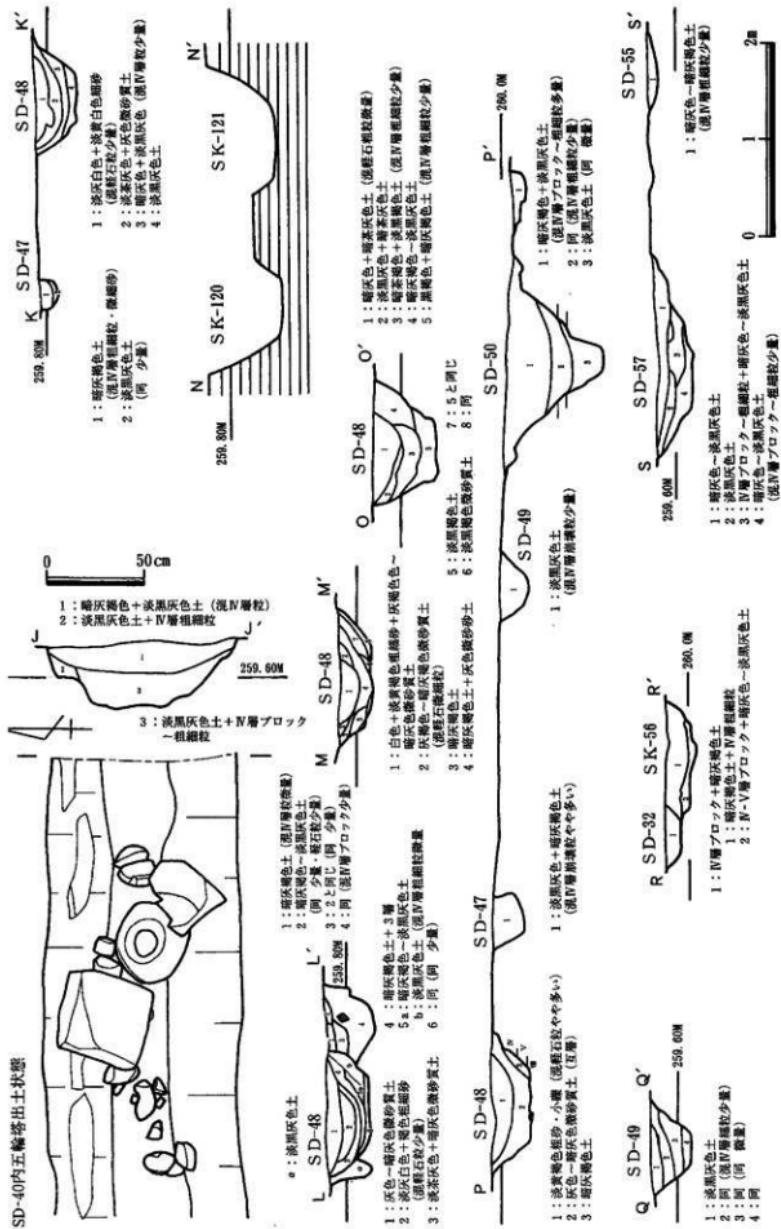
梁行1間 (1.81~1.86m)・桁行1間 (3.34~3.66m)の門を推定させる配置にある。柱穴の直径



第107図 SK-53・76・94・119~121 遺構実測図



第108図 SB・SD 断面層序図



第109図 SD-40内 五輪塔出土状態実測図, SD-48ほか断面層序図

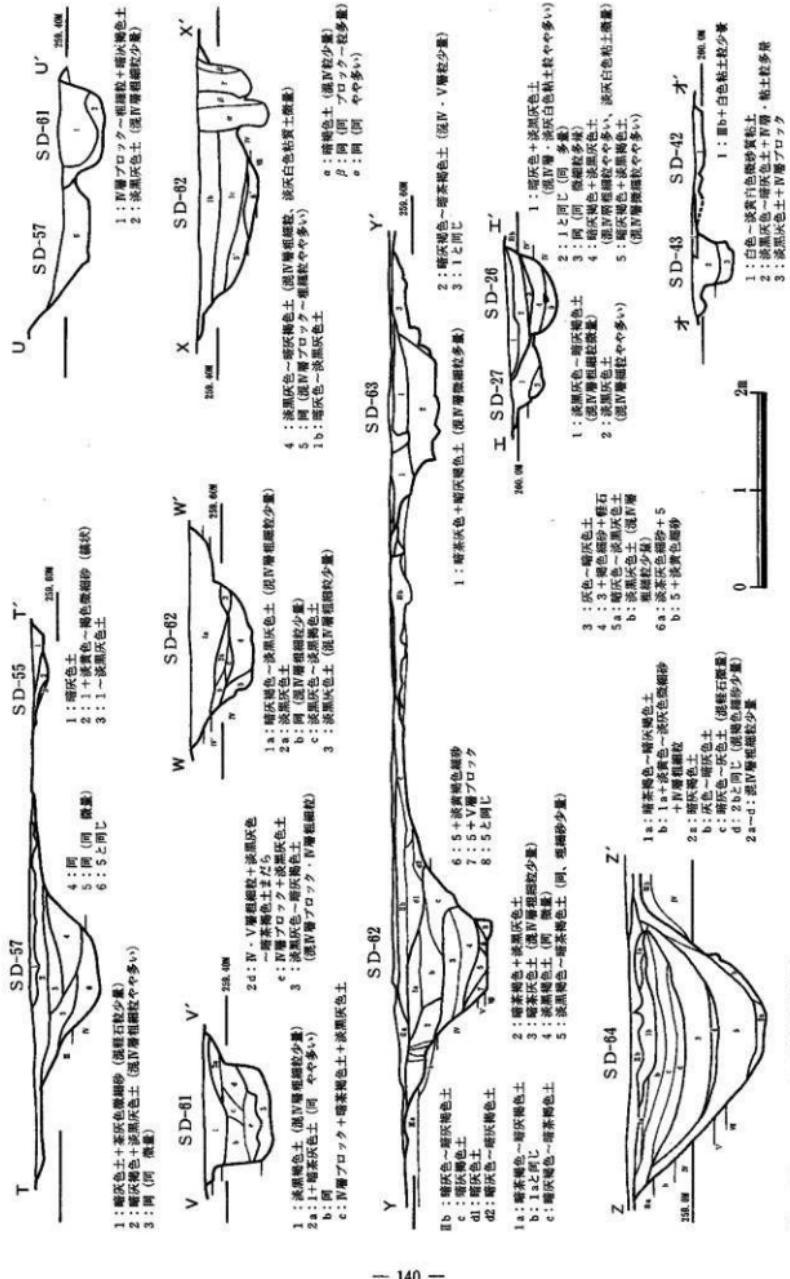


図110 SD-57はか断面層序図

は53~80cm、深さは39~57cmを測る。48・49号溝以前の構築である。

PP-2098・2100（第119図）

47号溝の西面に位置し、2098は直径70~80cm・深さ67cm、2100は直径62cm前後・深さ57cmを測る。芯々の距離は2.03mである。

S K-120・121-S K-94（第107図）

120・121号土坑は、48号溝以前の構築で、平面形態は119号土坑に近似する。2.7~3m南には94号土坑がある。94号土坑の底面両端は1段低くなり、05号建物の布掘り工法に近似することから柱穴を想定し、梁行1間（1.7m前後）・桁行1間の門を推定させる。

溝状遺構は50条余（S D-11~65）検出した。それらは主軸方向によって大きく、I類：東西・南北、II類：北北西一南南東・西南西一東北東、III類：北北東一南南西・西北西一東南東、IV類：不定方向・曲線的に分けられ、I類に属するものが多い。遺構分布図を見ると据立柱建物も溝の方向と軸を同じくする状況が看取でき、I類と同じ東西・南北の主軸の建物が多いことに気づく。従って、溝状遺構は、郭を機能別・目的別に分割した区画溝だったと断定される。ただ、64号溝だけは、空堀としての機能を備えている。

以下、主要な溝状遺構について、調査区の北西側のものから記述する。

S D-65

調査区の北西縁にかかる東西方向の溝で、約15mを検出。幅は推定2m、深さは30~56cmで、若干の凹凸がある。西端はV区の07号溝と繋がると推定され、東端は62号溝と繋がるかほどなく収束すると思われる。

S D-64

65号溝の2m南に並行し、幅2.7~3.4m・深さ0.9~1.36mを測り、東側が低い。検出長は22.3mで、西側の延長先は推定困難であるが、V区までは延びていない。62号溝の西肩部で、底面が急角度（70度）で立ち上がり、62号溝とは底面は直結しないが、最上層は同時期に埋没している。覆土は緩やかなレンズ状堆積で（第110図左下）、掘削排土の土塊は殆ど混入していない。主軸方位は、N 88°Eである。

出土遺物は少ないが、備前焼の大甕等が出土している。

S D-62

V区の02号道路に北端の痕跡があり、全長54m・幅2~3m、深さ30~77cmを測り、南側が低く浅い。底面は南端部から東西に直交する57号溝と繋がっている。覆土は西側から流入しており（第110図中段）、西側に土壘が築かれていた可能性がある。主軸方位は、N 2°Eである。

S D-63

62号溝と4m前後東に並行する南北方向の溝で、約45mを検出した。南半分は攪乱（S Z-34・35）

を受けているが、幅1.6~2.5m・深さ26~41cmを測る。北端は農道下で収束し、南端は57号溝と繋がる。62号溝との新旧関係は明らかでないが、殆ど同時期と推測される。主軸方位は、N 3°Wである。

S D-16

63号溝の北寄り部から東へ30m延びて、南へ90度曲がる。南北方向は7.5mを測る。幅は56~106cm、深さ27~40cmを測り、西側が低い。覆土は黒色系の火山灰土で、文明ボラを含まない。東西方向の主軸方位は、N 86°Eである。

S D-61

62号溝の南側から東へ14m程延びて西南西へ曲がり、幅90~150cm・深さ50~70cmを測る。底面は西端が若干低く、48・57号溝よりも新しい。

S D-60・58

61号と57号溝の中間に位置した、幅50~80cm・深さ2~20cmの小規模な溝で、中断しつつ67号・68号へと繋がっていた可能性がある。

S D-57

調査区の西端中央から05号建物まで、東西に約50m検出した。幅1.1~3m・深さ35~70cmを測り西側が深く低い。05号建物の所からは南へ曲がり、27号溝と繋がっている。

27号溝は44mを検出し、幅70~160cm・深さは22~48cmを測り、北側が低く深い。主軸方位は、N 9°Wである。南端の底面は、49号溝底面よりも15cm高い。

S D-55・56

57号溝の1~1.6m南に並行した、幅32~102cm・深さは8~32cmを測る溝で、西端は北西方向へ彎曲する。東は69号建物の北を通り、05号建物の南廂布掘り、24号溝へと断続して繋がっていた可能性がある。

S D-66

調査区の北東部に南北に11.5m検出された、最大幅1.98m・深さ9~25cmの浅い掘り込みである。1.3m北には、長さ3.6m・最大幅1.16m・深さ10cmの同様の掘り込みがある。4.44m南には48号溝の浅い掘り込みがあり、これらは断続しつつ繋がるものと推定される。

S D-48

調査区の南半分を区画する溝で、南北65m、東西41m程を検出した。東端は6m以上の幅で陸橋となり、新たな区画溝が設定されていると推測される。

幅は85~160cmで南東部が広く、深さは33~68cmで北側が低く深い。東西方向の部分には、砂を大量に含んでいる。東端部は、急角度で立ち上がる。

S D-40

57号溝の16~13m南側に東西に位置した、長さ61m・幅60~130cmの溝で、深さは20~40cmを測り、西端が深く低い。西端は若干南向きに曲がり、その延長はIV区の05号溝に繋がる可能性がある。

東寄りの地点では、軽石製五輪塔1組と空風輪1点が倒れ込んだような状態で検出された(第109

図)。空風輪は若干欠損し、火輪は約半分が砕けている。水輪と地輪は磨滅が著しい。地輪の角の欠損は表土剥ぎの際の重機による。

S D-49

48号溝の1.1~4.3m外側に巡る溝で、西側(南北方向)の幅は1.7~1.9m・深さ24cm前後であるのに対し、南側(東西方向)の幅は65~90cm・深さ30cm前後である。底面は北西部が低い。

S D-47

48号溝と49号溝の間に位置した、幅30~68cm・深さ7~30cmの溝で、東半部は48号溝に切られて間断を生じる。西端の延長は、10m余で北北西へ曲がってIV区の06号溝へ繋がると思われる。東端は狭く浅くなつて収束しそうであるが、南北方向の20号溝へ繋がる可能性がある。

S D-50

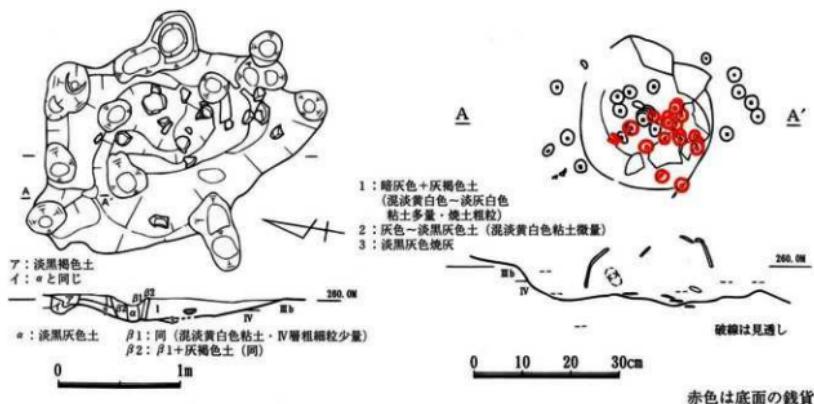
49号溝の80~120cm南に位置し、南縁でのみ検出された溝で、延長先は推測できない。掘方の幅は2.87~3.55mであるが、一部2.2mに狹まる。また、南側1.2~1.5mは深さ6~10cmの浅いテラスになっている。壁は55度前後の急角度で掘削され、深さは76~100cmで西側が浅く広い。底面の幅は18~55cmで、薬研掘り状の部分もある。

S D-35

21号建物の南東部あたりから調査区の南東部において約31m検出した溝で、幅45~80cm・深さ15~24cmを測り、南東部のほうが若干深く低い。主軸方位は、N 85°Wである。

S D-53

49・50号溝に切られ、20号建物の中央やや南から、35号溝と直交するように位置した溝で、19.4mを検出した。北半部は搅乱著しく、形状を保っていない。幅は28~138cmで、南側が極端に狭い。深さは16~30cmで、北側が深く低い。主軸方位は、N 7°Eである。



第111図 SK-78 遺構実測図、鉄鍋・銭貨出土状態実測図

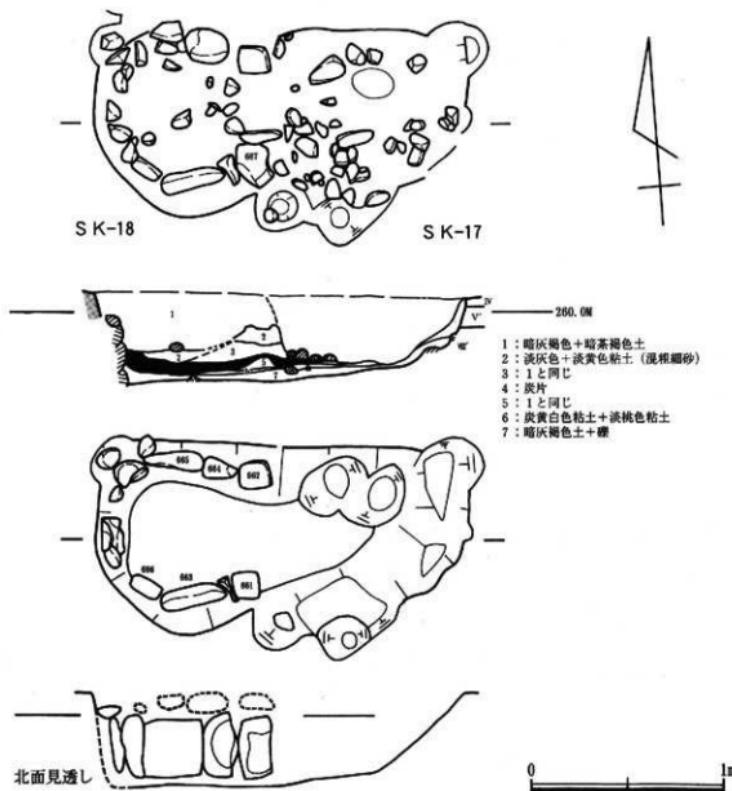
S D -69

06号建物の南廻溝と直交し、48号溝と掘方上位が繋がる。北半分はやや蛇行し幅50~80cm、深さ23~45cmで南に向かって深くなり、中程で2段(25cm・60cm)落ちて、滝壺のようになり、南側は若干高くなつて急激に収束する。南邊の底面は、48号溝の底面よりも70cm低い。

機能的には06号建物の湿気排除兼生活排水溝と推定され、底面は砂礫層内であることから豪雨でさえも溜まらない。

S D-32

09号建物の東～北を通り、少し切れて06号建物の西寄りを下って、07号建物と重複した東西方向の溝で、27号溝と直交した、直線部分は39mの長さがある。幅は55～100cmで、深さは12～20cm前後であり、09号建物周辺部は浅い。東西方向部分の主軸方位は、N81°Eである。



第112図 SK-17・18 造機実測図

S D-26

27・40号溝の交点の上を通るL字型の溝で、幅65~140cm・深さ30~68cmを測り、南西部が深い。北端は24号溝と直結している。24号溝は、長さ13m・幅50~70cm・深さ17~23cmを測る。

南西端は急角度で立ち上がって収束するが、17cm西には長方形の大型土坑（S K-118）があり、何らかの関連性が窺える。

S D-21

32号溝の西5mの所から、27号溝と並行して（間隔は芯々で21m=70尺）推定21m前後の所で西へ曲がり、9.8mで収束する。

南半部は幅60~90cm・深さ32cm前後であるが、北半部は激しい流水によって最大幅3m、最深部1.4mに抉られている。

S D-20

21号溝の東に、南北方向に痕跡程度に遺存した、幅50~70cm・深さ3~7cmの溝である。

S D-11

調査区の北東端に位置する南北方向の溝で、南端部は搅乱されて消失している。幅は70~135cm・深さは4~35cmを測り、北側が広く深い。

土坑（S K）は、調査区の東側に2列埋葬された土壙墓群とその周辺、中央北東寄りに散在する炉跡、中央やや北西部に群在する不定形で深い土坑群、その他、単発的に分布する大小様々な隅丸長方形土坑や方形土坑など、種々の機能がある。

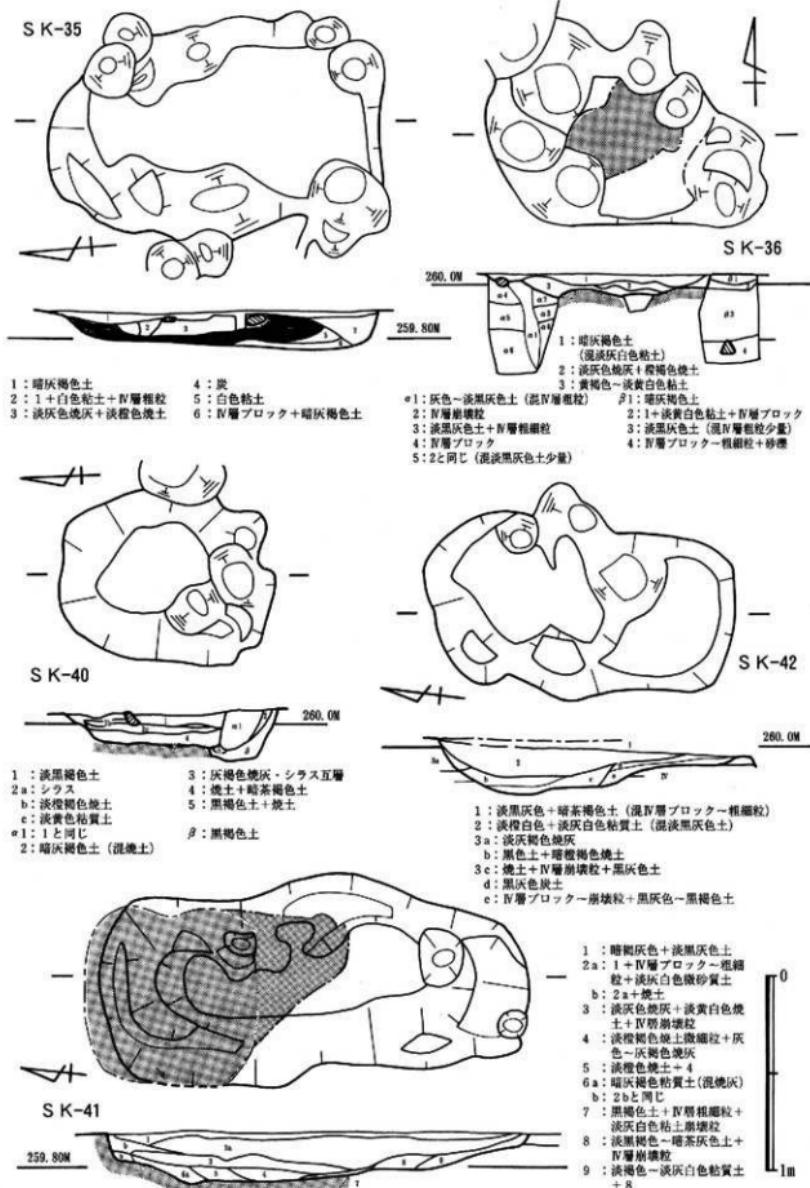
S K-78（第111図）

06号建物の南に位置した、長径2.2m前後・短径1.57mの不定形なプランで、13個の柱穴に搅乱されている。底面は中心に向かって緩やかに下降する。最深部の深さは18cmである。覆土上層には、10号建物の土間に使用されたものと同様の白色系粘土を多量に含み、中央部最下層には焼灰が認められた。北西部端では、伏せた鉄鍋の内外から銅錢が67枚出土した。鉄鍋（第189図-948）の底面の大半は重機で削失したことから錢貨も幾枚かは削失している可能性がある。銅錢の最も新しい種類は永楽通寶（1408年初鑄）であり、11世紀代のものが半数以上を占める（第143・144図）。

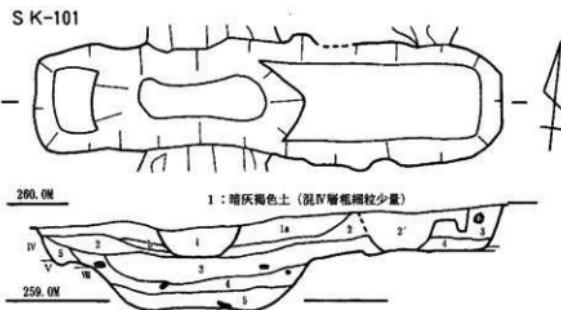
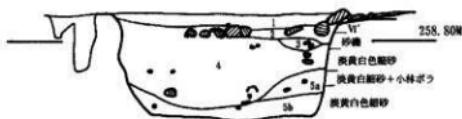
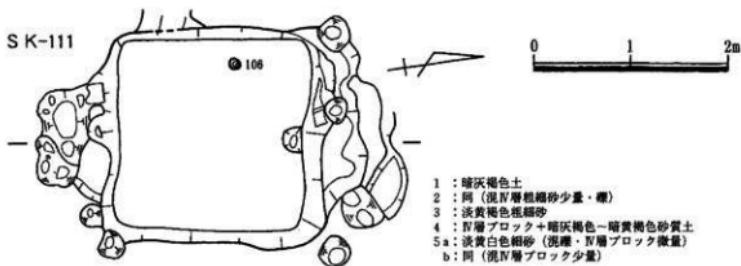
鉄鍋と錢貨は当土壙墓の副葬品と推定されるが、火葬墓であるかどうかは判断材料に欠ける。

S K-18（第112図）

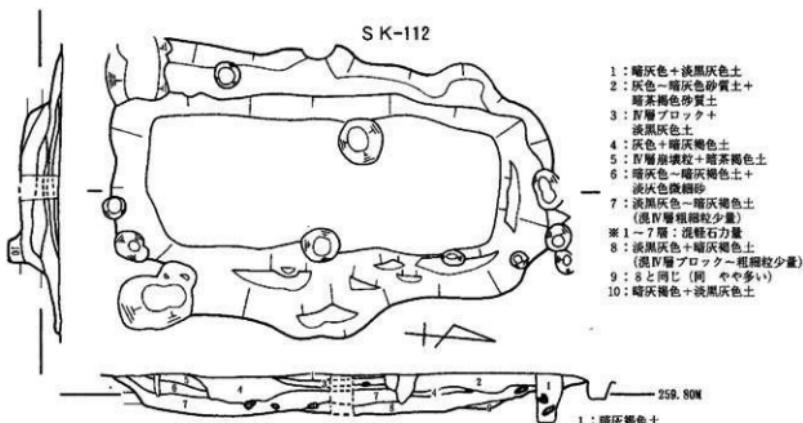
調査区の東部、119号建物の北西に位置した、長径1.92m・短径0.77~0.99mの楕円形を呈し、東半部は搅乱著しい。西端部は河原石を4段積み、北と南側は軽石製の五輪塔の地輪を半截した材の上にさらに河原石を並べて白色粘土で目貼りをしている。北西部の掘方上部は暗赤褐色に被熱し、底面近くには炭化物層が5~10cm堆積しており、長時間の高温作業が想定される。中央部には石材が無く、焚口と思われる。



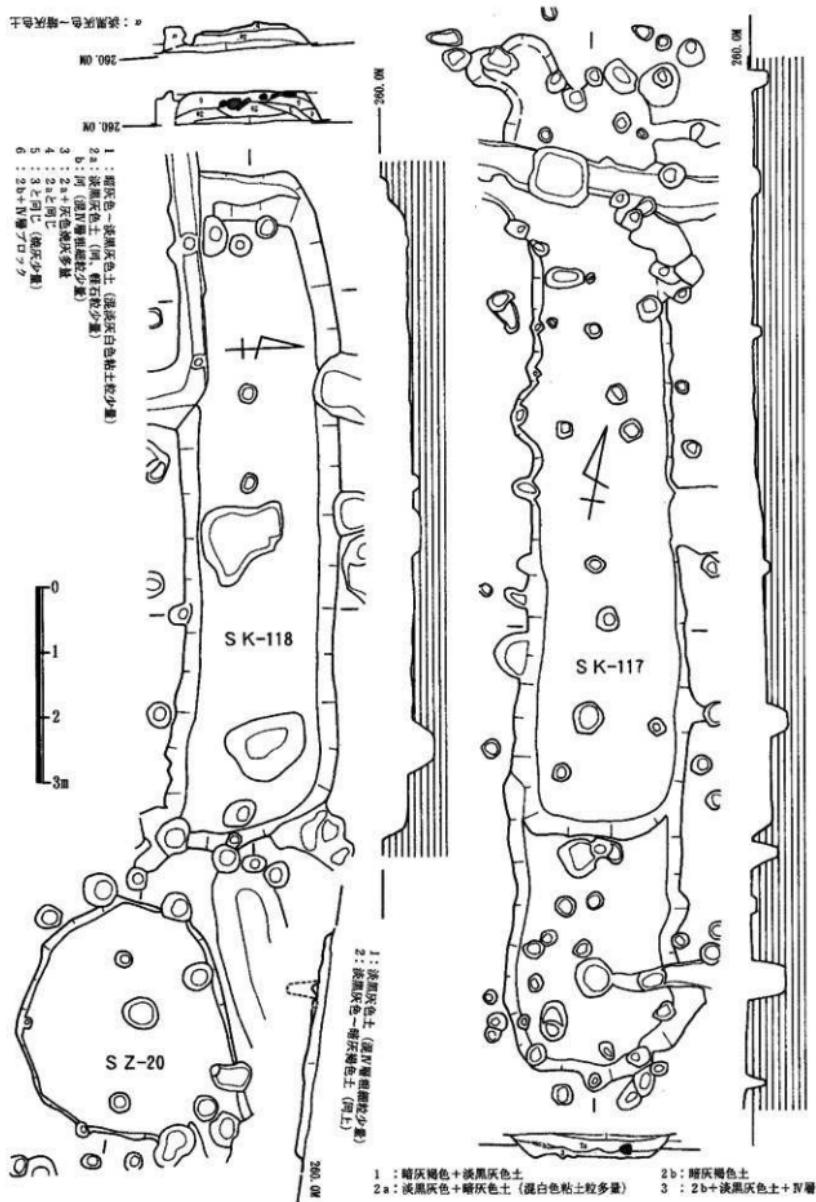
第113図 SK-35・36・40~42 遺構実測図 綱目は被熱



- 1a : 暗灰褐色-淡黑灰色土
(混V層粗粒砂やや多い)
- b : 同 (同 少量)
- 2 : 1aと同じ
- 2' : 暗灰褐色 + 淡黑灰色土
(混V層粗粒砂やや多い)
- 3 : 淡黑灰色土
(混V層ブロック+粗粒砂多量)
- 4 : 暗灰褐色 - 灰色土
(混V層ブロック+粗粒砂少々、
淡灰白色粗粒砂少々)
- 5 : 淡黑灰色-暗灰色土
(混V層ブロック+粗粒砂)



第114図 S K-101・112・113 遺構実測図



第115図 SK-117・118, SZ-20 遺構実測図

原材として使用された五輪塔の地輪のうち2点(662・664)には、沈線や穿孔で紋様が刻まれている。軽石を使用した目的は、高温に耐えられることと推定される。

18号土坑の他、焼土や炭化物を含んだり被熱している土坑が5基ある。

S K-35 (第113図)

調査区の中央北寄り、05号竪穴状遺構の南3mに位置した、長軸1.70m・短軸1.1m前後の不定形土坑で、柱穴8基の搅乱を受けている。底面北側の傾斜は緩く深さは14cm、西側が徐々に深くなり、最深部で20cmを測り、急角度で収束する。覆土には焼土と炭層を大量に含むが、壁面は被熱していない。

S K-36 (第113図)

87号建物の北西部に位置し、掘方の形状を殆ど残していない。遺存する底面は厚さ3~4cmが橙褐色に被熱している。底面には2~10cmの粘土が敷かれ、その上を焼灰と焼土が覆う。

S K-40 (第113図)

36号土坑の3m南に位置した、長径1.1m・短径0.86mの楕円形土坑である。深さは14~18cmを測り、南側が低い。底面は全面が厚さ1~2cm橙褐色に被熱し、覆土に焼灰や焼土を含む。

S K-41 (第113図)

107号建物の北西部に位置した、長径2.18m・短径0.46~0.97mの不整楕円形を呈し、深さは18~27cmを測る。北半部壁・底面は橙褐色に被熱し、覆土には焼土や焼灰がみられる。

S K-42 (第113図)

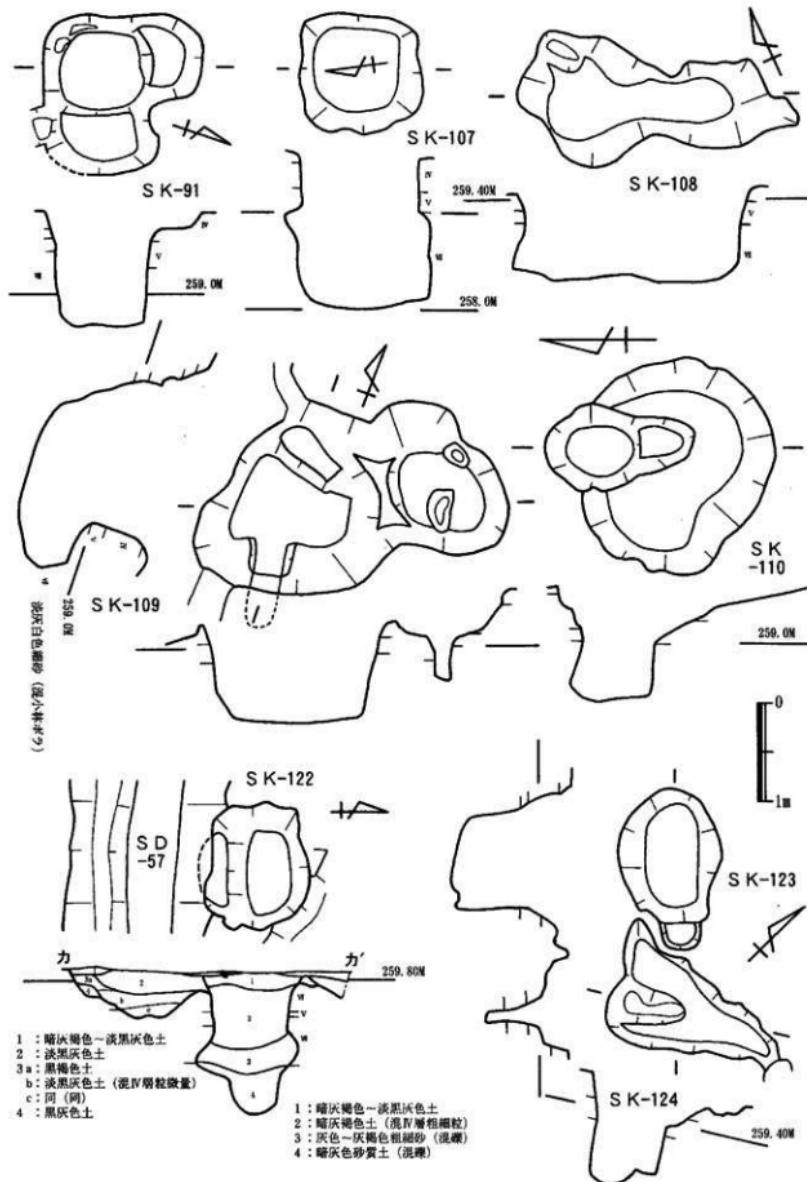
108号建物の南西部に位置した、長軸1.59m・短軸0.8mの楕円形を呈する土坑である。北側は18~24cmの深さで、南側は深さ5~9cmの浅いテラスになっている。覆土には焼灰や焼土が若干混じり、北東部の壁面が少し被熱している。

機能が不明瞭な土坑は、方形で小型タイプ(91・107・122号)、大型タイプ(111号)、楕円形の小型タイプ(53号)、大型タイプ(76号)、隅丸長方形で狭長なタイプ(101号)、幅広いタイプ(70・112号)、大型(117・118号)、不定形で深いタイプ(108~110号・123・124号)、円形で浅いタイプ(98号)、不定形で浅いタイプ(68・96・97号)など様々なタイプがある。

S K-76 (第107図)

07号建物の西南部に重複(建物より古い)した、長径2.3m、短径1.75mの南北方向の楕円形を呈する土坑で最深部は深さ96cmを測る。覆土は自然にレンズ状に堆積し、下層には白色粘土粒を多量に含む。出土遺物は無いに等しく、機能は判然としない。

S K-111 (第114図)



第116図 SK-91・107~110・122~124 造構実測図

調査区の東部、120号建物の北側に位置した、1辺2.2~2.3mの隅丸方形を呈する土坑で、深さは1.03~1.07mを測る。本来の遺構面がⅢ層上面とすれば、70cm前後削失していることになる。機能的には地下倉庫的なものを想定しているが、根拠に欠ける。出土遺物は少ないが、15世紀後半~16世紀前半頃と推定される。主軸は若干東向きで、120号建物とは関連性は無いと思われる。

S K-101 (第114図)

調査区の西南部、48号溝に切られた、長さ4.78m・幅1.07~1.27mの細長い土坑で、1段目の深さは23~28cm、2段目は長さ2.17m、深さ83~89cmを測る。

S K-112 (第114図)

調査区の北東部、107号建物に重複した、長さ4.5m・幅2.26~2.78mの南北方向の隅丸長方形を呈する。西側には、幅7~30cmのテラスがあり、北~東壁は一部テラス状になる。機能は推定困難であるが、15世紀後半~16世紀前半の遺構と推定される。

S K-70 (第122図)

60号建物の西側に重複した、長さ4.58m・幅1.98mの中型の土坑で、深さは25cm前後である。主軸方位は、N 13°Wである。

S K-117 (第115図)

08・72号建物と重複し、27号溝と2.2~2.5m西に並行した、長さ15.20m・幅2.10~3.10mの南北方向の長大な土坑である。北端は小土坑や柱穴に切られ、旧状を保たない。上部もかなり削失しており、深さは11~49cmを測る。南端3.2mは一段高く、深さは4~12cmである。南端から5m程が最も深い。形状は上記の118号土坑と類似し、柱穴も伴わない土坑である。約2m北西部に68号溝からの長三角形の張り出し（長さ5m・幅2m・深さ20cm）があり、旧状は、段差のあるL字型を呈していた可能性がある。覆土に白色粘土粒を多量に含むこと以外の機能推定要素は無いが馬洗い場等、居住以外の機能が想定される。主軸方位は、N 11°Wである。

S K-118 (第115図)

調査区の中央やや南側、06・07号建物と重複した、長さ10.4m・幅80~103cmの東西方向の長大な土坑で、深さは38~50cmを測る。柱穴は伴わず、L字型の26号溝との関連がありそうであるが、推定の域を出ない。西壁は階段掘りになっており、出入口と推定される。埋没時には、中央~東側にかけて人頭大~一抱もある礫が投げ込まれていた。主軸方位は、N 2°Eである。

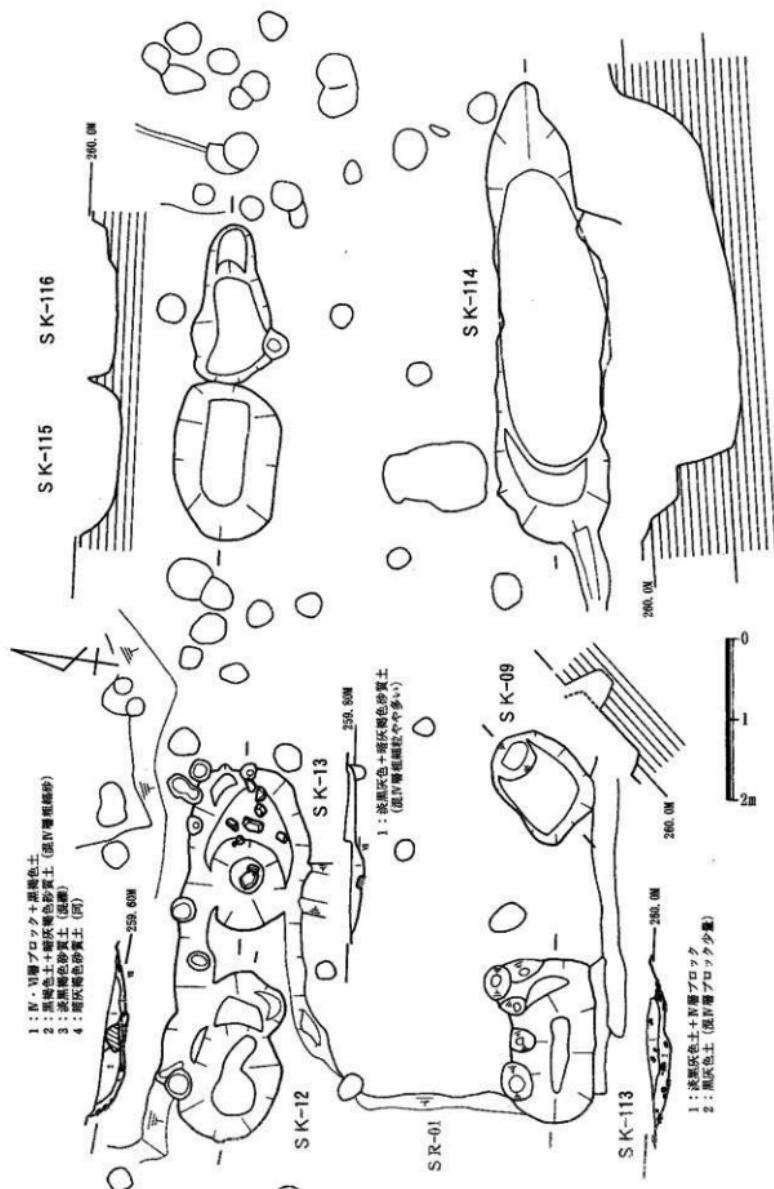
S K-91 (第116図)

05号建物の南東部に位置した、直径1.05~1.13mの隅丸方形を呈する土坑で、深さは1.19mを測る。北と東には深さ16cm前後の張り出しが付く。

S K-107 (第116図)

調査区の中央やや北西部、80号建物の南桁部中央付近に位置した、1辺1.2m前後の略隅丸方形を呈し、深さは1.6m前後である。

S K-108 (第116図)



第117図 SK-09・12・13・113~116 造構実測図

80号建物の北側に位置した、長さ2.9m、幅0.6~1.33mの不整双円形を呈し、84~90cmの深さを測る。平面形と底面の段差を勘案すると土坑2基が重複していた可能性もある。

S K-109 (第116図)

62号溝の東肩と重複した、長径2m・短径1.7mの不整形なプランで、深さは1.4m前後である。南壁には、幅40cm弱・奥行き約60cmの抉りがある。Ⅲ層混じりの砂層で覆われていたが、出土遺物は無い。

S K-110 (第116図)

109号土坑の30~60cm南東に位置した、長さ1.53m・最大幅89cmの土坑で、最深部の深さは1.18mを測る。南半分は、長径2.2m・短径1.95m・深さ12~20cmの浅い土坑と重複する。

S K-122 (第116図)

調査区の中央やや東、57号溝埋没後に掘削された、長さ1.3m・幅0.99~1.06mの不整長方形を呈し、最深部は1.43mを測る。断面形態は井戸状を呈するが、10数cmの深さでないと湧水しない。

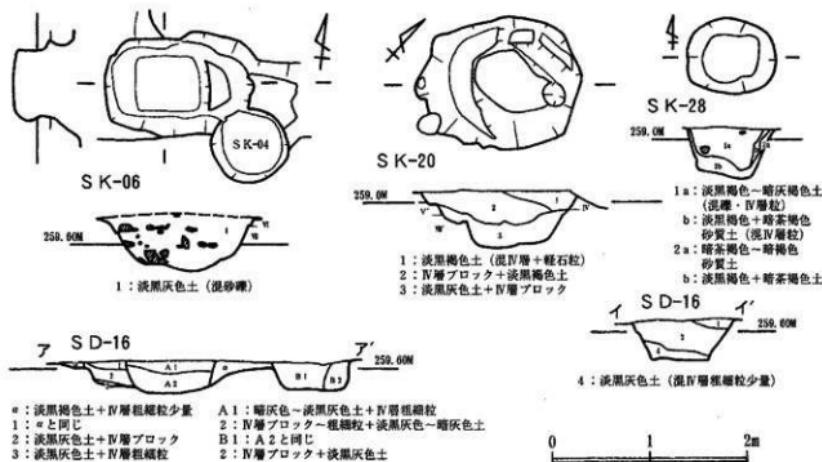
S K-123 (第116図)

80号建物の北東に位置した、長径1.37m・短径1.06mの梢円形を呈し、深さ1.1~1.24mを測る。

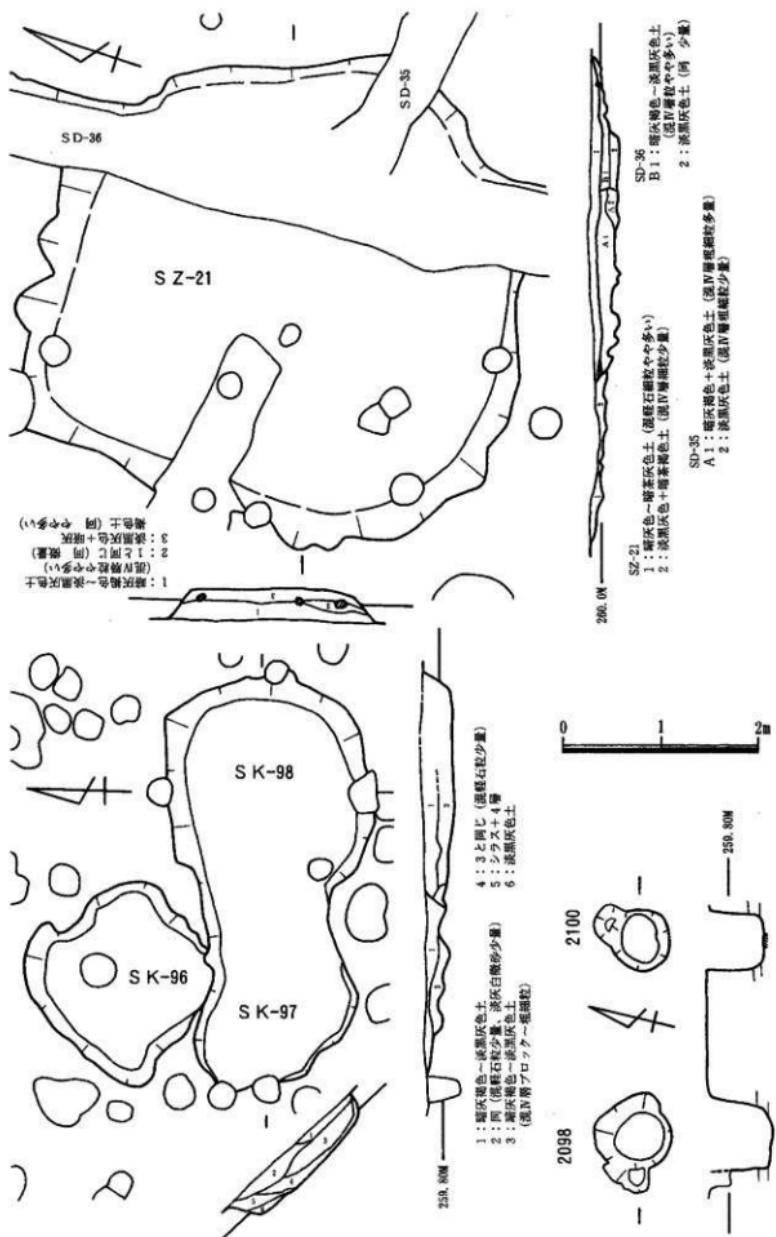
S K-124 (第116図)

123号土坑の南東に隣接した、長さ1.9m・幅1.2mの略三角形を呈し、深さ18~30cmの1段目と、最深1.30mの2段目（柱穴が重複した可能性もある）がある。

中世の土壙墓は16世紀代のものが多いと推定され、2列埋葬の12・13・115・116・113・09・114号墓とその周辺に散在する。



第116図 S K-06・20・28 遺構実測図, S D-16 断面層序図



第119図 S Z-21, SK-96~98, PP-2098・2100 造構測定図

S K-12 (第117図)

上部70cm前後を削り、遺存する長さは2.1m・幅1.2mの不整楕円形を呈し、深さ30cmを測る。覆土には人頭大の礫があり、木蓋の土壙墓と推定される。

S K-13 (第117図)

12号墓と同様で、長さ2m・幅1.48mの楕円形を呈し、深さは10~20cmの2段掘りになっている。覆土には小礫があり、木蓋土壙墓と推定される。

S K-115 (第117図)

13号墓の2.8m東に位置した、長さ1.94m・幅1.27mの楕円形を呈し、深さ43cm前後が遺存する。

S K-116 (第117図)

115号墓の東に接した、長さ1.96m・幅76~96cmの不整楕円形を呈し、深さ16~35cmの2段掘りになっている。

S K-113 (第117図)

12号墓の2.8m南に位置した、長さ2m・幅1.03mの楕円形を呈し、深さ22~28cmの2段掘りになっている。

S K-09 (第117図)

113号墓の1.4m東に位置し、主軸を北東部に向けた、長さ1.25m前後・幅0.97mの不整隅丸長方形を呈し、深さ24cmが遺存する。

S K-114 (第117図)

09号墓の東2.3mに位置し、長さ5.7m・幅1.03~1.38mの長楕円形を呈する。西端は深さ43cmで、東に1段(70cm)深くなる(別遺構の可能性がある)。最深部は西方から1.7m付近で、深さ1.30mを測る。底面は東側が徐々に高くなり、東端部は30cm高くなる。出土遺物としては、備前焼大甕片(195)や瓦質土器(196)、石塔の一部かと推定される軽石製品(707)などがある。

S K-06 (第118図)

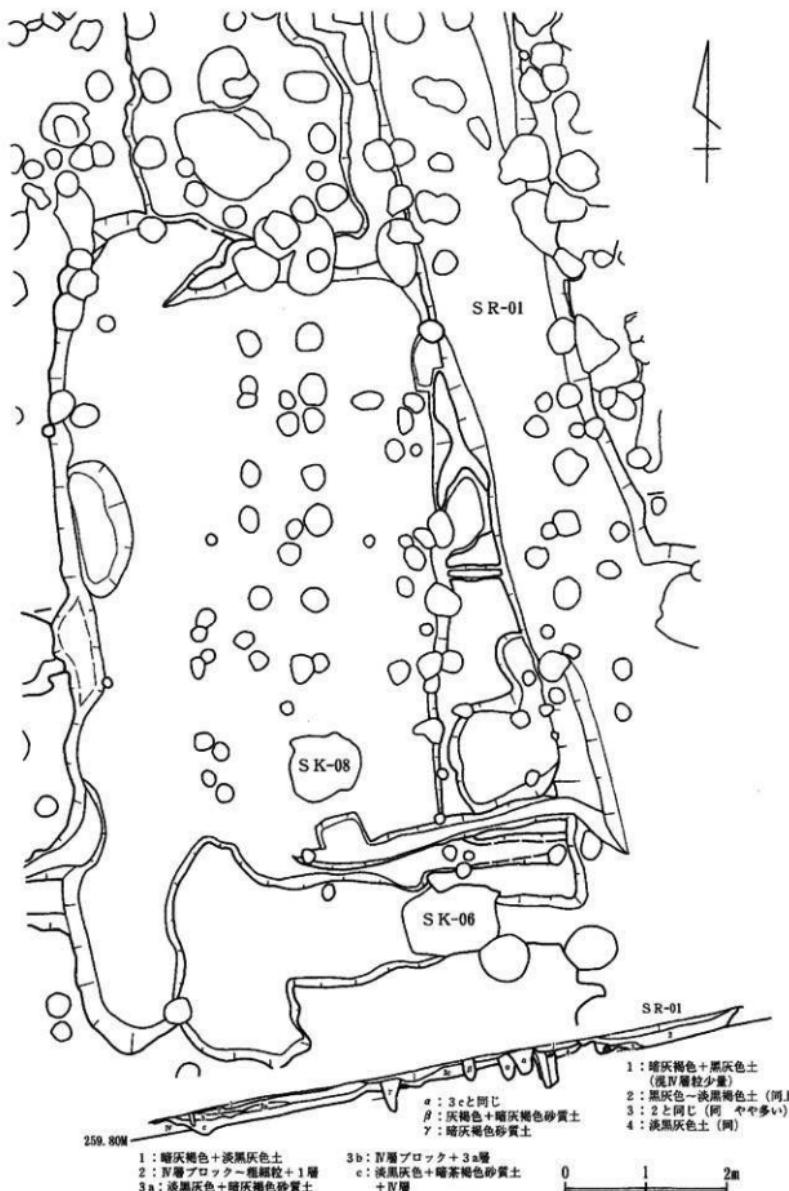
113号墓の西3.2mに位置し、長さ1.53m・幅1m内外の隅丸長方形~楕円形を呈する。長軸断面は擂鉢状を呈し、最深62cmを測る。覆土には小礫が多く、木蓋土壙墓の可能性がある。

南東部は、直径80cm・深さ50cmの近世墓と推定される遺構に切られている。

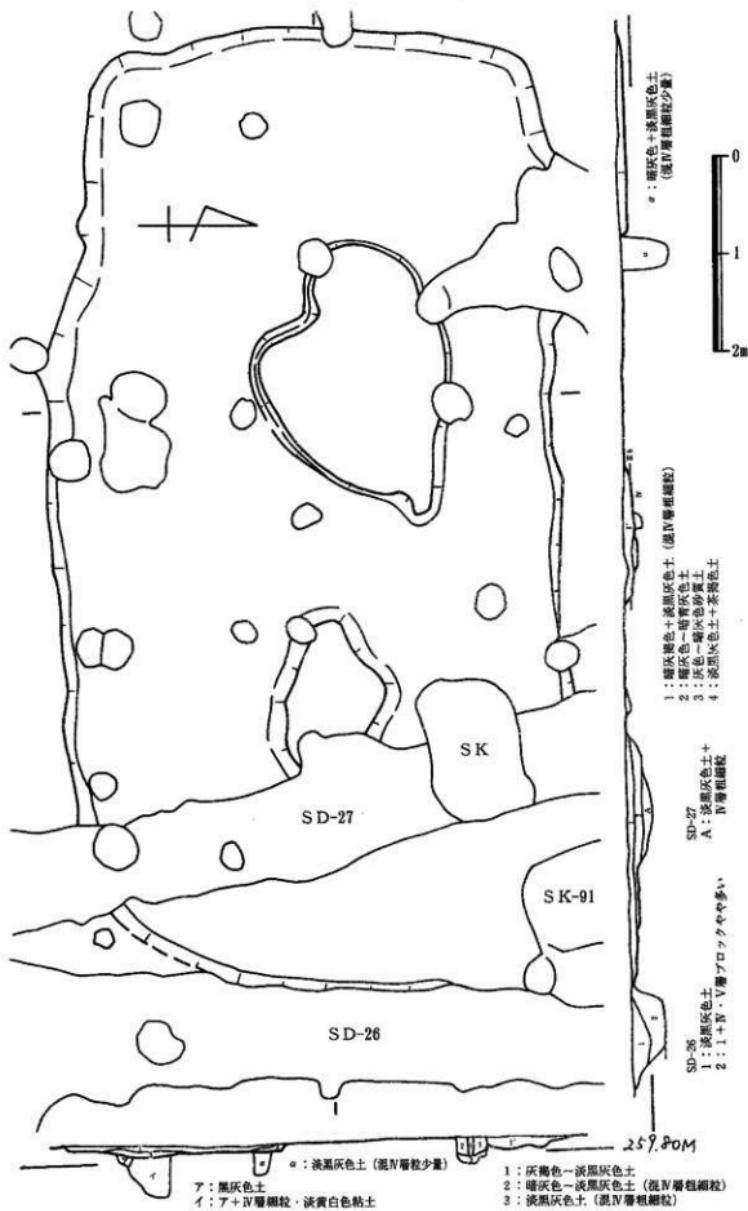
S K-20 (第118図)

調査区の北東に位置し、長軸1.60m・幅1.35mの楕円形を呈する。深さは34~58cmの2段掘りである。出土遺物は無いが、主軸が09号墓と同様で、東西方向の土壙墓よりも一時期早い段階の遺構と推定される。

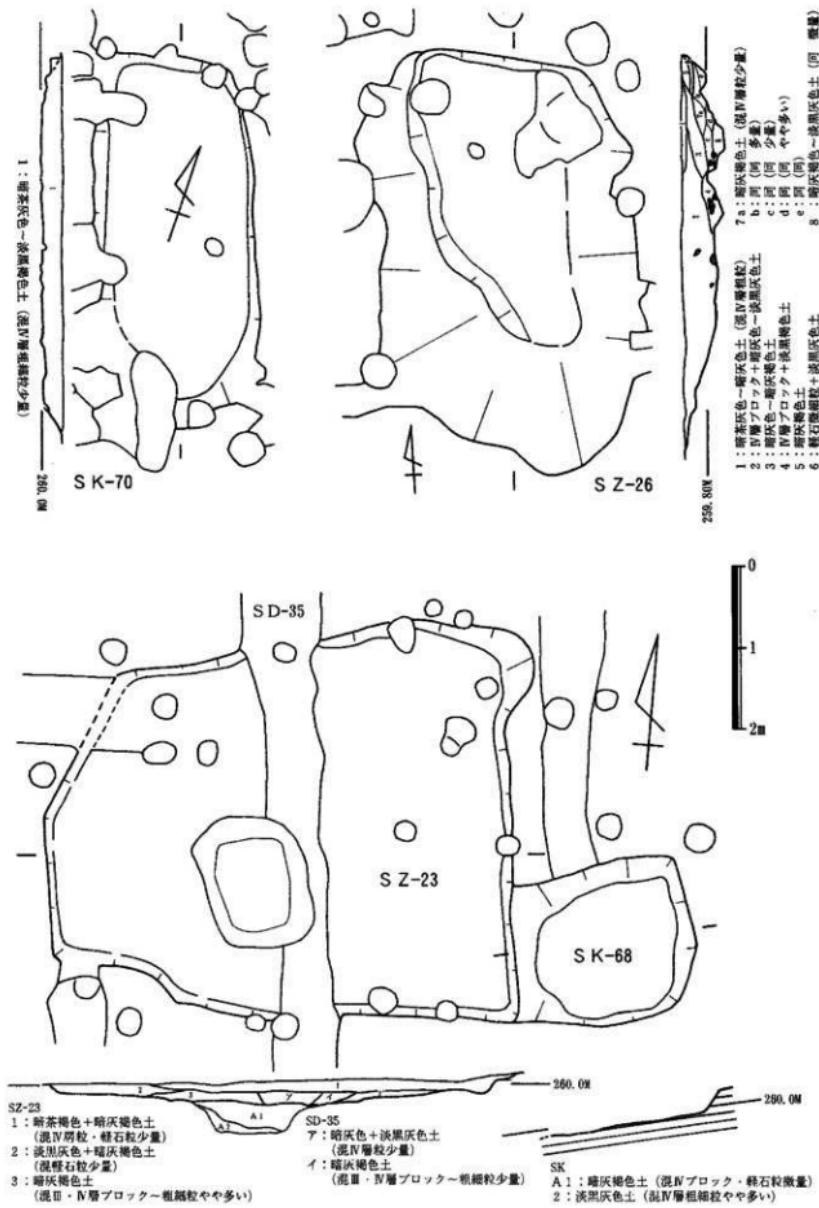
遺構検出時、円形や長方形~不定形を呈し、数m~10数mに及ぶ広範囲に掘り込まれた搅乱的遺構が散在する。覆土はⅢa層を基本とする淡黒灰色土と、本来形成されたであろう中世末~近世初頭の暗茶褐色土と青灰色系の土が混合している。



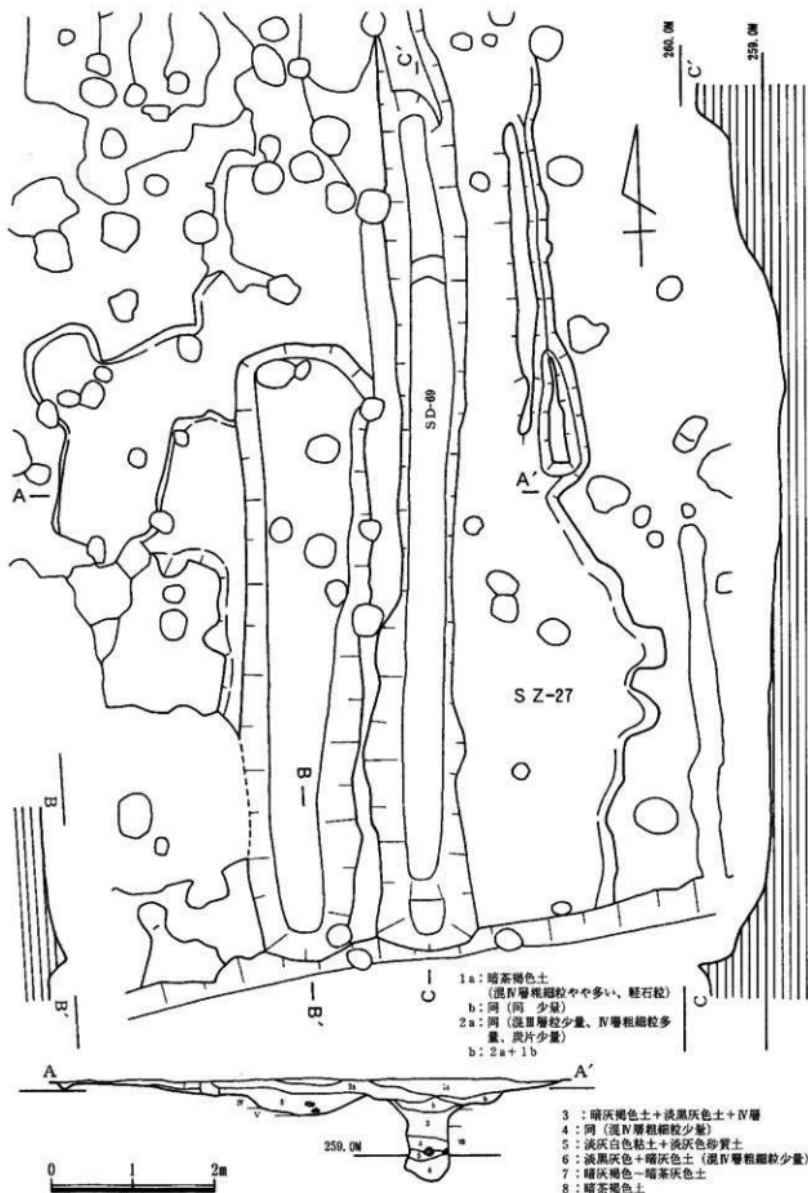
第120図 S Z-03 透構変測図



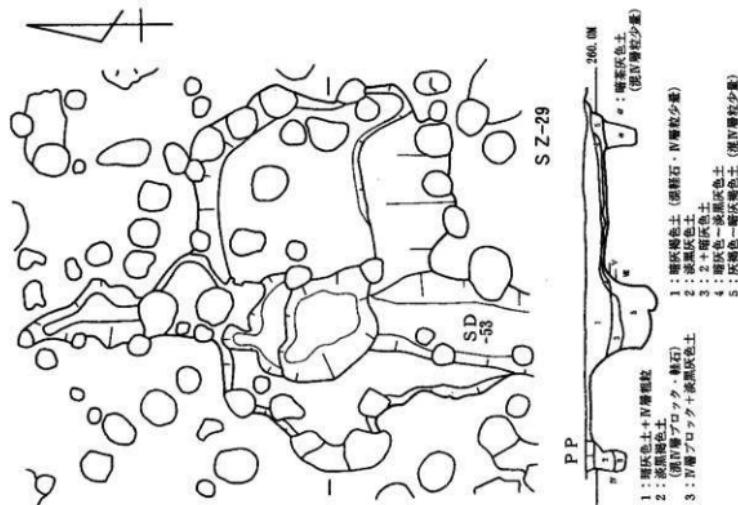
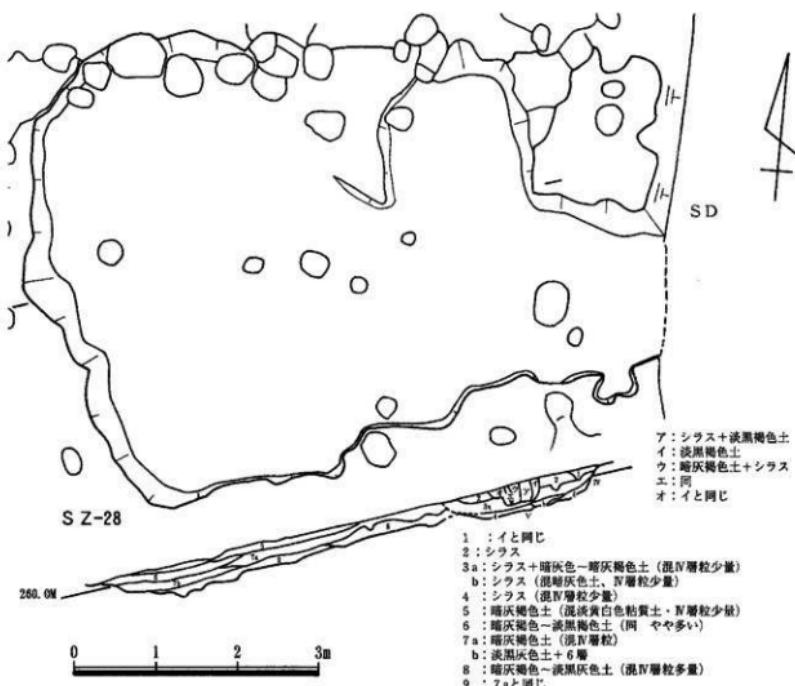
第121図 S Z-17 造構実測図



第122図 S Z-70, S Z-26・23, S K-68 遺構実測図



第123図 S Z-27 透構実測図



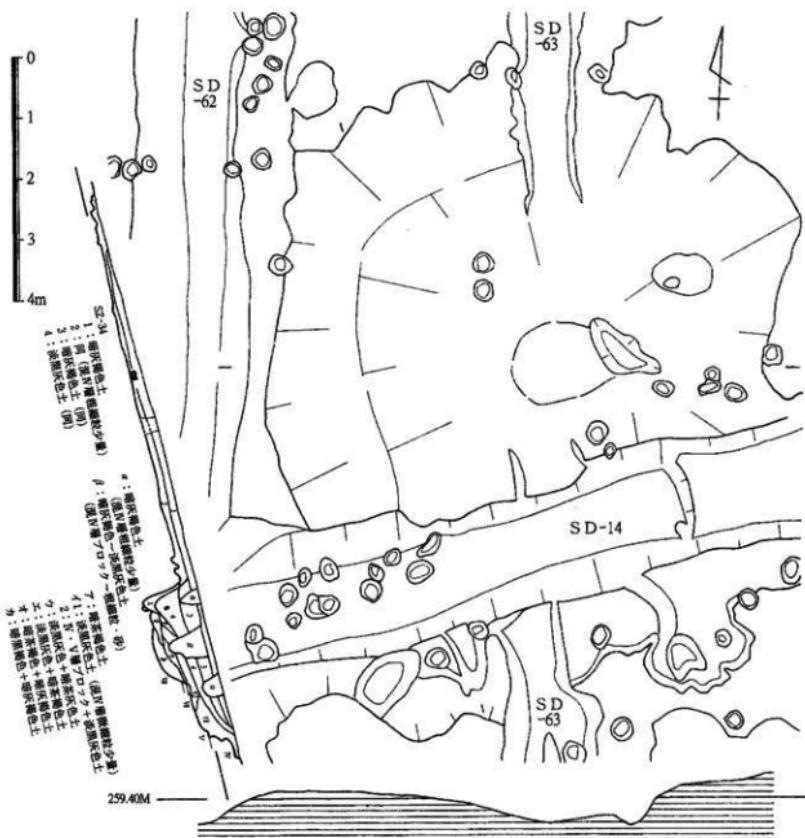
第124図 S Z-28・29 造構実測図

S Z-03 (第120図)

調査区の東部、111・112号建物等と重複した、長さ10.4m・幅4.6~4.7mの隅丸長方形を呈し、深さは12~25cmを測る。南西部や東中央部・東南部には直結する溝状遺構があることから、一時的な水溜めのような印象を受けるが、水が溜まる土層ではない。

特筆すべき遺物として、ガラス小玉13点（第146図-646~658）と水晶製珠算玉1点（645）がある。これらの殆どは土層観察用土手の中央～東寄り付近から出土し、一連の装身具と推定される。659は4重で截断されたままであり、付近から玉砾石1点（685）や備前焼系の皿を埴堀に転用したような遺物（217・220など）も出土しており、城内で生産していた可能性もある。

S Z-17 (第121図)



第125図 S Z-34 遺構実測図

05号建物の南1mに並行して位置した、東西9.85m・南北4.5~5.28mの隅丸長方形を呈する。北東部は、26・27号溝などに搅乱されて形状を保たない。最深部でも10cm程しかなく、島状掘り残しが2ヶ所ある。西の島状掘り残しの南壁沿いには、狭く浅い掘り込みがある。機能を推定させるる顕著な遺物は出土していない。

S Z-20 (第115図)

07号建物の東北部に位置した、長径3.76m・短径3.15mの梢円形を呈し、北側は26号溝の肩と12~20cm余しか離れていない。深さは15~20cmで、柱穴は伴わない。

S Z-21 (第119図)

調査区の南東部、27号溝と35号溝の交点付近に位置した、直径5m前後の略円形プランを呈し、深さ10~20cm程の浅い掘り込みである。柱穴は伴わず、機能を推定させる遺物も無い。

S Z-23 (第122図)

21号の北1mに位置した、東西5.7m・南北3.6~4.9mの台形状を呈し、深さは10~28cmを測る。

S Z-26 (第122図)

21号の南2mに位置した、東西3~3.2m・南北5mの不整形なプランを呈し、深さは20~50cmを測る。北壁は急角度で、南壁は緩やかである。覆土の大半は人為的に埋められている。

S Z-27 (第123図)

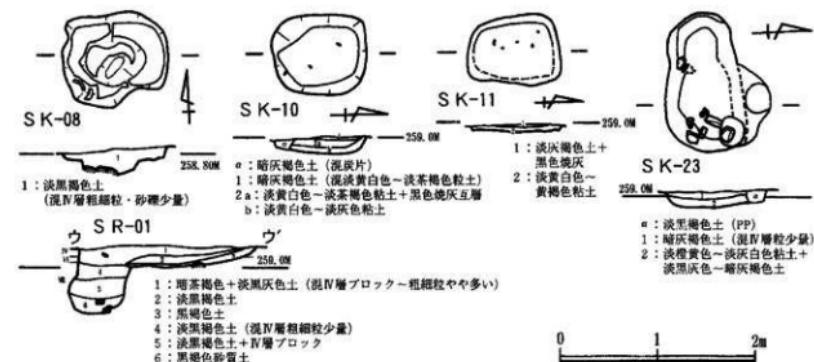
調査区の南側中央部、69号溝と西側周辺を、深さ10~20cm掘り込んでいた不定形の遺構である。

S Z-28 (第124図)

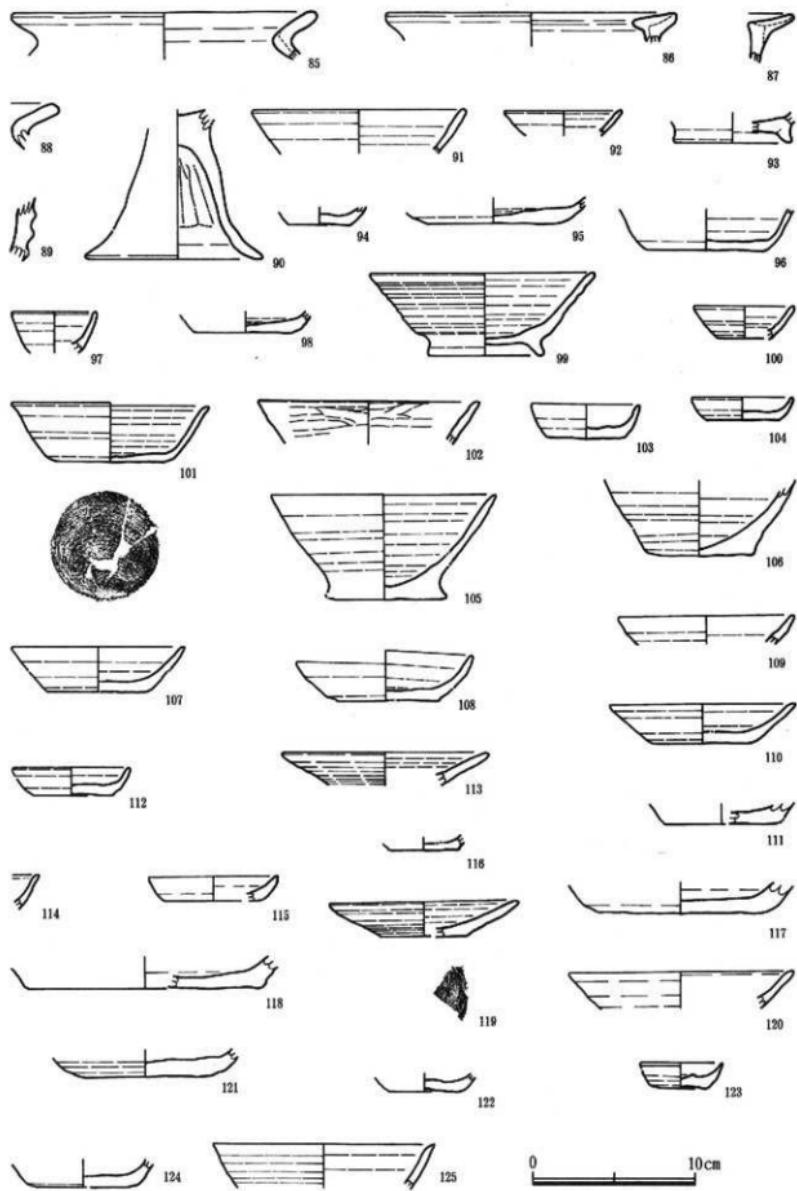
27号の西、34・35号建物と重複した、東西6m・南北1.8~5.7mの不整形を呈し、20~40cmの深さを測る。北側やや東寄りには、長さ不明・幅1.84m・深さ36cmの土坑が重複している。

南辺の形状から、4基(回)の掘り込みとも思える。

S Z-29 (第124図)

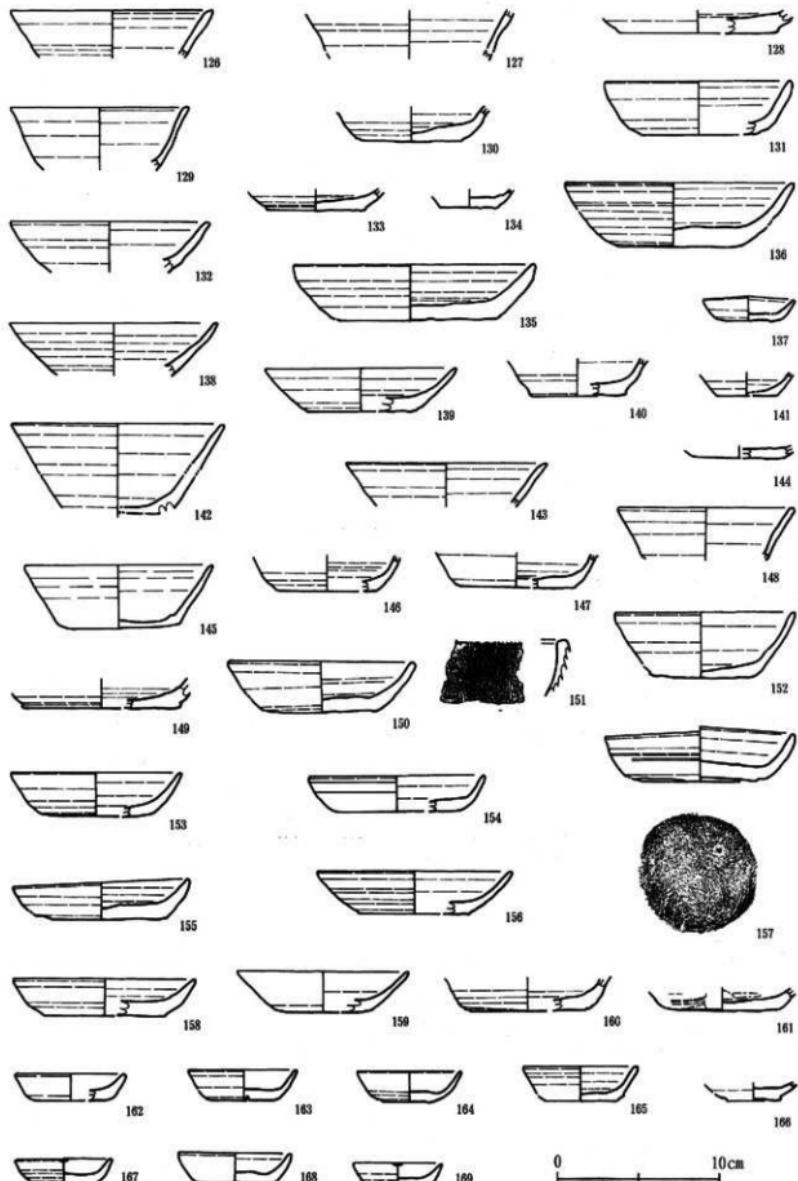


第126図 SK-08・10・11・23 遺構実測図, SR-01 断面層序図



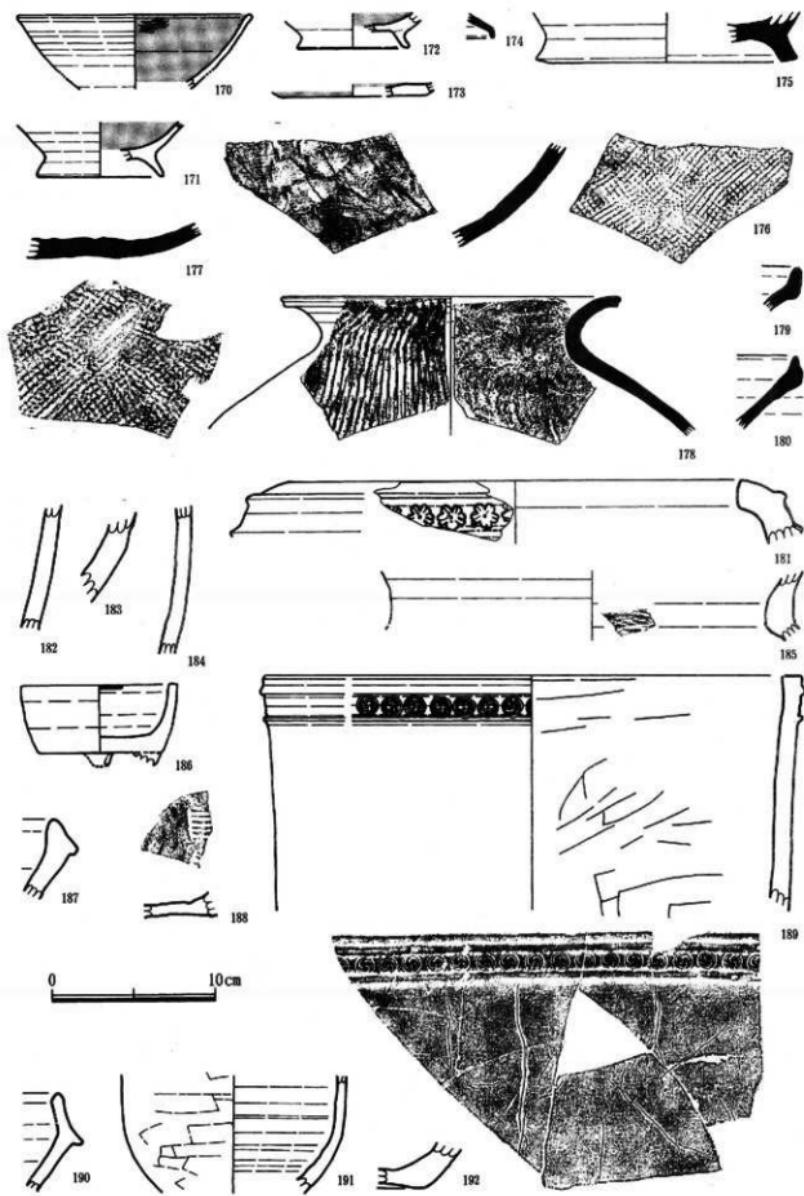
第127図 VI区出土遺物実測図(1) 弥生土器・土師器・土質土器

86 : SD-64, 91 : SA-05, 92-93 : SD-97, 94 : SK-96,
 95 : SK-67, 96 : SK-69, 97-98 : SK-70, 99 : SK-71,
 100-101 : SK-76, 102 : SK-78, 103 : SK-79, 104
 : SK-80, 105 : SK-92, 106-110 : SK-111, 111 :
 SD-11, 112-116 : SK-61, 117-120 + 122 : SD-13,
 121 : SD-15, 123 : SD-17, 124 : SD-23, 125 : SD-32,
 85-87-89 : Ⅲ層, 90 : Ⅳ層



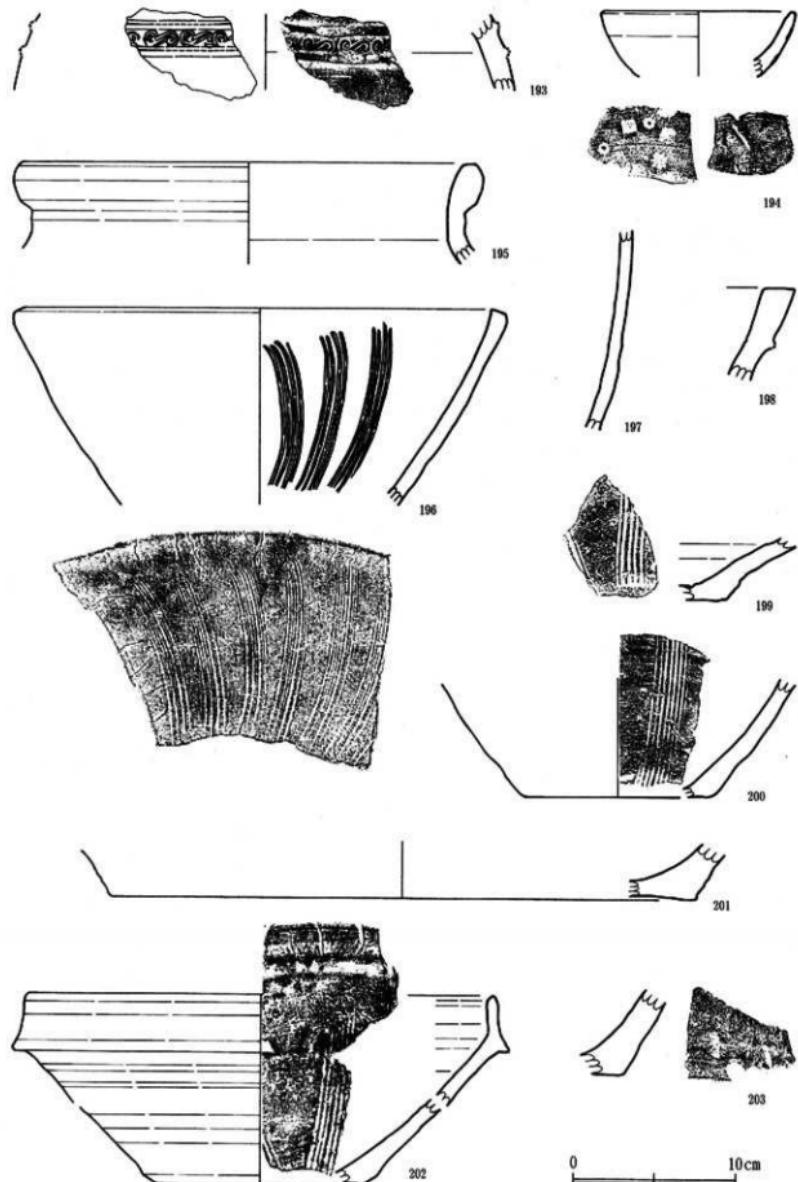
第128図 VI区出土遺物実測図（2） 土師器・土師質土器

126~127 : SD-35, 128 : SD-31, 129 : SD-45, 130 : SD-49, 131~132 : SD-29, 133~134 : SD-40, 135 : SD-41, 136 : SD-42, 137 : SD-44, 138 : SD-46, 139~140 : SD-47, 141 : SD-48, 142 : SD-49, 143~144 : SD-46, 145 : SD-48, 146 : SD-29, 147 : SD-30, 148 : SD-31, 149 : SD-10, 150 : SD-35, 151 : SD-29, 152 : SD-32, 153~161 : 2744, 156 : 206, 157 : 2879, 158 : 210, 159 : 992, 160 : 169, 162 : 2346, 163 : 761, 164 : 992, 165 : 2224, 166 : 706, 167 : 917, 168 : 759, 169 : 762



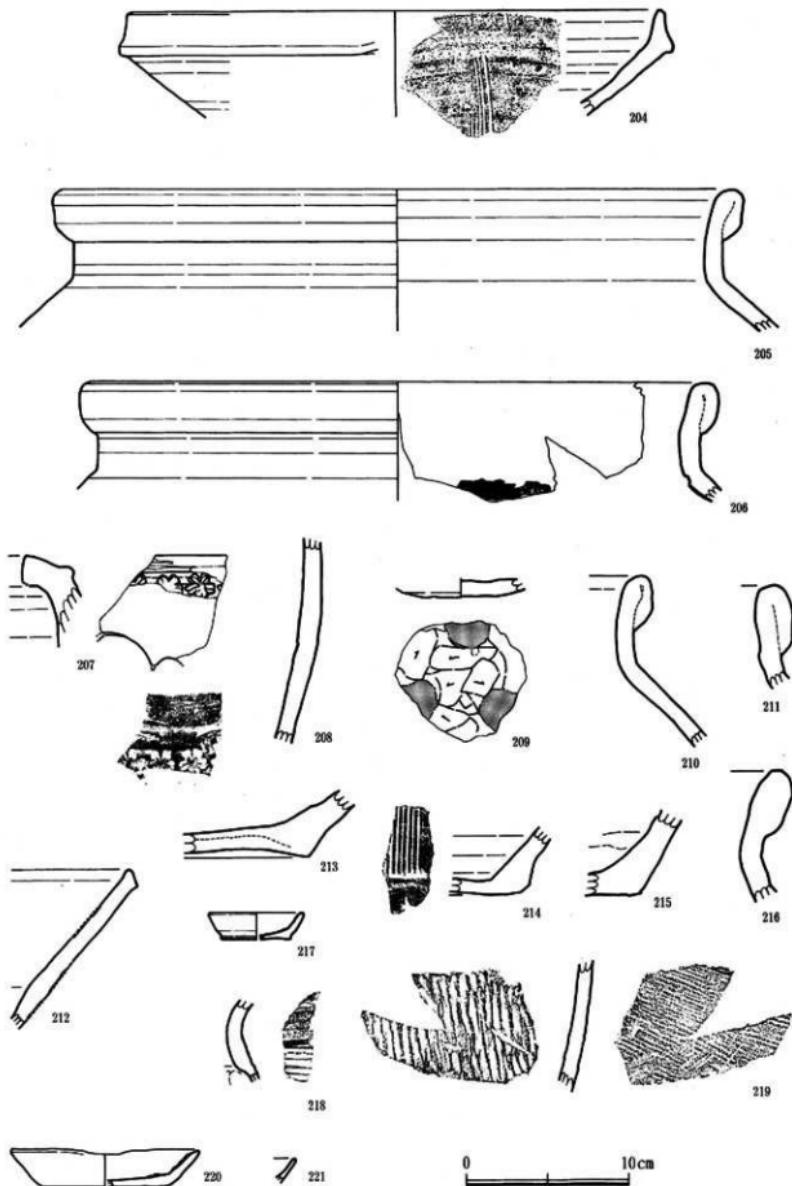
第129図 VI区出土遺物実測図（3） 黒色土器・須恵器・中世国产陶器
大和系瓦質土器

170 : 1729, 172 : SK-79, 173 : 1062, 174 : 1927,
175 : SD-17, 176-177 : SD-15, 178 : SD-26, 180
: SK-82, 181 : SK-06, 182 : SK-36, 183 : SZ-03,
184 : SB-10, 185 : SD-05, 186-188 : SK-01, 189
~192 : SD-13, 171-176 : 三塙



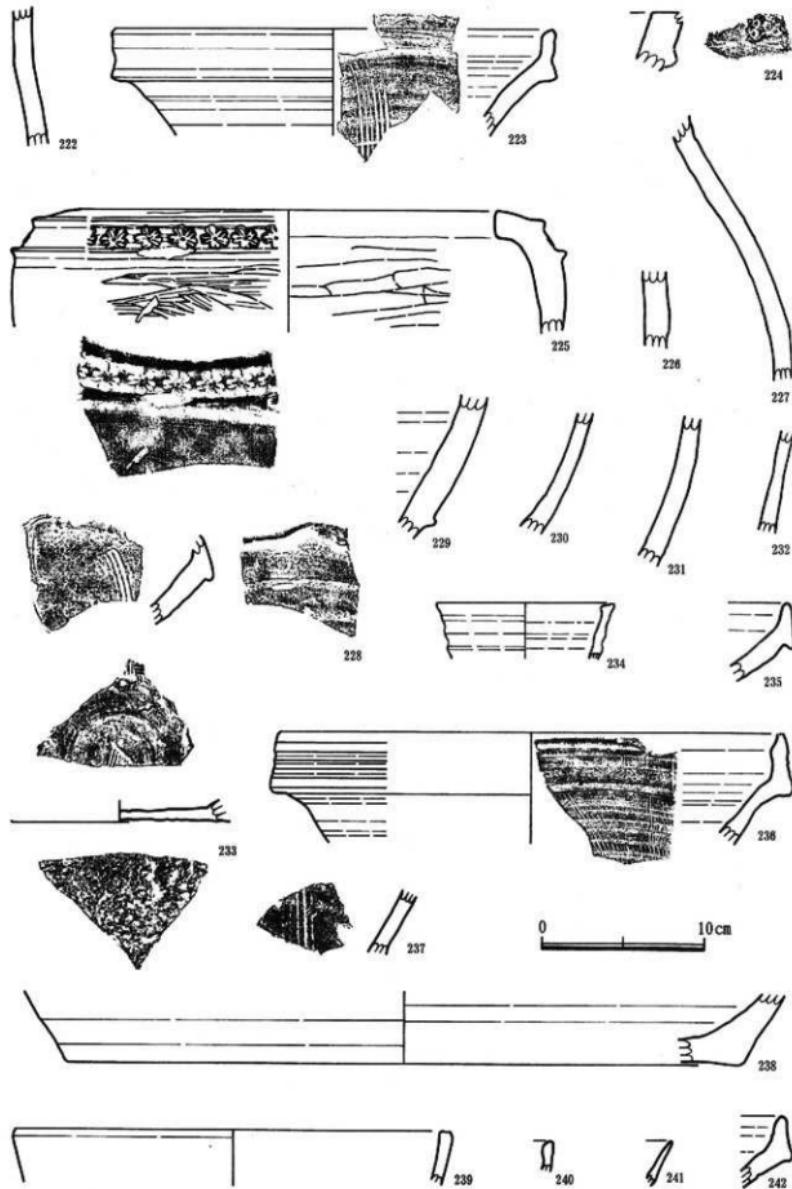
第130図 VI区出土遺物実測図(4) 大和系瓦質土器・中世国産陶器

183: SD-14, 184: SD-15, 185~187: SK-114, 188:
SD-16, 189: SD-21, 200: SD-37, 201: SD-39,
202~203: SD-48



第131図 VI区出土遺物実測図 (5) 中世国産陶器

204~205 : SD-49, 206~209 : SD-63, 207~208 : SD-62, 210~215 : SD-64, 216 : SD-32, 217 : SR-01, 218 : SZ-01, 219~220 : SZ-03, 221 : SZ-06



第132図 VI区出土遺物実測図（6） 中世中国陶器

222: S2-06, 223: S2-10, 224-226: S2-12, 228-231: S2-13, 232: S2-16,
233: S2-26, 234: S2-31, 235-236: S2-35, 238: S2-13, 240: 1863, 241-242:
■: ■

53号溝の北端部に位置した、東西4m・南北3.2m程の隅丸長方形を呈する土坑状掘り込みで、底面の西寄りには、径1.3~1.5m・最深87cmの土坑状掘り込みがある。

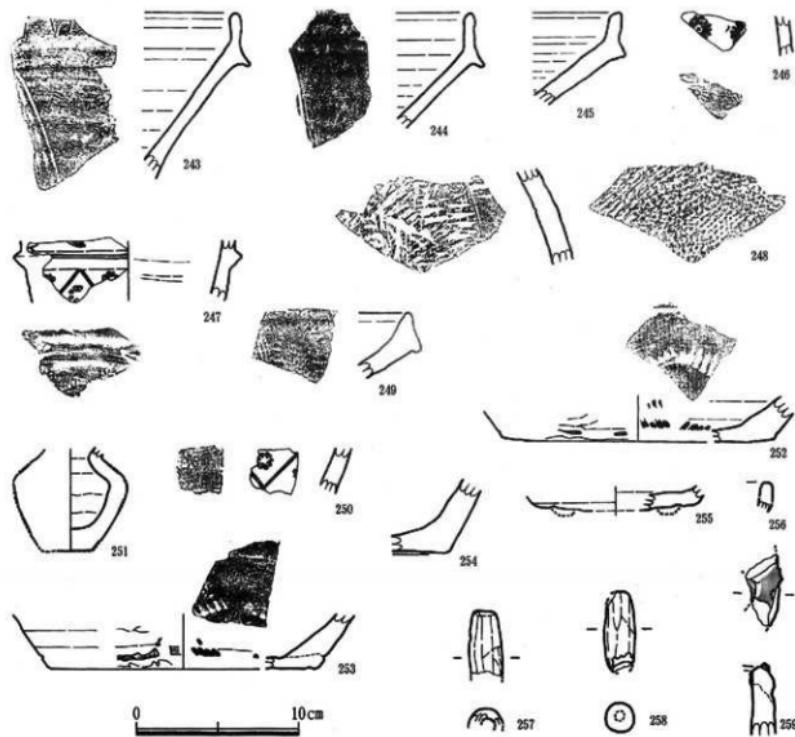
S Z-34 (第125図)

調査区の北西部、63号溝を中心に、62・14号溝まで、直径11m前後の不整円形に、深さ10~80cm掘鉢状に掘られている。

不整形大型土坑の殆どは16世紀末~17世紀初頭の掘り込みと推定され、一国一城令に伴う破壊行為「城破り」を表しているのではないかと思われる。

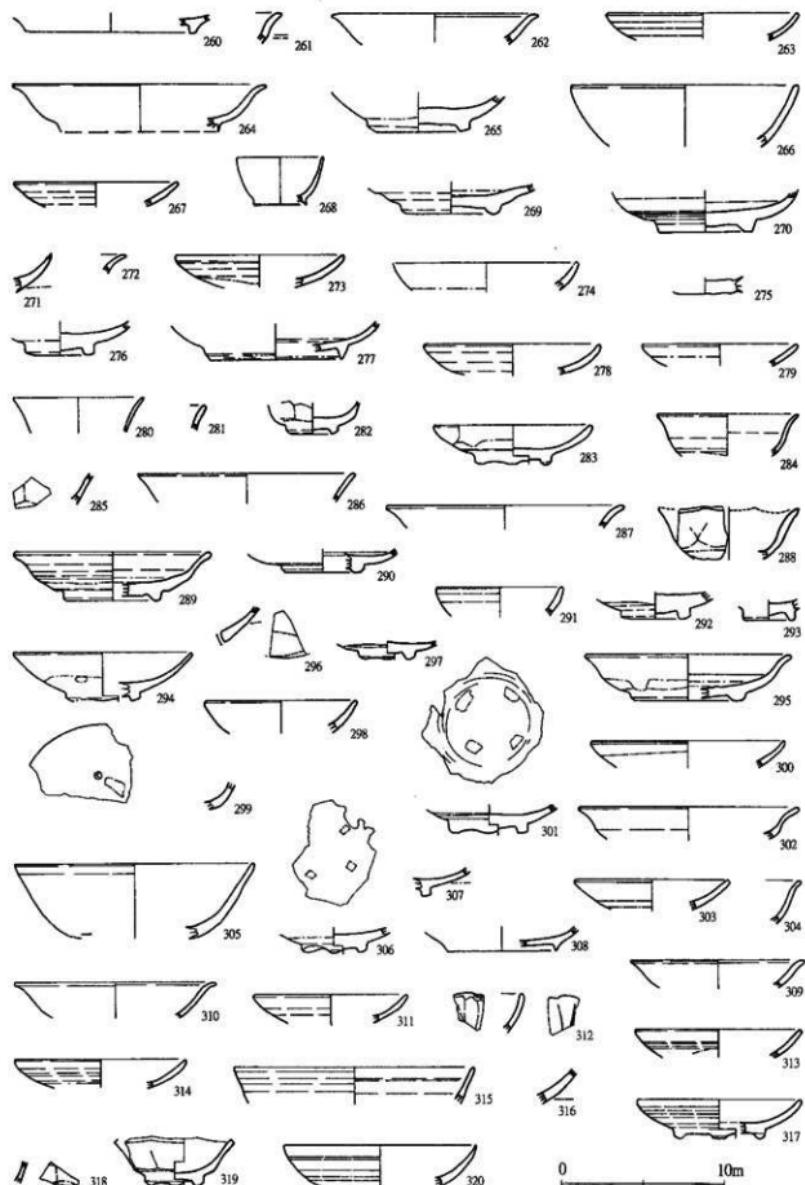
iii) 近世

田之上城跡廃絶後も、居住の痕跡があり、主たる遺構は、竪穴状遺構3基 (S A-01~03; 前述) 道路状遺構 (S R-01) と、83号建物 (前述)、土塙墓 (S K-10・11・23・28など) である。



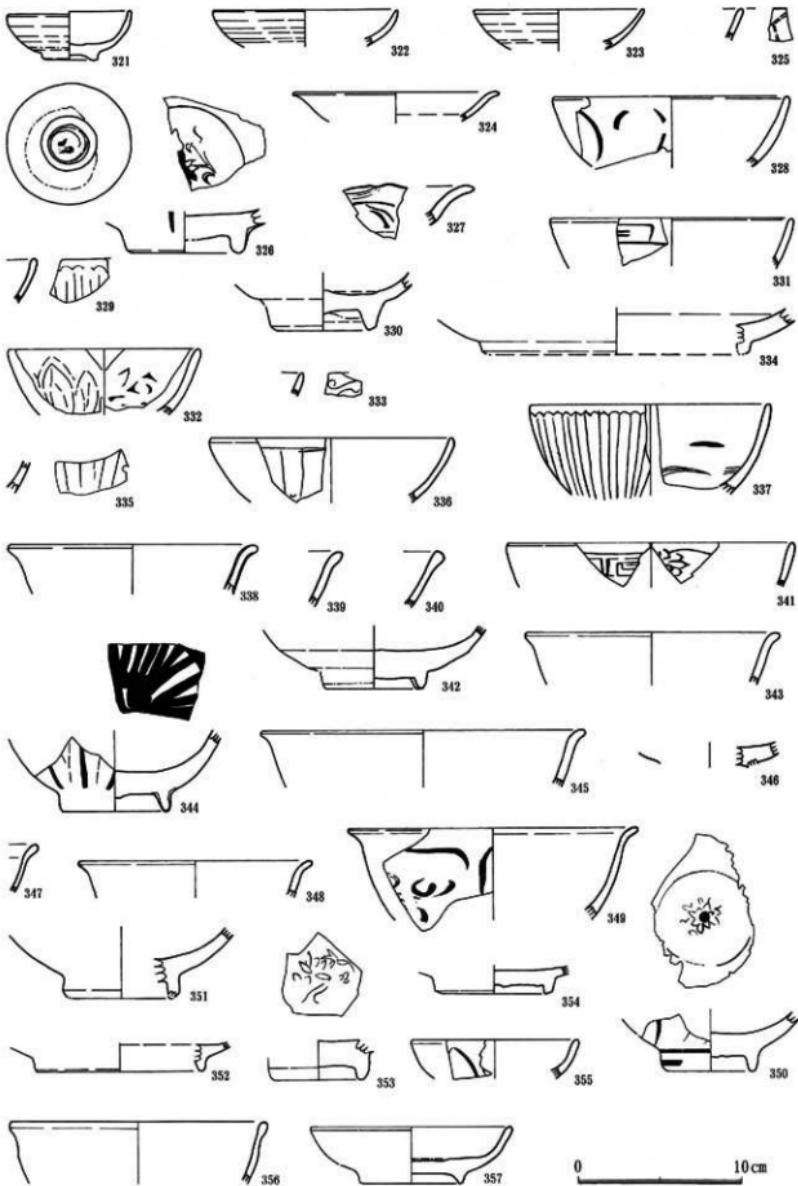
第133図 VI区出土遺物実測図(7) 中世国産陶器・土製品

244: 1036, 245: S2-05, 247: 330, 248: SD-48, 251: 2946, 254: 2181, 255: 832, 257: SK-70, 258: SK-21, 243・246・256: I-三層, 248: II層, 252~253: II-三層, 256・258: III層



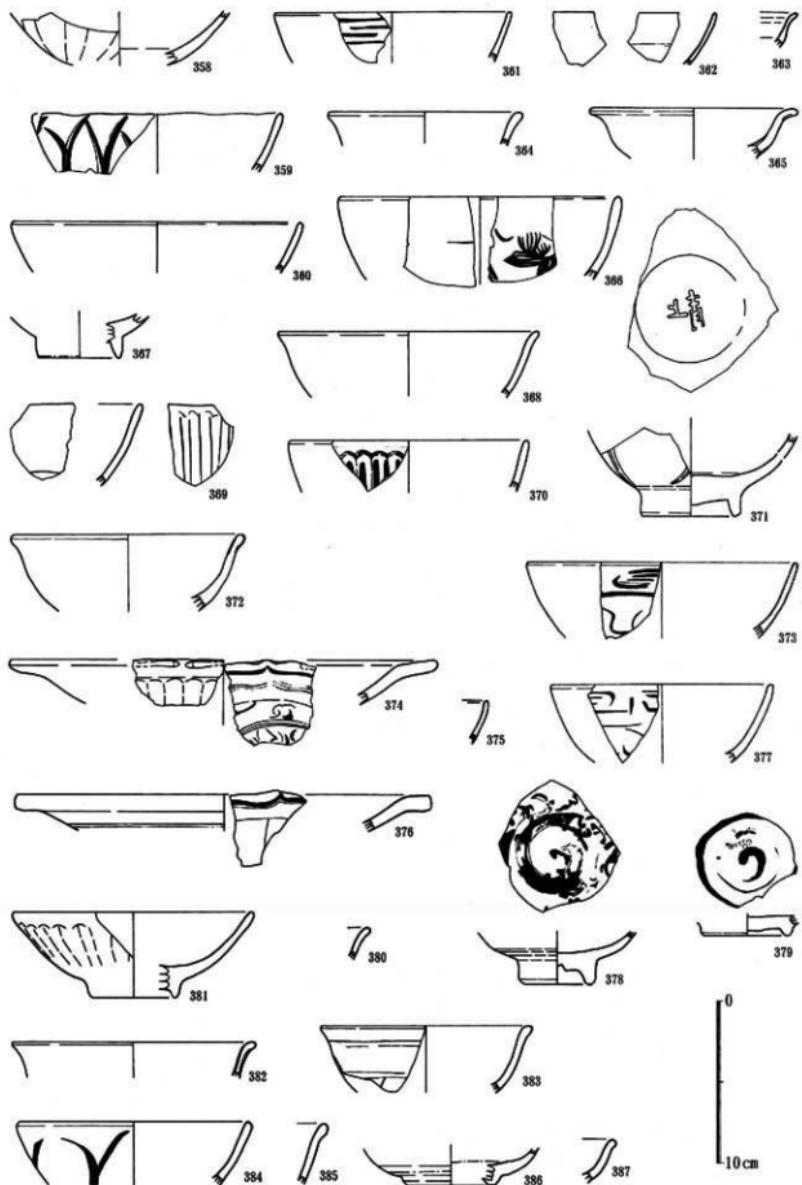
第134図 VI区出土輸入陶磁器実測図（1） 白磁（1）

260 : SK-111, 261~264 : SK-61, 265~267 : SD-13, 268 : SD-14, 269 : SD-16, 270 : SD-31, 271 : SD-34, 272 : SD-31, 273 : SD-15, 274 : SD-59, 275 : SD-58, SD-62, 277~278 : SD-4, 279 : SK-12, 280 : SK-34, 281 : SK-47, 282 : SK-49, 283 : SK-70, 284 : SK-79, 285~287 : SD-53, 288 : SD-55, 289 : SK-12, 290 : SD-07, 291 : SD-08, 292 : SK-12, 293 ~295 : SD-16, 296 : SD-18, 297 : SD-23, 298~299 : SD-27, 300~301 : SD-28, 302~303 : SD-29, 304~306 : SD-35, 310 : 200, 311 : 214, 312 : 394, 313 : 767, 314 : 794, 315 : 897, 316 : 1035, 317 : 1635, 318 : 1863, 319 : 2013, 320 : 2193, 307~309 : 里壁, 308 : I~II壁



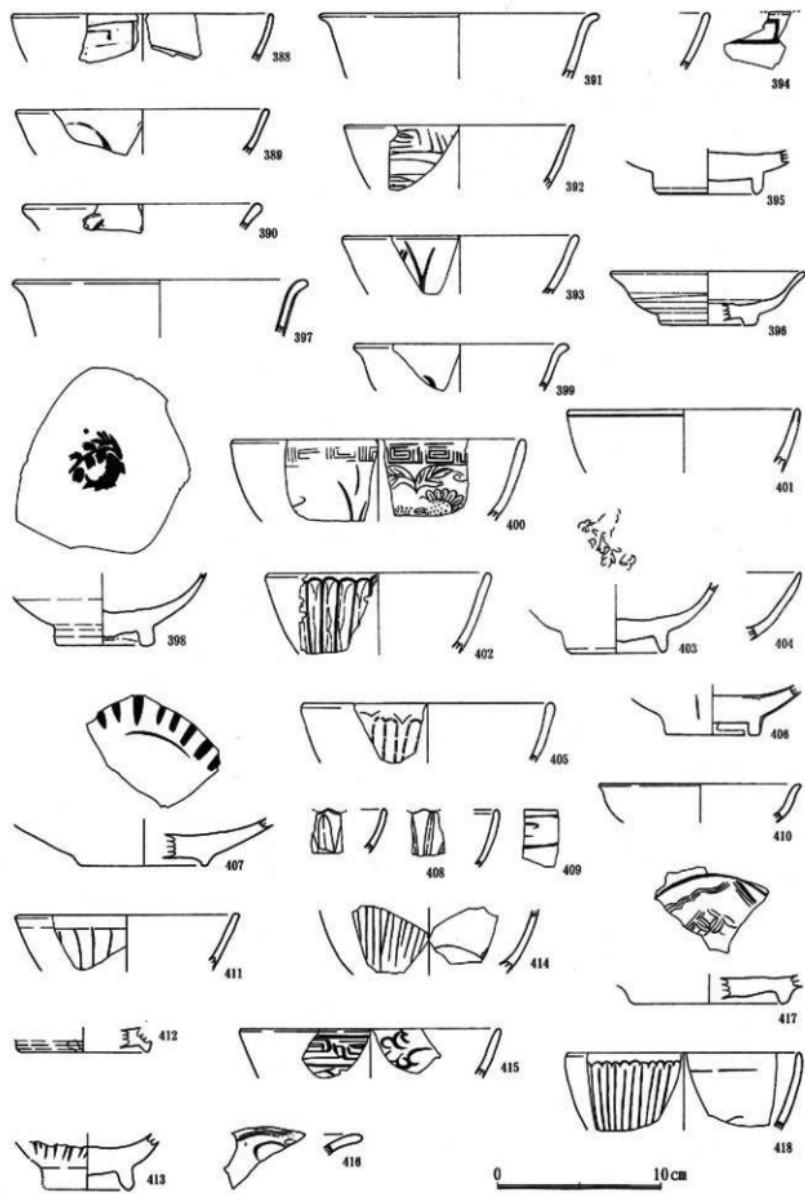
第135図 VI区出土輸入陶磁器実測図（2） 白磁（2）・青磁（1）

321 : 3227, 322 : 2906, 323 : 2920, 324 : 295 :
SK-111, 325 : 54-01, 327 : 54-05, 328 : 54-04,
329-331 : 333-334 : SK-01, 332 : PP, 335 : SD-14,
336-337 : SD-15, 338 : SD-16, 339 : SD-17, 340-
342 : SD-21, 341 : SD-24, 343 : 345 : SK-117,
346-347 : SD-26, 348-349 : SD-27, 350 : SD-29,
351 : SD-32, 352 : SD-37, 353-357 : SD-39



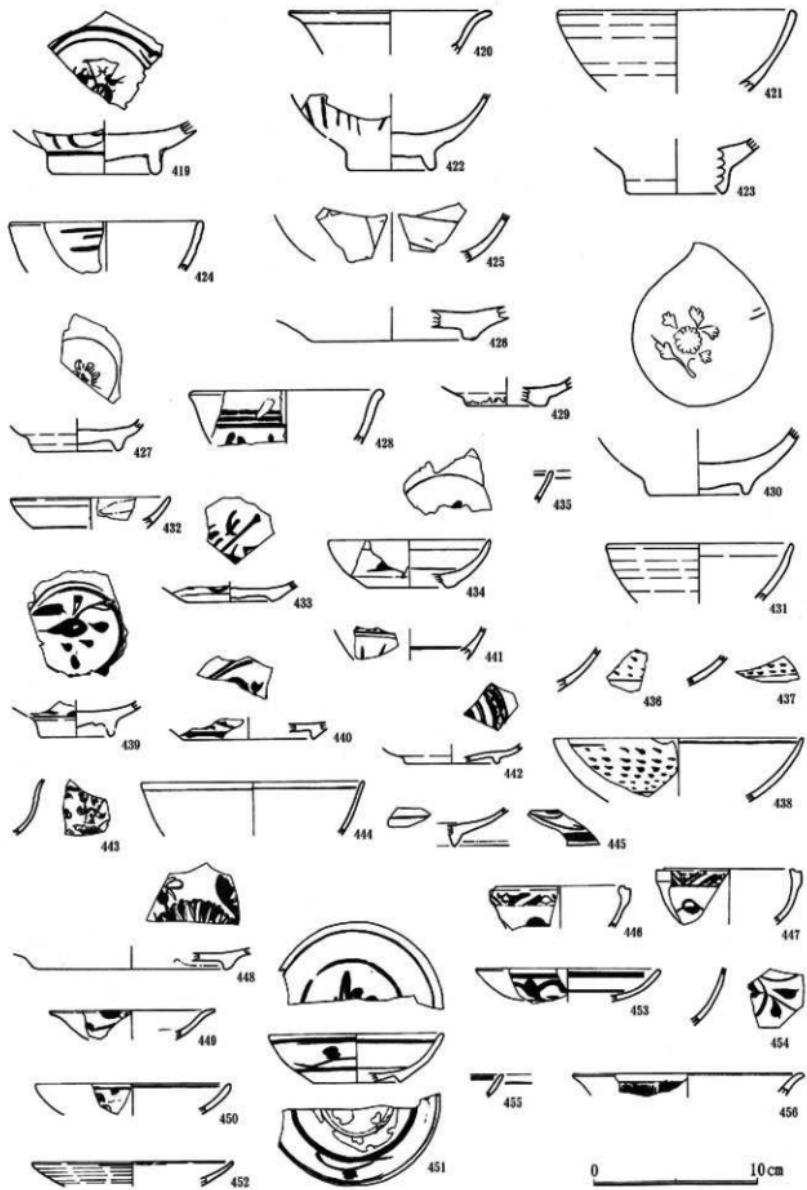
第136図 VI区出土輸入陶磁器実測図 (3) 青磁 (2)

358 : SD-48, 359-360 : SD-49, 361-363 : SD-50, 364 : SD-57, 365 : SD-63, 366 : SD-64, 367 : SD-42, 368 : SD-58, 369 : SD-59, 370 : SD-70, 371 : SD-76, 372-374 : SD-53, 375-376 : SD-55, 378 : SD-04, 377-379 : SD-05, 380 : SD-13, 381 : SD-16, 382-383 : SD-16, 384 : SD-17, 385-387 : SD-18



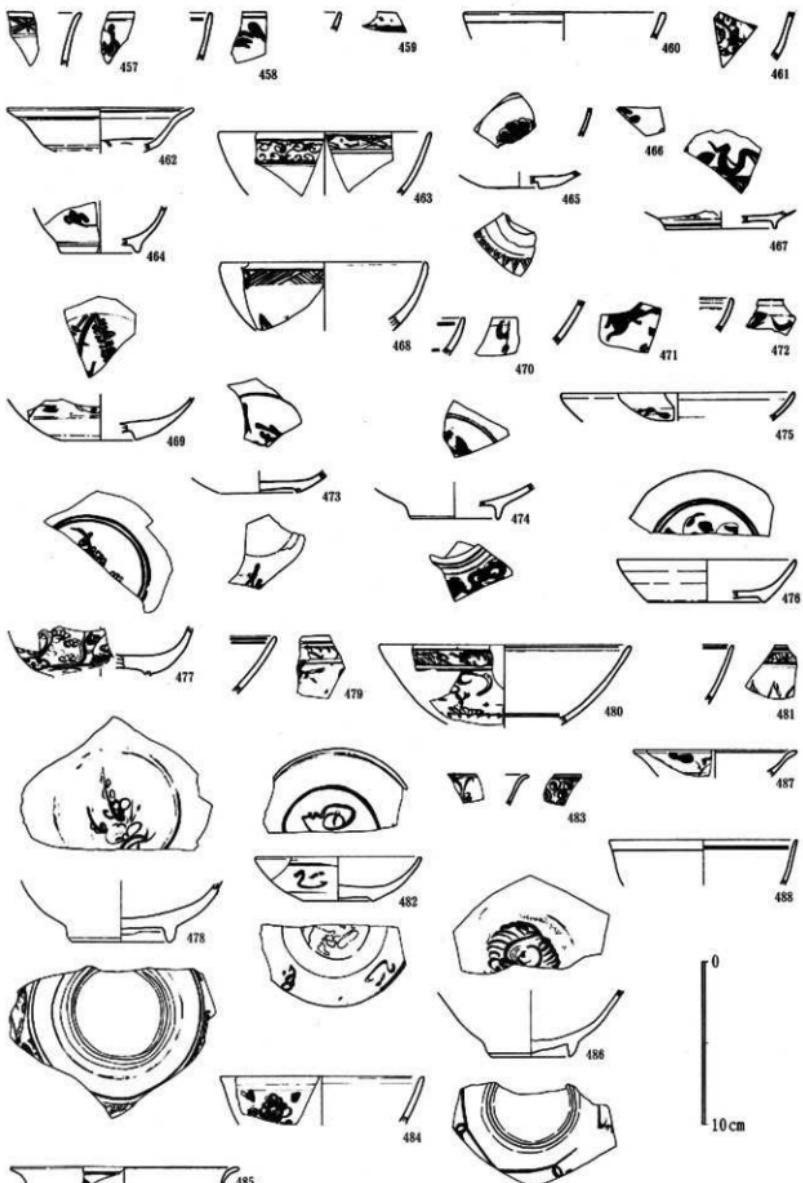
第137図 VI区出土輸入陶磁器実測図 (4) 青磁 (3)

388 : S2-21, 389 : S2-23, 390 : S2-26, 391 : S2-27, 392 : S2-28, 394
 - 396 : S2-29, 397 : S2-30, 398 : S2-31, 399 - 403 : S2-35, 411 : S2-36,
 412 : S2-37, 413 : 421, 414 : 587, 415 : 612, 416 : 818, 417 : 857, 418 : 1253,
 404 - 405, 407 : I - 1型, 406 : II - 1型, 408 - 410 : III型



第138図 VI区出土輸入陶磁器実測図(5) 青花(1)

419 : 1286, 420 : 1636, 421 : 1673, 422 : 1693, 423 : 1895, 424 : 1937, 425 : 1938, 426 : 1939, 427 : 1940, 428 : 1941, 429 : 1947, 430 : 1948, 431 : 1949 ; SA-03, 432-434 : SD-11, 435-437 : SD-12, 438-440 : SD-01, 439-443 : 444-447-448 : SD-13, 446 : SD-57, 449-450 : SD-14, 451 : SD-15, 452 : SD-18, 453 : SR-01, 454 : SK-15, 455 : SK-43, 456 : SK-99, 458 : 掘土



第139図 VI区出土輸入陶磁器実測図（6） 青花（2）

457 : SK-74, 458~460 : SK-111, 461 : SK-117, 462~465 : SZ-25, 466~467 : SZ-26, 468~470 : SZ-28, 471 : SZ-10, 472 : SZ-11, 473~475 : SZ-12, 476~477 : SZ-16, 478 : SE-16, 479 : SZ-21, 479 : SZ-24, 480~483 : SZ-35, 484 : 180, 485 : 210, 486 : 212, 487 : 421, 488 : 803

S K-10 (第127図)

S Z-03埋没後に構築された木棺墓で、長軸97cm・短軸80cmの略陽角丸長方形を呈し、覆土には粘土粒を大量に含んでいる。深さは10~17cmで、70~80cmを削失している。副葬品は無いが、鉄釘3本が出土している。

S K-11 (第127図)

10号木棺墓に西肩を少し切られた木棺墓で、長軸96cm・短軸60~74cmの台形を呈し、覆土には粘土粒を少し含む。深さは6~8cmであり、西側において鉄釘5点が出土した。

S K-23 (第127図)

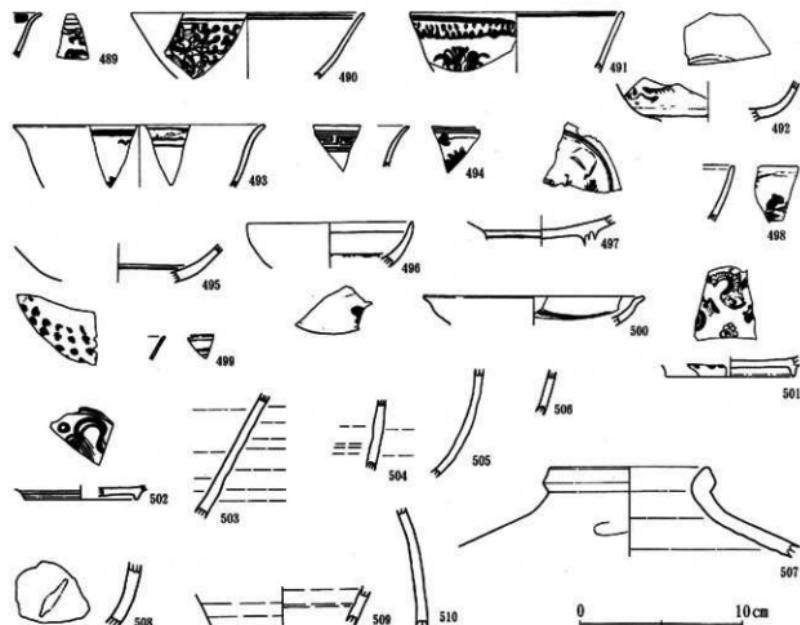
124号建物と01号道路跡に重複した、長径1.43m・短径65~80cmの楕円形を呈する。深さは16cm前後で、東側に小碟が集中する。覆土には白色系粘土が混じる。

S K-28 (第118図)

調査区の東中央、21号溝の東に位置した、長径90cm・短径77cmの楕円形を呈し、深さは42~50cmを測る。覆土から19世紀代の陶磁器片が出土しており、19世紀までは水田化していないことを暗示する。

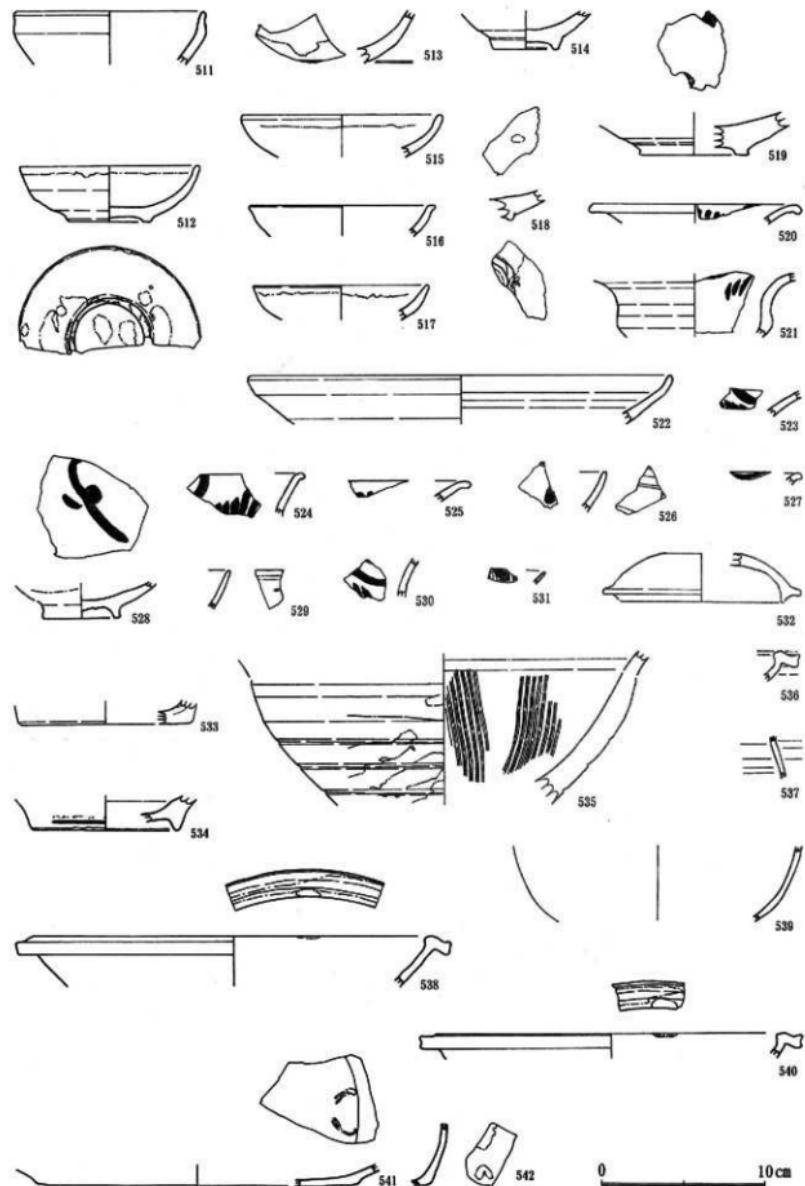
S R-01 (S D-12) (第127図)

03号竪穴状遺構の西1.5mから北北西に向かって、長さ39mを検出した、幅1.6~2.5m・深さ17



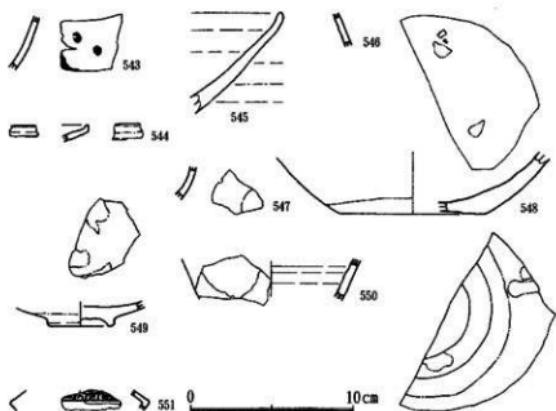
第140図 VI区出土輸入陶磁器実測図(7) 青花(3)

489: 821, 490: 902, 491: 1048, 492: 1916, 493: 1981, 494: 2818, 503
: SD-13, 504: SD-18, 505: SD-61, 506: SD-32, 509: SD-12, 509: SW-01, 495~496: I - 直縁, 497~507: II 縁, 498~499: III 縁
: 直縁, 500: III - 直縁



第141図 VI区出土近世国産陶器実測図（1）

511・516・522 : SD-12, 512・519・523・525・535・536・540 : SK-01, 513・515・519
 521・528・532・536 : SD-13, 517・527 : SK-205, 524・530・541 : SK-03, 526 : SD-11,
 529 : SK-18, 531 : SK-27, 533 : SK-94, 537 : SD-15, 538 : SK-2711, 542 : SK-05, 534 :
 535



第142図 VI区出土近世国産陶磁器実測図（2）

543・545: SK01, 546: SK-28, 547: SA-01, 548: SD-13, 544: Ⅳ層, 549: Ⅲ層, 550: Ⅱ-Ⅲ層, 551: I-Ⅲ層

ほか、肥前の鉄絵皿などがある。

iv) 出土遺物

層位的に、縄文時代早期のVI層が殆ど流失していることや、アカホヤ火山灰の2次堆積層も殆ど堆積していないため、縄文時代の遺物は皆無に近い。第149図-673の打製石器は当該期に属するかもしれない。

弥生時代も人々の痕跡は殆ど無く、中期末の甕（第127図-85～88）や壺（89）・高坏（90）など数点がⅢ層に混入していたにすぎない。石器は、打製石器（674・675）のほか、磨製石器（676）、ノミ状石器（677）、石包丁（678）が各1点出土している。密集する中世の遺構によって、当該期の遺構が消滅した可能性もある。打製の劔状石器（689）は、64号溝（空堀）の中層から出土したが、縄文晚期の石器とみるか、16世紀の鉄器の代用とみるか2通りの見解があるが、石材は石器としては一般的でなく、後者の所産である可能性が高い。又、礪器（692・693）は縄文時代の可能性があるが、断定はできない。

古墳時代～奈良時代及び9世紀前半の遺物は無い。遺構も当然存在せず、不毛地帯となっている。9世紀後半、14号溝（空堀）の掘削と共に集落が形成され始め、土師器の壺や塊、若干の黒色土器A類（第129図-170～172）、須恵器（174～178）などが出土している。完形および完形に近い土器は14号溝から出土しており（第53図）、著しい磨滅も見られないことから、近辺に居住していたと思われる。

11～12世紀は遺物が少なく、断絶に近い状況である。

中世に入ると山城として築城され、遺構と共に遺物も増加する。土師質土器の壺・皿類のほか、東播系須恵器（179・180）や奈良火鉢（大和系瓦質土器）の風炉（181・193・207・225・229など）・

～34cmを測る道路跡である。南側10m程の底面はⅦ層で、道路面は堅固な硬化面となっている。南の西壁沿い9mには側溝が付設されており、道路面の幅は1m前後しかない。側溝の幅は70～80cm・深さ46～72cmを測り、南側が若干低い。道路面の底面のレベルは、北端のほうが40cm低い。

出土遺物としては、土師質土器や輸入陶磁器の